

XMAP3 Version 5

画面・帳票サポートシステム

XMAP3 開発支援ユティリティ

手引・操作書

3020-7-515-40

■ 対象製品

P-F262B-5C541 XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティ Version 5 05-05 (適用 OS : Windows 7, Windows 8, Windows 8.1, Windows 10, Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2, Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2, Windows Server 2016)

この製品は、64bit 版の Windows では 32bit 互換モード (WOW64 : Windows On Windows 64) で動作します。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI, CommuniNet, Cosminexus, DCCM, JP1, OpenTP1, SEWB, uCosminexus, VOS3/LS, VOS3/US, XDM, XMAP は、株式会社日立製作所の商標または登録商標です。

Acrobat は、米国およびその他の国における Adobe 社の登録商標または商標です。

Acrobat Reader は、米国およびその他の国における Adobe 社の登録商標または商標です。

Adobe は、米国およびその他の国における Adobe 社の登録商標または商標です。

Adobe PDF は、米国およびその他の国における Adobe 社の登録商標または商標です。

AIX は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Itanium は、Intel Corporation またはその子会社の商標です。

Oracle および Java は、オラクルおよびその関連会社の登録商標です。

Reader は、米国およびその他の国における Adobe 社の登録商標または商標です。

UNIX は、The Open Group の商標です。

Windows は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Windows Server は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Windows Vista は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Windows XP は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ 発行

2022 年 6 月 3020-7-515-40

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2010, 2022, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-7-515-40) XMAP3 Developer 開発支援ユティリティ Version 5 05-05

追加・変更内容	変更箇所
記述を改善した。	-

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、次に示す製品の機能と使い方について説明したものです。

- XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティ Version 5

以降、このマニュアルでは XMAP3 開発支援ユーティリティと表記します。

■ 対象読者

XMAP3 のシステムを構築するために、アプリケーションプログラムによる業務処理を設計および開発する方を対象としています。また、次に示す項目について理解、習得していることを前提とします。

- Windows の基本的な操作方法
- XMAP3 を使ったシステム構成や基本操作
- COBOL, または C 言語でのプログラミング

■ このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次のように定義しています。

記号	意味
[]	メニュータイトル、メニュー項目、ボタン、キー、およびアイコンの名称を示します。 例：[ファイル] メニュー [OK] ボタン [Enter] キー など
[] - []	一つ前のメニューを選択し、続けて後ろの項目を選択することを示します。 例：[ファイル] - [開く] [ファイル] メニューから [開く] を選択することを示します。
斜体	インストールフォルダなど可変の個所を示します。
VV-RR-/S	製品のバージョン・リビジョンを示します。XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティ Version 5 05-00 では、05 が VV に、00 が RR に該当します。 例：XMAP3 のバージョン (VV-RR-/S) 以前のバージョン (VV-RR) など

目次

1	XMAP3 開発支援ユーティリティの概要	1
1.1	XMAP3 開発支援ユーティリティとは	2
1.2	動作環境	4
1.3	インストールとアンインストール時の注意	5
1.3.1	新規インストール時の注意	5
1.3.2	更新インストール時の注意	6
1.3.3	アンインストール時の注意	6
1.3.4	旧バージョン (VV-RR-/S) の XMAP3 に戻す場合の注意	6
2	インポート	7
2.1	インポートの概要	8
2.1.1	UNIX 環境からのインポート	9
2.1.2	メインフレーム環境からのインポート	10
2.2	インポートの準備	14
2.2.1	開発環境の準備	14
2.2.2	UNIX のパネル定義文または書式記述文を Windows に転送	14
2.2.3	メインフレームのパネル定義文または書式記述文を Windows に転送	14
2.2.4	インポートで変換されない機能の対応	20
2.2.5	パネル定義文の編集	22
2.2.6	ドロースettingsアップでの指定	23
2.2.7	論理ハードコピー使用時のポイント	51
2.3	インポートの操作 (GUI での操作)	53
2.3.1	パネル定義文のインポートの場合	53
2.3.2	書式記述文のインポートの場合	57
2.4	インポートの操作 (コマンドラインから実行)	63
2.4.1	操作手順	63
2.4.2	xmap3imp.exe コマンドの形式	63
2.4.3	入力ファイルと出力ファイルの対応	64
2.4.4	コマンドの実行例	64
2.5	インポート結果の確認	66
2.5.1	パネル定義文のインポート結果	66
2.5.2	書式記述文のインポート結果	66
2.6	ドローによる編集	67
2.6.1	パネル定義文から変換されたマップ定義ファイルのドローによる編集	67
2.6.2	書式記述文から変換された書式定義ファイルのドローによる編集	72

3	コンバート	77
3.1	コンバートの概要	78
3.2	コンバートの操作	79
3.3	定義内容の変換規則	81
3.3.1	けい線帳票から網掛け帳票への変換	81
3.3.2	けい線帳票からプレプリント帳票への変換	81
3.3.3	網掛け帳票からグラフィック帳票への変換	82
3.3.4	グラフィック帳票から書式オーバーレイへの変換	83
3.3.5	書式オーバーレイからグラフィック帳票への変換	83
3.3.6	CUI 画面から GUI 画面への変換	83
3.3.7	COBOL 用の画面・帳票定義から C 言語用の画面・帳票定義への変換	86
3.3.8	C 言語用の画面・帳票定義から COBOL 用の画面・帳票定義への変換	86
3.4	コンバート結果の確認	87
4	マップコンペア	89
4.1	マップコンペアの概要	90
4.2	マップコンペアの操作	92
4.3	コンペア結果の確認	93
4.3.1	コンペア結果の一覧表示	93
4.3.2	コンペア結果の詳細表示	95
4.3.3	コンペア結果出力のカスタマイズ	95
4.3.4	コンペア結果の印刷	97
5	XMAP3 開発支援ユティリティのトラブルシュート	99
5.1	トラブル対処の概要	100
5.2	インポート実行時のエラーメッセージ	101
5.2.1	メッセージの出力先 (インポート)	101
5.2.2	インポートできない場合の対処	101
5.2.3	メッセージの出力形式 (インポート)	107
5.2.4	メッセージ一覧 (インポート)	107
5.3	コンバート実行時のエラーメッセージ	134
5.3.1	メッセージの出力先 (コンバート)	134
5.3.2	メッセージの出力形式 (コンバート)	134
5.3.3	メッセージ一覧 (コンバート)	135
	付録	141
	付録 A XMAP3 の用語の違い	142

付録 B インポートで変換できる機能範囲	144
付録 B.1 パネル定義文のインポートで変換できる機能範囲	144
付録 B.2 書式記述文のインポートで変換できる機能範囲	174
付録 B.3 インポートした書式記述文の内容とドローとの関係	182
付録 B.4 行制御ファイルの移行	198
付録 C 各バージョンの変更内容	204
付録 D このマニュアルの参考情報	205
付録 D.1 関連マニュアル	205
付録 D.2 このマニュアルでの表記	206
付録 D.3 KB (キロバイト) などの単位表記について	210
付録 E 用語解説	211

索引

1

XMAP3 開発支援ユティリティの概要

この章では、XMAP3 開発支援ユティリティの概要について説明します。

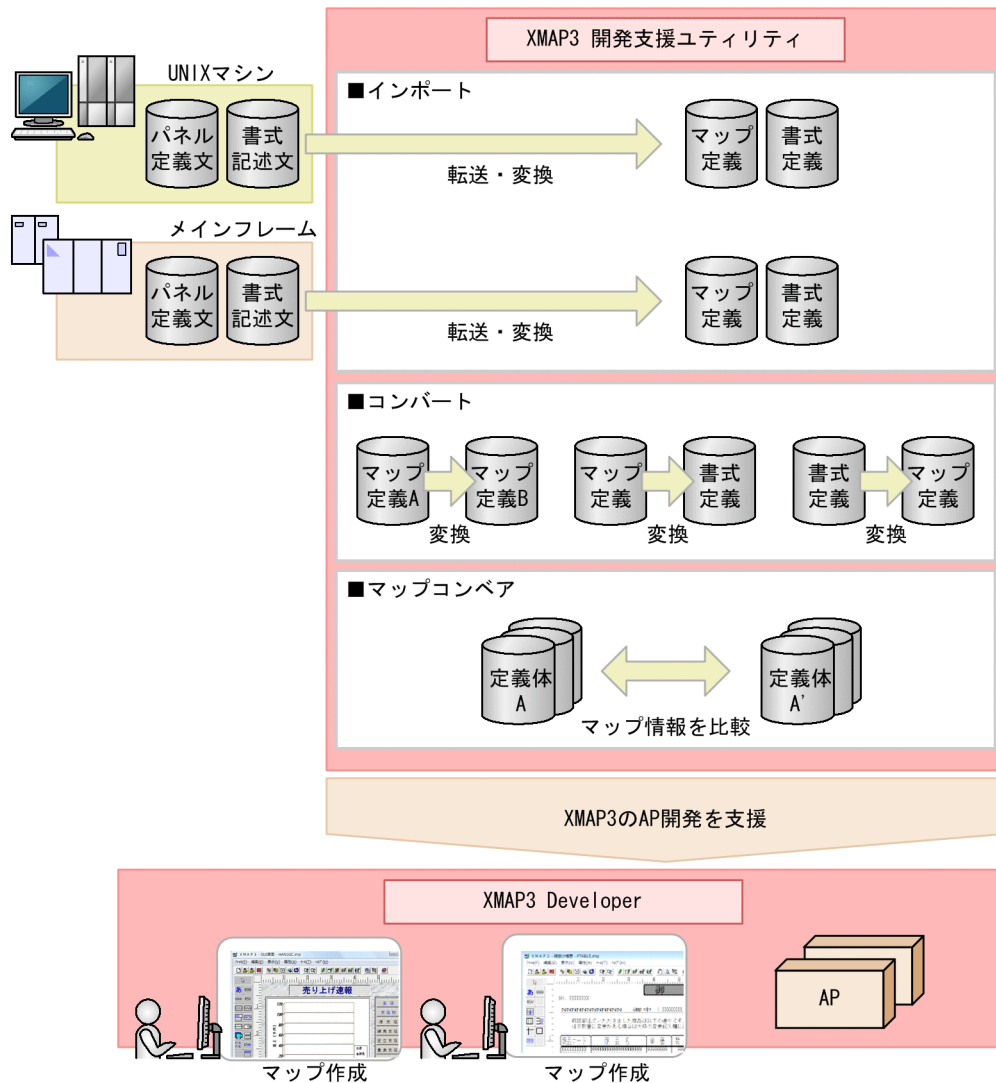
1.1 XMAP3 開発支援ユーティリティとは

XMAP3 開発支援ユーティリティとは、XMAP3 開発環境 (XMAP3 Developer) でのマップ開発業務を拡張する製品です。XMAP3 開発支援ユーティリティを導入すると、次に示す作業ができるため、XMAP3 Developer でのマップ開発の利便性が上がります。

- 旧システム (UNIX およびメインフレーム) のマップを Windows に移管
- 各種マップファイル (画面および帳票) を別の形式に変換して再利用

XMAP3 開発支援ユーティリティの概要を次の図に示します。

図 1-1 XMAP3 開発支援ユーティリティの概要



XMAP3 開発支援ユーティリティは、次の機能を提供しています。

(1) インポート

UNIX 環境およびメインフレーム環境のパネル定義文または書式記述文を、Windows 環境の XMAP3 で使用できるようにする機能です。旧システムから Windows へのマイグレーションに活用できます。

機能の詳細、および操作方法については、「2. インポート」を参照してください。

(2) コンバート

すでに作成したマップ定義ファイルまたは書式定義ファイルの、画面・帳票の種別や適用言語を変換する機能です。メインフレーム環境からインポートした CUI 画面用のマップを GUI 画面に流用したり、網掛け帳票をグラフィック帳票に流用したりする場合に活用できます。

機能の詳細、および操作方法については、「3. コンバート」を参照してください。

(3) マップコンペア

同じバージョンの XMAP3 で生成した定義体（物理マップ、書式イメージファイル、行制御データファイル）を比較する機能です。ファイルの日付、サイズ、内容について、違いを確認できます。更新されたマップ定義ファイルをフォルダ単位で比較して特定したり、バックアップを正しく取得できているかを検証したりする場合に活用できます。

機能の詳細、および操作方法については、「4. マップコンペア」を参照してください。

1.2 動作環境

XMAP3 開発支援ユーティリティの動作環境について説明します。

XMAP3 開発支援ユーティリティの動作環境は、前提製品である XMAP3 Developer の該当バージョンに依存します。XMAP3 Developer の動作環境については、マニュアル「XMAP3 開発ガイド」を参照してください。

(1) 必要なソフトウェア

XMAP3 開発支援ユーティリティを使用するために必要なソフトウェアを次に示します。

OS

- Windows 7
- Windows 8
- Windows 8.1
- Windows 10
- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2016

前提製品

- XMAP3 Developer

(2) 関連ソフトウェア

XMAP3 開発支援ユーティリティに関連するソフトウェアを次に示します。

(a) テスト表示・テスト印刷する場合

- XMAP3 Server Runtime または XMAP3 Client Runtime

1.3 インストールとアンインストール時の注意

XMAP3 開発支援ユーティリティのインストールとアンインストール時の注意について説明します。

1.3.1 新規インストール時の注意

XMAP3 開発支援ユーティリティを新規でインストールする場合の注意について説明します。

(1) インストール前の注意

- XMAP3 開発支援ユーティリティは、同じ Windows マシンに XMAP3 Developer がインストールされていることが前提です。XMAP3 Developer がインストールされていない Windows マシンに XMAP3 開発支援ユーティリティをインストールしようとすると、エラーになります。

(2) インストールでの注意

- XMAP3 開発支援ユーティリティに必要なディスクの空き容量が Windows マシンに確保されているかを十分に確認しておいてください。特に空き容量があってもディスクが断片化されているとインストールできないことがあるので注意してください。
- インストールは、Windows の Administrators グループに属するユーザーアカウントで実行してください。
- 必ず Windows 上で動作しているアプリケーションをすべて終了させてから、インストールを始めてください。
- XMAP3 開発支援ユーティリティのインストール先は、XMAP3 Developer のインストール先に依存します。
- インストールに失敗した場合、アンインストール後、再インストールしてください。
- ターミナルサービスサーバへインストールする場合は、次のように操作してください。

[プログラムの追加と削除] を使用してインストールする場合

製品統合 CD-ROM をドライブに挿入後、自動的に起動する統合インストーラを終了してください。
[コントロールパネル] を開き、[プログラムの追加と削除] で製品統合 CD-ROM 中の HCD_INST.EXE を実行し、XMAP3 開発支援ユーティリティをインストールしてください。

コマンドを使用してインストールする場合

Windows の [スタート] にある [ファイル名を指定して実行] を開き、change user/install コマンドを実行して、XMAP3 開発支援ユーティリティをインストールしてください。

インストール完了後に、Windows の [スタート] にある [ファイル名を指定して実行] を開き、change user/execute コマンドを実行して、システムを実行モードに設定してください。

- 日立ソフトウェア配布管理 JP1/NETM/DM を使用した、リモートインストールの場合の留意事項を次に示します。
 - ターミナルサービスを使用してリモートインストールできません。

(3) インストール後の注意

- XMAP3 開発支援ユーティリティをインストールした Windows マシンから XMAP3 Developer だけをアンインストールしないでください。XMAP3 Developer だけをアンインストールすると、XMAP3 開発支援ユーティリティを正常に操作できなくなります。

1.3.2 更新インストール時の注意

ファイル名やディスク容量は、新規インストール時と同じです。

XMAP3 開発支援ユーティリティの設定内容を引き継ぐとき

XMAP3 開発支援ユーティリティをアンインストールしないで、上書きインストールしてください。

XMAP3 開発支援ユーティリティの設定内容を引き継がないとき

XMAP3 開発支援ユーティリティをアンインストールしてから、XMAP3 開発支援ユーティリティをインストールしてください。インストール後に、設定内容を再設定してください。

！ 注意事項

XMAP3 開発支援ユーティリティの環境設定ファイルは、環境ファイル操作のバックアップ対象になりません。開発環境を引き継ぐ場合は、アンインストール前に次に示すフォルダのバックアップを取得し、XMAP3 開発支援ユーティリティを再インストールしたあとに、手動で環境設定ファイルを所定のフォルダに格納してください。

`XMAP3 インストールフォルダ\ETC\UTILITY`

1.3.3 アンインストール時の注意

XMAP3 開発支援ユーティリティをアンインストールする場合の注意について説明します。

(1) アンインストールで削除されるファイル

- アンインストールで削除されるファイルを次に示します。
 - 各種セットアップ情報
 - インストール時の提供ファイル

環境設定を保存する場合は、アンインストール前に手動で次に示すフォルダのバックアップを取得してください。

`XMAP3 インストールフォルダ\ETC\UTILITY`

- ユーザが独自に作成したフォルダおよびファイルは、アンインストールで削除されません。
- 環境変数は削除されません。環境変数を削除する場合は、アンインストール後、Windows を操作して、環境変数を削除してください。

1.3.4 旧バージョン (VV-RR-/S) の XMAP3 に戻す場合の注意

XMAP3 開発支援ユーティリティのインストール後には、XMAP3 Version 4 を更新インストールできません。また、新しいバージョンの XMAP3 開発支援ユーティリティをインストールしたあとで古いバージョンの XMAP3 開発支援ユーティリティはインストールできません。いったん XMAP3 開発支援ユーティリティをアンインストールしてください。

2

インポート

この章では、XMAP3 開発支援ユーティリティのインポートの操作方法について説明します。

2.1 インポートの概要

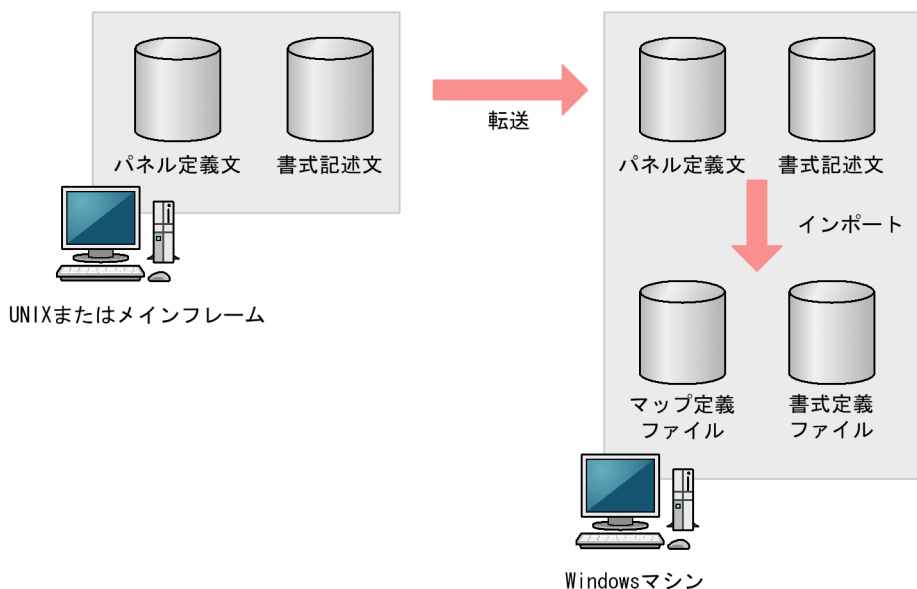
インポートは、次のことを実現するための機能です。

- UNIX またはメインフレームで利用していたパネル定義文を Windows 用のマップ定義ファイルに変換する。
- UNIX またはメインフレームで利用していた書式記述文を Windows 用の書式定義ファイルに変換する。

インポートには、GUI からの実行方法およびコマンドラインからの実行方法があります。

インポートの概要を次の図に示します。

図 2-1 インポートの機能概要



パネル定義文をインポートすると、Windows 用の画面・帳票の開発に流用できます。書式記述文をインポートすると、Windows 用の書式オーバレイとして流用できます。

インポートで変換できる機能範囲については、「付録 B インポートで変換できる機能範囲」を参照してください。

パネル定義文と書式記述文のどちらをインポートするかによって、この章の参照箇所が異なります。それぞれの場合の参照先を次の表に示します。

表 2-1 この章の参照箇所

項番	インポート対象	ユーザが実施する操作	参照先
1	パネル定義文	開発環境の準備	2.2.1
2		UNIX のパネル定義文を Windows に転送	2.2.2
3		メインフレームのパネル定義文を Windows に転送	2.2.3
4		インポートで変換されない機能の対応	2.2.4
5		パネル定義文の編集	2.2.5

項番	インポート対象	ユーザが実施する操作	参照先
6		ドロースettingsアップでの指定	2.2.6
7		インポートの実行 (GUI での操作)	2.3.1
8		インポートの実行 (コマンドラインから実行)	2.4
9		インポート結果の確認	2.5.1
10		ドローによる編集	2.6.1
11	書式記述文	開発環境の準備	2.2.1
12		UNIX の書式記述文を Windows に転送	2.2.2
13		メインフレームの書式記述文を Windows に転送	2.2.3
14		ドロースettingsアップでの指定	2.2.6
15		インポートの実行 (GUI での操作)	2.3.2
16		インポートの実行 (コマンドラインから実行)	2.4
17		インポート結果の確認	2.5.2
18		ドローによる編集	2.6.2

2.1.1 UNIX 環境からのインポート

UNIX 環境で利用していたパネル定義文または書式記述文を Windows に転送し、マップ定義ファイルまたは書式定義ファイルに変換します。

(1) パネル定義文のインポート (UNIX)

UNIX 環境で作成したパネル定義文をインポートします。インポートで変換できる範囲は、SEWB3 で定義できる範囲です。

UNIX 環境で利用していたパネル定義文のデバイスが、インポートでどの定義に変換されるかを次の表に示します。

表 2-2 デバイス名とマップの対応 (UNIX)

項番	デバイス	変換するマップ
1	XDSP,M1	ディスプレイ GUI 画面
2	XDSP,S1	ディスプレイ CUI 画面
3	XPRT,P3	ページプリンタグラフィック帳票
4	XPRT,P1	ページプリンタ網掛け帳票
5	XPRT,L1	シリアルインパクトけい線帳票

インポートで変換できない機能は、パネル定義文の修正、ドロースettingsアップでの指定、およびドローでの編集で対応する必要があります。パネル定義文のインポートで変換できる機能範囲については、「付録 B.1 パネル定義文のインポートで変換できる機能範囲」を参照してください。

UNIX からのインポートで変換できる範囲を次の表に示します。

表 2-3 インポートで変換できる範囲 (UNIX)

項番	区分	定義できる機能	定義できない機能
1	適用言語	COBOL, C 言語	PL/I, EAGLE/4GL など
2	論理マップ	<ul style="list-style-type: none"> 非共用論理マップ 文字/表意指定 (16 進漢字指定を含む) による省略時仮定値 論理フレーム 従属論理項目 	<ul style="list-style-type: none"> 共用論理マップ 16 進数による省略時仮定値 論理項目の展開順序 動的変更要項目の任意位置展開
3	画面・帳票 共通	<ul style="list-style-type: none"> フィールド系オブジェクト けい線 	<ul style="list-style-type: none"> 集団項目タイプ 多目的コード フレームと重なるオブジェクト 従属論理項目の繰り返し
4	画面	<ul style="list-style-type: none"> テキスト系オブジェクト ボックス系オブジェクト プッシュボタン, ラジオボタン, チェックボタン メッセージアイコン セパレータ リバース, 転送, 保護, 数字, 漢字, モジュラス, 自動スキップ, 桁あふれ, 全桁入力, 右寄せの各属性 カーソル位置 	<ul style="list-style-type: none"> メッセージ表示フィールド 可変フィールドの予約共用指定 表示属性・項目属性の動的変更情報※ ブリンク属性 INC 定数
5	帳票	網掛け	コピー枚数の動的変更のデータ

注※

ドローセットアップの設定内容に変更されます。

(2) 書式記述文のインポート (UNIX)

UNIX 環境で作成した FOG2/W の書式記述文を「ページプリンタ書式オーバーレイ」に変換します。インポートで変換する前に、あらかじめ使用する文字と、それに対応する文字属性名を決定します。文字属性名については、マニュアル「書式オーバーレイゼネレータ FOG2/W 解説・使用の手引」を参照してください。

文字属性名の指定については、「2.3.2(1) 文字属性名の決定」を参照してください。

インポートで変換できない機能は、ドローでの編集で対応する必要があります。書式記述文のインポートで変換できる機能範囲については、「付録 B.2 書式記述文のインポートで変換できる機能範囲」を参照してください。

2.1.2 メインフレーム環境からのインポート

メインフレーム環境で利用していたパネル定義文や書式記述文を Windows に転送し、マップ定義ファイルまたは書式定義ファイルに変換します。

(1) パネル定義文のインポート（メインフレーム）

メインフレーム環境で作成した「XMAP2 E2」のパネル定義文をインポートします。

メインフレーム環境で利用していたパネル定義文のデバイスが、インポートでどの定義に変換されるかを次の表に示します。

表 2-4 デバイス名とマップの対応（メインフレーム）

項番	デバイス	変換するマップ
1	次のどれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • 5425,B1^{※1} • 5425,B2^{※1} • 4411,C2^{※1} • 5425,C1^{※1} • 4411,D2^{※1} • 5425,C2^{※1} • 4451,C2^{※1} • 5454,D1^{※1} • 4451,D2^{※1} • 5425,D1^{※1} • 5425,D2 	ディスプレイ CUI 画面
2	次のどれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • 5382^{※2} • 5387^{※2} • 5344 • 5346^{※2} • 5323^{※2} • 5329^{※2} • 5325^{※2} • 5318^{※2} • 5317^{※2} • 5367^{※2} • 5341^{※2} • 5349^{※2} • 5345^{※2} • 5353^{※2} • 5682^{※2} 	シリアルインパクトけい線帳票（連続紙）または シリアルインパクトけい線帳票（カット紙）
3	次のどちらかです。 <ul style="list-style-type: none"> • 2311 • 2312^{※3} 	ページプリンタ網掛け帳票

2 インポート

注※1

5425,D2としてインポートされます。

注※2

5344としてインポートされます。

PHSEG文のEJECTオペランドに、PICKUP、STACKER、またはRETAINが指定された場合はカット紙、それ以外の場合は連続紙として変換されます。

注※3

2311としてインポートされます。

インポートで変換できない機能は、パネル定義文の修正、ドロースettingsアップでの指定、およびドロースettingsでの編集で対応する必要があります。パネル定義文のインポートで変換できる機能範囲については、「付録 B.1 パネル定義文のインポートで変換できる機能範囲」を参照してください。

メインフレームからのインポートで変換できる範囲を次の表に示します。

表 2-5 インポートで変換できる範囲 (メインフレーム)

項番	区分	変換できる機能	変換できない機能
1	適用言語	COBOL	アセンブラ、PL/I など
2	論理マップ	<ul style="list-style-type: none"> 文字/表意指定 (16進漢字指定を含む) による省略時仮定値 論理フレーム 従属論理項目 	<ul style="list-style-type: none"> 16進数による省略時仮定値 パネル/フィールド制御 複数論理セグメント 任意の並び順 動的変更用項目の任意位置展開
3	画面・マップ帳票共通	<ul style="list-style-type: none"> 文字指定 (16進漢字指定を含む) による固定項目 可変項目 けい線 物理フレーム 予約項目 	可変項目の初期値
4	画面※1	<ul style="list-style-type: none"> リバース、転送、保護、数字、漢字、モジュラス、自動スキップ、桁あふれ、全桁入力、右寄せの各属性 カーソル位置 	<ul style="list-style-type: none"> 16進数によるフィールド属性 表示属性・項目属性の動的変更情報※2 ブリンク属性 ライトペン項目 入力固定項目 INC 定数 10進カーソル位置※2
5	マップ帳票※3	右記以外の各種帳票機能	<ul style="list-style-type: none"> 図形、画像 文章領域
6	その他	—	<ul style="list-style-type: none"> 記号パラメタ指定 交代パネル 次表示マップ (ページング) パネル順序番号

項番	区分	変換できる機能	変換できない機能
			<ul style="list-style-type: none"> 画面レベル (NHELP 用)

(凡例)

－：該当なし。

注※1

「占有」の画面は「非占有」に変換されます。

注※2

ドロースेटアップの設定内容に置き換わります。

注※3

「非占有」のマップ帳票は「占有」に変換されます。

(2) 書式記述文のインポート (メインフレーム)

メインフレーム環境で作成した FOG E2 の書式記述文を「ページプリンタ書式オーバーレイ」に変換します。インポートで変換する前に、あらかじめ使用する文字と、それに対応する文字属性名を決定します。文字属性名については、マニュアル「書式オーバーレイジェネレータ FOG2 E2」を参照してください。

文字属性名の指定については、「2.3.2(1) 文字属性名の決定」を参照してください。

インポートで変換できない機能は、ドローでの編集で対応する必要があります。書式記述文のインポートで変換できる機能範囲については、「付録 B.2 書式記述文のインポートで変換できる機能範囲」を参照してください。

2.2 インポートの準備

ここでは、インポートを実行する前に実施しておく作業として、次の項目について説明します。

- 開発環境の準備
- パネル定義文または書式記述文を Windows に転送
- インポートで変換されない機能の対応
- パネル定義文の編集
- ドローセットアップでの指定
- 論理ハードコピー

2.2.1 開発環境の準備

インポートを実行する前に、開発環境を準備します。

(1) フォルダを作成する

インポートしたマップ定義ファイルや書式オーバーレイは、デフォルトでは次のフォルダに格納されます。

GUI から操作する場合

`XMAP3` インストールフォルダ¥`USER`¥`MAPS`

コマンドラインから実行する場合

カレントフォルダ

`XMAP3` インストールフォルダ以外に格納先フォルダを作成することをお勧めします。フォルダの作成場所やフォルダ名は任意です。ただし、`XMAP3` インストールフォルダ¥`TEMP` の下にインポートしたマップ定義ファイルや書式オーバーレイを格納すると、正常に動作しないため注意してください。

(2) 実行環境の設定

定義した画面・帳票のテスト表示・印刷をするためには、`XMAP3` 開発支援ユーティリティと同じ環境に、`XMAP3 Server Runtime` または `XMAP3 Client Runtime` をインストールする必要があります。テスト表示・印刷の操作については、マニュアル「`XMAP3` 開発ガイド」を参照してください。

2.2.2 UNIX のパネル定義文または書式記述文を Windows に転送

UNIX からインポートするパネル定義文、または書式記述文を、FTP など任意のファイル転送プログラムを使用して Windows に転送してください。

2.2.3 メインフレームのパネル定義文または書式記述文を Windows に転送

メインフレーム (`VOS3`) では `IFIT` を、Windows では `CommuniNet` を使用します。`IFIT` については、マニュアル「ファイル伝送プログラム `IFIT-TSS E2`」を参照してください。

(1) Windows 側 (`CommuniNet`) の設定時の注意

`CommuniNet` の環境設定ユーティリティで「ファイル転送」の設定を「コード変換有り」にしてください。

(2) メインフレーム側 (IFIT) の設定時の注意

メインフレーム側 (IFIT) の設定時は次の点に注意してください。

- 転送先のファイル名には、Windows 上での完全パス名を指定してください。
- 拡張子は次のとおりにしてください。
 - パネル定義文のインポートの場合
[.xmp]
 - 書式記述文のインポートの場合
書式記述文ファイル：[.fog]
部品ファイル：[.fgh]

(3) 転送時の注意 (パネル定義文をインポートする場合)

パネル定義文を Windows に転送するときの注意について説明します。

Windows に転送したパネル定義文ファイルは、拡張子「.xmap」または「.xmp」が利用できます。

(a) NAME オペランドの接頭語がマップ名と同じ場合

ドロースettingsアップの [ドローの設定] で、接頭語を付加するように設定している場合、パネル定義文をインポートで変換するときに、接頭語が二重に付加されてしまいます。これを避けるために、インポートの変換オプションを設定してください。変換オプションの設定方法については、「2.3.1(1) 変換オプションの設定」を参照してください。

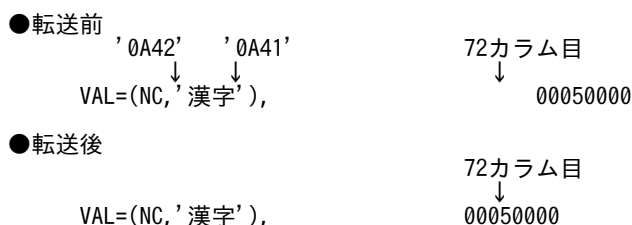
(b) メインフレームから転送したパネル定義文に漢字が含まれる場合

パネル定義文中に漢字が含まれる場合、文字コードが KEIS からシフト JIS に変換され、全角開始・全角終了コード (X'0A42', X'0A41') が取り除かれます。1 行の長さが変わるので、次の場合は Windows に転送したあとで修正するか、インポートの変換オプションを設定してください。変換オプションの設定方法については、「2.3.1(1) 変換オプションの設定」を参照してください。

漢字を含むパネル定義文に行番号が付いている場合

漢字を含むパネル定義文に 73 カラム以降の行番号を付けて転送すると、次の図に示すように行番号が 72 カラム以内に入るので、インポートによる変換時にエラーとなります。

図 2-2 行番号を含む場合



漢字を含む行が継続する場合

漢字のある行が継続する場合、次の図に示すように、行末の位置が変わります。

図 2-3 漢字のある行が継続する場合



```
VAL=(NC,'一二三四五六七八九〇一二三四五六七八九〇一〇  
二三四五六七八九〇')
```

●転送後の修正

```
VAL=(NC,'一二三四五六七八九〇一二三四五六七八九〇一二三  
四五六七八九〇')
```

72カラム目
↓

(c) メインフレームから転送したパネル定義文に外字が含まれる場合

パネル定義文中で外字を 16 進漢字定数ではなく直接定数で指定している場合、文字コードが KEIS からシフト JIS に変換されます。

標準の状態では、KEIS の外字のうちシフト JIS に正しく変換されるのは 1,880 字までで、文字コードの対応はあらかじめ決められています。

対応するシフト JIS コードを持たない外字については、ドローで編集するときに適切な文字に置き換えてください。

(d) ピクチャが C 以外でかつ従論理項目を持つ項目が含まれている場合

ピクチャが C 以外の主論理項目が従論理項目を持つ場合、パネル定義文をインポートで変換するときに、従論理項目は破棄されてしまいます。これを避けるために、インポートの変換オプションを設定してください。変換オプションの設定方法については、「2.3.1(1) 変換オプションの設定」を参照してください。

インポートの変換オプションを設定すると、主論理項目に対応するテキストまたはフィールドのデータ型は文字 (XX) に変換され、その下位項目はそのまま展開されます。

変換オプション設定時のピクチャが C 以外でかつ従論理項目を持つ項目のインポート結果を次の図に示します。

図 2-4 変換オプション設定時のピクチャが C 以外でかつ従論理項目を持つ項目のインポート結果

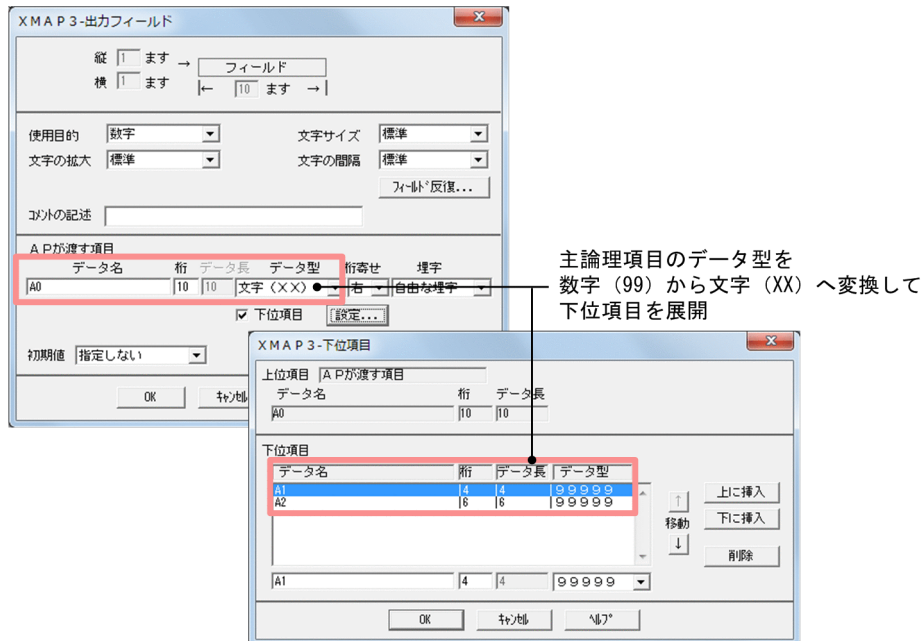
(例) 従論理項目 A1, A2を持つ, 数字項目 (ピクチャが9) の
主論理項目 A0をインポートした場合

■パネル定義文

```
A0 LOGFLD LNG=(10, 9), CODE=E, LEVEL=1
A1 LOGFLD LNG=(4, 9), CODE=E, LEVEL=2
A2 LOGFLD LNG=(6, 9), CODE=E, LEVEL=2
```

↓ インポート

■ドロー



- (e) ATTR オペランドが NUM でピクチャに 9 か E を指定している入力または入出力の項目が含まれている場合

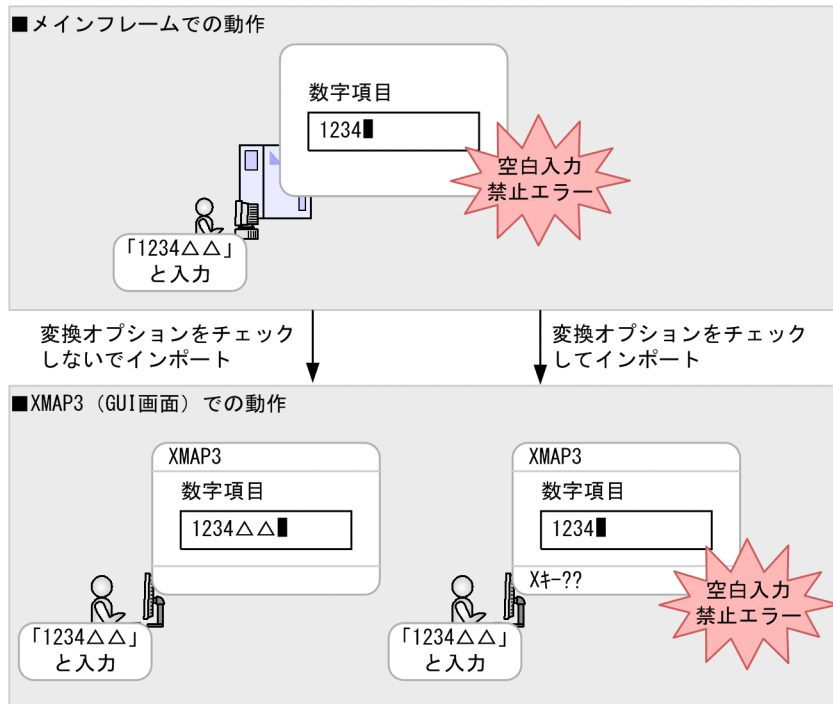
メインフレームでは, 数字項目, または数字編集項目の ATTR オペランドで NUM を指定すると, 数字項目, または数字編集項目に対する入力データのチェックで空白入力が禁止されます。

XMAP3 の CUI 画面では, 入力データのチェックに空白入力を禁止する設定がないため, パネル定義文をインポートで変換するときに, 空白入力禁止の設定が引き継がれません。一方, XMAP3 の GUI 画面では, 入力データのチェックに空白入力禁止が設定できます。しかし, CUI 画面から GUI 画面へ変換しても, 変換元の CUI 画面で空白入力禁止の設定が引き継がれていないため, GUI 画面も入力データのチェックに空白入力禁止が設定されません。

この場合, インポートの変換オプションを設定して, 数字項目, および数字編集項目での空白入力禁止の設定を, CUI 画面の定義ファイルに引き継いでください。そのあと, CUI 画面の定義ファイルを GUI 画面の定義ファイルへコンバートしてください。変換オプションの設定方法については, 「2.3.1(1) 変換オプションの設定」を参照してください。コンバートの操作方法については, 「3.2 コンバートの操作」を参照してください。

インポートの変換オプションでのチェックの有無と動作の関係を次の図に示します。

図 2-5 変換オプションでのチェックの有無と動作の関係



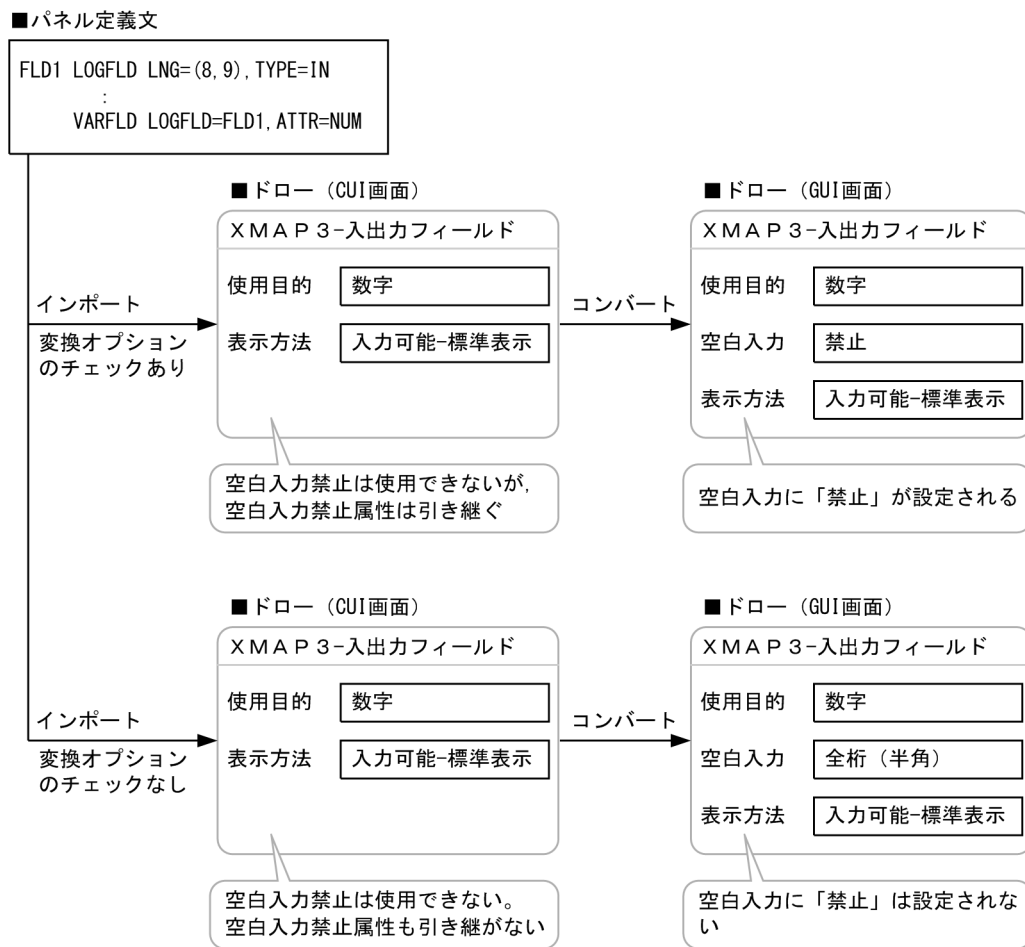
(凡例)

△：空白を示す。

■：カーソルを示す。

また、インポートの変換オプションでのチェックの有無とコンバート処理の関係を次の図に示します。

図 2-6 変換オプションでのチェックの有無とコンバート処理の関係



(f) KEIS 項目の埋字 (空白, LOW, HIGH) が 16 進で指定されている場合

KEIS コードの論理項目で、次に示す埋字を (X,'16 進数字') の形式で指定している場合、パネル定義文をインポートで変換するときに「埋めない」が設定され、埋字は破棄されてしまいます。

- スペース : (X,'40')
- LOW-VALUE : (X,'00')
- HIGH-VALUE : (X,'FF')

これを避けるために、インポートの変換オプションを設定してください。変換オプションの設定方法については、「2.3.1(1) 変換オプションの設定」を参照してください。インポートの変換オプションを設定すると、KEIS コードの論理項目で 16 進の埋字 ((X,'40'), (X,'00'), および (X,'FF')) が指定されていても、それぞれ「スペース」、「LOW (X'00)」、「HIGH (X'FF)」に変換されます。

(4) 転送時の注意 (書式記述文をインポートする場合)

書式記述文を Windows に転送するときの注意について説明します。

Windows に転送した書式記述文ファイルの拡張子は「.fog」または「.fog2」、部品ファイルの拡張子は「.fgh」としてください。

UNIX 環境で使用していた行制御ファイルは、インポートでは使用しないため、転送しません。インポートでは、変換後の書式定義ファイルの行制御情報を、書式記述文から設定します。インポートが設定した行制御情報が、UNIX 環境で使用していた行制御情報と異なる場合は、インポート後にドローで編集してください。

(a) メインフレームから転送した書式記述文に外字が含まれる場合

書式記述文中で外字を直接定数で指定している場合、文字コードが KEIS からシフト JIS に変換されます。

標準の状態では、KEIS の外字のうちシフト JIS に正しく変換されるのは 1,880 字までで、文字コードの対応はあらかじめ決められています。

対応するシフト JIS コードを持たない外字については、ドローで編集するときに適切な文字に置き換えてください。

2.2.4 インポートで変換されない機能の対応

パネル定義文には、インポートではそのまま変換されない機能があります。そのため、パネル定義文を修正したり、インポート前にドローセットアップで項目の制御情報や論理マップ属性の内容を設定したりします。また、インポート後に、変換できなかった機能をドローで定義し直す必要がある場合もあります。

(1) パネル定義文の指定とユーザの対応

インポートでは変換できない定義、およびそのままの形で変換されない定義と、その場合のユーザの対応を次の表に示します。

変換できる範囲については、「付録 B.1 パネル定義文のインポートで変換できる機能範囲」を参照してください。

表 2-6 パネル定義文の指定とユーザの対応

項番	種別	パネル定義文の指定	ユーザの対応
1	共通	COBOL/C 以外の言語で使用するパネル定義文	パネル定義文修正
		16 進数による指定	パネル定義文修正 およびドロー
		項目属性 (DFC) 16 進数による直接指定 (ATTR オペランド)	ドロー
		フィールド制御の項目属性 (DFC) 16 進数指定 (CTLFLD 文の TYPE=(ATTR,X))	ドロー
		論理項目の展開順序	ドロー
		マップ名がない論理項目	ドローおよび ドローセットアップ
		従論理項目の繰り返しとピクチャ文字	ドロー
		フレームに重なるオブジェクト	ドロー
		省略時仮定値の漢字定数	ドロー
		物理定義に対応しない論理定義	AP の見直し

項番	種別	パネル定義文の指定	ユーザの対応
2	画面	ページング (複数の LOGSEG 文, PHSEG 文)	パネル定義文修正
		論理マップ属性 (LOGSEG 文の REDEF 以外のオペランド, PHSEG 文の NULL オペランド, および CTLFLD 文)	ドローセットアップ
		CTLFLD 文によるカーソル指定	ドローセットアップ
		表示属性の動的変更 (MODCTL オペランドおよび MODATTR オペランド)	ドローセットアップ
		イベント通知コード (PHSEG 文の INC オペランド)	ドローセットアップ
		隠しフィールド (LOGFLD 文の POS オペランドに DUMMY を指定)	ドロー
3	帳票	PHSEG 文で CSCF オペランドを指定していない帳票	ドロー
		論理マップ属性 (LOGSEG 文の REDEF 以外のオペランド, および CTLFLD 文)	ドローセットアップ
		CTLFLD 文によるコピー枚数の動的変更のデータ名	ドローセットアップ
		ページプリンタ帳票のけい線の DFC	パネル定義文修正 またはドロー

(凡例)

パネル定義文修正：インポートする前に、パネル定義文の内容を修正する。「2.2.5 パネル定義文の編集」を参照のこと。

ドローセットアップ：インポートする前に、ドローセットアップで指定する。「2.2.6 ドローセットアップでの指定」を参照のこと。システムで統一した設定となる。

ドロー：インポートしたあとのマップ定義ファイルを、ドローを利用して編集する。「2.6 ドローによる編集」を参照のこと。

AP の見直し：物理定義に対応しない論理定義はインポート対象とならないため、生成したマップ定義ファイルの内容を見直し、論理マップの構造を再検討後、AP への修正がないか確認する。

(2) インポートの前に修正や設定が必要な情報

インポートの前に修正や設定が必要な情報を次に示します。

- 変換できるデバイスでサポートしていない定義文・オペランドは、エラーとなる場合があるので、修正してください。
- IFIT などメインフレームから転送する場合、漢字のある行が短くなります。73 カラム以内に行番号が入ります。インポートの変換オプションを設定するか、または転送したパネル定義文ファイルを修正してください。
- データ名は変換できません。あらかじめ、COBOL で使用できるデータ名にしてください。
- 次の情報は変換されません。インポートの前に、Windows 側のドローセットアップで設定しておいてください。
 - 記号パラメタ定義 (MODCTL, MODATTR)
 - 制御項目の長さ (CTLFLD 文の LNG)
 - INC 定数 (PHSEG 文の INC)

- 動的変更 (ATTR, MODATTR) については、動的変更の有無だけを変換します。個々の動的変更属性については、Windows 側のドローセットアップで設定しておいてください。

(3) インポート後に修正が必要な情報

インポート後に修正が必要な情報を次に示します。

- 次の情報は変換されません。ドローで定義し直してください。
 - メインフレームで作成したパネル定義文 (CUI 画面) の、隠しフィールド (VARFLD の POS=DUMMY)
 - 従論理項目のピクチャ文字列
- メインフレームで作成したパネル定義文のデバイスでは、インポートの変換オプションを利用して、論理項目の順序で展開しますが、ドローの [属性] メニューの [データ名] で編集できる範囲となります。変換オプションの対象ではないデバイスおよび変換オプションを指定しない場合は、配置されている位置の順序 (左上から右下へ) で展開されます。論理項目の展開順序を修正する場合は、ドローの [属性] メニューの [データ名] を選択して変更してください。
- 論理項目の長さが物理長より長い場合は物理長に変換されます。このとき、従論理項目が切り捨てられることがあります。インポート後に定義し直してください。
- インポートによって重なりが発生した場合、けい線とフィールドのどちらかが削除されます。XMAP3 の網掛け帳票はけい線 DFC 占有です。DEV=2311 および DEV=2312 のけい線 DFC 非占有 (PHESG 文の CTRL=FULL 指定) 帳票をインポートすると、フィールドとけい線の重なりが発生することがあります。
また、インポートすると、横けい線、ボックスけい線、網掛けなどの横の終了位置が 1 増えるため、重なりが発生することがあります。

2.2.5 パネル定義文の編集

Windows で扱えるようにするために、パネル定義文を変更する必要がある次の定義について説明します。必要に応じて、パネル定義文だけでなく、AP のソースも修正してください。

- COBOL/C 以外の言語で使用するパネル定義文
- 16 進数による指定
- ページング (複数の LOGSEG 文, PHSEG 文)
- ページプリンタ帳票のけい線の DFC

変換できる機能については、「付録 B インポートで変換できる機能範囲」を参照してください。

(1) COBOL/C 以外の言語で使用するパネル定義文

インポートで変換できるのは、COBOL 用のパネル定義文だけです。それ以外の言語用のパネル定義文の場合、変換時に PANEL 文の LANG オペランドが C (COBOL) に変更されます。

ただし、データ名は変換しないので、あらかじめ COBOL で使用できるデータ名に変更しておいてください。

(2) 16 進数による指定

インポートでは 16 進数による指定は変換できません。数値または文字列に変更してください。ただし、次の指定は変換できるので、修正する必要はありません。

- CNSFLD 文
 - VAL オペランドでの NX 指定 (16 進数による KEIS コード直接指定)
 - VAL オペランドでの X 指定 (16 進数による定数直接指定)
- LOGFLD 文
 - VAL オペランドでの NX 指定 (16 進数による KEIS コード直接指定)
 - VAL オペランドでの X 指定 (16 進数による定数直接指定)
 - FILL オペランドでの X 指定 (16 進数による定数直接指定) *

注※

CODE=K で「NX, 'KEIS コード」, 「C, '埋字」または「X, '16 進数字」の場合, 「埋めない」に変換されます。(X,'40'), (X,'00'), および (X,'FF') をそれぞれ「スペース」, 「LOW (X'00)」, 「HIGH (X'FF)」に変換する場合は, インポートの変換オプションで「16 進で指定された KEIS 項目の埋字を破棄しない (X,'40', X,'00', X,'FF'のみ)」をチェックしてください。

(3) ページング (複数の LOGSEG 文, PHSEG 文)

XMAP3 はページングに対応していないため, インポートでも複数の LOGSEG 文および PHSEG 文を含むパネル定義文を変換できません。一画面 (一組の論理セグメントと物理セグメント) につき一つのパネル定義文になるように, ファイルを分割してください。

(4) ページプリンタ帳票のけい線の DFC

インポートでは, 帳票はすべて「占有」として変換されます。したがって, PHSEG 文の CNTRL オペランドに FULL を指定した場合, けい線の開始位置とフィールドの配置とが重なることがあります。この場合, 「パネル定義文ファイル名.err」にエラーメッセージが出力されますが, マップ定義ファイルは生成されません。ただし, 重なったオブジェクトのうち, 変換されるのはパネル定義文中で最初に定義された要素だけで, それ以降のものはエラーとなり変換されません。

けい線の開始位置とフィールドが重なって, どちらかが変換されない場合を次の図に示します。

図 2-7 けい線とフィールドが重なる定義例

例1の場合, あとで定義されたけい線 (RLINE 文) は変換されない。
可変フィールドが固定フィールド (CNSFLD 文) の場合も同様。

例1
 VARFLD POS=(8,7) ...
 ⋮
 RLINE POS=(8,7) ...

例2の場合, あとで定義された可変フィールド (VARFLD 文) は変換されない。
可変フィールドが固定フィールド (CNSFLD 文) の場合も同様。

例2
 RLINE POS=(8,7) ...
 ⋮
 VARFLD POS=(8,7) ...

このような場合は, パネル定義文を修正して位置を変更してください。または, 変換されたファイルをドローで編集して, 変換されなかったオブジェクトを定義し直してください。

2.2.6 ドローセットアップでの指定

XMAP3 では, 開発する画面・帳票の AP とのインタフェースを統一するため, 項目の制御情報や論理マップ属性の内容を統一するようになっています。

次に示す内容については、インポート時に、パネル定義文の内容を Windows での設定に置き換えます。

- 画面
 - イベント通知コード (PHSEG 文の INC オペランド)
 - 表示属性の動的変更 (MODCTL オペランドおよび MODATTR オペランド)
 - CTLFLD 文によるカーソル指定
 - 論理マップ属性 (LOGSEG 文の REDEF 以外のオペランド, PHSEG 文の NULL オペランド, および CTLFLD 文)
- 帳票
 - CTLFLD 文によるコピー枚数の動的変更のデータ名
 - 論理マップ属性 (LOGSEG 文の REDEF 以外のオペランド, および CTLFLD 文)
- 画面・帳票共通
 - マップ名がない論理項目

インポートを実行する前に、個々のパネル定義文の内容から、統一した設定を決めてください。決定した内容は、ドローセットアップで設定します。

- 画面
 - イベント通知コード
PHSEG 文の INC オペランドに相当する設定
 - 表示属性の動的変更※
MODCTL/MODATTR/MODLS/MODBT オペランドに相当する設定
 - カーソルとフォーカス
CTLFLD 文に相当する設定
 - 論理マップ属性
LOGSEG 文の CLEAR/CODERR/LITRL/GENRT オペランド, PHSEG 文の NULL オペランド, および CTLFLD 文に相当する設定
- 帳票
 - コピー枚数の動的変更のデータ名
CTLFLD 文に相当する設定
 - 論理マップ属性
LOGSEG 文の LITRL/GENRT, および CTLFLD 文に相当する設定

また、論理項目名についても統一されるため、AP の変更が必要になる場合があります。

ドローセットアップの操作については、マニュアル「XMAP3 開発ガイド」を参照してください。

注※

パネル定義文中にある動的変更属性の有無の設定はインポートされますが、動的変更属性の内容は「2.2.6(1)(c) 項目の表示属性の動的変更 (MODATTR オペランド) (GUI 画面の場合)」または「2.2.6(2)(c) 項目の表示属性の動的変更 (MODATTR オペランド) (CUI 画面の場合)」に示す適用オブジェクトグループの内容となります。

また、ドローセットアップで修飾名をすべて削除、または適用外としている場合、動的変更属性を設定できません。したがって、このような設定環境で動的変更属性を定義したパネル定義文をインポートしても、「動的変更なし」としてインポートされます。

なお、カーソル制御やフォーカス制御は、ドロー上で動的変更の有無を指定できないため、パネル定義文での指定に関係なくドローセットアップの設定が有効となります。

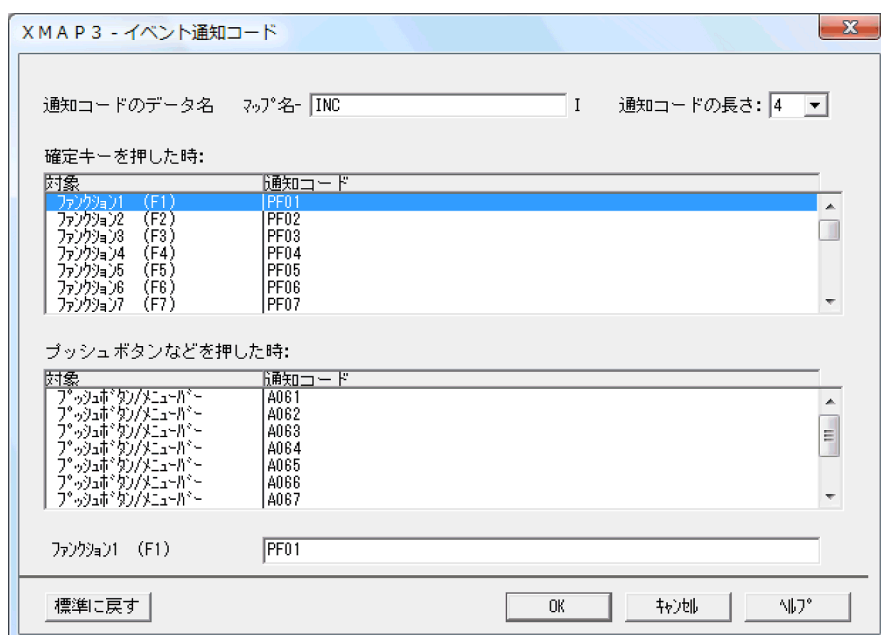
ドローセットアップで指定する項目について、GUI 画面、CUI 画面、けい線帳票、網掛け/グラフィック帳票の場合に分けて説明します。

(1) GUI 画面の場合

GUI 画面の場合の、ドローセットアップで編集する項目について説明します。

(a) イベント通知コード (PHSEG 文の INC オペランド) (GUI 画面の場合)

GUI 画面の場合、イベント通知コードの内容は、[イベント通知コード] ダイアログで設定します。パネル定義文でイベント通知コードを指定していても、その指定内容はインポートされないで、ドローセットアップでの設定が有効となります。



イベント通知コードを設定する手順を説明します。

1. [イベント通知コード] ダイアログを表示させます。

2. CTLFLD 文の内容を設定します。

「通知コードのデータ名」に NAME オペランドの内容を、「通知コードの長さ」に LNG オペランドの内容を指定します。

3. PHSEG 文の INC オペランドの内容を設定します。

「確定キーを押した時」または「プッシュボタンなどを押した時」で INC 種別を選択し、下部の変更欄に INC 定数の内容を指定します。

パネル定義文中のイベント通知コードの指定と、ドローセットアップの対応を次の表に示します。

表 2-7 パネル定義文中のイベント通知コードの指定と、ドロースettingsアップの対応 (GUI 画面)

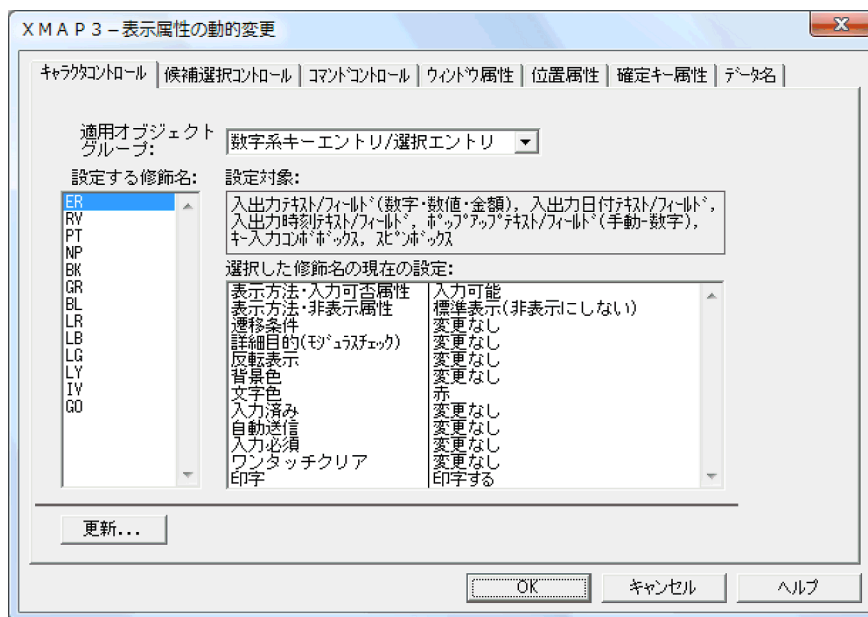
項番	パネル定義文			ドロースettingsアップ	
	文	オペランド	パラメタ	設定箇所	設定内容
1	CTLFLD (TYPE=INC)	NAME	名称	イベント通知コード	通知コードのデータ名
		LNG	長さ		通知コードの長さ
2	PHSEG	INC (INC 種別)	PF1~84	確定キーを押した時	ファンクション1~84
			ENTER		送信
			BREAK		割り込み
			SCRN		スクリーン表示
			PA1~3		PA1 キー~PA3 キー
		PF85~95	プッシュボタンなどを押した時	上から順番に 85~95 に相当	
		PF96	(指定できない)	—	
		PEN		—	
		*OTHER		—	
	INC (INC 定数)	文字列	変更欄	通知コード	

(凡例)

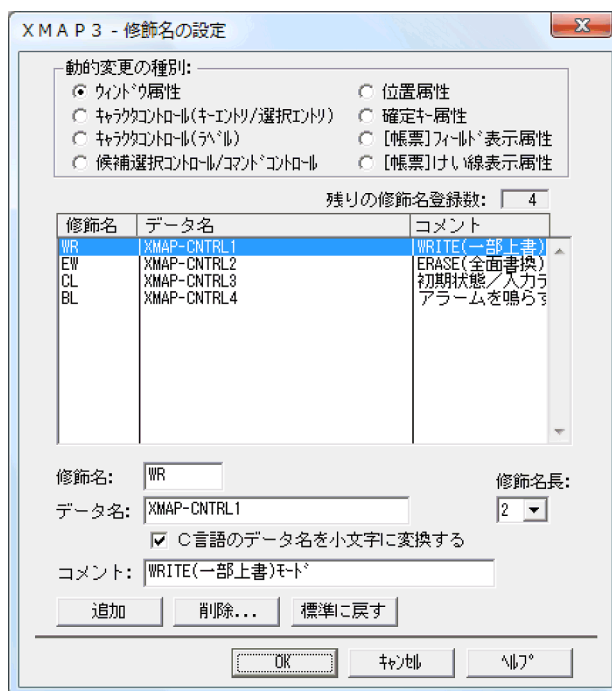
— : 該当なし。

(b) 表示属性の動的変更 (MODCTL オペランド) (GUI 画面の場合)

GUI 画面の場合、表示属性の動的変更の内容は、[表示属性の動的変更] ダイアログで設定します。



また、それぞれの修飾名は、[修飾名の設定] ダイアログで設定します。



パネル定義文中の動的変更の指定と、ドロースेटアップの対応を次の表に示します。

表 2-8 パネル定義文中の動的変更の指定と、ドロースेटアップの対応 (GUI 画面)

項番	パネル定義文			ドロースेटアップ		
	文	オペランド	パラメタ	ダイアログ	箇所*1	設定内容
1	CTLFLD (TYPE=CNTRL)	NAME	名称	表示属性の動的変更 (データ名タブ)	ウィンドウ属性の動的変更	(名称)

2 インポート

項番	パネル定義文			ドローセットアップ		
	文	オペランド	パラメタ	ダイアログ	個所※1	設定内容
		LNG	長さ	修飾名の設定	修飾名長※2	(長さ)
2	CTLFLD (TYPE=WINPOS)	NAME	名称	表示属性の動的変更 (データ名タブ)	位置属性の動的変更	(名称)
		LNG	長さ	修飾名の設定	修飾名長※3	(長さ)
3	PHSEG	MODCTL	修飾名	修飾名の設定	修飾名※2	(修飾名)
			ERASE	表示属性の動的変更 (ウィンドウ属性タブ)	表示形態	全面書換
			WRITE			一部上書
			ERWRT			自動
			FRKB	キーボードロック状態を解除する	(チェックする)	(チェックしない)
			NOFR			(チェックしない)
			ALRM	ウィンドウを表示した時にアラームを鳴らす	(チェックする)	(チェックしない)
			NOALRM			(チェックしない)
			RESTF	入力・選択状態の扱い	未入力・未選択	初期状態
			ERUNP			状態を維持
		IGNRTF				
		MODPOS	修飾名	修飾名の設定	修飾名※3	(修飾名)
			RT	表示属性の動的変更 (位置属性タブ)	XY 位置	右上
			LT			左上
			RD			右下
			LD			左下
CC	中央					
RC	(指定できない)		-	-		
LC				-		
CT		-				
CD			-	-		

(凡例)

- : なし。

注※1

ダイアログでの、パラメタを指定する項目です。括弧内は、その項目で指定する内容です。

注※2

【修飾名の設定】ダイアログの「動的変更の種別」で、「ウィンドウ属性」を選んでから設定してください。

注※3

【修飾名の設定】ダイアログの「動的変更の種別」で、「位置属性」を選んでから設定してください。

なお、次の表に示す定義内容がある場合、動的変更属性ありとしてインポートされます。

表 2-9 画面の表示属性の動的変更ありと見なされるパネル定義文 (GUI 画面)

オブジェクト	定義必須の文やオペランド※	制御項目名
ウィンドウ属性	CTLFLD TYPE=CNTRL PHSEG MODCTL=パラメタ	ドローセットアップで指定した 名称
	&C1 MODCTL PARM=パラメタ CTLFLD TYPE=CNTRL PHSEG MODCTL=&C1	
確定キー	CTLFLD TYPE=MODINC PHSEG MODINC=パラメタ	
ウィンドウ位置属性	CTLFLD TYPE=WINPOS WINDOW CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODPOS=パラメタ	

注※

表のセル単位に記述されているパネル定義文は、すべて定義されている必要があります。

(c) 項目の表示属性の動的変更 (MODATTR オペランド) (GUI 画面の場合)

XMAP3 では、次の表に示す UNIX の画面の機能を、コマンドコントロール、候補選択コントロール、およびキャラクタコントロールに分類しています。

表 2-10 オブジェクトの分類 (GUI 画面)

項番	UNIX の画面の機能	定義文	XMAP3 の分類
1	メニューテキスト	MNUTXT 文	コマンドコントロール
2	固定プッシュボタン	CNSPBT 文	
3	固定ラジオボタン	CNSRBT 文	候補選択コントロール
4	可変ラジオボタン	VARRBT 文	
5	固定チェックボタン	CNSCBT 文	
6	可変チェックボタン	VARCBT 文	
7	可変単一選択リスト	VARSLS 文	
8	可変複数選択リスト	VARMLS 文	
9	出力テキストボックス	OUTTXT 文	キャラクタコントロール※
10	入出力テキストボックス	INTXT 文	

項番	UNIX の画面の機能	定義文	XMAP3 の分類
11	オプションメニュー	OPMTXT 文	
12	可変項目	VARFLD 文	
13	ポップアップフィールド	POPFLD 文	

注※

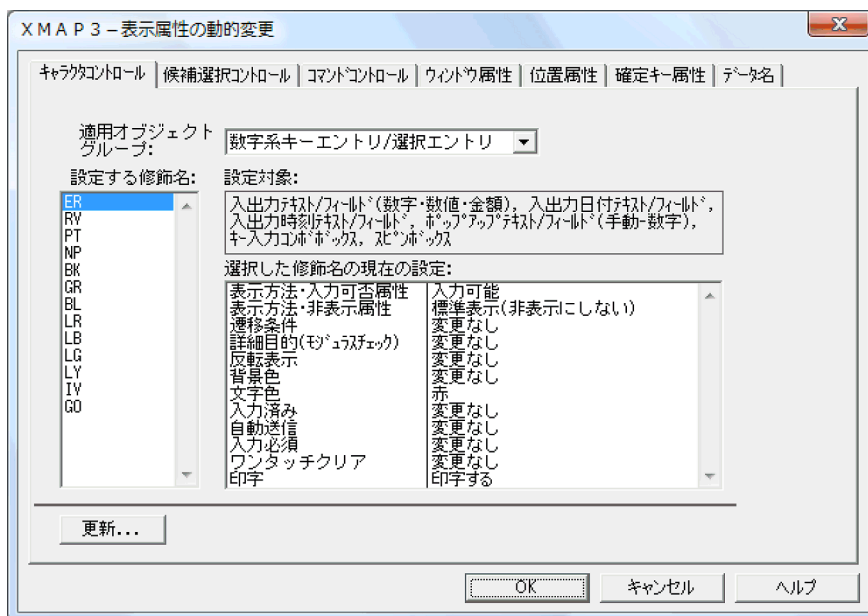
定義文のオペランドに指定した内容に応じて、適用オブジェクトグループを選択します。

これらの機能の表示属性の動的変更（定義文の MODATTR オペランド、MODLS オペランド、または MODBT オペランドで示される）を設定する方法を説明します。

- 設定の手順

項目の表示属性の動的変更の設定手順を次に示します。

1. [表示属性の動的変更] ダイアログを表示させます。



2. それぞれの分類に相当するタブを選択します。

3. 表示属性の動的変更の内容を設定します。

キャラクタコントロールの場合、オペランドの設定内容に応じて「適用オブジェクトグループ」を選択してから、[更新] ボタンをクリックします。

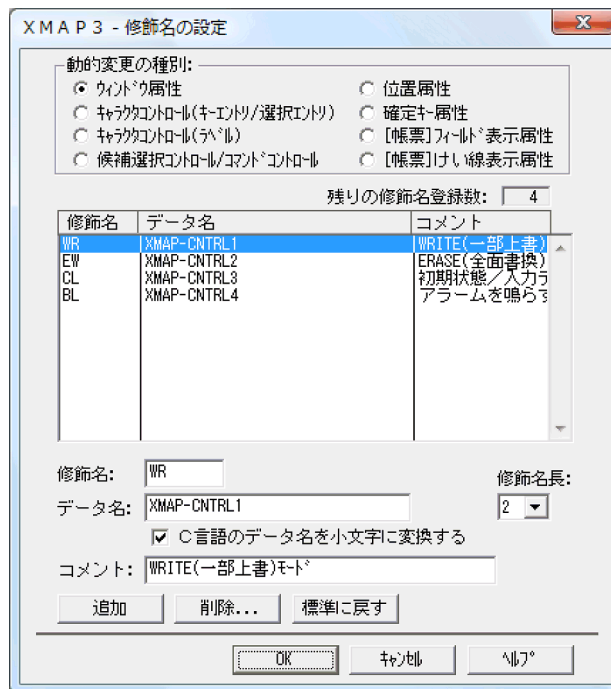
[表示属性の動的変更の更新] ダイアログが表示されるので、以降に示す表に従って内容を設定します。

設定したら [OK] ボタンをクリックして、[表示属性の動的変更] ダイアログに戻ります。

4. [OK] ボタンをクリックします。

設定内容が登録されて、ダイアログが閉じます。

また、それぞれの修飾名は、[修飾名の設定] ダイアログで設定します。



- 設定する内容

各ダイアログで設定する内容を説明します。

パネル定義文と適用オブジェクトグループの対応を次の表に示します。

表 2-11 パネル定義文と適用オブジェクトグループの対応 (GUI 画面)

項番	パネル定義文			適用オブジェクトグループ
	文	オペランド	パラメタ	
1	LOGFLD 文 (VARFLD, POPFLD, INTXT 文に対応し TYPE=INOUT または IN を指定)	LNG のピクチャ 指定	E または 9	数字系キーエントリ/選択エン トリ
		CODE	K または N	日本語系キーエントリ
2	OUTTXT 文	—	—	ラベル
3	INTXT 文	ATTR	KANA	カナ系キーエントリ
			NUM または PIC	数字系キーエントリ/選択エン トリ
			ALPH	英数系キーエントリ
		MCR	—	英数系キーエントリ
4	INTXT 文 (POPUP が指定されてい ない場合)	ATTR	KEIS	日本語系キーエントリ
5	INTXT 文 (POPUP が指定されてい る場合)	ATTR	KEIS	日本語系選択エントリ

2 インポート

項番	パネル定義文			適用オブジェクトグループ
	文	オペランド	パラメタ	
6	OPMTXT 文	—	—	日本語系選択エントリ
7	VARFLD 文 (LOGFLD 文で TYPE=INOUT または IN を指定)	ATTR	NUM または PIC	数字系キーエントリ/選択エントリ
			KEIS	日本語系キーエントリ
			KANA	カナ系キーエントリ
			ALPH	英数系キーエントリ
		MCR	—	英数系キーエントリ
8	VARFLD 文 (LOGFLD 文で TYPE=OUT だけを指定)	—	—	ラベル
9	POPFLD 文	ATTR	KEIS	日本語系選択エントリ
			NUM	数字系キーエントリ
			KANA	カナ系キーエントリ

(凡例)

— : 該当なし。

パネル定義文中の、項目の表示属性の動的変更の指定と、ドローセットアップの対応について次の表に示します。

表 2-12 パネル定義文中の項目の表示属性の動的変更の指定と、ドローセットアップの対応 (GUI 画面)

項番	パネル定義文			ドローセットアップ		
	文	オペランド	パラメタ	ダイアログ	個所	設定内容
1	CTLFLD (TYPE=ATTR)	LNG	長さ	修飾名の 設定	修飾名長	(長さ)
		NAME	データ名	修飾名の 設定	データ名	(データ名)
2	VARFLD, POPFLD, INTXT, OUTTXT, OPMTXT	MODATTR	修飾名	修飾名の 設定	修飾名	(修飾名)
			WHITE	表示属性の 動的変更の 更新	文字色	白
			RED			赤
			GREEN			緑
			BLUE			青
			MAGENTA			紫
			CYANIC			空

項番	パネル定義文			ドローセットアップ		
	文	オペランド	パラメタ	ダイアログ	個所	設定内容
			YELLOW			黄
			BLACK			黒
			TRANS		入力済み	返す
			NOTRANS			返さない
			REVERSE		反転表示	反転あり
			NOREV			反転なし
			AUTOATN		自動入力	渡す
			NOAUTO			渡さない
			MENTER		入力必須	エラーにする
			NOMENTER			エラーにしない
			MCHECK		詳細目的	モジュラス チェックあり
			NOMCHECK			モジュラス チェックなし
			SKIP		遷移条件	自動スキップ
			RJUST			手動スキップ・右 寄せ
			MFILL			手動スキップ・全 桁必須
			OVF			手動スキップ
			DARK		非表示属性	文字だけ非表示
PROT	入力可否	入力不可				
NOPROT		入力可能				
3	CNSRBT, VARRBT, CNSCBT, VARCBT, VARSLs, VARMLS	MODBT または MODLS	DEFAULT	表示属性の動的 変更 (候補選択コント ロール)	フォーカス設 定	(チェックする)
			NODEF			(チェックしな い)
			TRANS		選択済みにす る	(チェックする)
			NOTRANS			(チェックしな い)
			PROT		不活性	(チェックする)
			NOPROT			(チェックしな い)
4	MNUTXT, CNSPBT	MODBT または MODLS	DEFAULT	表示属性の動的 変更	フォーカス設 定	(チェックする)

2 インポート

項番	パネル定義文			ドローセットアップ		
	文	オペランド	パラメタ	ダイアログ	個所	設定内容
			NODEF	(コマンドコントロール)		(チェックしない)
			PROT		不活性	(チェックする)
			NOPROT			(チェックしない)

なお、次の表に示す定義内容がある場合、動的変更属性ありとしてインポートされます。

表 2-13 項目の表示属性の動的変更ありと見なされるパネル定義文 (GUI 画面)

項番	オブジェクト	定義必須の文やオペランド※1	制御項目名
1	出力テキスト, 出力日付/時刻テキスト	CTLFLD TYPE=ATTR OUTTXT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=パラメタ &A1 MODATTR PARM=パラメタ CTLFLD TYPE=ATTR OUTTXT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=&A1	LOGFLD 文の NAME オペランドと同じ名称 • 「AP が渡す項目のデータ名」と同じになる
2	入出力テキスト, 出力日付/時刻テキスト (ポップアップを含む)	CTLFLD TYPE=ATTR INTXT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=パラメタ &A1 MODATTR PARM=パラメタ CTLFLD TYPE=ATTR INTXT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=&A1	LOGFLD 文の NAME オペランドと同じ名称 • 「AP が受け取る項目のデータ名」と同じになる
3	固定テキスト	CTLFLD TYPE=ATTR OUTTXT LOGFLD=*IGNORE, CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=パラメタ	CTLFLD 文の NAME オペランドと同じ名称
4		&A1 MODATTR PARAM=パラメタ CTLFLD TYPE=ATTR OUTTXT LOGFLD=*IGNORE, CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=&A1	
5	スピンボックス	CTLFLD TYPE=ATTR STPTXT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=パラメタ	LOGFLD 文の NAME オペランドと同じ名称 • 「AP が受け取る項目のデータ名」と同じになる
6		&A1 MODATTR PARAM=パラメタ CTLFLD TYPE=ATTR STPTXT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=&A1	

項番	オブジェクト	定義必須の文やオペランド※ ¹	制御項目名
7	コンボボックス	CTLFLD TYPE=ATTR OPMTXT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=パラメタ	LOGFLD 文の NAME オペ ランドと同じ名称 • 「AP が受け取る項目の データ名」と同じになる
		&A1 MODATTR PARM=パラメタ CTLFLD TYPE=ATTR OPMTXT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=&A1	
8	メニューリスト	CTLFLD TYPE=ATTR MNUTXT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODLS=パラメタ	CTLFLD 文の NAME オペ ランドと同じ名称
9	プッシュボタン	CTLFLD TYPE=ATTR CNSPBT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODBT=パラメタ	
10	固定 ラジオボタン	CTLFLD TYPE=ATTR CNSRBT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODBT=パラメタ	
11	可変 ラジオボタン	CTLFLD TYPE=ATTR VARRBT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODBT=パラメタ	
12	固定 チェックボタン	CTLFLD TYPE=ATTR CNSCBT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODBT=パラメタ	LOGFLD 文の NAME オペ ランドと同じ名称 • 「AP が受け取る項目の データ名」と同じになる
13	可変 チェックボタン	CTLFLD TYPE=ATTR VARCBT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODBT=パラメタ	
14	単一選択 リストボックス	CTLFLD TYPE=ATTR VARSLT CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODLS=パラメタ	
15	複数選択 リストボックス	CTLFLD TYPE=ATTR VARMLS CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODLS=パラメタ	
16	可変フィールド※ ² (出力, 入出力, 日付, 時刻, トグルを含む)	CTLFLD TYPE=ATTR VARFLD CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=パラメタ	LOGFLD 文の NAME オペ ランドと同じ名称 • 出力の場合「AP が渡す項 目のデータ名」と同じに なる • 入力, または入出力の場 合「AP が受け取る項目の データ名」と同じになる
		&A1 MODATTR PARM=パラメタ CTLFLD TYPE=ATTR VARFLD CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=パラメタ	

項番	オブジェクト	定義必須の文やオペランド※1	制御項目名
17	ポップアップ フィールド	CTLFLD TYPE=ATTR POPFLD CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=パラメタ &A1 MODATTR PARM=パラメタ CTLFLD TYPE=ATTR POPFLD CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=パラメタ	LOGFLD 文の NAME オペ ランドと同じ名称 • 「AP が受け取る項目の データ名」と同じになる

注※1

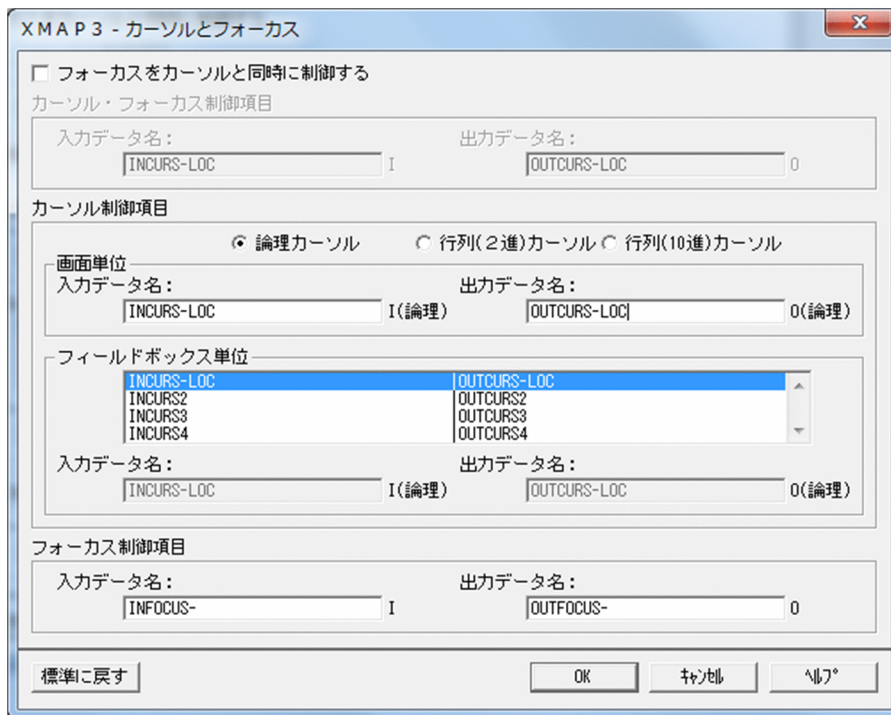
表のセル単位に記述されているパネル定義文は、すべて定義されている必要があります。

注※2

16 進数による直接指定の動的変更 (CTLFLD TYPE=(ATTR,X)) の場合、動的変更なしとしてインポートされます。

(d) CTLFLD 文によるカーソル指定 (GUI 画面の場合)

GUI 画面の場合、CTLFLD 文によるカーソル指定の内容は、[カーソルとフォーカス] ダイアログで設定します。



パネル定義文中の CTLFLD 文によるカーソル指定と、ドローセットアップの対応を次の表に示します。

表 2-14 パネル定義文中の CTLFLD 文によるカーソル指定と、ドローセットアップの対応 (GUI 画面)

項番	パネル定義文			ドローセットアップ
	文	オペランド	パラメタ	設定箇所
1	CTLFLD	NAME	名称	カーソル制御項目※1

項番	パネル定義文			ドローセットアップ
	文	オペランド	パラメタ	設定箇所
	(TYPE=OUTCURS,L)			
2	CTLFLD (TYPE=FOCUS,L)	NAME	名称	フォーカス制御項目
3	CTLFLD (TYPE=OUTCURS,X)	NAME	名称	出力データ名※2
4	CTLFLD (TYPE=INCURS,X)	NAME	名称	入力データ名※2

注

カーソル指定の 10 進指定はできません。

注※1

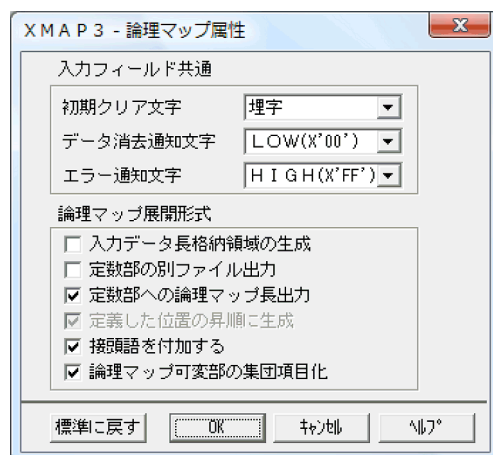
「論理カーソル」を選択してから設定してください。

注※2

「行列（2 進）カーソル」を選択してから設定してください。

- (e) 論理マップ属性（LOGSEG 文の REDEF 以外のオペランド、PHSEG 文の NULL オペランド、および CTLFLD 文）（GUI 画面の場合）

GUI 画面の場合、論理マップ属性の内容は、[論理マップ属性] ダイアログで設定します。



パネル定義文中の論理マップ属性の指定と、ドローセットアップの対応を次の表に示します。

表 2-15 パネル定義文中の論理マップ属性の指定と、ドローセットアップの対応（GUI 画面）

項番	パネル定義文			ドローセットアップ	
	文	オペランド	パラメタ	ダイアログの設定箇所	設定内容
1	LOGSEG	CLEAR※1	NO	初期クリア文字	なし
			FILL		埋字
			LOW		LOW (X'00')
			HIGH		HIGH (X'FF')

項番	パネル定義文			ドローセットアップ	
	文	オペランド	パラメタ	ダイアログの設定箇所	設定内容
			SPACE		スペース
			ZERO		ゼロ
		CODERR*2	NO	エラー通知文字	なし
			FILL		埋字
			LOW		LOW (X'00')
			HIGH		HIGH (X'FF')
			SPACE		スペース
			ZERO		ゼロ
			LITRL		SEP
		NOSEP		(チェックしない)	
		上記以外		(指定できない)	—
		GENRT	SEG	定数部への論理マップ長出力	(チェックする)
			NOSEG		(チェックしない)
			上記以外		(指定できない)
		2	PHSEG	NULL*3	NO
FILL	埋字				
LOW	LOW (X'00')				
HIGH	HIGH (X'FF')				
SPACE	スペース				

(凡例)

—：該当なし。

注※1

指定なしの場合、ドローセットアップの設定内容は「なし」を指定してください。

注※2

指定なしの場合、ドローセットアップの設定内容は「埋字」を指定してください。

注※3

指定なしの場合、ドローセットアップの設定内容は「なし」を指定してください。

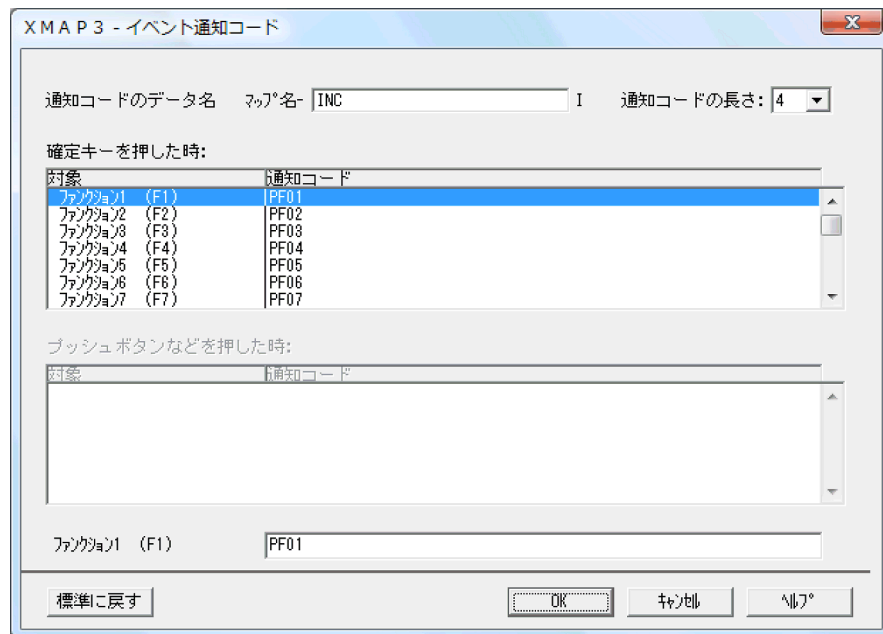
パネル定義文でマップ名がない論理項目を定義している場合、「接頭語を付加する」をチェックしないでください。

(2) CUI 画面の場合

CUI 画面の場合、ドローセットアップで編集する項目について説明します。

(a) イベント通知コード (PHSEG 文の INC オペランド) (CUI 画面の場合)

CUI 画面の場合、イベント通知コードの内容は、[イベント通知コード] ダイアログで設定します。パネル定義文でイベント通知コードを指定していても、その指定内容はインポートされないで、ドロースेटアップでの設定が有効となります。



ドロースेटアップでイベント通知コードを設定する手順を説明します。

1. [イベント通知コード] ダイアログを表示させます。

2. CTLFLD 文の内容を設定します。

「通知コードのデータ名」に NAME オペランドの内容を、「通知コードの長さ」に LNG オペランドの内容を指定します。

3. PHSEG 文の INC オペランドの内容を設定します。

「確定キーを押した時」または「プッシュボタンなどを押した時」で INC 種別を選択し、下部の変更欄に INC 定数の内容を指定します。

パネル定義文中のイベント通知コードの指定と、ドロースेटアップの対応を次の表に示します。

表 2-16 パネル定義文中のイベント通知コードの指定と、ドロースेटアップの対応 (CUI 画面)

項番	パネル定義文			ドロースेटアップ	
	文	オペランド	パラメタ	設定箇所	設定内容
1	CTLFLD (TYPE=INC)	NAME	名称*	イベント通知コード	通知コードのデータ名*
		LNG	長さ		通知コードの長さ
2	PHSEG	INC (INC 種別)	PF1~24	確定キーを押した時	ファンクション 1~24
			ENTER		送信

項番	パネル定義文			ドローセットアップ	
	文	オペランド	パラメタ	設定箇所	設定内容
			BREAK	(指定できない)	割り込み
			SCRN		スクリーン表示
			PA1~3		PA1 キー~PA3 キー
			PF25~96		—
			PEN		—
			*OTHER		—
		INC (INC 定数)	文字列	変更欄	通知コード

(凡例)

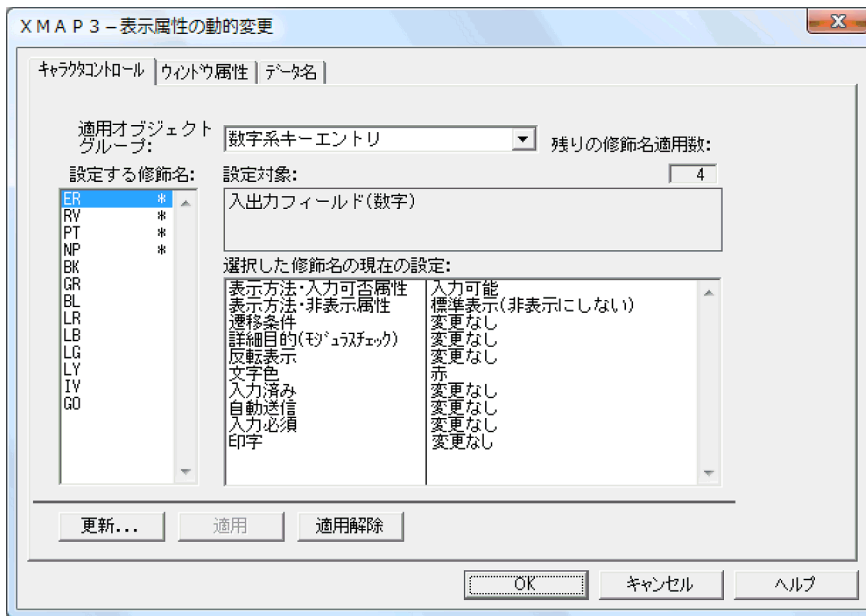
—：該当なし。

注※

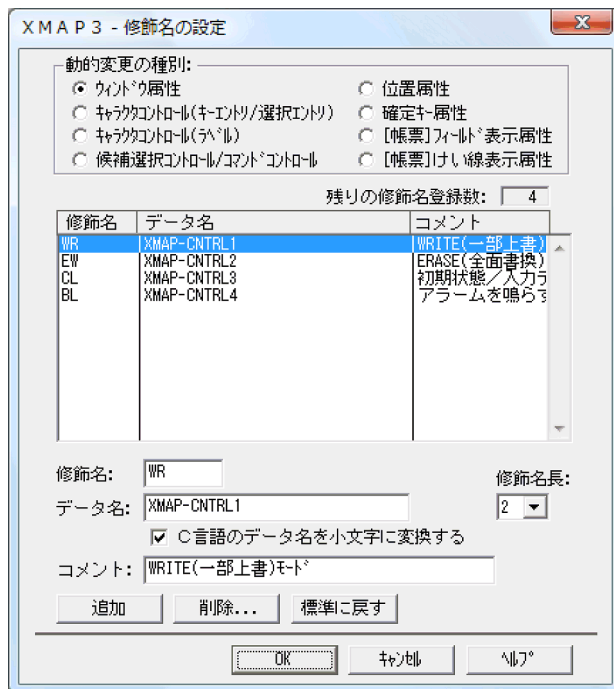
パネル定義文の NAME オペランドの名称は、インポート時にドローセットアップで指定している通知コードのデータ名に変更されます。名称が変更された項目と、変更後の名称は、メッセージで出力されます。変更後の名称でプログラムに問題が起こらないことを確認してください。

(b) 表示属性の動的変更 (MODCTL オペランド) (CUI 画面の場合)

CUI 画面の場合、画面の表示属性の内容は、[表示属性の動的変更] ダイアログで設定します。



また、それぞれの修飾名は、[修飾名の設定] ダイアログで設定します。



パネル定義文中の動的変更の指定と、ドロースettingsアップの対応を次の表に示します。

表 2-17 パネル定義文中の動的変更の指定と、ドロースettingsアップの対応 (CUI 画面)

項番	パネル定義文			ドロースettingsアップ		
	文	オペランド	パラメタ	設定箇所		設定内容
				ダイアログ名	項目名	
1	CTLFLD (TYPE=CNTRL)	NAME	名称*1	表示属性の動的変更(データ名タブ)	ウィンドウ属性の動的変更	名称*1
		LNG	長さ	修飾名の設定	修飾名長*2	長さ
2	PHSEG	MODCTL	修飾名	修飾名の設定	修飾名*2	修飾名
			ERASE	表示属性の動的変更(ウィンドウ属性タブ)	表示形態	全面書換
			WRITE			一部上書
			ERWRT			自動
			FRKB	キーボードロック状態を解除する	チェックする	チェックしない
			NOFR			チェックしない
			ALRM	ウィンドウを表示した時にアラームを鳴らす	チェックする	チェックしない
			NOALRM			チェックしない
RESTF	入力フィールドの扱い		入力データをAPに返す			

項番	パネル定義文			ドローセットアップ		
	文	オペランド	パラメタ	設定個所		設定内容
				ダイアログ名	項目名	
			ERUNP			入力データを消去する
			IGNRTF			入力データを変更しない
			PRINT	(指定できない)	—	—
			PRCTL		—	—

(凡例)

—：該当なし。

注※1

パネル定義文の NAME オペランドの名称は、インポート時にドローセットアップで指定している名称に変更されます。名称が変更された項目と、変更後の名称は、メッセージで出力されます。変更後の名称でプログラムに問題が起こらないことを確認してください。

注※2

【修飾名の設定】ダイアログの「動的変更の種別」で、「ウィンドウ属性」を選んでから設定してください。

なお、次の表に示す定義内容がある場合、動的変更属性ありとしてインポートされます。

表 2-18 画面の表示属性の動的変更ありと見なされるパネル定義文 (CUI 画面)

オブジェクト	定義必須の文やオペランド※	制御項目名
ウィンドウ属性	CTLFLD TYPE=CNTRL PHSEG MODCTL=パラメタ	ドローセットアップで指定した名称
	&C1 MODCTL PARM=パラメタ CTLFLD TYPE=CNTRL PHSEG MODCTL=&C1	

注※

表のセル単位に記述されているパネル定義文は、すべて定義されている必要があります。

(c) 項目の表示属性の動的変更 (MODATTR オペランド) (CUI 画面の場合)

XMAP3 では、次の表に示す UNIX の画面の機能を、コマンドコントロール、候補選択コントロール、およびキャラクタコントロールに分類しています。

表 2-19 オブジェクトの分類 (CUI 画面)

UNIX の画面の機能	定義文	XMAP3 の分類
可変項目	VARFLD 文	キャラクタコントロール※

注※

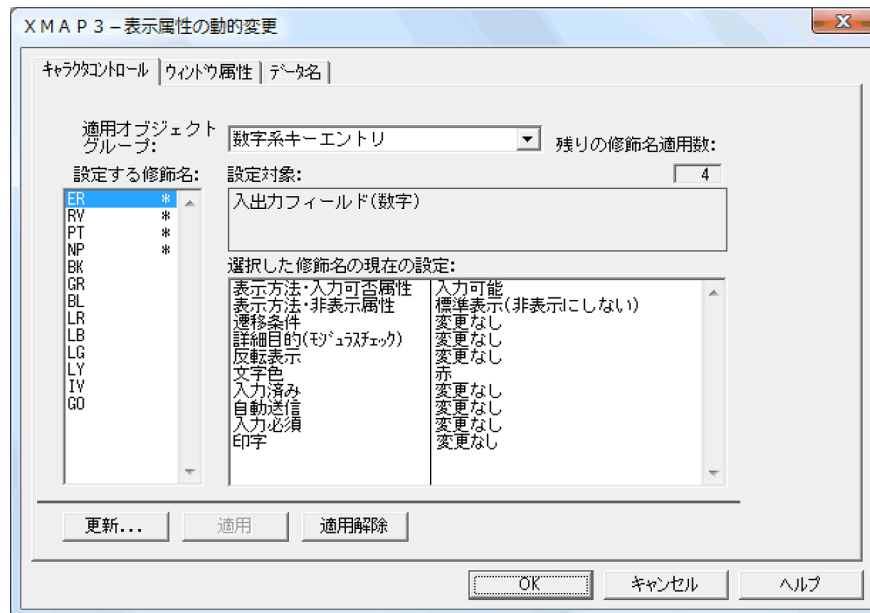
定義文のオペランドに指定した内容に応じて、適用オブジェクトグループを選択します。

これらの機能の表示属性動的変更 (定義文の MODATTR オペランド) を設定する方法を説明します。

- 設定の手順

項目の表示属性の動的変更の設定手順を次に示します。

1. [表示属性の動的変更] ダイアログを表示させます。



2. それぞれの分類に相当するタブを選択します。

3. 表示属性の動的変更の内容を設定します。

キャラクタコントロールの場合、オペランドの設定内容に応じて「適用オブジェクトグループ」を選択してから、[更新] ボタンをクリックします。

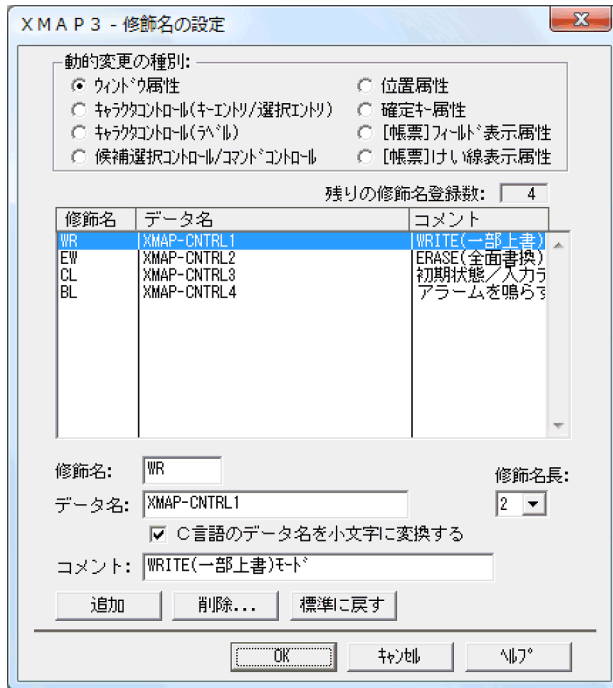
[表示属性の動的変更の更新] ダイアログが表示されるので、以降に示す表に従って内容を設定します。

設定したら [OK] ボタンをクリックして、[表示属性の動的変更] ダイアログに戻ります。

4. [OK] ボタンをクリックします。

設定内容が登録されて、ダイアログが閉じます。

また、それぞれの修飾名は、[修飾名の設定] ダイアログで設定します。



• 設定する内容

各ダイアログで設定する内容を説明します。

パネル定義文と適用オブジェクトグループの対応を次の表に示します。

表 2-20 パネル定義文と適用オブジェクトグループの対応 (CUI 画面)

項番	パネル定義文			適用オブジェクトグループ
	文	オペランド	パラメタ	
1	LOGFLD 文 (TYPE=INOUT または IN を指定)	LNG のピクチャ指定	E または 9	数字系キーエントリ
		CODE	K または N	日本語系キーエントリ
2	VARFLD 文 (LOGFLD 文で TYPE=INOUT または IN を指定)	ATTR	NUM または PIC	数字系キーエントリ
			KEIS	日本語系キーエントリ
			KANA	カナ系キーエントリ
			ALPH	英数系キーエントリ
		MCR	—	英数系キーエントリ
3	VARFLD 文 (LOGFLD 文で TYPE=OUT を指定)	—	—	ラベル

(凡例)

— : 該当なし。

パネル定義文中の、項目の表示属性の動的変更の指定と、ドローセットアップの対応について次の表に示します。

表 2-21 パネル定義文中の項目の表示属性の動的変更の指定と、ドローセットアップの対応 (CUI 画面)

項番	パネル定義文			ドローセットアップ		
	文	オペランド	パラメタ	ダイアログ	個所	設定内容
1	CTLFLD (TYPE=ATTR)	LNG	長さ	修飾名の設定	修飾名長	(長さ)
		NAME	データ名	修飾名の設定	データ名	(データ名)
2	VARFLD	MODATTR	修飾名	修飾名の設定	修飾名	(修飾名)
			WHITE	表示属性の動的 変更の更新	文字色	白
			RED			赤
			GREEN			緑
			BLUE			青
			MAGENTA			紫
			CYANIC			空
			YELLOW			黄
			TRANS			入力済み
			NOTRANS	返さない		
			REVERSE	反転表示	反転あり	
			NOREV		反転なし	
			AUTOATN	自動入力	渡す	
			NOAUTO		渡さない	
			MENTER	入力必須	エラーにする	
			NOMENTER		エラーにしない	
			MCHECK	詳細目的	モジュラス チェックあり	
			NOMCHECK		モジュラス チェックなし	
			SKIP	遷移条件	自動スキップ	
			RJUST		手動スキップ・右 寄せ	
MFILL	手動スキップ・全 桁必須					
OVF	手動スキップ					
DARK	非表示属性	文字だけ非表示				
PROT	入力可否	入力不可				

項番	パネル定義文			ドローセットアップ		
	文	オペランド	パラメタ	ダイアログ	個所	設定内容
			NOPROT			入力可能
			PRINT		印字	印字する
			NOPRINT			印字しない
			BLINK	(指定できない)	-	-
			NOBLINK			

(凡例)

- : 該当なし。

なお、次の表に示す定義内容がある場合、動的変更属性ありとしてインポートされます。

表 2-22 項目の表示属性の動的変更ありと見なされるパネル定義文 (CUI 画面)

オブジェクト	定義必須の文やオペランド※ ¹	制御項目名
可変フィールド (出力, 入出力を含む) ※ 2	CTLFLD TYPE=ATTR VARFLD CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=パラメタ &A1 MODATTR PARM=パラメタ CTLFLD TYPE=ATTR VARFLD CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=&A1	LOGFLD 文の NAME オペランドと同じ名称 <ul style="list-style-type: none"> 出力専用の場合, 「AP が渡す項目のデータ名」と同じになる。 入力, および入出力の場合, 「AP が受け取る項目のデータ名」と同じになる。

注※1

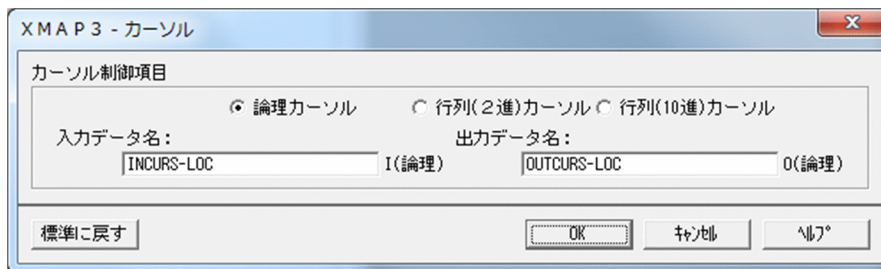
表のセル単位に記述されているパネル定義文は, すべて定義されている必要があります。

注※2

16 進数による直接指定の動的変更 (CTLFLD TYPE=(ATTR,X)) の場合, 動的変更なしとしてインポートされます。

(d) CTLFLD 文によるカーソル指定 (CUI 画面の場合)

CUI 画面の場合, CTLFLD 文によるカーソル指定の内容は, [カーソル] ダイアログで設定します。



パネル定義文中の CTLFLD 文によるカーソル指定と, ドローセットアップの対応を次の表に示します。

表 2-23 パネル定義文中の CTLFLD 文によるカーソル指定と、ドロースettingsアップの対応 (CUI 画面)

項番	パネル定義文			ドロースettingsアップ
	文	オペランド	パラメタ	設定箇所
1	CTLFLD (TYPE=OUTCURS,L)	NAME	名称*1	出力データ名*1*2
2	CTLFLD (TYPE=OUTCURS,X)	NAME	名称*1	出力データ名*1*3
3	CTLFLD (TYPE=INCURS,X)	NAME	名称*1	入力データ名*1*3

注

カーソル指定の 10 進指定はできません。

注※1

パネル定義文の NAME オペランドの名称は、インポート時にドロースettingsアップで指定している名称に変更されます。名称が変更された項目と、変更後の名称は、メッセージで出力されます。変更後の名称でプログラムに問題が起らないことを確認してください。

注※2

「論理カーソル」を選択してから設定してください。

注※3

「行列 (2 進) カーソル」を選択してから設定してください。

(e) 論理マップ属性 (LOGSEG 文の REDEF 以外のオペランド, PHSEG 文の NULL オペランド, および CTLFLD 文) (CUI 画面の場合)

CUI 画面の場合、論理マップ属性は [論理マップ属性] ダイアログで設定します。

パネル定義文中の論理マップ属性の指定と、ドロースettingsアップの対応を次の表に示します。

表 2-24 パネル定義文中の論理マップ属性の指定と、ドロースettingsアップの対応 (CUI 画面)

項番	パネル定義文			ドロースettingsアップ	
	文	オペランド	パラメタ	ダイアログの設定箇所	設定内容
1	LOGSEG	CLEAR*1	NO	初期クリア文字	なし

2 インポート

項番	パネル定義文			ドローセットアップ			
	文	オペランド	パラメタ	ダイアログの設定箇所	設定内容		
			FILL		埋字		
			LOW		LOW (X'00')		
			HIGH		HIGH (X'FF')		
			SPACE		スペース		
			ZERO		ゼロ		
		CODERR*2	NO	エラー通知文字	なし		
			FILL		埋字		
			LOW		LOW (X'00')		
			HIGH		HIGH (X'FF')		
			SPACE		スペース		
		LITRL	SEP	定数部の別ファイル出力	(チェックする)		
			NOSEP		(チェックしない)		
			上記以外		(指定できない)		
		GENRT	SEG	定数部への論理マップ長出力	(チェックする)		
			NOSEG		(チェックしない)		
			上記以外		(指定できない)		
		2	PHSEG	NULL*3	NO	データ消去通知文字	なし
					FILL		埋字
LOW	LOW (X'00')						
HIGH	HIGH (X'FF')						
SPACE	スペース						

(凡例)

—：該当なし。

注※1

指定なしの場合、ドローセットアップの設定内容は「なし」を指定してください。

注※2

指定なしの場合、ドローセットアップの設定内容は「埋字」を指定してください。

注※3

指定なしの場合、ドローセットアップの設定内容は「なし」を指定してください。

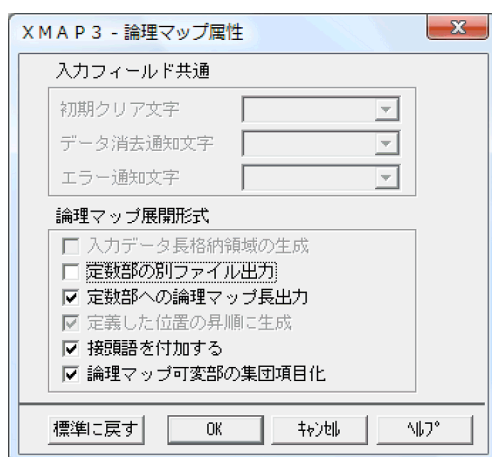
パネル定義文でマップ名がない論理項目を定義している場合、「接頭語を付加する」をチェックしないでください。

(3) けい線帳票の場合

けい線帳票の場合の、ドローセットアップで編集する項目について説明します。

- (a) 論理マップ属性 (LOGSEG 文の REDEF 以外のオペランド、PHSEG 文の NULL オペランド、および CTLFLD 文) (けい線帳票の場合)

けい線帳票の場合、論理マップ属性の内容は、[論理マップ属性] ダイアログで設定します。



パネル定義文中の論理マップ属性の指定と、ドローセットアップの対応を次の表に示します。

表 2-25 パネル定義文中の論理マップ属性の指定と、ドローセットアップの対応 (けい線帳票)

パネル定義文			ドローセットアップ	
文	オペランド	パラメタ	設定箇所	設定内容
LOGSEG	LITRL	SEP	定数部の別ファイル出力	(チェックする)
		NOSEP		(チェックしない)
		上記以外	(指定できない)	—
	GENRT	SEG	定数部への論理マップ長出力	(チェックする)
		NOSEG		(チェックしない)
		上記以外	(指定できない)	—

(凡例)

— : 該当なし。

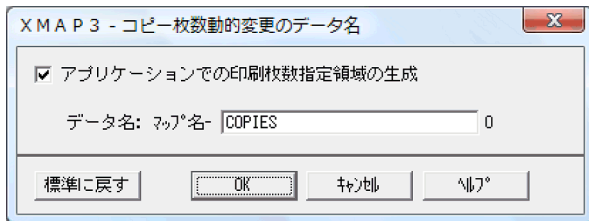
パネル定義文でマップ名がない論理項目を定義している場合、「接頭語を付加する」をチェックしないでください。

(4) 網掛け/グラフィック帳票の場合

網掛け/グラフィック帳票の場合の、ドローセットアップで編集する項目について説明します。

(a) CTLFLD 文によるコピー枚数の動的変更のデータ名

CTLFLD 文によるコピー枚数の動的変更のデータ名の内容は、[コピー枚数動的変更のデータ名] ダイアログで設定します。なお、設定するときは、ダイアログの「アプリケーションでの印刷枚数指定領域の生成」をチェックしてください。



パネル定義文中の CTLFLD 文によるコピー枚数の動的変更のデータ名の指定と、ドロースettingsアップの対応を次の表に示します。

表 2-26 パネル定義文中の CTLFLD 文によるコピー枚数の動的変更のデータ名の指定と、ドロースettingsアップの対応

パネル定義文			設定する箇所
文	オペランド	パラメタ	
CTLFLD (TYPE=COPIES,X)	NAME	名称※	データ名※

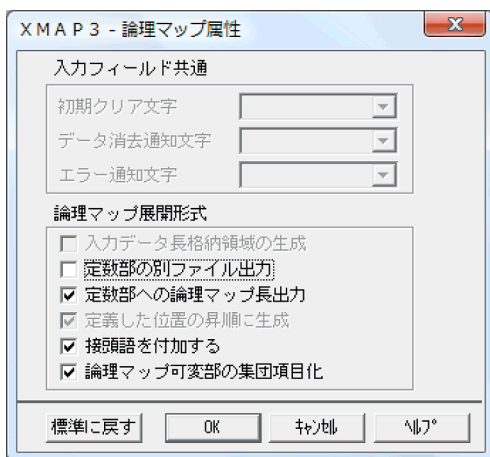
注※

パネル定義文の NAME オペランドの名称は、インポート時にドロースettingsアップで指定している名称に変更されます。名称が変更された項目と、変更後の名称は、メッセージで出力されます。変更後の名称でプログラムに問題が起らないことを確認してください。

網掛け帳票およびグラフィック帳票のコピー枚数属性は、動的変更属性ありでインポートされます。

(b) 論理マップ属性 (LOGSEG 文の REDEF 以外のオペランド, PHSEG 文の NULL オペランド, および CTLFLD 文) (網掛け/グラフィック帳票の場合)

網掛け/グラフィック帳票の場合、論理マップ属性の内容は [論理マップ属性] ダイアログで設定します。



パネル定義文中の論理マップ属性の指定と、ドロースettingsアップの対応を次の表に示します。

表 2-27 パネル定義文中の論理マップ属性の指定と、ドローセットアップの対応（網掛け/グラフィック帳票）

パネル定義文			ドローセットアップ	
文	オペランド	パラメタ	設定箇所	設定内容
LOGSEG	LITRL	SEP	定数部の別ファイル出力	(チェックする)
		NOSEP		(チェックしない)
		上記以外	(指定できない)	—
	GENRT	SEG	定数部への論理マップ長出力	(チェックする)
		NOSEG		(チェックしない)
		上記以外	(指定できない)	—

(凡例)

—：該当なし。

パネル定義文でマップ名がない論理項目を定義している場合、「接頭語を付加する」をチェックしないでください。

(c) CTLFLD 文による出力フィールド、およびけい線（グラフィック帳票の場合）

次の表に示す定義内容がある場合、動的変更属性ありとしてインポートされます。

表 2-28 項目の表示属性の動的変更ありと見なされるパネル定義文

項番	オブジェクト	定義必須の文やオペランド※	制御項目名
1	出力フィールド (日付, 時刻を含む)	CTLFLD TYPE=ATTR VARFLD CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=パラメタ &A1 MODATTR PARM=パラメタ CTLFLD TYPE=ATTR VARFLD CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODATTR=&A1	LOGFLD 文の NAME オペ ランドと同じ名称 • 出力の場合「AP が渡す項 目のデータ名」と同じに なる
2	けい線	CTLFLD TYPE=ATTR RLINE CTLFLD=上記 CTLFLD 名, MODSTL=パラメタ	CTLFLD 文の NAME オペ ランドと同じ名称

注※

表のセル単位に記述されているパネル定義文は、すべて定義されている必要があります。

2.2.7 論理ハードコピー使用時のポイント

メインフレームでパネル定義文の印字属性に指定した「PRINT」または「NOPRINT」は、インポートをしたときに引き継がれます。論理ハードコピー機能を使用すると、CUI 画面および GUI 画面のフィールドボックス中に配置した文字などのオブジェクトを、印刷または非印刷できます。

論理ハードコピーの使用時に非印字（NOPRINT）を指定する手順を次に示します。

開発環境での操作

1. ドローセットアップで標準値の印字属性と動的変更の印字属性を設定してから、インポートを実行する。
2. インポートした結果はドローで確認する。
3. ドローまたはマップ生成で物理マップを作成して、実行環境に置く。

実行環境での操作

1. AP を実行し画面を表示する。
2. 論理ハードコピーを実行する。
3. 印刷の結果、NOPRINT 指定のフィールドは印刷されていないことを確認する。

論理ハードコピー機能の使用方法については、マニュアル「XMAP3 実行ガイド」を参照してください。

なお、XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティ 05-00 以前の製品では印字属性に、「PRINT」が仮定されます。

XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティ 05-02 以降の製品では、印字属性に「PRINT」および「NOPRINT」の指定がない場合は、「NOPRINT」と仮定されます。

製品のバージョンの違いによる印字属性の指定と製品の動作を次の表に示します。

表 2-29 印字属性の指定と扱い

項番	印字属性の指定内容	05-00 以前	05-02 以降
1	PRINT	印字する	印字する
2	NOPRINT	印字する	印字しない
3	指定なし	印字する	印字しない
4	PRINT および NOPRINT の両方を指定	エラー	エラー

2.3 インポートの操作（GUIでの操作）

ここでは、パネル定義文または書式記述文を GUI でインポートするときの操作について説明します。

2.3.1 パネル定義文のインポートの場合

パネル定義文を Windows にインポートする場合の操作手順を次に示します。なお、次に示すパネル定義文を変換する場合、インポートによる変換を補正するために、変換オプションを設定する必要があります。変換オプションは運用管理者が設定してください。

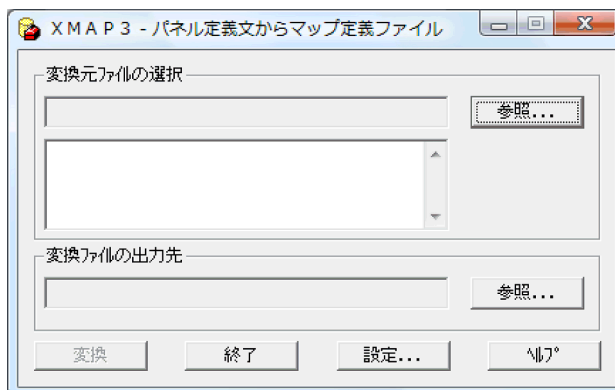
- 「2.2.3(3)(a) NAME オペランドの接頭語がマップ名と同じ場合」
- 「2.2.3(3)(b) メインフレームから転送したパネル定義文に漢字が含まれる場合」
- 「2.2.3(3)(d) ピクチャが C 以外でかつ従論理項目を持つ項目が含まれている場合」
- 「2.2.3(3)(e) ATTR オペランドが NUM でピクチャに 9 か E を指定している入力または入出力の項目が含まれている場合」
- 「2.2.3(3)(f) KEIS 項目の埋字（空白, LOW, HIGH）が 16 進で指定されている場合」
- 「2.6.1(4)(b) 展開順序」の論理セグメント文群の論理/制御項目順

(1) 変換オプションの設定

変換オプションの設定手順を次に示します。

1. Windows の [スタート] にあるプログラム一覧から [XMAP3] - [XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティ] - [インポート] - [パネル定義文からマップ定義ファイル] を選択します。

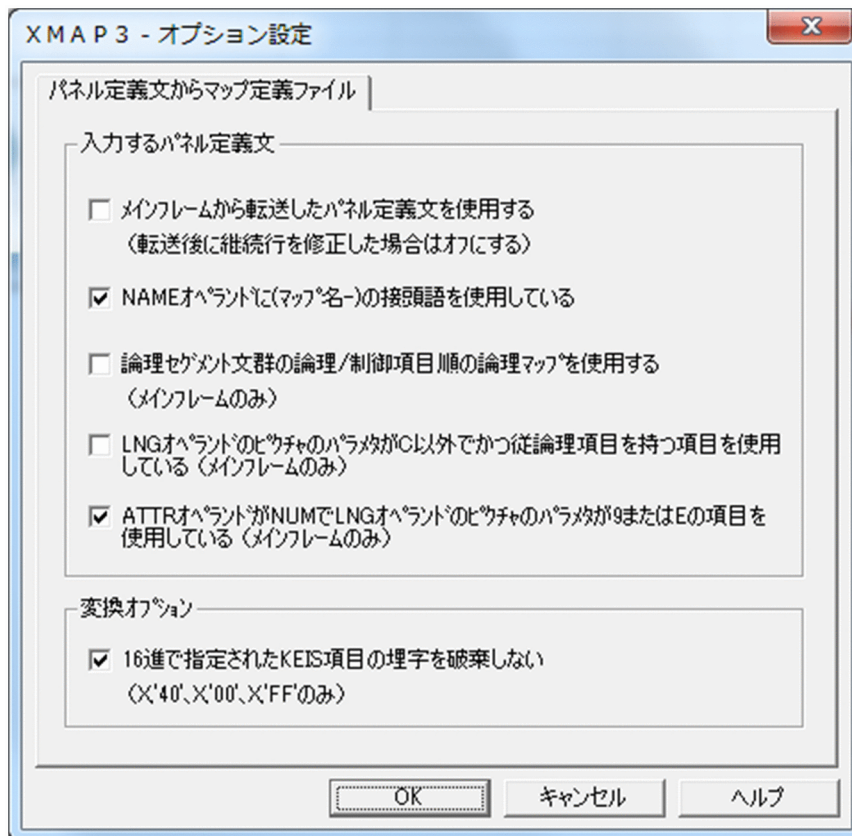
[パネル定義文からマップ定義ファイル] ダイアログが表示されます。



2. [設定] ボタンをクリックします。

[オプション設定] ダイアログが表示されます。

リモートデスクトップサービス環境下で、ほかのクライアントがインポートを実行中の場合は、[設定] ボタンは利用できません。利用するためには、ほかのクライアントのインポートが終了してからインポートを再起動してください。



[メインフレームから転送したパネル定義文を使用する] チェックボックス

パネル定義文に漢字が含まれている場合、メインフレームから Windows マシンに転送したときに、文字コードの違いから生じる行番号のずれを補正します。

Windows マシンに転送してから行番号のずれを修正した場合、または UNIX マシンから転送したパネル定義文^{*}を使用する場合は、この項目をオフにしてください。

注^{*} パネル定義文を利用できる UNIX マシンは、HI-UX/WE2 または HP-UX だけです。

[NAME オペランドに(マップ名-)の接頭語を使用している] チェックボックス

ドローセットアップで接頭語を付加するように設定した場合に、二重に接頭語が付加されないようにします。

[論理セグメント文群の論理/制御項目順の論理マップを使用する (メインフレームのみ)] チェックボックス

ドローでマップ生成をする場合、「論理/制御項目順 (ユーザ定義順)」で論理マップを展開するマップ定義ファイルを生成するときにチェックします。ドローセットアップの「論理マップ属性」ダイアログの「定義した位置の昇順に生成」の設定値に関係なく、「ユーザ定義順」のマップ定義ファイルが生成されます。

チェックしない場合は、「位置順」で生成されます。

インポート後に「ドローセットアップ反映」を実行しても、マップ定義ファイルの定義順は「ユーザ定義順」のまま変更されません。

パネル定義文の論理項目の指定で同じデータ名を使用している場合、このオプション設定は無効となります。

論理項目の展開順序は、ドローの [データ名編集] ダイアログで編集できる範囲となります。

CTLFLD 文の TYPE オペランドでの ATTR 指定位置で論理項目を展開する場合や、展開順序を変更する場合は、ドローの [データ名編集] ダイアログで編集してください。

なお、この指定は、メインフレームで作成したパネル定義文のデバイスのときだけ有効になります。

[LNG オペランドのピクチャのパラメタが C 以外でかつ従論理項目を持つ項目を使用している (メインフレームのみ)] チェックボックス

ピクチャが C 以外でかつ従論理項目を持つ項目が含まれている場合に、主論理項目に対応するテキストまたはフィールドのデータ型を文字 (XX) に変換して、その下位項目を論理マップに展開するようにします。

なお、この指定は、メインフレームで作成したパネル定義文のデバイスのときだけ有効になります。

[ATTR オペランドが NUM で LNG オペランドのピクチャのパラメタが 9 または E の項目を使用している (メインフレームのみ)] チェックボックス

ATTR オペランドが NUM でピクチャが 9 または E の項目で、空白入力を禁止する設定を引き継ぎます。引き継いだ設定を有効にするには、GUI 画面の定義ファイルへコンバートしてください。ただし、CUI 画面では入力データのチェックで空白入力を禁止する設定がないため、使用できません。

なお、この指定は、メインフレームで作成したパネル定義文のデバイスのときだけ有効になります。

[16 進で指定された KEIS 項目の埋字を破棄しない (X,'40', X,'00', X,'FF'のみ)] チェックボックス

KEIS コードの論理項目の場合に、埋字を 16 進 ((X,'40'), (X,'00'), および (X,'FF')) で指定しているときは、それぞれ「スペース」、「LOW (X'00')」、「HIGH (X'FF')」に変換します。これら以外の 16 進で指定された埋字は破棄します。

[OK] ボタン

現在の内容を登録し、ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

現在の内容を登録しないで、ダイアログを閉じます。

- 「2.2.3(3)(b) メインフレームから転送したパネル定義文に漢字が含まれる場合」に示したパネル定義文をそのまま使用する場合、「メインフレームから転送したパネル定義文を使用する」をチェックしてください。
- 「2.2.3(3)(a) NAME オペランドの接頭語がマップ名と同じ場合」に示したパネル定義文を使用する場合、「NAME オペランドに (マップ名-) の接頭語を使用している」をチェックしてください。
- 「2.2.3(3)(d) ピクチャが C 以外でかつ従論理項目を持つ項目が含まれている場合」に示したパネル定義文を使用する場合、「LNG オペランドのピクチャのパラメタが C 以外でかつ従論理項目を持つ項目を使用している (メインフレームのみ)」をチェックしてください。インポートの変換オプションを設定すると、主論理項目に対応するテキストまたはフィールドのデータ型は文字 (XX) に変換され、その下位項目はそのまま展開されます。
- 「2.2.3(3)(e) ATTR オペランドが NUM でピクチャに 9 か E を指定している入力または入出力の項目が含まれている場合」に示したパネル定義文を使用する場合、「ATTR オペランドが NUM で LNG オペランドのピクチャのパラメタが 9 または E の項目を使用している (メインフレームのみ)」をチェックしてください。インポートの変換オプションを設定すると、数字項目、および数字編集項目での空白入力禁止の設定が、CUI 画面の定義ファイルに引き継がれます。インポート後に、CUI 画面から GUI 画面へコンバートしてください。コンバートすると、GUI 画面の定義ファイルに、数字項目、および数字編集項目での空白入力禁止が設定されます。
- 「2.2.3(3)(f) KEIS 項目の埋字 (空白, LOW, HIGH) が 16 進で指定されている場合」に示したパネル定義文を使用する場合、「16 進で指定された KEIS 項目の埋字を破棄しない (X,'40', X,'00', X,'FF'のみ)」をチェックしてください。インポートの変換オプションを設定すると、KEIS コードの論理項目で 16 進の埋字 ((X,'40'), (X,'00'), および (X,'FF')) が指定されていても、それぞれ「スペース」、「LOW (X'00')」、「HIGH (X'FF')」に変換されます。

- ドローでマップ生成をする場合、「論理／制御項目順（ユーザ定義順）」で論理マップを展開するマップ定義ファイルを生成するときは、「論理セグメント文群の論理／制御項目順の論理マップを使用する（メインフレームのみ）」をチェックしてください。

ドローセットアップの「論理マップ属性」ダイアログの「定義した位置の昇順に生成」の設定値に関係なく、「ユーザ定義順」のマップ定義ファイルが生成されます。

チェックしない場合は、「位置順」で生成されます。

なお、インポート後に XMAP3 Developer のドローセットアップ情報反映を実行しても、マップ定義ファイルの定義順は「ユーザ定義順」のまま変更されません。

論理項目の展開順序は、ドローの「データ名編集」ダイアログで編集できる範囲となります。

CTLFLD 文の TYPE オペランドでの ATTR 指定位置で論理項目を展開する場合や、展開順序を変更する場合は、ドローの「データ名編集」ダイアログで編集してください。

パネル定義文の論理項目の指定で同じデータ名を使用している場合、このオプション設定は無効となります。

変換オプションは運用管理者が設定してください。

3. [OK] ボタンをクリックします。

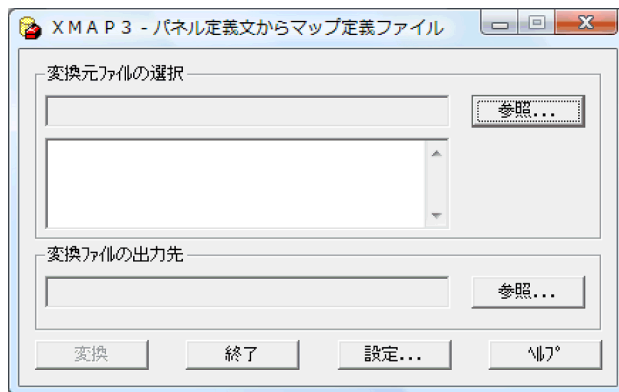
設定内容を登録して、ダイアログを閉じます。

(2) パネル定義文ファイルの変換

パネル定義文ファイルの変換の操作手順を次に示します。

- [スタート] にあるプログラム一覧から [XMAP3] - [XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティ] - [インポート] - [パネル定義文からマップ定義ファイル] を選択します。

[パネル定義文からマップ定義ファイル] ダイアログが表示されます。



- 「変換元ファイルの選択」の「参照」ボタンをクリックし、「参照」ダイアログで変換元ファイルを選択します。

拡張子が「.xmp」または「.xmap」のファイルを選択できます。

- 「変換ファイルの出力先」の「参照」ボタンをクリックして、「参照」ダイアログで変換したファイルを出力するフォルダを選択します。

変換されたファイルは、「変換元のパネル定義文の PANEL 文に指定されたパネル名.imp」というファイル名で出力されます。そのため、変換元のメインフレーム用パネル定義文の名称と一致しない場合があります。

インポート元ファイルと同じフォルダを指定し、出力ファイルが同名になる場合は上書きされます。変換元のファイルを残す場合は、別のフォルダを指定してください。

- 変換元ファイルと出力先を確認してから「変換」ボタンをクリックします。

インポートが実行されます。変換時にエラーが発生した場合、「変換ファイルの出力先」に指定したフォルダに「変換元のファイル名.err」というエラーメッセージを出力します。エラーメッセージについては、「5.2.4(1) パネル定義文のインポートで出力されるメッセージ」を参照してください。

変換時にエラーが発生したかどうか知るために、「変換ファイルの出力先」に指定したフォルダに出力される、メッセージファイル「X3UNMP01.txt」を必ず確認してください。

5. インポート結果を確認します。

インポート結果の確認方法については、「2.5.1 パネル定義文のインポート結果」を参照してください。

2.3.2 書式記述文のインポートの場合

書式記述文を Windows にインポートする場合の操作手順について説明します。なお、書式記述文をインポートする前に、文字属性名を指定する必要があります。

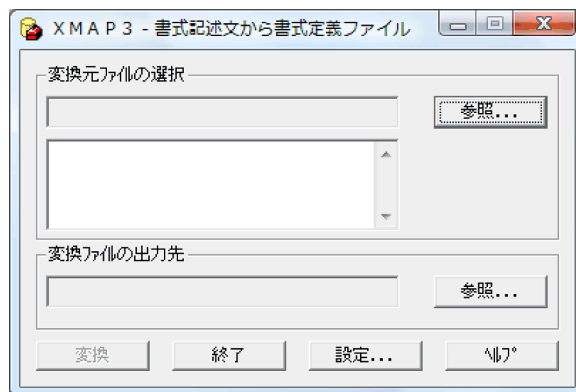
(1) 文字属性名の決定

書式記述文では、文字を「文字属性名」で指定します。あらかじめ、使用する文字と、それに対応する文字属性名を決定します。文字属性名については、マニュアル「書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2」を参照してください。

XMAP3 では、「文字属性名」を書式記述文ファイルの生成前に設定する必要があります。文字属性名は運用管理者が設定してください。

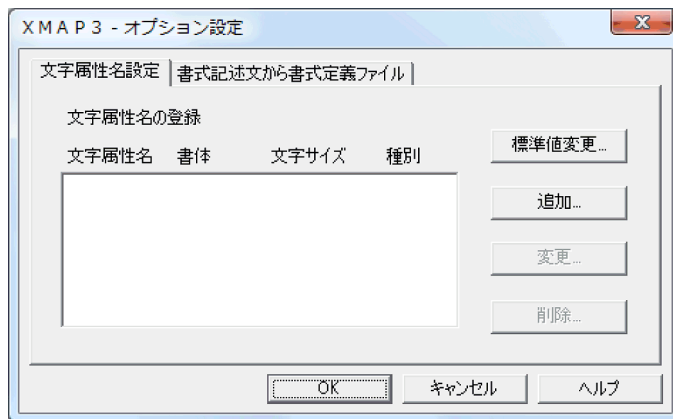
文字属性名の設定手順を次に示します。

1. ドローセットアップを起動し、ターゲット環境が正しく設定されていることを確認します。
2. Windows の [スタート] にあるプログラム一覧から [XMAP3] - [XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティ] - [インポート] - [書式記述文から書式定義ファイル] を選択します。
[書式記述文から書式定義ファイル] ダイアログが表示されます。



3. [設定] ボタンをクリックします。

[オプション設定] ダイアログの [文字属性名設定] タブが表示されます。



文字属性名の登録

すでに登録されている文字属性名と、対応付けている各属性が表示されます。

[標準値変更] ボタン

文字属性名の標準値を変更するためのダイアログが表示されます。XMAP3の標準の文字属性名を変更できます。

[追加] ボタン

[文字属性名の登録] に新しい文字属性名を追加します。文字属性名と各属性を指定するダイアログが表示されます。

[変更] ボタン

[文字属性名の登録] で選んでいる文字属性名の登録内容を変更します。文字属性名と各属性を指定するダイアログが表示されます。

[削除] ボタン

[文字属性名の登録] で選んでいる文字属性名を削除します。

[OK] ボタン

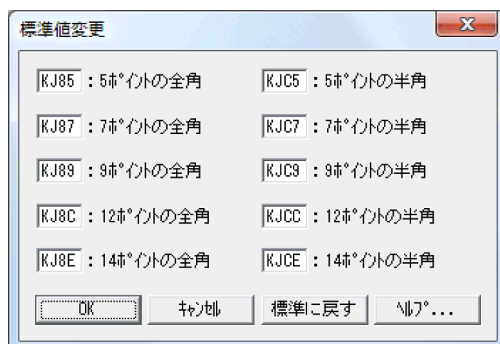
現在の内容を登録し、ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

現在の内容を登録しないで、ダイアログを閉じます。

4. [標準値変更] ボタンをクリックします。

[標準値変更] ダイアログが表示されます。



XMAP3の標準の文字属性名は次のとおりです。

- 全角は上から順に、KJ85, KJ87, KJ89, KJ8C, KJ8E
- 半角は上から順に、KJC5, KJC7, KJC9, KJCC, KJCE

各文字属性名

4桁以内の半角英数字で指定します。

[OK] ボタン

現在の内容を標準値として登録し、[オプション設定] ダイアログに戻ります。

[キャンセル] ボタン

現在の内容を登録しないで、[オプション設定] ダイアログに戻ります。

[標準に戻す] ボタン

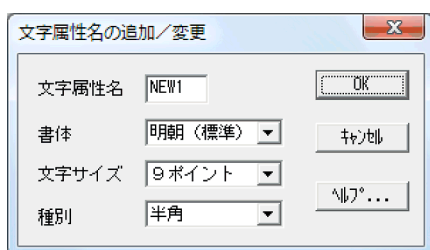
このダイアログの設定内容を XMAP3 の標準値に戻します。

5. 標準値が表示されているので、必要に応じて変更して [OK] ボタンをクリックします。

[オプション設定] ダイアログに戻ります。

6. 文字属性名を追加する場合は [追加] ボタンをクリックします。変更する場合は変更したい文字属性名を選択し、[変更] ボタンをクリックします。

[文字属性名の追加/変更] ダイアログが表示されます。



文字属性名

4桁以内の半角英数字で指定します。すでに登録されている文字属性名と同じ名前も指定できません。

書体, 文字サイズ, 種別

文字属性名に対応付ける各属性を、リストから選んで指定します。

[OK] ボタン

現在の内容を登録し、[オプション設定] ダイアログに戻ります。

[キャンセル] ボタン

現在の内容を登録しないで、[オプション設定] ダイアログに戻ります。

7. 次に示す項目を設定してから、[OK] ボタンをクリックします。

- 文字属性名
- 書体
- 文字サイズ
- 種別

なお、このダイアログで登録した文字属性名は、標準の文字属性名よりも優先されます。また、同じ文字属性名を複数個設定した場合は、先に設定した文字属性名が優先されます。

必要に応じて、手順 6. と手順 7. を繰り返してください。

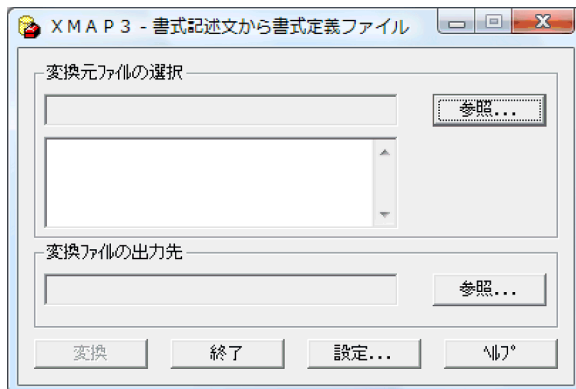
8. [オプション設定] ダイアログで [OK] ボタンをクリックして、文字属性名の設定を保存します。

(2) 書式記述文ファイルの変換

書式記述文を Windows にインポートする場合の操作手順を次に示します。書式記述文ファイルの変換は運用管理者が行ってください。

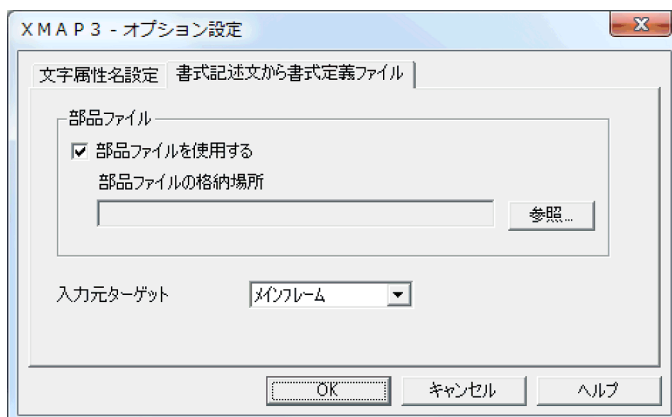
1. Windows の [スタート] にあるプログラム一覧から [XMAP3] - [XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティ] - [インポート] - [書式記述文から書式定義ファイル] を選択します。

[書式記述文から書式定義ファイル] ダイアログが表示されます。



2. [設定] ボタンをクリックします。

[オプション設定] ダイアログが表示されるので、[書式記述文から書式定義ファイル] タブをクリックしてください。



部品ファイル

ユーザが用意した部品ファイルを使用する場合に指定します。

[部品ファイルを使用する] を選び、[部品ファイルの格納場所] を指定してください。格納場所は、[参照] ボタンから表示されるダイアログで指定できます。

入力元ターゲット

書式記述文から書式定義ファイルの記述文を使用していたシステム (メインフレームまたは UNIX) を選びます。この指定に応じて、5 ポイント文字の高さ (メインフレームと UNIX で異なる) が調整されます。

[OK] ボタン

現在の内容を登録し、ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

現在の内容を登録しないで、ダイアログを閉じます。

インポートする書式で部品ファイルが使われている場合は、「部品ファイルを使用する」を選んでから [参照] ボタンをクリックして、Windows に転送した部品ファイルの格納場所を指定してください。また、「入力元ターゲット」は、対象となる書式を使用していたプラットフォームに応じて選択してください。

部品ファイルと入力元ターゲットを設定すると、[書式記述文から書式定義ファイル] ダイアログに戻ります。

3. [変換元ファイルの選択] の [参照] ボタンをクリックし、[参照] ダイアログで変換元ファイルを選択します。

拡張子が「.fog」および「.fog2」のファイルを選択できます。

4. [変換ファイルの出力先] の [参照] ボタンをクリックして、[参照] ダイアログで変換したファイルを出力するフォルダを選択します。

変換されたファイルは、「変換元の書式記述文ファイルの FORMS 文に指定された書式名.ifm」というファイル名で出力されます。そのため、変換元の書式記述文ファイル名と一致しない場合があります。インポート元ファイルと同じフォルダを指定し、出力ファイルが同名になる場合は上書きされます。変換元のファイルを残す場合は、別のフォルダを指定してください。

5. 変換元ファイルと出力先を確認してから [変換] ボタンをクリックします。

インポートが実行されます。変換時にエラーが発生した場合、「変換ファイルの出力先」に指定したフォルダに「変換元の書式記述文ファイル名.err」というエラーメッセージが出力されます。エラーメッセージについては、「5.2.4(2) 書式記述文のインポートで出力されるメッセージ」を参照してください。

変換時にエラーが発生したかどうか知るために、「変換ファイルの出力先」に指定したフォルダに出力される、メッセージファイル「X3UNFM01.txt」を必ず確認してください。

6. インポート結果を確認します。

インポート結果の確認方法については、「2.5.2 書式記述文のインポート結果」を参照してください。

(3) 書式記述文から書式定義ファイルのインポートの規則

インポートで書式記述文から書式定義ファイルを生成する場合の詳細規則を説明します。

なお、書式記述文から書式定義ファイルのインポートでは、インポートできない記述文などがあった場合に、エラーメッセージで通知されます。この場合は、メッセージに応じて対処してください。ただし、オブジェクトの属性変更と分割については、メッセージは出力されません。これらについてはインポート後にドロウで確認し、必要に応じて修正してください。

変換後のファイル

ファイル名は、記述文の FORMS 文の書式名に応じた名前となります。書式名は、先頭が英字で 4 桁以内の英数字で定義しておく必要があります。

変換時に削除/変更される情報

インポートした記述文は、Windows 版の XMAP3 でサポートしている機能範囲に応じた形式に変換されます。削除または変更される情報の主なものを次に示します。

- ドロウのレイアウト領域に収まらない項目は、すべて削除されます。
- 19, 38, 77 ポイントの文字は、14 ポイントに変換されます。
- 次の項目のバリエーションは、XMAP3 が持つバリエーションに変換されます。
ユーザ指定の網掛け、線の幅や種類、BOX や GRAPHIC のコーナ半径、ARC の角度
- ドットパターンは固定グラフィックに変換されます。このため、インポート後は編集できません。

項目数の制限

次に示す条件に該当する場合、インポートでは 1 文が分割されます。このため、記述文を作成したときに、文字パターン情報の文字列定義として作成する文字データ名の個数が制限（384 個）を超えることがあります。

- 文字配置が均等（LAY）／両端揃え（ADJUST）／字間値（CHAR）で、字間値がドローの字間値と合致しないか、縦方向の文字列の場合は、1 字単位に分割されます。
- 同じ文字データ名を複数の文で共用している場合、それぞれ独立した文字データ名になります。
- 繰り返し指定がある場合、繰り返し数分に分割されます。

変換できない情報

- かな漢字変換付き文字配列（CHARC 文）
- かな漢字変換付き文字配列（CONST, NN/NA/NK/NHCODE 文）

その他の注意事項

項目によっては、ドローでサポートしていない形式のオブジェクト（1 ますに満たないけい線や網掛けなど）に変換される場合があります。これらのオブジェクトについては、ドロー上でのリサイズができません。

2.4 インポートの操作（コマンドラインから実行）

ここでは、パネル定義文または書式記述文をコマンドラインからインポートするときの操作について説明します。

なお、ドローセットアップによるターゲットの設定や動的変更情報の設定、インポートのオプションを設定する場合は、GUI を使用してください。

2.4.1 操作手順

パネル定義文または書式記述文を Windows にインポートする場合の操作手順を次に示します。

1. GUI の操作によるインポートを設定する。

パネル定義文のインポートで変換オプションを設定する場合は、「2.3.1(1) 変換オプションの設定」を参照してください。

書式記述文のインポートで文字属性を決定する場合は、「2.3.2(1) 文字属性名の決定」を参照してください。

2. コマンドプロンプトを起動し、xmap3imp.exe コマンドに引数を指定して実行する。

パネル定義文をインポートする場合のコマンドの実行例を次に示します。

```
C:¥TEMP¥IN>xmap3imp.exe MAP001.xmp C:¥TEMP¥OUT
```

書式記述文をインポートする場合のコマンドの実行例を次に示します。

```
C:¥TEMP¥IN>xmap3imp.exe MAP001.fog C:¥TEMP¥OUT
```

インポートの処理が正常終了した場合は、標準出力にメッセージが出力されます。異常終了した場合には、標準エラー出力にメッセージが出力されます。

出力されるメッセージ、およびリターンコードについては、「5.2.2(5) メッセージの一覧」を参照してください。

3. インポート結果を確認する。

リターンコードが「2」の場合、インポート変換時にエラーが発生しているため、出力フォルダに「ファイル名.err」が出力されます。

エラーメッセージについては、「5.2.4 メッセージ一覧（インポート）」を参照してください。

インポート変換時にエラーが発生したかどうか知るために、出力フォルダに出力されるメッセージファイル「X3UNMP02.txt」または「X3UNFM02.txt」を必ず確認してください。

インポート結果の確認方法については、「2.5 インポート結果の確認」を参照してください。

2.4.2 xmap3imp.exe コマンドの形式

コマンドラインから Windows にインポートする場合の引数の指定方法を次に示します。なお、引数の指定がない場合は、usage が表示されます。

```
xmap3imp.exe 入力ファイル [出力フォルダ]
```

入力ファイル

インポートするファイルを指定します。入力ファイルは省略できません。ファイルは、1 ファイルだけ指定できます。複数の入力ファイルを処理する場合は、バッチファイルを作成してください。

入力ファイルに指定できる形式を次に示します。

- フォルダ名を省略したファイル名
カレントフォルダのファイル名が仮定されます。
- 絶対パスまたは相対パスで指定したファイル名

ファイル名は、絶対パスのファイル名に変換した場合に 255 バイト以下の長さとなるように指定してください。

出力フォルダ

インポートするファイルの出力先フォルダを指定します。省略すると、カレントフォルダが仮定されます。

出力フォルダに指定できる形式を次に示します。

- 絶対パスまたは相対パスで指定したフォルダ名

パス名は、絶対パスに変換した場合に 255 バイト以下の長さとなるように指定してください。

2.4.3 入力ファイルと出力ファイルの対応

xmap3imp.exe コマンドに指定した入力ファイルの拡張子によって、出力ファイルが自動的に決まります。インポートコマンドの入出力ファイルの対応を次の表に示します。

表 2-30 インポートコマンドの入出力ファイルの対応

項番	入力ファイル		出力ファイル	
	ファイル	拡張子	ファイル	拡張子
1	パネル定義文ファイル	.xmp, .xmap	マップ定義ファイル	.imp
2	書式記述文ファイル	.fog, .fog2	書式定義ファイル	.ifm

なお、出力ファイルのマップ定義ファイル名および書式定義ファイル名は、GUI で操作するインポート処理と同様に、パネル定義文中および書式記述文中の次の指定で決まります。

- マップ定義ファイル名は PANEL 文に指定されたパネル名
- 書式定義ファイル名は FORMS 文に指定された書式名

2.4.4 コマンドの実行例

コマンドラインからのインポート実行では、GUI での操作と同様に、次に示す定義ファイルが生成されます。

- パネル定義文から生成されるマップ定義ファイル
- 書式記述文から生成される書式定義ファイル

ここでは、それぞれの定義ファイルを生成するコマンドの実行例を示します。

(1) パネル定義文からマップ定義ファイルを生成する場合

パネル定義文からマップ定義ファイルを生成する場合のコマンドの実行例を次に示します。

```
C:¥TEMP¥IN>xmap3imp.exe MAP001.xmp C:¥TEMP¥OUT
```

この例では、パネル定義文にフォルダの指定を省略しています。フォルダの指定を省略した場合は、カレントフォルダのパネル定義文 C:¥TEMP¥IN¥MAP001.xmp からマップ定義ファイル C:¥TEMP¥OUT¥MAP001.imp が生成されます。

(2) 書式記述文から書式定義ファイルを生成する場合

書式記述文から書式定義ファイルを生成する場合のコマンドの実行例を次に示します。

```
C:¥TEMP¥OUT>xmap3imp.exe ..¥IN¥MAP001.fog
```

この例では、出力フォルダの指定を省略しています。フォルダの指定を省略した場合は、カレントフォルダに書式記述文..¥IN¥MAP001.fog から書式定義ファイル MAP001.ifm が生成されます。

(3) 複数のパネル定義文からマップ定義ファイルを生成する場合

複数のパネル定義文からマップ定義ファイルを生成する場合のバッチファイル (cmd.bat) の実行例を次に示します。

```
@echo off
for %%A in (*.xmp) do xmap3imp.exe %%A C:¥TEMP¥OUT
```

この例では、カレントフォルダにある拡張子 (.xmp) のファイルがすべて C:¥TEMP¥OUT にインポートされます。

(4) コマンドラインからインポートをする場合の注意事項

コマンドラインからインポートをする場合の注意事項を次に示します。

- コマンドラインの引数は、空白を区切りとして処理します。このため、空白を含むファイル名およびフォルダ名には" (ダブルクォーテーション) を付けてください。ダブルクォーテーションが正しく付いていない場合は、ファイル名やフォルダ名として認識されません。
- 次に示す項目に該当している場合は、エラーメッセージが出力されて、インポートは実行されません。
 - ファイル名の指定がない。
 - ファイルが存在しない。
 - ファイルが読み込めない。
 - ファイルの拡張子が.xmp, .xmap, .fog, .fog2 以外の拡張子を指定している。
 - ファイル名の長さが 256 バイト以上を指定している。
 - ワイルドカードを指定している。
 - フォルダ名の長さが 256 バイト以上を指定している。
 - フォルダが存在しない。
 - フォルダに書き込めない。
 - 第 1 引数にフォルダを指定している。
- 第 1 引数だけをファイル名と見なします。ほかの引数でファイル名を指定している場合は、エラーメッセージが出力されて、インポート実行はされません。
- コマンド名を除いて、コマンドラインの引数に三つ以上指定した場合、エラーメッセージが出力されます。第 3 引数以降に指定したオプションの解析処理とインポートは実行されません。

2.5 インポート結果の確認

インポート結果の確認方法について説明します。

2.5.1 パネル定義文のインポート結果

パネル定義文のインポート結果のメッセージは、出力先のフォルダに次のファイル名で出力されます。

GUI の場合

X3UNMP01.txt

コマンドラインの場合

X3UNMP02.txt

エラーが発生した場合は、「変換元ファイル名.err」を確認してください。エラーメッセージについては、「5.2.4(1) パネル定義文のインポートで出力されるメッセージ」を参照してください。

2.5.2 書式記述文のインポート結果

書式記述文のインポート結果のメッセージは、出力先のフォルダに次のファイル名で出力されます。

GUI の場合

X3UNFM01.txt

コマンドラインの場合

X3UNFM02.txt

エラーが発生した場合は、「変換元ファイル名.err」を確認してください。エラーメッセージについては、「5.2.4(2) 書式記述文のインポートで出力されるメッセージ」を参照してください。

2.6 ドローによる編集

Windows 用に変換されたマップ定義ファイルは、ドローで編集できます。一部の機能はインポートでは変換されないため、ドローを使って定義し直す必要があります。

2.6.1 パネル定義文から変換されたマップ定義ファイルのドローによる編集

パネル定義文と Windows のマップ定義ファイルとは、使用できる機能の範囲が異なります。そのため、ドローを使って定義し直す必要があります。

インポートで変換できるパネル定義文の範囲については、「付録 B.1 パネル定義文のインポートで変換できる機能範囲」を参照してください。

ここでは、パネル定義文のインポート後にドローで編集が必要な次の項目について説明します。

- 16 進数による指定
- 項目属性 (DFC) 16 進数による直接指定 (ATTR オペランド)
- フィールド制御の項目属性 (DFC) 16 進数指定 (CTLFLD 文の TYPE=(ATTR,X))
- 論理項目の展開順序
- マップ名がない論理項目
- 従論理項目の繰り返しとピクチャ文字
- フレームに重なるオブジェクト
- 省略時仮定値の漢字定数
- 隠しフィールド (LOGFLD 文の POS オペランドに DUMMY を指定)
- PHSEG 文で CSCF オペランドを指定していない帳票
- ページプリンタ帳票のけい線の DFC

(1) 16 進数による指定

メインフレームから転送したパネル定義文をインポートした場合、16 進数による指定は変換できないため、変換されなかったオブジェクトをドローで定義し直してください。なお、次の指定はインポートで変換できるため、ドローでの編集は必要ありません。

- 固定フィールドのテキスト
- 出力/入出力テキストの自由な埋字、および自由な初期値
- 出力/入出力フィールドの自由な埋字、および自由な初期値

(2) 項目属性 (DFC) 16 進数による直接指定 (ATTR オペランド)

メインフレームから転送したパネル定義文をインポートした場合、ATTR オペランドに 16 進数指定した属性は有効となりません。属性をドローで再度定義してください。

(3) フィールド制御の項目属性 (DFC) 16 進数による指定 (CTLFLD 文の TYPE=(ATTR,X))

メインフレームから転送したパネル定義文をインポートした場合、16 進数による直接指定の動的変更 (CTLFLD TYPE=(ATTR,X)) は、動的変更なしとなります。該当するフィールドの動的変更をドローで再度定義してください。このとき、動的変更の内容はドローセットアップの該当する項目の表示属性となりますので、あらかじめドローセットアップで指定内容を設定してください。

(4) 論理項目

(a) 論理項目長

メインフレームからパネル定義文をインポートした場合、論理項目の長さが項目長よりも長いときは、項目長と同じ長さに変換されます。その場合に、従論理項目が切り捨てられることがあります。項目長よりも長い論理項目については、ドローで確認し、必要に応じて定義し直してください。

(b) 展開順序

論理項目は、配置されている位置の順序 (左上から右下へ) または論理/制御項目の順序に従って展開されます。展開順序を修正する場合は、ドローの [属性] - [データ名] を選択して変更してください。

メインフレームからインポートした場合、インポートの変換オプションを利用して論理項目順に論理マップを展開できます。ただし、論理項目の展開順序は、ドローの [データ名編集] ダイアログで編集できる範囲となります。CTLFLD 文の TYPE オペランドでの ATTR 指定位置で論理項目を展開するときや、展開順序を変更するときは、ドローの [データ名編集] ダイアログで編集してください。

(c) 従論理項目の繰り返しとピクチャ文字

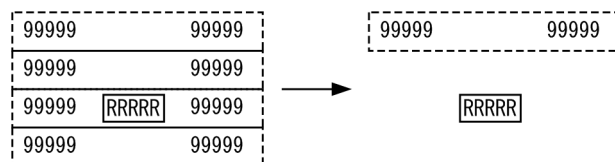
XMAP3 では、従論理項目の繰り返しを定義できません。インポートでは、従論理項目の長さを (繰り返し回数) × (項目長) として変換します。また、従論理項目のピクチャ文字列は変換されません。ドローで定義し直してください。

(5) フレームと重なるオブジェクト

XMAP3 のドローでは、フレームの領域に単独の項目 (固定項目、フレーム外の可変項目、予約項目) やほかのフレームを重ねて配置できません。したがって、このようなフレームとオブジェクトが重なっているパネル定義文をインポートすると、次のように変換されます。

- 固定項目や予約項目が繰り返されているフレームの二つ目以降の領域に、単独の項目が重なっている場合

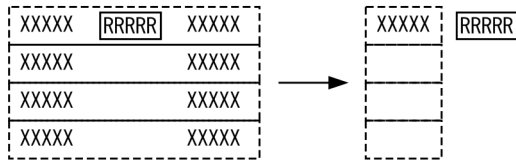
フレームの繰り返し回数を無視して、繰り返しのないフレームに変換されます。



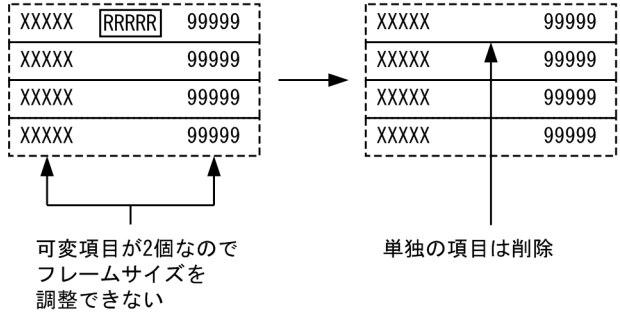
- 固定項目や予約項目が繰り返されているフレームの一つ目の領域に、単独の項目が重なっている場合
フレームサイズを調整して重なりを回避します。

ただし、重なったフレーム内に繰り返された可変項目が 2 個以上の場合、またはサイズを調整しても重なりが回避できない場合は、単独の項目を削除します。

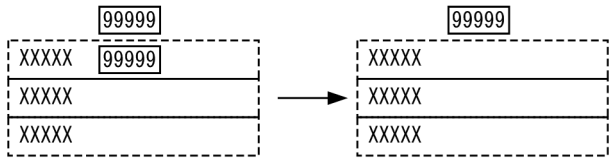
● フレームサイズを調整できる場合



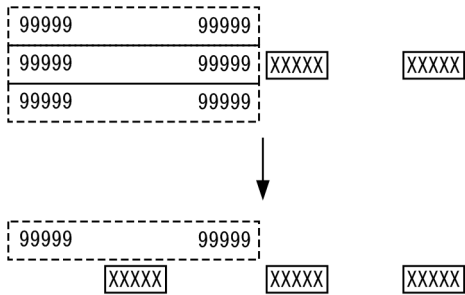
● フレームサイズを調整できない場合



- 繰り返された可変項目の二つ目以降が、フレームの領域と重なっている場合
可変項目の繰り返し回数を無視して、繰り返しのない可変項目に変換されます。

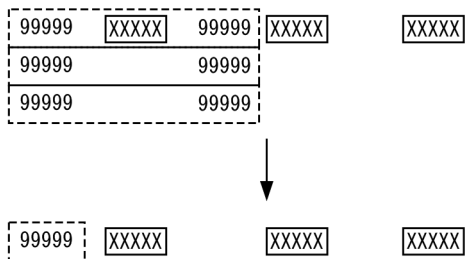


- 繰り返された可変項目の一つ目、または繰り返しのない可変項目が、繰り返されたフレームの二つ目の領域と重なっている場合
フレームの繰り返し回数を無視して、繰り返しのないフレームに変換されます。

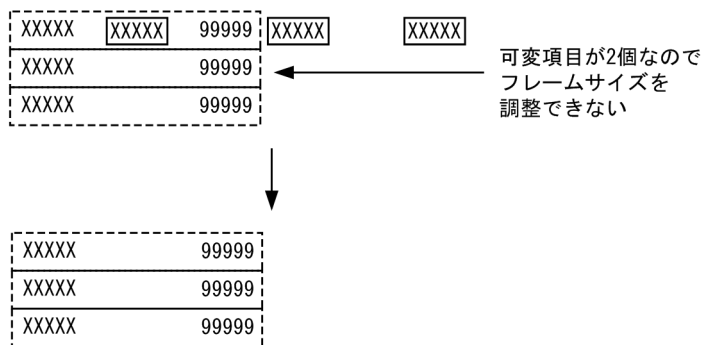


- 繰り返された可変項目の一つ目、または繰り返しのない可変項目が、繰り返されたフレームの一つ目の領域と重なっている場合
フレームサイズを調整して重なりを回避します。
ただし、重なったフレーム内に繰り返された可変項目が2個以上の場合、またはサイズを調整しても重なりが回避できない場合は、可変項目を削除します。

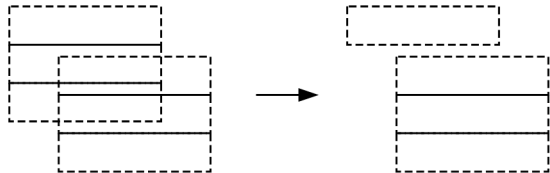
● フレームサイズを調整できる場合



● フレームサイズを調整できない場合

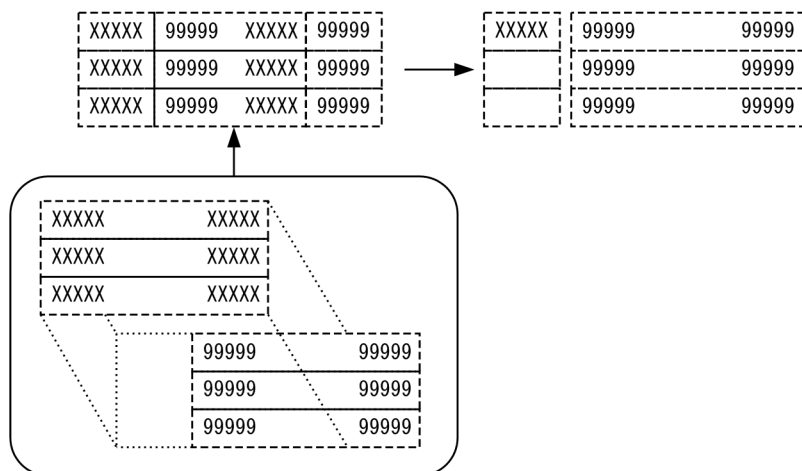


- 繰り返されたフレームの二つ目以降の領域が、ほかのフレーム領域と重なっている場合
フレームの繰り返し回数を無視して、繰り返しのないフレームに変換されます。

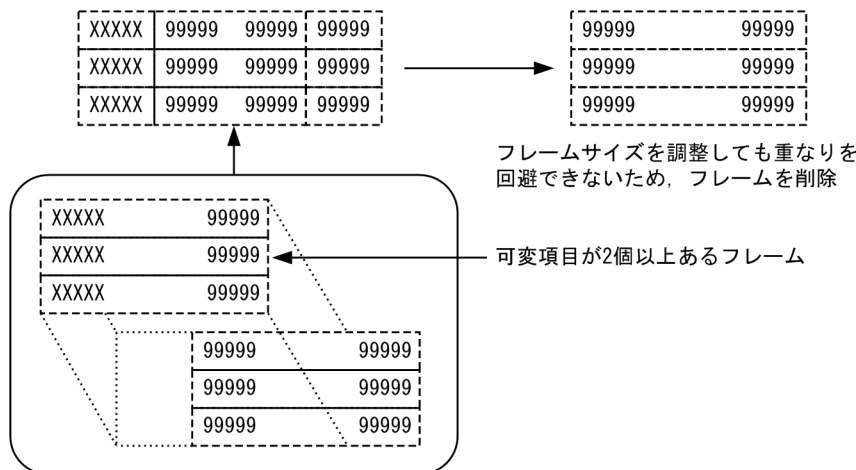


- 繰り返されたフレームの一つ目の領域が、ほかの繰り返されたフレームの一つ目の領域と重なっている場合
フレームサイズを調整して重なりを回避します。どちらかのフレーム内に繰り返された可変項目が2個以上の場合、またはフレームサイズを調整しても重なりが回避できない場合は、重なったフレームを削除します。

● フレームサイズを調整できる場合



● フレームサイズを調整できない場合



(6) 省略時仮定値の漢字定数

メインフレームから転送したパネル定義文をインポートした場合、パネル定義文の省略時仮定値 (LOGFLD 文の VAL オペランド) に半角の空白 (X'40') を含む漢字定数を指定しているときは、その半角の空白を英数定数 (C) に変換します。その結果、省略時仮定値が全角・半角混在となり、マップ生成時に初期値が正しく反映されないことがあります。この場合、インポートで Windows 用のマップに変換したあとで、ドローを使って該当箇所を全角空白などに変更してください。また、AP で省略時仮定値を意識した処理をしている場合、ドローの変更に従って、処理を見直してください。

(7) 隠しフィールド (LOGFLD 文の POS オペランドに DUMMY を指定)

隠しフィールド (VARFLD 文で、POS オペランドに DUMMY を指定した場合) はインポートでは変換されません。ドローの [属性] - [画面属性] から [画面属性] ダイアログを開いて定義し直してください。

(8) PHSEG 文で CSCF オペランドを指定していない帳票

帳票で PHSEG 文の CSCF オペランド (字間値) を指定していない場合、次の値を指定したものとして変換します。

- 基準字間値：0I
- 基準文字サイズ：9 ポイント

このため、ドローでマップ定義ファイルを確認し、文字サイズを調整してください。

(9) ページプリンタ帳票のけい線の DFC

メインフレームから転送したパネル定義文をインポートした場合、ページプリンタ帳票はすべて「占有」として変換されます。そのため、メインフレームでは非占有として定義した帳票では、次に示す場合、重なったオブジェクトのどちらかが変換されません。

- 横けい線の開始位置または終了位置とフィールドが重なる場合
- 縦けい線とフィールドが重なる場合

このような場合は、変換されなかったオブジェクトをドローで定義し直してください。けい線とフィールドが重なる場合の対処については、「2.2.5(4) ページプリンタ帳票のけい線の DFC」を参照してください。

2.6.2 書式記述文から変換された書式定義ファイルのドローによる編集

書式記述文と Windows の書式オーバーレイとは、使用できる機能の範囲が異なります。そのため、Windows では指定できない機能については、変換時に別の機能に置き換えられます。また、Windows よりも細かく値を指定できる機能については、変換時に値を Windows で扱える範囲に集約します。

インポートで変換できる書式記述文の範囲については、「付録 B.2 書式記述文のインポートで変換できる機能範囲」を参照してください。

書式記述文ファイルのインポート時に、それぞれの書式記述文の内容がドローにどのように反映されるかについては、「付録 B.3 インポートした書式記述文の内容とドローとの関係」を参照してください。

ここでは、書式記述文のインポート後にドローで編集が必要な次の項目について説明します。

- 書式定義ファイル名
- レイアウト
- 線種と太さ

(1) 書式定義ファイル名

インポート時に生成する書式定義ファイル名は、FORMS 文の書式名 1 を使用します。ただし、インポートする記述文が VOS3 用のもので、FORMS 文に書式名 2 が指定されている場合は、書式名 2 を優先します。

したがって、書式記述文ファイル名と、インポートで生成される書式定義ファイル名は、一致しない場合があります。書式定義ファイル名と書式記述文ファイル名の対応は、メッセージファイルに出力します。

書式名の指定と書式定義ファイル名の関係を次の表に示します。

表 2-31 書式名と書式定義ファイル名の関係

項番	書式名の指定	インポート時に出力する書式定義ファイル名
1	書式名 1 だけ	書式名 1.ifm
2	書式名 2 だけ※1	書式名 2.ifm※2

項番	書式名の指定	インポート時に出力する書式定義ファイル名
3	両方あり※1	書式名 2.ifm※2
4	文法エラー	E000.ifm

注※1

書式名 2 が指定されているのは、VOS3 用の記述文だけです。

注※2

書式名 2 をファイル名に使用できない場合は、「書式名 1.ifm」になります。

書式名が文法エラーになった場合は、書式定義ファイル名を「E000.ifm」とします。書式名が文法エラーになる場合について説明します。

(a) メインフレームでもエラーとなる場合

次の場合は、メインフレームでも文法エラーとなります。

- 書式名 1 の先頭が数字の場合
- 書式名に、使用できない文字が含まれている場合
- 名称が 5 文字以上の場合
- 書式名 1 および書式名 2 の両方を省略した場合

(b) メインフレームでは正常に処理されるが、Windows でエラーになる場合

次の場合は、インポート時にエラーが発生して処理を中断します。これらについては、メインフレームでは正常に処理されますが、Windows ではエラーになります。

- 書式名 2 の先頭が数字の場合
- 書式名に@, ¥, #が含まれている場合

(2) レイアウト

(a) まず目設定

インポートした書式のまず目設定は、ドローでは「自由な設定」になります。変換された書式定義ファイルをドローで開き、[書式属性] ダイアログで「行の間隔」, 「文字の間隔」, および「文字サイズ」を確認してください。

(b) 文字サイズ・文字間隔

まず目の横サイズは、帳票設計時のスケール表示の単位となるので、できるだけ書式記述文での指定値の約数または倍数になるように変換します。

メインフレーム、および Windows で、データを含む書式を差異なく印刷できる範囲について説明します。

インポート前の記述文でのまず目の横サイズが 12 ドット、16 ドット、20 ドット、または 24 ドットの場合、次に示す条件を満たしていれば、メインフレーム、および Windows での書式印刷に差異は生じません。

まず目の横サイズが 12 ドット (7 ポイント半角) の場合：

書式の横サイズが 3,060 ドット以内

まず目の横サイズが 16 ドット (9 ポイント半角) の場合：

まず目の縦サイズが 80 ドット, 60 ドット, または 40 ドット

まず目の横サイズが 24 ドット (10CPI) の場合：

まず目の縦サイズが 80 ドット, 60 ドット, または 40 ドット

まず目の横サイズが 20 ドット (12 ポイント半角) の場合：

まず目の縦サイズが 80 ドット, 60 ドット, または 40 ドット

これらの条件に当てはまらない場合は、変換された書式定義ファイルをドローで開き、[書式属性] ダイアログで「文字の間隔」および「文字サイズ」を確認してください。

(c) 定義領域の範囲

- 定義領域の違い

開始位置または終了位置が XMAP3 の定義領域を超えている項目は、インポートでの変換時にすべて削除されます。定義領域の範囲を次の表に示します。

表 2-32 定義領域の範囲

項番	方向	まず目指定	ドット指定
1	行	127 行まで	5,461 ドットまで
2	列	255 列まで	5,461 ドットまで

変換された書式定義ファイルをドローで開き、削除された項目を確認し、書式定義ファイルの項目の配置を検討してください。

(3) 線種と太さ

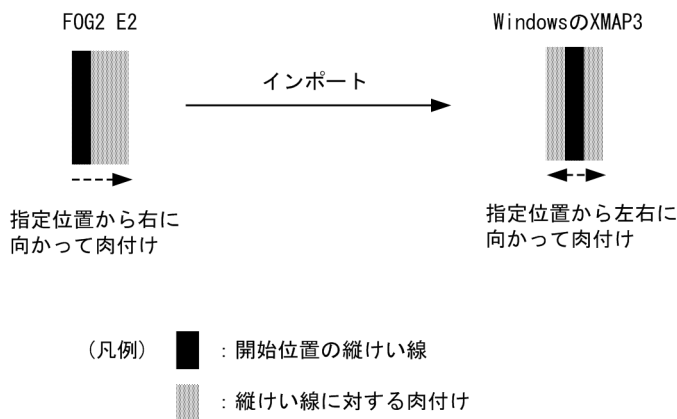
(a) 斜線 (ELINE 文) で引かれる線が垂直または平行の場合

斜線 (ELINE 文) で引かれる線が垂直または平行の場合、インポート時に斜線ではなく、縦けい線または横けい線として変換されます。変換された書式定義ファイルをドローで開き、けい線の位置を確認してください。

(b) 線 (RLINE 文など) の肉付け方法

FOG2 E2 と XMAP3 とでは、縦けい線を描画するときの肉付け方法が異なります。縦けい線に対する肉付け方法の違いを次の図に示します。

図 2-8 縦けい線に対する肉付け方法



このため、インポート時に、線の位置を次のように変更します。

開始列位置 = 「書式記述文での開始列位置 + 太さによる値」
開始行位置 = 変更なし

太さによる値は次のとおりです。

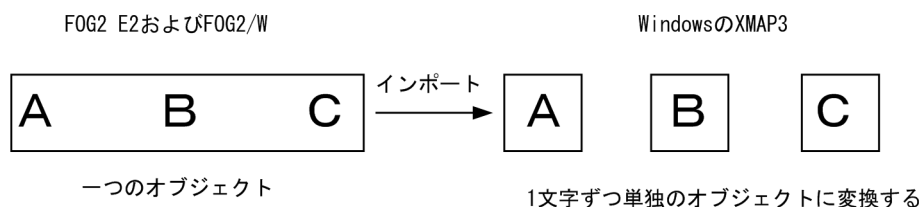
細線：0，中線：1，太線：2，極太線：3

変換された書式定義ファイルをドローで開き、けい線の位置を確認し調整してください。

(4) 文字列の字間値

インポートする書式記述文の字間値がドローで定義する書式定義ファイルの文字の間隔に当てはまらない場合は、次の図に示すように、1文字ずつ単独のオブジェクトに変換し、元の字間値に応じてそれぞれの位置を設定します。

図 2-9 1文字ずつ単独の項目に変換する場合



書式定義ファイルでの再定義では、1文字ずつのオブジェクトを調整する必要があります。

(5) 文字属性名の関連づけ

(a) 文字の関連づけ

ユーザが登録した文字属性名の関連づけが優先されます。ユーザが登録した文字属性名と関連づけられない場合は、標準提供の文字属性名と関連づけるようにします。

(b) CHAR文での文字属性が関連づけられていない場合

書体は明朝、大きさは9ポイントとして変換されます。

(c) 均等文字配置、両端ぞろえ文字配置 (ADJUST文, LAY文) での文字属性が関連づけられていない場合

縦のボディサイズの値によって、次の表に示すように文字属性を決定します。

表 2-33 ボディサイズによる文字属性の決定

縦ボディサイズ	書体	大きさ
1~23	明朝	5ポイント
24~31	明朝	7ポイント
32~39	明朝	9ポイント
40~47	明朝	12ポイント
48以上	明朝	14ポイント

(6) 繰り返し

FOG2 E2 の繰り返し定義は、インポート時に、繰り返し回数分のオブジェクトに分割された形で変換されます。

(7) ドットパターン

ドットパターンによるグラフィックは、インポート時に固定グラフィックに変換されます。ただし、任意の網掛けについては、「2.6.2(8) 網掛け種別」を参照してください。

(8) 網掛け種別

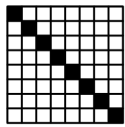
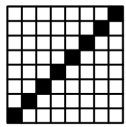
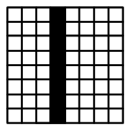
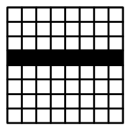
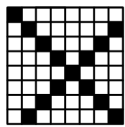
網掛け種別の変換規則を次の表に示します。

表 2-34 網掛け種別の変換規則

書式記述文の指定値	説明	インポート後の網掛け種別
1	ユーザ任意	表 2-35 参照
4	濃い	濃い網掛け
6	中間	標準網掛け
8	薄い	薄い網掛け

ユーザ任意指定時の網掛け種別の変換規則を次の表に示します。

表 2-35 網掛け種別の変換規則 (ユーザ任意指定の場合)

項番	パターン	決定する種別	パターン	決定する種別
1		標準右下		標準左下
2		標準縦線		標準横線
3		標準格子	8×8 の範囲に 21 個以下の点	薄い網掛け
4	8×8 の範囲に 42 個以下の点	標準網掛け	8×8 の範囲に 43 個以下の点	濃い網掛け

したがって、書式記述文でユーザ任意の網掛けを使用していたときに、Windows にインポートしたあとも同じ網掛けに変換されるのは、標準右下、標準左下、標準縦線、標準横線、および標準格子の場合だけです。

3

コンバート

この章では、XMAP3 開発支援ユティリティのコンバートの操作方法について説明します。

3.1 コンバートの概要

コンバートとは、定義ファイル（マップ定義ファイル，書式定義ファイル）の定義対象や言語種別を変換するための機能です。既存の定義の定義内容を，ほかの定義対象やほかの言語種別のマップに流用したいときに使用します。この機能を使用して定義内容を変換すれば，類似するマップの定義内容を流用できるので，最初から定義する手間が省けます。

変換できる対象と変換結果を次の表に示します。

表 3-1 コンバートで変換できる対象と変換結果

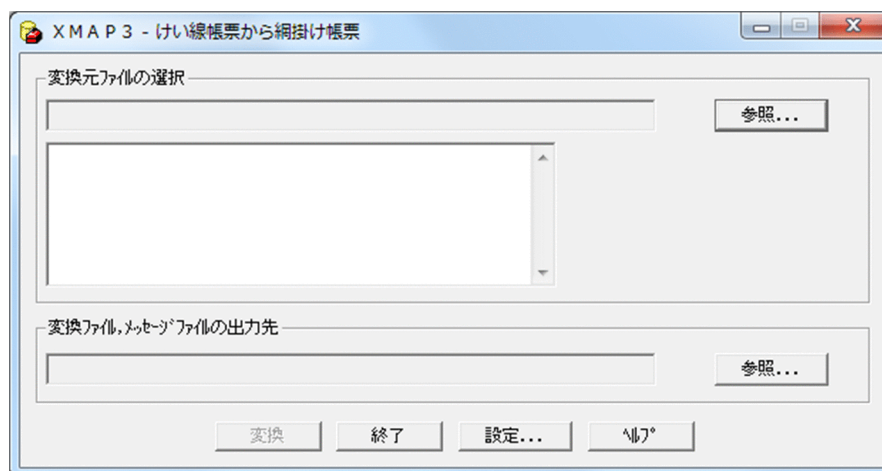
項番	変換対象	入力 (変換元)	出力 (変換先)
1	定義対象	シリアルインパクト けい線帳票	ページプリンタ 網掛け帳票
2		シリアルインパクト けい線帳票	シリアルインパクト プレプリント帳票
3		ページプリンタ 網掛け帳票	ページプリンタ グラフィック帳票
4		ページプリンタ グラフィック帳票	ページプリンタ 書式オーバーレイ
5		ページプリンタ 書式オーバーレイ	ページプリンタ グラフィック帳票
6		ディスプレイ CUI 画面	ディスプレイ GUI 画面
7	言語種別	C 言語用の画面・帳票定義	COBOL 言語用の画面・帳票定義
8		COBOL 言語用の画面・帳票定義	C 言語の画面・帳票定義

3.2 コンバートの操作

コンバートの操作手順を次に示します。

1. [スタート] にあるプログラム一覧から [XMAP3] - [XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティ] - [コンバート] の、次に示すどれかを選択します。
 - [けい線帳票から網掛け帳票]
 - [けい線帳票からプレプリント帳票]
 - [網掛け帳票からグラフィック帳票]
 - [グラフィック帳票から書式オーバーレイ]
 - [書式オーバーレイからグラフィック帳票]
 - [CUI 画面から GUI 画面]
 - [COBOL 言語から C 言語]
 - [C 言語から COBOL 言語]

コンバートのダイアログが表示されます。次に示すダイアログは、[けい線帳票から網掛け帳票] を選択した場合の例です。



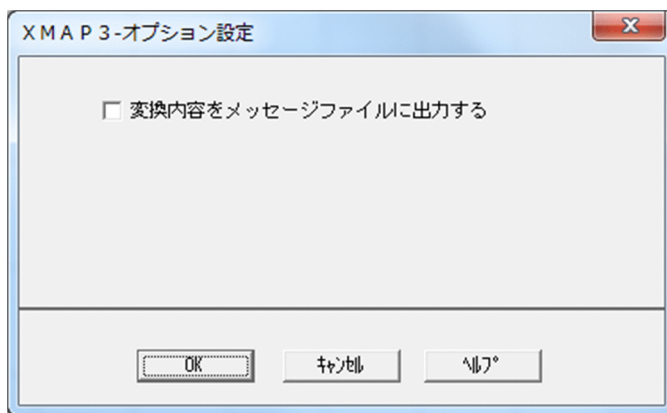
2. 「変換元ファイルの選択」の [参照] ボタンをクリックし、[参照] ダイアログで変換元ファイルを選択します。
 選択できるファイルの種類は次のとおりです。選択できるファイルの種類は、変換対象によって異なります。
 - マップ定義ファイル (.imp)
 - 書式定義ファイル (.ifm)
3. 変換元のマップ定義ファイル (.imp) または書式定義ファイル (.ifm) を選択します。
 [参照] ダイアログでは、複数ファイルを選択できます。ただし、フォルダ単位の選択はできません。フォルダ下のすべてのファイルを選択したい場合には、Ctrl キーを押したまま [A] キーを押す、またはマウスポインタですべてのファイルを囲むようにドラッグして選択してください。
 ここで選択したファイルは、コンバートのダイアログの「変換元ファイルの選択」に表示されます。
4. 「変換ファイル、メッセージファイルの出力先」の [参照] ボタンをクリックします。
 [参照] ダイアログが表示されます。
5. 変換したファイル、およびメッセージファイルを出力するドライブ、フォルダを選択します。

コンバートのダイアログの「変換ファイル、メッセージファイルの出力先」に、選択した出力先が表示されます。

6. コンバートの種別が、次のどれかの場合は [設定] ボタンをクリックします。

- [けい線帳票から網掛け帳票]
- [けい線帳票からプレプリント帳票]
- [網掛け帳票からグラフィック帳票]
- [グラフィック帳票から書式オーバーレイ]
- [書式オーバーレイからグラフィック帳票]
- [CUI 画面から GUI 画面]

[オプション設定] ダイアログが表示されます。次に示すダイアログは、[けい線帳票から網掛け帳票] を選択した場合の例です。



7. 変換内容をメッセージファイルに出力したい場合は、「変換内容をメッセージファイルに出力する」を
チェックし、[OK] ボタンをクリックします。

コンバートのダイアログが表示されます。

8. 変換元ファイルと出力先を確認してから [変換] ボタンをクリックします。

コンバートが実行されます。

9. コンバート結果を確認します。

コンバート結果の確認方法については、「3.4 コンバート結果の確認」を参照してください。

3.3 定義内容の変換規則

定義対象または言語種別で異なる項目は、次に説明する変換規則に従って定義内容が変更されます。

3.3.1 けい線帳票から網掛け帳票への変換

けい線帳票から網掛け帳票への変換時に変更される内容について説明します。

(1) 変換内容

オブジェクトの属性、位置、長さそのまま引き継がれます。ただし、定義対象間で異なる項目は、次のように変換されます。[オプション設定] ダイアログで「変換内容をメッセージファイルに出力する」をチェックしている場合は、変換の開始を示すメッセージと、ここで説明する変換内容がメッセージファイル (x3ucsp01.txt) へ出力されます。

- 給紙サイズは「フリー」に変換される
- ます目サイズが「15CPI」の場合は「9P0I」に変換される
- 印刷動作、および排出先の指定は削除される
- 印刷部数は「1」に変換される
- 出力 OCR は、出力フィールド（使用目的は「英数」）に変換される

(2) 注意事項

けい線帳票から網掛け帳票への変換時は、次のことに注意してください。

- シリアルインパクトプリンタ用の帳票から、ページプリンタ用の帳票への変換になります。変換された網掛け帳票には、ドローセットアップの「シリアルインパクト」のドローの設定が残り、「ページプリンタ」のドローの設定は反映されません。このため、変換されたマップ定義ファイルに対してドローセットアップのページプリンタに関する設定を反映するために、変換後、XMAP3 Developer のドローセットアップ情報反映を必ず実行してください。
- シリアルインパクトプリンタ用の帳票とページプリンタ用の帳票とでは物理マップの形式が異なるため、物理マップ名の末尾に付く ID も異なります。したがって、変換元のけい線帳票を使用した AP のソースも流用したい場合には、AP に記述した物理マップ名の変更が必要です。
- AP に記述されている帳票の物理マップ名の末尾にある ID 「6A」(シリアルインパクトの ID) を、「6B」(ページプリンタの ID) に変更してください。

(例) マップ名が「MAP0001」の場合

物理マップ名「MAP0016A」を「MAP00016B」に変更する。

- 変換元のけい線帳票で、帳票属性の「けい線の配置方法の選択」で「ます目に沿って引く」を選択しているとき、中央線しかない網掛け帳票に変換すると、重なりエラーの発生が見込まれます。この場合は、XMAP3 が自動的にけい線のオブジェクトを削除します。このため、コンバート前に「けい線の配置方法の選択」の定義を「ます目の中央に引く」に変更するか、またはコンバート後にドローでけい線を再定義してください。

3.3.2 けい線帳票からプレプリント帳票への変換

オブジェクトの属性、位置、長さそのまま引き継がれます。ただし、定義対象間で異なる項目は、次のように変換されます。[オプション設定] ダイアログで「変換内容をメッセージファイルに出力する」をチェッ

クしている場合は、変換の開始を示すメッセージと、ここで説明する変換内容がメッセージファイル (x3ucir01.txt) へ出力されます。

- けい線、固定フィールドは削除される
- フィールドの拡大は「標準」に変更される
- 帳票の右端に配置されているフレームおよびフレーム内のオブジェクトが削除される
- 「8LPI」の場合、先頭行と最終行に定義されていたオブジェクトは、位置が内側に補正される
- 「8LPI」の場合、1フレーム内のフィールドを上端または下端に接して定義していると（例えば、1行のフレームに1フィールドだけ定義しているとき）、変換された際にフレームからはみ出るため、XMAP3が自動的にそのオブジェクトをフレームの外に配置する
この場合、フレームの繰り返しも無効になります。コンバート後に、ドローでフレームのサイズを調整し、外に移動されたフィールドをフレーム内に再定義してください。
- けい線帳票の「ます目設定」が「自由な設定」で設定されていた場合、プレプリント帳票で該当する「ます目設定」のCPI値に変換される
けい線帳票のCPIの組み合わせからプレプリント帳票のCPI値への変換規則を次の表に示します。

表 3-2 けい線帳票のCPIの組み合わせからプレプリント帳票のCPI値への変換規則

項番	変換前	変換後	変換前と変換後の対比
	けい線帳票の文字サイズ/文字の間隔	プレプリント帳票のます目設定のCPI値	
1	9P/0I (12DOT)	15CPI (12DOT)	同サイズ
2	9P/1I (13DOT)	15CPI (12DOT)	-1DOT
3	9P/2I (15DOT)	12CPI (15DOT)	同サイズ
4	9P/3I (16DOT)	12CPI (15DOT)	-1DOT
5	9P/4I (18DOT)	10CPI (18DOT)	同サイズ
6	9P/5I (19DOT)	10CPI (18DOT)	-1DOT
7	9P/6I (21DOT)	10CPI (18DOT)	-3DOT
8	9P/7I (22DOT)	10CPI (18DOT)	-4DOT

3.3.3 網掛け帳票からグラフィック帳票への変換

基本的に、網掛け帳票からグラフィック帳票へ変換した場合、使用できるオブジェクトが増えるだけです。このため、用紙に関する情報、オブジェクトの属性、位置、長さそのまま引き継がれます。[オプション設定] ダイアログで「変換内容をメッセージファイルに出力する」をチェックしている場合は、変換の開始を示すメッセージがメッセージファイル (x3ucpg01.txt) へ出力されます。変換内容は出力されません。

なお、変換前の網掛け帳票作成時に設定されていたドローセットアップの内容は変換対象になりません。したがって、グラフィック帳票に関するドローセットアップの内容を反映する必要があります。ドローセットアップの内容を反映するには、グラフィック帳票への変換後、XMAP3 Developer のドローセットアップ情報反映を必ず実行してください。

また、「行の間隔」が「8LPI」の場合、「文字サイズ」に「9ポイント」を指定できません。

3.3.4 グラフィック帳票から書式オーバーレイへの変換

オブジェクトの属性、位置、長さそのまま引き継がれます。ただし、定義対象間で異なる項目は、次のように変換されます。[オプション設定] ダイアログで「変換内容をメッセージファイルに出力する」をチェックしている場合は、変換の開始を示すメッセージと、ここで説明する変換内容がメッセージファイル (x3ucgo01.txt) へ出力されます。

- コピー枚数は「1枚」に変換される（書式オーバーレイの固定値）
- 書式オーバーレイで使用できないオブジェクトは削除される（各種出力オブジェクトとフレーム）
- 上/左オフセット値は、各オブジェクトに反映される
- 文字色はすべて黒色に変換される
- けい線の動的変更が無効になる
- けい線の線の種類で「見えない線」は「実線」に変換される
- バーコードは削除される

3.3.5 書式オーバーレイからグラフィック帳票への変換

用紙に関する情報、オブジェクトの属性、位置、長さそのまま引き継がれます。[オプション設定] ダイアログで「変換内容をメッセージファイルに出力する」をチェックしている場合は、変換の開始を示すメッセージがメッセージファイル (x3ucog01.txt) へ出力されます。変換内容は出力されません。

なお、変換前の書式オーバーレイ作成時に設定されていたドローセットアップの内容は変換対象になりません。したがって、グラフィック帳票に関するドローセットアップの内容を反映する必要があります。ドローセットアップの内容を反映するには、グラフィック帳票への変換後、XMAP3 Developer のドローセットアップ情報反映を必ず実行してください。

3.3.6 CUI 画面から GUI 画面への変換

CUI 画面から GUI 画面に変換するときに、それぞれのオブジェクトがどのように変換されるかについて説明します。

CUI 画面の内容は、次の方法で GUI 画面へ変換できます。[オプション設定] ダイアログで「変換内容をメッセージファイルに出力する」をチェックしている場合は、変換の開始を示すメッセージと、ここで説明する変換内容がメッセージファイル (x3uccg01.txt) へ出力されます。

- フィールドボックスへ移行する
- 画面操作を変更しないで GUI オブジェクトに置き換える
- GUI 特有の機能を利用する

CUI 画面と GUI 画面とでは物理マップ名の形式が異なるので、どの方法で変換する場合も、COBOL ソースプログラム内の物理マップ名の変更が必要になります。CUI 画面の物理マップ名の末尾にある ID「NC」を、GUI 画面では「ND」に変更してください。

(例)

マップ名が「MAP001」の場合

CUI での「MAP001NC」 → GUI では「MAP001ND」

ただし、定義対象間で異なる項目は、次のように変換されます。

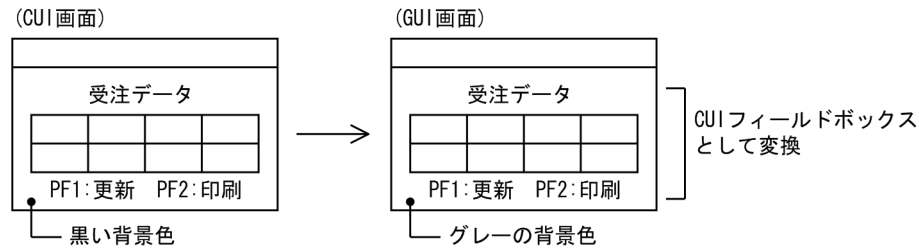
- けい線の色は「黒」に変換される

(1) フィールドボックスへ移行する

CUI 画面のオブジェクトを GUI 画面内のフィールドボックスに展開します。

フィールドボックスへの移行の概要を次の図に示します。

図 3-1 フィールドボックスへの移行の概要



(a) 変換内容

基本的に、CUI 画面と GUI 画面で共通の属性（フィールド属性、位置、長さ）はそのまま引き継がれます。CUI 画面にはなく、GUI 画面にある属性の変換内容を次の表に示します。

表 3-3 CUI 画面にはなく GUI 画面にある属性の変換内容

項番	項目	変換後の内容	備考
1	タイトルバー	指定なし	文字列「XMAP3」が表示される
2	ウィンドウ位置	縦「1」、横「1」	—
3	ウィンドウ背景色	グレー	—
4	ウィンドウ文字サイズ	標準	—
5	CUI フィールドボックスのスクロールバー	付加しない	—

(凡例)

—：なし。

なお、変換前の CUI 画面作成時に設定されていたドローセットアップの内容は変換対象にはなりません。したがって、GUI 画面に関するドローセットアップを反映する必要があります。このため、変換後、XMAP3 Developer のドローセットアップ情報反映を必ず実行してください。

(b) 注意事項

CUI 画面から GUI 画面への変換では、変換後の GUI 画面の全体が、CUI フィールドボックスになります。したがって、GUI 画面のオブジェクト（ボタンやビットマップなど）を配置する場合には、ウィンドウサイズを大きくするなどして、GUI 画面を広げて配置する必要があります。

(2) 画面操作を変更しないで GUI オブジェクトに置き換える

CUI 画面のオブジェクトをそのまま GUI 画面の該当するオブジェクトに置き換えます。

(a) 変換内容

画面操作を変えないで CUI 画面をそのまま GUI 画面に変更する場合、CUI 画面上の項目は GUI 画面定義に対応したものに置き換えてください。

変換内容を次の表に示します。

表 3-4 CUI 画面から GUI 画面への変換内容

項番	CUI 画面定義でのオブジェクト	GUI 画面定義でのオブジェクト
1	タイトル (固定項目)	タイトルバー
2	けい線による表	フィールドボックス
3	固定項目	固定テキスト
4	出力項目	出力テキスト
5	入力項目	入力テキスト
6	予約項目	予約テキスト
7	入出力項目	入出力テキスト
8	PF キーガイダンス	プッシュボタンまたはメニュー
9	けい線	セパレータ※

注※

表のような形式の場合は、フィールドボックスに置き換えてください。

(b) 画面操作を変更しないで GUI 特有の機能を追加する

次に示す CUI 画面の操作は、操作内容を保持したまま、GUI 画面の操作に置き換えられます。

PF キーを押すと、別画面が表示される場合

使用する PF キーに対し、それぞれプッシュボタンまたはメニューバー上の選択項目を割り当てると、プッシュボタンの操作で PF キー操作と同様の処理ができます。

あるキー操作に対して、ヘルプ画面を別画面として表示している場合

該当するヘルプ画面を二次ウィンドウとして表示できます。

選択肢の数が限られているデータ (性別など) を入力する場合

入力の補助機能として、入力テキストに対してポップアップメニューを付加できます。ただし、自動的にポップアップ表示されるように定義すると、CUI 画面とはキー操作が変わってしまいます。操作を変更しないためには、メニュー選択やプッシュボタン選択で表示されるように定義してください。

(c) 注意事項

画面操作を変更しないで GUI オブジェクトに置き換える場合、次のことに注意してください。

- CUI 画面の項目を GUI 画面の対応する項目に置き換えた場合、GUI 画面での項目の方が、画面上に占める領域が大きくなります。特に入力テキストには必ず枠線が付加されるので、入力テキストを上下に隣接させることができません。ウィンドウサイズを大きくするか、CUI 項目としてフィールドボックスに移行してください。
- フィールドボックスの入力可変項目では、保護状態にすると、その項目にはカーソルが移動しません。項目が保護状態のときのカーソル移動順序を前提にした業務では、操作が従来とは変わります。

(3) GUI 特有の機能を利用する

GUI 特有の機能を利用した画面に変換します。GUI 特有の機能を利用すると、マウスやアクセスキー入力によって、キーボードからの入力を少なくし、入力ミスを減らせます。

GUI 特有の機能を利用した画面への変換の例を次の表に示します。

表 3-5 GUI の機能を利用した画面への変換の例

項番	CUI 画面での入力項目の例	GUI への変換例
1	一つだけ選ぶ項目で、選択肢が数個のもの	ラジオボタン、コンボボックス
2	一つだけ選ぶ項目で、選択肢が 10 個を超えるもの	単一選択リストボックス
3	複数を選ぶ項目で、選択肢が数個のもの	チェックボタン
4	複数を選ぶ項目で、選択肢が 10 個を超えるもの	複数選択リストボックス

CUI 画面では入力項目が 1 画面内に収まらないで継続入力となっていた項目も、スクロールバーが付いたフィールドボックスを利用して 1 画面に収めることができます。

さらに、グループボックスを利用すれば、画面上でのフォーカス位置移動の順序を制御できます。

また、複数のウィンドウを同時に表示できるので、必要な情報を参照しながら作業したり、データを見やすくしたりできます。

3.3.7 COBOL 用の画面・帳票定義から C 言語用の画面・帳票定義への変換

オブジェクトの属性、位置、長さそのまま引き継がれます。ただし、言語種別間で異なる項目は、次のように変換されます。

- 2 バイトコード (全角文字) が含まれるデータ名は、「RENAME*****_」(*****はカウンタ) に変換される
- すべてのデータ名の「-」(ハイフン) は、「_」(アンダーバー) に変換される
- 数字編集項目は C 言語で使用できないため、数字項目 (トグルを含む) や文字項目に変換される
- 漢字専用項目 (データ型「漢字 (NN)」) は C 言語で使用できないため、日本語項目 (データ型「漢字 (XX)」) に変換される
- ポップアップメニューやポップアップフィールドで、「漢字 (NN)」を指定しているデータ型は文字型に変換される
- 金額、数値で、符号付き、小数点付き、符号小数点付きのオブジェクトは英数オブジェクトに変換される

3.3.8 C 言語用の画面・帳票定義から COBOL 用の画面・帳票定義への変換

オブジェクトの属性、位置、長さそのまま引き継がれます。ただし、言語種別間で異なる項目は、次のように変換されます。

- すべてのデータ名の「_」(アンダーバー) は、「-」(ハイフン) に変換される

3.4 コンバート結果の確認

コンバートの処理結果、および変換内容は、各種変換のダイアログで「変換ファイル、メッセージファイルの出力」に指定したフォルダの下に作成されます。コンバートの種別ごとに、次の表に示すファイルに出力されるため、テキストエディタを使用して内容を確認してください。

表 3-6 コンバート結果の出力ファイル名

項番	コンバートの種別	出力ファイル名
1	けい線帳票から網掛け帳票	x3ucsp01.txt*
2	けい線帳票からプレプリント帳票	x3ucir01.txt*
3	網掛け帳票からグラフィック帳票	x3ucpg01.txt*
4	グラフィック帳票から書式オーバーレイ	x3ucgo01.txt*
5	書式オーバーレイからグラフィック帳票	x3ucog01.txt*
6	CUI 画面から GUI 画面	x3uccg01.txt*
7	COBOL 言語から C 言語	x3ucco01.txt
8	C 言語から COBOL 言語	x3uccl01.txt

注※

【オプション設定】ダイアログで「変換内容をメッセージファイルに出力する」をチェックしている場合、これらのファイルには、変換元ファイルの変換の開始を示すメッセージと、コンバートの変換内容も出力されます。

処理結果、および変換内容の出力例を次に示します。ファイルに出力されるメッセージとエラーの対処方法については、「5.3 コンバート実行時のエラーメッセージ」を参照してください。

出力例 1（「変換内容をメッセージファイルに出力する」をチェックしていない場合）

```

*** 処理結果 ***                               作成日時：yyyy/mm/dd hh:mm:ss

「変換元ファイルの選択」に指定したフォルダ%KEIS7.imp：エラーが発生したため当該ファイルの変換を終了します。
：現在の「マップ名の長さ」設定と、作成時の設定値が異なるファイルが指定されました。

*** 処理結果 ***                               作成日時：yyyy/mm/dd hh:mm:ss

「変換元ファイルの選択」に指定したフォルダ%GRAF7.imp：エラーが発生したため当該ファイルの変換を終了します。
：変換対象外のファイルが指定されました。

*** 処理結果 ***                               作成日時：yyyy/mm/dd hh:mm:ss

「変換元ファイルの選択」に指定したフォルダ%CUI6.impを「変換ファイル、メッセージファイルの出力先」に指定したフォルダ%CUI6.impに変換しました。

```

出力例 2（「変換内容をメッセージファイルに出力する」をチェックしている場合）

```

*** 処理結果 ***                               作成日時：yyyy/mm/dd hh:mm:ss

「変換元ファイルの選択」に指定したフォルダ%KEIS7.imp：エラーが発生したため当該ファイルの変換を終了します。
：現在の「マップ名の長さ」設定と、作成時の設定値が異なるファイルが指定されました。

*** 処理結果 ***                               作成日時：yyyy/mm/dd hh:mm:ss

「変換元ファイルの選択」に指定したフォルダ%GRAF7.imp：エラーが発生したため当該ファイルの変換を終了します。
：変換対象外のファイルが指定されました。

*** 処理結果 ***                               作成日時：yyyy/mm/dd hh:mm:ss

「変換元ファイルの選択」に指定したフォルダ%CUI6.imp：変換を開始します。
ウィンドウ背景色を「グレー」に変更しました。
けい線の色を「黒」に変更しました。

```

3 コンバート

「変換元ファイルの選択」に指定したフォルダ¥CUI6.impを「変換ファイル、メッセージファイルの出力先」に指定したフォルダ¥CUI6.impに変換しました。

4

マップコンペア

この章では、XMAP3 開発支援ユティリティのマップコンペアの操作方法について説明します。

4.1 マップコンペアの概要

マップコンペアの機能概要について説明します。

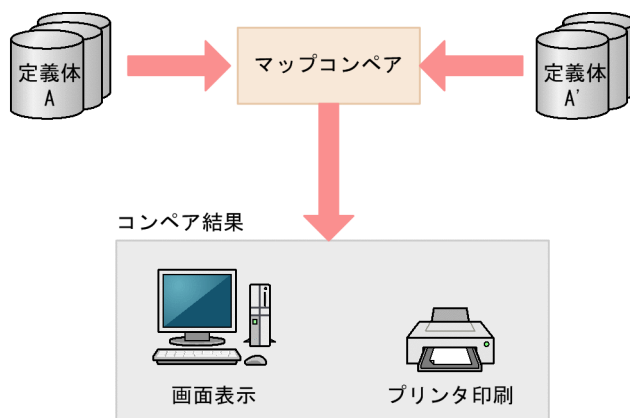
マップコンペアとは、同一バージョンの XMAP3 で生成した定義体（物理マップ、書式イメージファイル、行制御データファイル）同士を比較して、その同一性を検証する機能です。

指定した定義体が一致するかどうかを次の観点で比較し、比較の結果を画面またはプリンタに出力します。

- 定義体のファイルのサイズ
- 定義体のファイルの内容
- 定義体が生成された日付と時刻

マップコンペアの概要を次の図に示します。

図 4-1 マップコンペアの概要



(1) マップコンペアの用途

マップコンペアは次のような目的に利用できます。

- 定義ファイルの定義内容を更新してマップ生成した場合に、定義体が新しい内容になっているかを確認する
- あるフォルダ下の定義ファイルを一括してマップ生成したあと、生成漏れはないかどうかを確認する
- 定義体をほかの Windows の環境にコピーした場合に、両方の環境にある定義体が同一かどうかを確認する

複数の定義体をまとめて比較、検証できるため、実行環境の構築時や更新時などに役立ちます。

(2) 比較できる対象

次のファイルを対象にして比較できます。

- 物理マップ (.pmp)
- 書式イメージファイル (.fmp)
- 行制御データファイル (.pci)

比較対象には、必ず拡張子が付いているファイルを指定してください。

(3) マップコンペアの比較単位

必要に応じて、次に示す単位で比較できます。

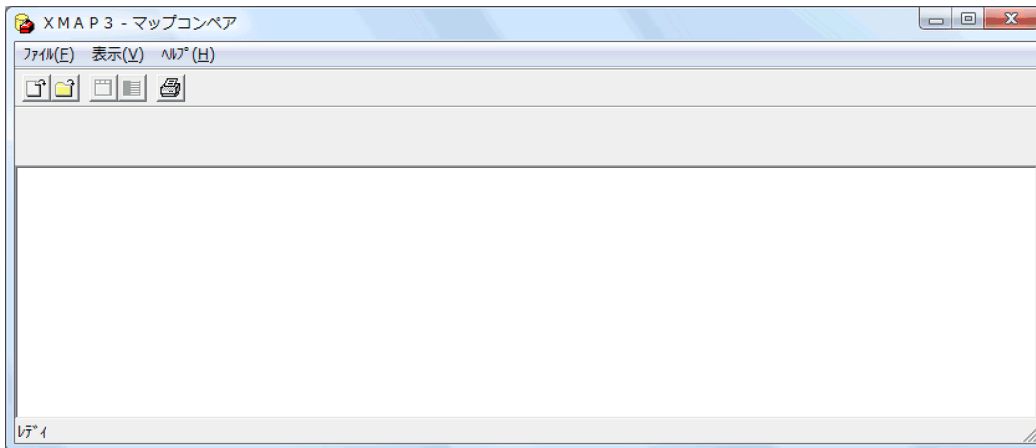
- ファイル単位
二つのファイル同士の内容を比較します。
- フォルダ単位
二つのフォルダに含まれるファイル同士の内容を比較します。比較する二つのフォルダに格納されているファイルの数が異なってもかまいません。ファイルの数が異なる場合は、比較対象がないファイルに関して、そのファイルが一方のフォルダだけに存在することを知らせるメッセージが、一覧表示のメッセージ欄に表示されます。

4.2 マップコンペアの操作

マップコンペアの操作手順を次に示します。

1. [スタート] にあるプログラム一覧から [XMAP3] - [XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティ] - [マップコンペア] を選択します。

[マップコンペア] ウィンドウが表示されます。



2. ファイル単位の比較をしたい場合は [ファイル] - [ファイル比較] を選択します。フォルダ単位の比較をしたい場合は [ファイル] - [フォルダ比較] を選択します。

3. 比較する対象を選択し、コンペアを実行します。

- ファイル単位の比較をする場合

[コンペアファイル 1 の指定] ダイアログで、比較したいファイルの一つを選択します。[開く] ボタンをクリックすると [コンペアファイル 2 の指定] ダイアログが表示されます。ここで、もう一方のファイルを選択します。

[コンペアファイル 2 の指定] ダイアログで [開く] ボタンをクリックすると、コンペアが実行されます。

- フォルダ単位の比較をする場合

[フォルダの指定] ダイアログの「フォルダ 1」と「フォルダ 2」に、比較したいフォルダを指定します。直接パスを入力するか、または [参照] ボタンをクリックすると表示される [参照] ダイアログを使ってフォルダを指定してください。指定したフォルダ下のサブフォルダも含めたい場合は、[フォルダの指定] ダイアログの「サブフォルダを含む」のチェックをオンにします。ただし、フォルダ 1 とフォルダ 2 の各サブフォルダは、同じ構成で同じ名称にしておく必要があります。

[フォルダの指定] ダイアログで [OK] ボタンをクリックすると、コンペアが実行されます。

4. コンペア結果を画面またはプリンタに出力して確認します。

コンペア結果の確認方法については、「4.3 コンペア結果の確認」を参照してください。

4.3 コンペア結果の確認

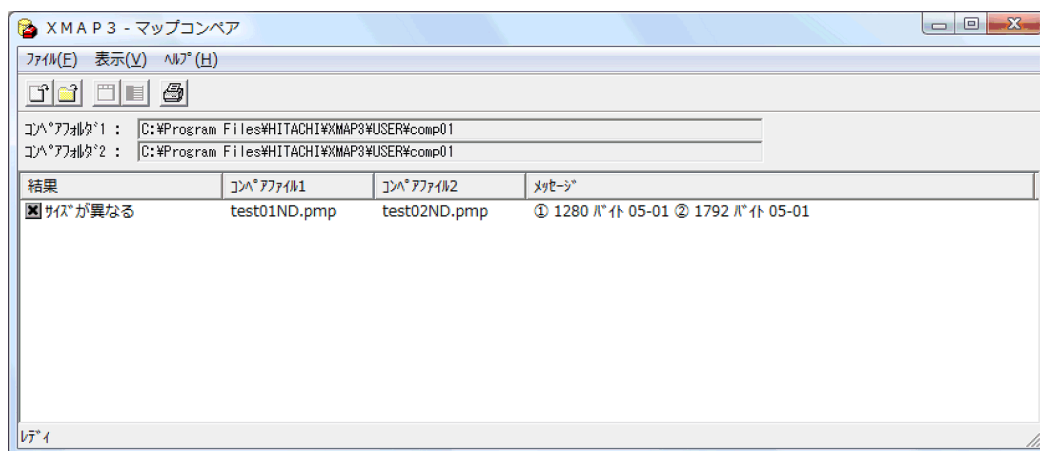
[マップコンペア] ウィンドウでのコンペア結果の確認方法について説明します。

4.3.1 コンペア結果の一覧表示

[マップコンペア] ウィンドウは通常、「一覧表示」の状態になっています。ここでは、一覧表示の確認方法を説明します。

(1) ファイル単位のコンペア結果の確認

ファイル単位でマップコンペアを実行した場合の一覧表示の例を次に示します。



1. コンペアフォルダ 1 / コンペアフォルダ 2

指定したファイルが格納されているフォルダが表示されます。

2. 結果

比較結果が表示されます。定義体が同一と判断された場合には先頭に「○」が表示され、同一ではない場合は先頭に「✕」が表示されます。結果欄に表示される内容の意味については、「4.3.1(3) 結果の意味」を参照してください。

3. コンペアファイル 1 / コンペアファイル 2

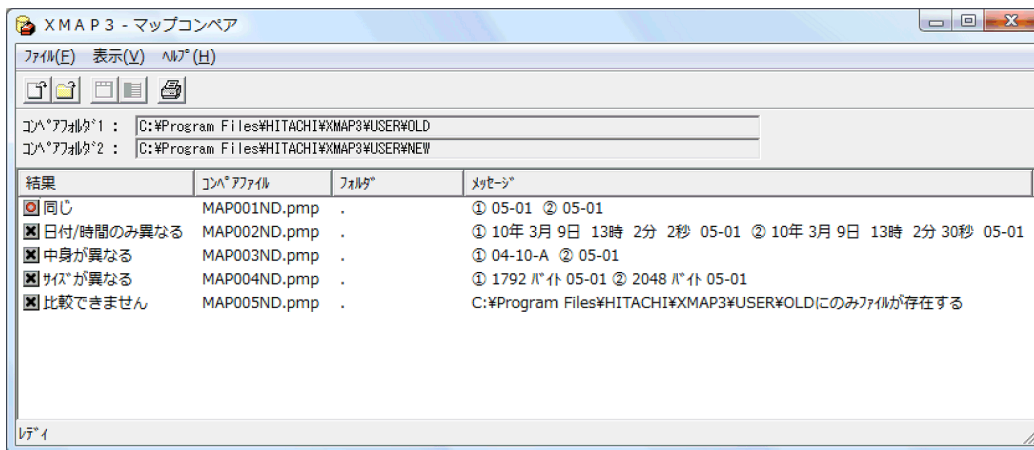
指定したファイル名が表示されます。

4. メッセージ

結果の補足情報が表示されます。丸付き数字の 1 はコンペアファイル 1 の情報、丸付き数字の 2 はコンペアファイル 2 の情報です。バージョンを表示する設定にした場合は、コンペアファイル 1 とコンペアファイル 2 のファイルのバージョンが表示されます。

(2) フォルダ単位のコンペア結果の確認

フォルダ単位でマップコンペアを実行した場合の一覧表示の例を次に示します。



1. コンペアフォルダ 1 / コンペアフォルダ 2

指定したフォルダが表示されます。

2. 結果

ファイルごとに比較結果が表示されます。物理マップが同一と判断された場合には先頭に「○」が表示され、同一ではない場合は先頭に「×」が表示されます。結果欄に表示される内容の意味については、「4.3.1(3) 結果の意味」を参照してください。

3. コンペアファイル

比較したファイル名が表示されます。比較したファイルが存在するフォルダのパスが、コンペアフォルダからの相対パスで表示されます。

4. メッセージ

結果の補足情報が表示されます。丸付き数字の 1 はコンペアフォルダ 1 のファイルの情報、丸付き数字の 2 はコンペアフォルダ 2 のファイルの情報です。バージョンを表示する設定にした場合は、比較元と比較先のファイルのバージョンが表示されます。

(3) 結果の意味

コンペア結果の結果欄に表示された内容の意味について説明します。

- 比較できません

フォルダ単位に比較した場合で、どちらか一方にしかファイルが存在しないときに表示されます。どちらのフォルダに存在しないかは、メッセージ欄に表示されます。

- サイズが異なる

ファイル単位またはフォルダ単位に比較した場合で、ファイルの内容や大きさが異なるときに表示されます。各ファイルサイズはメッセージ欄に表示されます。

- 中身が異なる

ファイル単位またはフォルダ単位に比較した場合で、サイズは等しいが中身が異なるときに表示されます。例えば、ドローで固定フィールドを変更したときなど（見出しを「昭和」から「平成」に変更するなど）に表示されます。

- 日付 / 時間のみ異なる

ファイル単位またはフォルダ単位に比較した場合で、作成日付と時刻が異なるときに表示されます。同一のマップ定義ファイルから再度マップ生成されたときなので、基本的には同一です。各ファイルの作成日付 / 時間はメッセージ欄に表示されます。

！ 注意事項

定義内容を変更していなくても、異なる XMAP3 のバージョンでマップ生成だけを行ったファイルを比較すると、バージョン間の仕様変更などによって「日付/時間のみ異なる」とはならないため、注意してください。

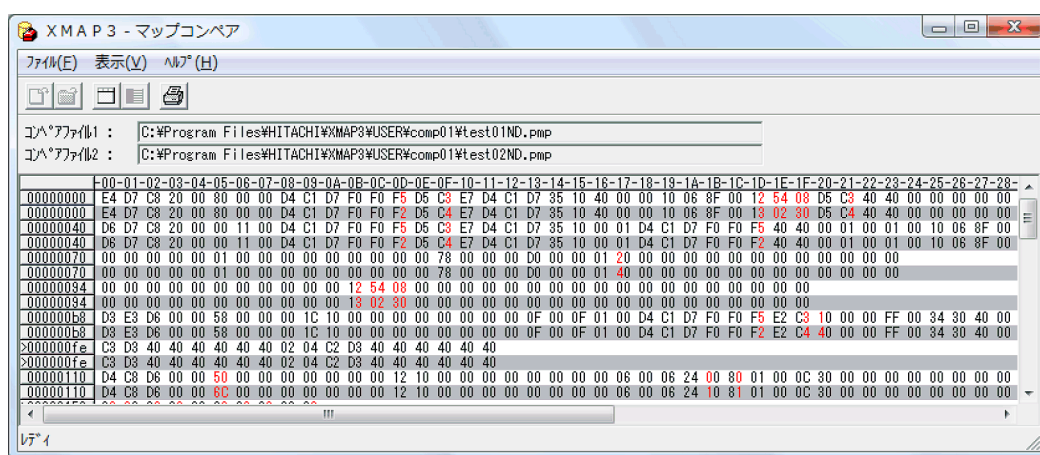
• 同じ

ファイル単位またはフォルダ単位に比較した場合で、内容はまったく同じであるときに表示されます。

4.3.2 コンペア結果の詳細表示

一覧表示から、さらに詳細な比較結果を知りたい場合、[マップコンペア] ウィンドウから結果を選択し、[表示] - [詳細表示] を選択するか、結果をダブルクリックします。

詳細表示の例を次に示します。



1. コンペアファイル 1 / コンペアファイル 2

詳細表示の対象ファイルが表示されます。

2. オフセット

表示する詳細情報のオフセットが表示されます。オフセットとは、マップの先頭からの位置です。オフセット番号の前に「>」がある場合は、前の行のオフセット情報の続きを示します。

3. 詳細情報

比較結果の詳細が 16 進データで表示されます。標準値では、白がコンペアファイル 1 の行、グレーがコンペアファイル 2 の行を示します。赤は、異なる内容がある行を示します。

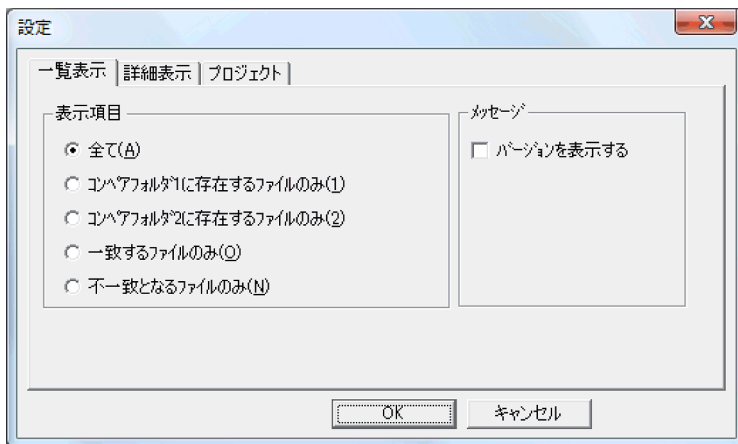
4.3.3 コンペア結果出力のカスタマイズ

[マップコンペア] ウィンドウの [表示] - [設定] を選ぶと、[設定] ダイアログが表示されます。必要に応じてコンペア結果の出力内容をカスタマイズできます。[OK] ボタンをクリックすると指定が有効になります。

それぞれの設定内容について説明します。

(1) 一覧表示の設定

[設定] ダイアログの [一覧表示] タブを次に示します。



ここでは、一覧表示の表示項目を指定します。「表示項目」から利用する表示項目を選択してください。

バージョン情報を表示したい場合は、「メッセージ」の「バージョンを表示する」のチェックをオンにしてください。

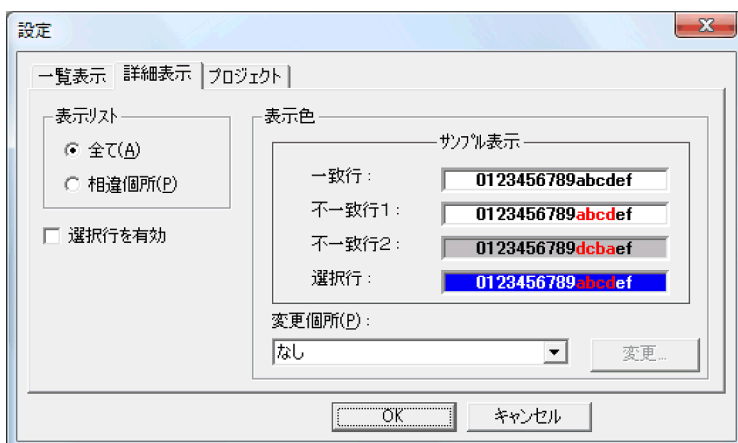
！ 注意事項

「一致するファイルのみ」を選択し、[詳細表示] タブの「表示リスト」で「相違個所」を指定した場合は、詳細表示をしても何も表示されません。

また、「メッセージ」の「バージョンを表示する」のチェックをオンにしても、再度マップコンペアを実行しないと結果の一覧表示の内容は変化しません。

(2) 詳細表示の設定

[設定] ダイアログの [詳細表示] タブを次に示します。



1. 表示リスト

詳細表示に表示する内容を指定します。

全て：一致するユニット情報と異なるユニット情報の両方を表示します。

相違個所：一致しないユニット情報だけを表示します。

2. 表示色

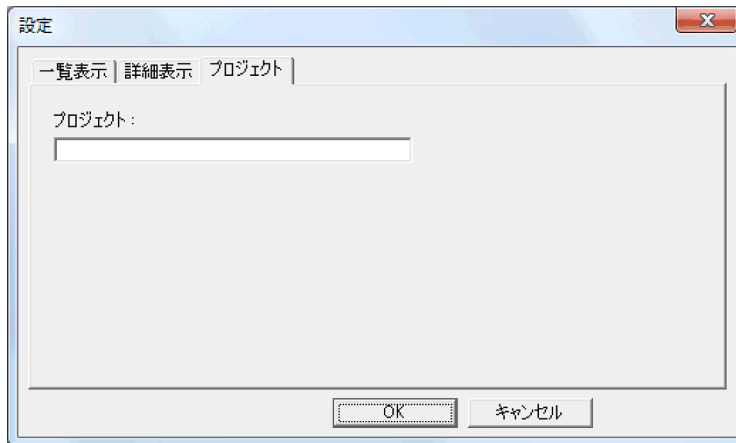
詳細表示で使用する色を変更します。詳細表示で表示される 16 進データの背景やテキストの色を、一致行、不一致行、選択行に対して変更できます。変更する場合は「変更個所」を選択し、「変更」ボタンをクリックして任意の色を選択します。

3. 選択行を有効

このオプションのチェックをオンにすると、比較結果を詳細表示したとき、詳細表示画面の16進表示の行をマウスで選択すると、選択行の表示色のサンプル表示にある選択行の状態になります。チェックをオフにすると、16進表示の行を選択しても表示は変わりません。

(3) プロジェクトの設定

[設定] ダイアログの [プロジェクト] タブを次に示します。



マップコンペアの結果を印刷したとき、ヘッダに印字するプロジェクト名を入力します。半角文字の場合で40文字までの任意の文字列を入力できます。

4.3.4 コンペア結果の印刷

画面表示と同様の内容を印刷できます。印刷するには、[ファイル] - [印刷] を選び、表示される [印刷] ダイアログで [OK] ボタンを選択してください。プリンタの設定を変更するには、[ファイル] - [プリンタ設定] を選び、変更してください。

5

XMAP3 開発支援ユティリティの トラブルシューティング

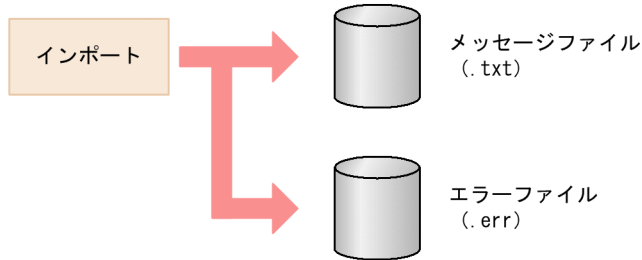
この章では、XMAP3 開発支援ユティリティ利用時に発生するトラブルへの対処方法について説明します。

5.1 トラブル対処の概要

XMAP3 開発支援ユーティリティ利用時に発生するトラブル対処の概要を次の図に示します。

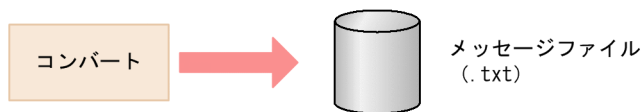
XMAP3 開発支援ユーティリティ利用時にトラブルが発生した場合、エラーに関する情報がファイルに出力されます。トラブルが発生した場合、該当するファイルに出力されたメッセージを解析して対処してください。

図 5-1 トラブル発生時に出力されるファイル



出力ファイル名

- ・画面・帳票のインポートの場合
GUI : x3unmp01.txt
コマンドライン : x3unmp02.txt
- ・書式オーバーレイのインポートの場合
GUI : x3unfm01.txt
コマンドライン : x3unfm02.txt



出力ファイル名

- ・けい線帳票から網掛け帳票の場合 : x3ucsp01.txt
- ・けい線帳票からプレプリント帳の場合 : x3ucir01.txt
- ・網掛け帳票からグラフィック帳票の場合 : x3ucpg01.txt
- ・グラフィック帳票から書式オーバーレイの場合 : x3ucgo01.txt
- ・書式オーバーレイからグラフィック帳票の場合 : x3ucog01.txt
- ・GUI画面からGUI画面の場合 : x3uccg01.txt
- ・COBOL言語からC言語の場合 : x3ucco01.txt
- ・C言語からCOBOL言語の場合 : x3uccl01.txt

テスト表示またはテスト印刷時のトラブルについては、マニュアル「XMAP3 実行ガイド」を参照してください。

5.2 インポート実行時のエラーメッセージ

インポート実行時に出力されるエラーメッセージの出力先、出力形式、およびメッセージの一覧について説明します。

5.2.1 メッセージの出力先（インポート）

インポート実行時のエラーメッセージの出力先ファイル、およびエラーファイル内容の確認方法について説明します。

(1) 出力先ファイル

インポートで発生したエラーメッセージは、「変換元ファイル名.err」に出力されます。エラーファイルの格納先は、変換ファイルの出力先に指定したフォルダになります。

パネル定義文のインポートの場合

- GUI で操作したとき
変換ファイルの出力先フォルダ¥X3UNMP01.txt
- コマンドラインから実行したとき
変換ファイルの出力先フォルダ¥X3UNMP02.txt
変換ファイルの出力先フォルダ¥変換元のファイル名.err

書式記述文のインポートの場合

- GUI で操作したとき
変換ファイルの出力先フォルダ¥X3UNFM01.txt
- コマンドラインから実行したとき
変換ファイルの出力先フォルダ¥X3UNFM02.txt
変換ファイルの出力先フォルダ¥変換元のファイル名.err

(2) ファイル内容の確認方法

パネル定義文のインポートの場合

メッセージファイル「X3UNMP01.txt」または「X3UNMP02.txt」を確認してください。変換エラーに関するメッセージは、「X3UNMP01.txt」または「X3UNMP02.txt」に出力されます。また、パネル定義文の文法エラーに関するメッセージは、「変換元のファイル名.err」に出力されます。メッセージについては、「5.2.4(1) パネル定義文のインポートで出力されるメッセージ」を参照してください。

書式記述文のインポートの場合

メッセージファイル「X3UNFM01.txt」または「X3UNFM02.txt」の内容を確認してから、「変換元のファイル名.err」の内容を確認してください。エラーメッセージについては、「5.2.4(2) 書式記述文のインポートで出力されるメッセージ」を参照してください。

5.2.2 インポートできない場合の対処

パネル定義文、または書式記述文のインポートができない場合の調査方法、および対処方法について説明します。

パネル定義文のインポートの場合

変換ファイルの出力先フォルダの「X3UNMP01.txt」または「X3UNMP02.txt」に次のようなメッセージが出力されると、マップ定義ファイルに変換できません。

- 「オペランド・定義文の一部に文法エラーがあったので（変換元ファイル）を変換できませんでした。詳細は（変換元のファイル名.err）をご覧ください。」
- 「（変換元ファイル）に重大なエラーがあったので処理を中止しました。」
- 「（変換元ファイル）は未サポートデバイス、または不正なパネル定義文であるため変換できません。」

書式記述文のインポートの場合

変換ファイルの出力先フォルダの「X3UNFM01.txt」または「X3UNFM02.txt」に次のようなメッセージが出力されると、書式定義ファイルに変換できません。

- 「記述文解析中に重大なエラーが発生しました。」または「書式定義ファイルの作成中に重大なエラーが発生しました。」

ここでは、これらのメッセージが出力された場合の対処方法について説明します。

(1) 「オペランド・定義文の一部に文法エラーがあったので（変換元ファイル）を変換できませんでした。詳細は（変換元のファイル名.err）をご覧ください。」の場合

調査方法と対処方法を次に示します。

(a) 調査方法

次の方法で、原因を調査してください。

- 「変換元のファイル名.err」ファイルに出力されるエラーメッセージを確認してください。
- インポートのオプション指定で、「メインフレームから転送したパネル定義文を使用する」オプションがオンであることを確認してください。
- インポート実行前のパネル定義文を、インポート実行前の環境（UNIX またはメインフレーム）の XMAP でコンパイルして、正常に終了するかどうかを調査してください。
- パネル定義文に次に示す指定があった場合、文法エラーでマップ定義ファイルに変換できません。Windows のエディタなどで確認してください。
 - MODCTL 文で 16 進修飾名指定
 - PHSEG 文の MODCTL オペランドで 16 進修飾名指定
 - PHSEG 文の DMYFLD オペランドで 16 進指定

(b) 対処方法

次の方法で、対処してください。

- 「変換元のファイル名.err」ファイルに出力されるエラーメッセージの対処方法を実施してください。
- インポートのオプション指定で、「メインフレームから転送したパネル定義文を使用する」オプションをオンにして再度インポートしてください。
- インポート実行前の環境（UNIX またはメインフレーム）の XMAP でコンパイルしてエラーになる場合は、正常になるように修正してください。
- パネル定義文でエラーになる指定と対処を次に示します。

MODCTL 文で 16 進修飾名指定

MODCTL 文、および PHSEG 文の MODCTL オペランドを削除してください。

PHSEG 文の MODCTL オペランドで 16 進修飾名指定
 PHSEG 文の MODCTL オペランドを削除してください。

PHSEG 文の DMYFLD オペランドで 16 進指定
 PHSEG 文の DMYFLD オペランドを削除してください。

(2) 「(変換元ファイル) に重大なエラーがあったので処理を中止しました。」の場合

調査方法と対処方法を次に示します。

(a) 調査方法

次の方法で、原因を調査してください。

- Windows マシンのメモリまたはディスク容量が、XMAP3 が動作する条件を満たしているか確認してください。
- インポート実行中に、ほかのプログラムが動作していないか確認してください。
- 出力先の媒体に正常に読み書きできるか確認してください。
- 出力先のフォルダに書き込む権限があるか確認してください。

(b) 対処方法

- Windows マシンのメモリまたはディスク容量が XMAP3 が動作するには不足している場合は、メモリまたはディスクを増設してください。XMAP3 が動作するために必要な Windows のメモリやディスク容量については、マニュアル「XMAP3 開発ガイド」を参照してください。
- インポート実行中にほかのプログラムが動作していた場合、一時的にメモリ不足が発生します。この場合は、ほかのプログラムを終了すると動作することがあります。
- 出力先の媒体が正常に読み書きできない場合は、ほかの媒体に交換してください。
- 出力先のフォルダに書き込む権限がない場合は、出力先のフォルダの権限を変えるか、書き込み権限があるフォルダを出力先に指定してください。
- 対処しても問題が解決しない場合は、XMAP3 のプログラムやレジストリが破壊されている場合があります。XMAP3 Developer および XMAP3 開発支援ユーティリティを再インストールしてから、インポートを実行してください。

(3) 「(変換元ファイル) は未サポートデバイス、または不正なパネル定義文であるため変換できません。」の場合

調査方法と対処方法を次に示します。

(a) 調査方法

パネル定義文に未サポートのデバイスを指定しているか、パネル定義文が不正であることが考えられます。Windows のテキストエディタで、パネル定義文を開いて内容を確認してください。

(b) 対処方法

PHSEG 文の DEV オペランドの指定をインポートでサポートしているデバイスに変更してください。

また、メインフレームから Windows の転送時に、誤って EBCDIK や KEIS コードのまま転送してしまった場合もこのエラーになります。必ず、JIS8、またはシフト JIS コードに変換してください。

(4) 「記述文解析中に重大なエラーが発生しました。」または「書式定義ファイルの作成中に重大なエラーが発生しました。」の場合

調査方法と対処方法を次に示します。

(a) 調査方法

次の方法で、原因を調査してください。

- Windows マシンのメモリまたはディスク容量が、XMAP3 が動作する条件を満たしているか確認してください。
- インポート実行中に、ほかのプログラムが動作していないか確認してください。
- 出力先の媒体に正常に読み書きできるか確認してください。
- 出力先のフォルダに書き込む権限があるか確認してください。

(b) 対処方法

- Windows マシンのメモリまたはディスク容量が XMAP3 が動作するには不足している場合は、メモリまたはディスクを増設してください。XMAP3 が動作するために必要な Windows のメモリやディスク容量については、マニュアル「XMAP3 開発ガイド」を参照してください。
- インポート実行中にほかのプログラムが動作していた場合、一時的にメモリ不足が発生します。この場合は、ほかのプログラムを終了すると動作することがあります。
- 出力先の媒体が正常に読み書きできない場合は、ほかの媒体に交換してください。
- 出力先のフォルダに書き込み権限がない場合は、出力先のフォルダの権限を変えるか、書き込み権限があるフォルダを出力先に指定してください。
- 対処しても問題が解決しない場合は、XMAP3 のプログラムやレジストリが破壊されている場合があります。XMAP3 Developer および XMAP3 開発支援ユティリティを再インストールしてから、インポートを実行してください。

(5) メッセージの一覧

コマンドラインからインポートした場合、メッセージと次に示すリターンコードが表示されます。

- 0：正常に終了した。
- 1：コマンド解析でエラーが発生した。
- 2：インポート変換で警告または異常のエラーが発生した。
- 3：システムエラーが発生した。

コマンドラインからインポートした場合に表示されるメッセージを次の表に示します。

表 5-1 メッセージの一覧

項番	メッセージ	要因	対策	リターンコード
1	処理は正常に終了しました。	—	—	0
2	ファイル"xxxxx"がありません。	指定したファイルがありません。	指定したファイルがあることを確認してください。	1

項番	メッセージ	要因	対策	リターンコード
		ワイルドカードを指定しています。	ワイルドカードを指定しないでコマンドを実行してください。	
3	ファイル"xxxxx"はフォルダです。	ファイルとしてフォルダを指定しています。	ファイルを指定してください。	
4	ファイル"xxxxx"が読み取れませんでした。	ファイルが読み取れません。	読み取れるファイルを指定してください。	
5	ファイル"xxxxx"は無効です。	指定したファイルの拡張子が.xmp, .xmap, .fog, .fog2 ではありません。	次に示すどちらかの対処をしてください。 <ul style="list-style-type: none"> パネル定義文のインポートでは、拡張子が.xmp または.xmap のファイルを指定してください。 書式記述文のインポートでは、拡張子が.fog または.fog2 のファイルを指定してください。 	
6	ファイル名"xxxxx"の長さが制限値を超えています。	ファイル名の長さが 256 バイト以上です。	255 バイト以内のファイル名のファイルを指定してください。	
7	指定されたファイル"xxxxx"は定義ファイルでないか、名称規則に違反したファイル名であるため変換できません。	ファイル形式が不正です。	指定したファイルを確認してください。	
8	入力ファイルを指定してください。	ファイルが指定されていません。	引数にファイルを指定してください。	
9	ログファイル名"xxxxx"の長さが制限値を超えています。	メッセージファイル (.txt) またはエラーファイル (ファイル名.err) の長さが 256 バイト以上です。	出力フォルダ (絶対パス) とメッセージファイル (.txt) またはエラーファイル (ファイル名.err) の長さが 255 バイト以内になるように、ファイル名およびフォルダ名を指定してください。	
10	ログファイル"xxxxx"のオープンに失敗しました。	メッセージファイル (.txt) またはエラーファイル (ファイル名.err) のオープンに失敗しています。	出力フォルダに生成されるメッセージファイル (.txt) またはエラーファイル (ファイル名.err) に、書き込み権限があるかどうか確認してください。	
11	フォルダ"xxxxx"がありません。	指定したフォルダがありません。	指定したフォルダがあることを確認してください。	

5 XMAP3 開発支援ユーティリティのトラブルシュート

項番	メッセージ	要因	対策	リターンコード
		ワイルドカードを指定しています。	ワイルドカードを指定しないでコマンドを実行してください。	
12	"xxxxx"はフォルダではありません。	指定したパスはフォルダではありません。	フォルダを指定してください。	
13	フォルダ"xxxxx"は無効です。	フォルダが無効です。	もう一度コマンドを実行するか、別のフォルダを指定してください。	
14	フォルダ名"xxxxx"の長さが制限値を超えています。	フォルダ名の長さが 256 バイト以上です。	255 バイト以内のフォルダ名のフォルダを指定してください。	
15	フォルダ"xxxxx"に書き込み権限がありません。	フォルダに書き込み権限がありません。	書き込み権限を付与するか、書き込み権限のあるフォルダを指定してください。	
16	指定したパラメタの数に誤りがあります。第三引数以降は無効です。	引数を省略した場合、引数は 2 個まで指定できますが、3 個以上指定されています。	引数を確認して再実行してください。	
17	エラー<警告>が発生しました。詳細は"xxxxx"を参照してください。	変換エラーメッセージがメッセージファイル (.txt) に、文法エラーメッセージがエラーファイル (ファイル名.err) に出力されます。	変換エラーメッセージはメッセージファイル (.txt)、文法エラーメッセージはエラーファイル (ファイル名.err) を参照してください。	2
18	エラー<異常>が発生しました。詳細は"xxxxx"を参照してください。	変換エラーメッセージがメッセージファイル (.txt) に、文法エラーメッセージがエラーファイル (ファイル名.err) に出力されます。	変換エラーメッセージはメッセージファイル (.txt)、文法エラーメッセージはエラーファイル (ファイル名.err) を参照してください。	
19	実行に必要なファイルが不足したか、インストールしたフォルダに重大なエラーが発生したため実行できません。本製品を再度インストールしてから、やり直してください。	次のどちらかが要因です。 <ul style="list-style-type: none"> レジストリ情報の取得や必要な DLL のローディングに失敗しています。 インポート実行時に、IMS ファイルの読み取り処理に失敗しています。 	XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティを再インストールしてください。	3
20	領域の確保に失敗しました。	内部領域の確保に失敗しています。	次に示すどちらかの対処をしてください。 <ul style="list-style-type: none"> ほかの AP を終了するか、または OS を再起動してください。 マシン上のリソースを見直す、スワップ領域を見直す、またはメモリを増設するなどしてください。 	

(凡例)

—: 該当なし。

注

ファイルとは、パネル定義文ファイルまたは書式記述文ファイルを示します。

5.2.3 メッセージの出力形式 (インポート)

インポートで出力されるエラーメッセージの出力形式とメッセージ一覧の記述形式について説明します。

(1) メッセージの出力形式

インポートで出力されるエラーメッセージの出力形式を次に示します。

形式

パネル定義文のインポートの場合

X3IXnnn-l (位置) メッセージテキスト

KBSVfnn-l メッセージテキスト

書式記述文のインポートの場合

X3IFnnn-l [記述文名]: メッセージテキスト

形式の説明

- X3IX: パネル定義文のインポート時のメッセージを示します。
- KBSV: パネル定義文解析時の出力メッセージを示します。
- X3IF: 書式記述文のインポート時のメッセージを示します。
- f: メッセージのプログラム種別を示すコードです。
- nn: 00~99 の範囲で、メッセージの番号が表示されます。
- nnn: 000~999 の範囲で、メッセージの番号が表示されます。
- l: インフォメーション (Information) の意味です。すべてのメッセージに表示します。
- 位置情報: エラーが発生した、記述文の場所を表示します。
- [記述文名]: 関連する記述文を表示します。
- メッセージテキスト: 各メッセージのテキスト情報を表示します。

(2) メッセージの記述形式

メッセージの記述形式を次に示します。

X3IFnnn-l

メッセージテキスト

出力されるメッセージテキストに対する補足説明 (必要に応じて記述)

(S) メッセージを出力したあとの主な処理を示します。

(P) メッセージを受け取ったプログラマが実施する処置を示します。

5.2.4 メッセージ一覧 (インポート)

インポートで出力されるメッセージと対処方法を示します。

(1) パネル定義文のインポートで出力されるメッセージ

パネル定義文をインポートした場合に出力されるメッセージについて説明します。

(a) パネル定義文の文法エラーに関するメッセージ

インポート時のパネル定義文の文法エラーに関するメッセージを次に示します。

KBSV610-I

定義文の形式に誤りがあります

定義文のネーム欄が正しくないか、オペレーション欄が存在しません。

(S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。

(P) 定義文を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV611-I

定義文 オペレーション名 は指定できません

オペレーション名で示すオペレーションは、このプログラムで指定できません。または、指定順序に誤りがあります。

なお、オペレーション名の先頭にカタカナ、漢字などの指定できない文字を指定した場合は、このメッセージの挿入句としてオペレーション名は出力されません。

(S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。

(P) オペレーション名を修正してください。または、指定順序を直して再実行してください。

KBSV612-I

キーワード名 キーワードは本文では指定できません

キーワード名で示すキーワードは、このオペレーションでは指定できないため、無視して処理を続行します。

(S) 処理を続行します (終了コード 4)。

(P) キーワードとオペレーションの組み合わせを調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV613-I

キーワード名 キーワードに不当なパラメタを指定しています

キーワード名で示すキーワードに不当なパラメタが指定されています。

(S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。

(P) パラメタを調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV614-I

継続行の指定に誤りがあります

継続行の指定が間違っています。原因として次のことが考えられます。

- 前の行がコンマで終了しているとき、次の行の 1 カラム目が空白でない。

(S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。

(P) 定義文を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV615-I

キーワード名 キーワードが重複又は排他指定になっています

キーワード名で示すキーワードは、処理中のオペレーションに対して重複指定された、または指定できないキーワードです。

(S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。

(P) オペレーションとキーワードの関係を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV616-I

キーワード名 キーワードのオペランドに誤った区切り記号を指定しています

指定されたキーワード名のオペランドに不正な区切り記号があります。

(S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。

(P) 定義文を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV618-I

キーワード 1 キーワードと キーワード 2 キーワードに排他的なパラメタを指定しています

キーワード 1 とキーワード 2 に排他的なパラメタが指定されています。

(S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。

(P) 定義文を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV619-I

番号 カラムに不当な文字を指定しています

番号で示す欄 (カラム) に不当な文字を指定しています。

原因として次のことが考えられます。

- 前の行がコンマ (,) で終了しているのに、17 欄目から定義を開始している。
- 区切り記号が誤っている。

(S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。

(P) 定義文を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV620-I

定義文を何も指定していません

(S) 処理を終了します (終了コード 04)。

(P) 定義文を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV621-I

指定した記号パラメタ 記号パラメタ名 を定義していません

(S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。

(P) 正しい記号パラメタ名を指定してください。

KBSV623-I

エラーが発生したためにパネル マップ名 の定義を無効にしました

- (S) 次の定義文を処理します (終了コード 12)。
- (P) エラーメッセージを解析し、誤りを直して再実行してください。

KBSV624-I

エラーが発生したために {セグメント名 | フレーム名 | this} {LOGSEG | LOGFRM | PHSEG | PHFRM} 文群を無効にします

エラー発生のため、セグメント名、フレーム名で示す論理セグメント、論理フレーム、物理セグメント、または物理フレーム定義を無効とします。

- (S) 次の定義文を処理します (終了コード 12)。
- (P) エラーメッセージを解析し、誤りを直して再実行してください。

KBSV625-I

この位置に PANEL 文は指定できないため無効にしました

- (S) 次の定義文を処理します (終了コード 12)。
- (P) PANEL 文の指定順序を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV626-I

この位置に 定義文名 文は指定できないため無効にしました

- (S) 次の定義文を処理します (終了コード 12)。
- (P) 定義文の指定順序を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV627-I

この位置に 定義文 文は指定できないため無効にしました

- 定義文の指定順序が不正です。
- (S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。
- (P) 定義文の指定順序を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV628-I

必要な PNLEND 文を指定していません

- (S) 次の定義文を処理します (終了コード 12)。
- (P) 定義文の指定順序を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV629-I

キーワード名 キーワードの必要なパラメタを指定していません

- キーワード名で示すキーワードに必要なパラメタが指定されていません。
- (S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。
- (P) キーワードのパラメタを調べ、不足しているパラメタを指定して再実行してください。

KBSV630-I

マップ名の指定に誤りがあります

- マップ名の指定に誤りがあります。

- (S) 次の定義文を処理します (終了コード 12)。
- (P) マップ名を指定して再実行してください。

KBSV631-I

定義文群に必要な定義文を指定していません

- (S) 次の定義文を処理します (終了コード 12)。
- (P) 不足している定義文を指定して再実行してください。

KBSV632-I

{セグメント | フレーム | 項目 | 記号パラメタ | LOGCOD | LOGLAB | LOGTBL | LOGTXT | LOGKEY | MNULST | POPUP | RSVTXT | BINDAT} 名に誤りがあります

セグメント名, フレーム名, 項目名, または記号パラメタ名の指定が間違っています。

- (S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。
- (P) 名前を正しく指定して再実行してください。

KBSV633-I

必要な LANG キーワードを指定していません

- (S) 次の定義文を処理します (終了コード 12)。
- (P) LANG キーワードを指定して再実行してください。

KBSV634-I

物理セグメント定義に必要なキーワード名 キーワードを指定していません

キーワードで示す物理セグメント定義で, 必要なキーワードが指定されていません。

- (S) 次の定義文を処理します (終了コード 12)。
- (P) キーワードを指定して再実行してください。

KBSV635-I

必要な キーワード名 キーワードを指定していません

キーワードで示す必要なキーワードが指定されていません。

- (S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。
- (P) キーワードを指定して再実行してください。

KBSV637-I

定義文名 文で指定した 名前 名が見つかりません

定義文名で示す定義文で指定した名称が見つかりません。

- (S) 次の定義文を処理します (終了コード 4)。
- (P) 項目名を調べ, 誤りを直して再実行してください。

KBSV638-I

定義文名 文で指定した 領域名 1 領域は 領域名 2 領域を超えています

定義文で示す定義で指定した領域は、物理パネル領域、物理セグメント領域、物理フレーム領域、ボード領域、グループボックス領域、またはボタンボックス領域を超えています。

(S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。

(P) POS, LNG, REPEAT, LAY, および VAL オペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。また、このエラーが REPEAT オペランドを指定した LOGFLD 文に対応する VARFLD 文で発生した場合は、VARFLD 文の VAL オペランド、および LOGFLD 文の REPEAT オペランドと LNG オペランドの関係を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV639-I

定義文名 文で指定した 領域名 1 領域は 領域名 2 領域と重なっています

定義文で示すパネル構成要素は、他の領域と重なっています。

(S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。

(P) POS オペランド, LNG オペランド, REPEAT オペランド, および VAL オペランドで指定した内容を様式リストで見比べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV641-I

キーワード名 キーワードに排他的なパラメタを指定しています

キーワード名で示すキーワードに排他的なパラメタが指定されています。

(S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。

(P) 定義文を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV643-I

ダミーの論理項目を生成し挿入しました

(S) 処理を続けます (終了コード 4)。

(P) レベル 1 とレベル 2 の項目長を見直し、誤りを直して再実行してください。

KBSV645-I

名前 定義文名 文で指定した 条件 の指定に誤りがあります

定義文の指定に誤りがあります。

(S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。

(P) 原因を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV646-I

定義文名 文の パラメタ名 は既に他の定義文名 文で指定しています

論理項目名, 制御項目名, 論理フレーム名, 可変項目名, 論理テーブル名, アクセラレータキー, またはニモニック文字はすでに他の定義文, PHFRM 文, または RSVFLD 文で指定しています。

(S) 次の定義文を処理します (終了コード 8)。

(P) 原因を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV648-I

定義文名又はオブジェクト名 の数が 数字 を超えています

- (S) 処理を終了します (終了コード 8)。
- (P) 各定義文の指定枚数を規定枚数以下にして再実行してください。

KBSV649-I

メニューリスト名 MNULST 文群の MNUTXT 文で指定した メニューリスト名 MNULST 文群の指定に誤りがあります

- (S) 処理を終了します (終了コード 8)。
- (P) 原因を調べ、誤りを直して再実行してください。

KBSV665-I

この 場所 では 条件 は使用できません

- (S) 処理を終了します (終了コード 12)。
- (P) 次のように対処してください。
 1. PANEL 文の LANG オペランドに指定した言語種別を COBOL, C 言語のどちらかに変更して再実行する。
 2. PANEL 文の LANG オペランドに指定した言語種別を COBOL に変更して再実行する。
 3. PHSEG 文の DEV オペランドに指定したデバイス名を変更して再実行する。
 4. RLINE 文の STYLE オペランドを削除して再実行する。
 5. PHSEG 文の INC オペランドの INC 定数以外, または指定できない INC 種別の指定を削除して再実行する。
 6. 該当するパラメタを削除する。または, 該当するパラメタを含む定義文を削除して再実行する。
 7. 該当するキーワードを削除する。または, 該当するキーワードを含む定義文を削除して再実行する。
 8. 該当する VARFLD 文の MODATTR オペランドに指定した項目属性動的変更情報を 7 個以下に変更して再実行する。

(b) 変換に関するエラーメッセージ

変換に関するエラーメッセージを次に示します。

X3IX202-I

メニューバーの部品化を破棄しました

MNUGRP 文でメニューバーの部品化指定をしています。

- (S) メニューバーの部品化指定を破棄します。
- (P) ドローではメニューバーの部品化指定が定義できないので, 部品にしたメニューバーを使用した画面を作成し, 画面を変更するようにプログラムを変更してください。

X3IX202-I

埋字を破棄しました

LOGFLD 文で CODE=K のとき, FILL オペランドに (X,' 16 進数字'), または (NX,' 16 進漢字定数') を指定しています。

- (S) 埋字の指定を破棄します。
- (P) 埋字を再定義してください。

X3IX202-I

初期値を破棄しました

LOGFLD 文で CODE=K のとき、VAL オペランドに (NX,' 16 進漢字定数') を指定しています。

- (S) 初期値の指定を破棄します。
- (P) 初期値を再定義してください。

X3IX203-I

帳票属性の [マージン] を補正しました

上マージンまたは左マージンに、小数点以下第 2 位までの値を指定しています。

- (S) 小数点以下第 1 位までのマージン値に変更します。
- (P) 印刷位置に違いがあれば、上マージンまたは左マージンの値を再指定するか、各オブジェクトの位置を変更してください。

X3IX204-I

(位置) 固定バーコードを削除しました

CNSBCD 文を指定しています。

- (S) CNSBCD 文を破棄します。
- (P) 可変バーコードで再定義し、プログラムからデータを出力するように変更してください。

X3IX204-I

(位置) 可変バーコードを削除しました

次の原因が考えられます。

- (1) VARBCD 文で TYPE=ITOF を指定している。
 - (2) VARBCD 文で TYPE=MTOF を指定している。
 - (3) VARBCD 文で TYPE=CUSTOM,BCDATTR=POSTAL を指定している。
 - (4) VARBCD 文で長さが 1, 2 の CODE39 を指定している。
- (S) VARBCD 文を破棄します。
 - (P) 次のように対処してください。
 - (1) と (2) の場合、ドローでは再定義できない。
 - (3) の場合、カスタマバーコードを再定義し、デジットをプログラムから指定するように変更する。
 - (4) の場合、3 桁以上の CODE39 バーコードを再定義し、プログラムを変更する。

X3IX204-I

(位置) 任意ドットパターン文群を削除しました

RASTER 文を指定しています。

- (S) RASTER 文を破棄します。
- (P) ドットパターンと同様のビットマップを作成し、固定グラフィックとして再定義してください。

X3IX204-I

(位置) チェックボタンボックスを削除しました

次の原因が考えられます。

- (1) VARCBT 文と CNSCBT 文を混在指定している。
- (2) VARCBT 文を複数個指定している。
- (S) CBTBOX 文を破棄します。
- (P) 次のように対処してください。
 - (1) の場合、どちらかに統一するようにレイアウトを見直し、ドローで再定義する。
 - (2) の場合、1 個の VARCBT 文に統一するようにレイアウトを見直し、ドローで再定義する。

X3IX204-I

(位置) ラジオボタンボックスを削除しました

次の原因が考えられます。

- (1) VARRBT 文と CNSRBT 文を混在指定している。
- (2) VARCBT 文を複数個指定している。
- (S) CBTBOX 文を破棄します。
- (P) 次のように対処してください。
 - (1) の場合、どちらかに統一するようにレイアウトを見直し、ドローで再定義する。
 - (2) の場合、1 個の VARCBT 文に統一するようにレイアウトを見直し、ドローで再定義する。

X3IX204-I

(位置) 単一選択リストボックスを削除しました

次の原因が考えられます。

- (1) VARSLs 文を複数個指定している。
- (2) VARSLs 文に指定した LOGTBL 文の REPEAT オペランドに 1 を指定している。
- (S) SLSBOX 文を破棄します。
- (P) 次のように対処してください。
 - (1) の場合、1 個の VARSLs 文に統一するようにレイアウトを見直し、ドローで再定義する。
 - (2) の場合、LOGTBL 文の REPEAT は 2 以上になるようにレイアウトを見直し、ドローで再定義する。

X3IX204-I

(位置) 複数選択リストボックスを削除しました

次の原因が考えられます。

- (1) VARSLs 文を複数個指定している。
- (2) VARSLs 文に指定した LOGTBL 文の REPEAT オペランドに 1 を指定している。
- (S) SLSBOX 文を破棄します。
- (P) 次のように対処してください。
 - (1) の場合、一つの VARSLs 文に統一するようにレイアウトを見直し、ドローで再定義する。
 - (2) の場合、LOGTBL 文の REPEAT は 2 以上になるようにレイアウトを見直し、ドローで再定義する。

X3IX204-I

(位置) ポップアップメニューを削除しました

次の原因が考えられます。

- (1) INTXT 文の POPUP オペランドに指定した POPUP 文で、VARPOP 文に指定した LOGTBL 文の REPEAT オペランドに 1 を指定している。
- (2) INTXT 文の POPUP オペランドに指定した POPUP 文で、VARPOP 文と CNSPOP 文を混在指定している。
- (3) INTXT 文の POPUP オペランドに指定した POPUP 文が可変ポップアップで、すでに他のオブジェクトで使用されている (共用ポップアップ)。
- (S) INTXT 文を破棄します。
- (P) 次のように対処してください。
 - (1) の場合、LOGTBL 文の REPEAT は 2 以上になるようにレイアウトを見直し、ドローで再定義する。
 - (2) の場合、どちらかに統一するようにレイアウトを見直し、ドローで再定義する。
 - (3) の場合、共用しているメニューと同じものをドローで再定義する。

X3IX204-I

(位置) セパレータを削除しました

CNSTXT 文、OUTTXT 文、または INTXT 文の表示領域の前後に隣接した SLINE 文を指定しています。

- (S) SLINE 文を破棄します。
- (P) レイアウトを見直し、セパレータを再定義してください。

X3IX204-I

(位置) コンボボックスを削除しました

次の原因が考えられます。

- (1) OPMTXT 文の POPUP オペランドに指定した POPUP 文で、VARPOP 文に指定した LOGTBL 文の REPEAT オペランドに 1 を指定している。
- (2) OPMTXT 文の POPUP オペランドに指定した POPUP 文で、VARPOP 文と CNSPOP 文を混在指定している。
- (3) OPMTXT 文の POPUP オペランドに指定した POPUP 文が、すでに他のオブジェクトで使用されている (共用ポップアップ)。
- (4) 混在項目で OPMTXT 文の BOXLNG よりも、POPUP 文の SIZE オペランドでの列の長さが長い。
- (S) OPMTXT 文を破棄します。
- (P) 次のように対処してください。
 - (1) の場合、LOGTBL 文の REPEAT は 2 以上になるようにレイアウトを見直し、ドローで再定義する。
 - (2) の場合、どちらかに統一するようにレイアウトを見直し、ドローで再定義する。
 - (3) の場合、共用しているメニューと同じものをドローで再定義する。
 - (4) の場合、レイアウトを見直し、コンボボックスを再定義する。

X3IX204-I

(位置) フレームに重なった固定フィールドを削除しました

フレームの繰り返しの範囲内に CNSFLD 文があります。

(S) CNSFLD 文を破棄します。

(P) インポート後、ドローでフレームのサイズ・位置を調節して、固定フィールドを再定義してください。

X3IX204-I

(位置) フレームに重なった可変フィールドを削除しました

フレームの繰り返しの範囲内に VARFLD 文があります。

(S) VARFLD 文を破棄します。

(P) インポート後、ドローでフレームのサイズ・位置を調節して、可変フィールドを再定義してください。

X3IX204-I

(位置) ポップアップフィールドを削除しました

次の原因が考えられます。

(1) POPFLD 文の POPUP オペランドに指定した POPUP 文で、VARPOP 文に指定した LOGTBL 文の REPEAT オペランドに 1 を指定している。

(2) POPFLD 文の POPUP オペランドに指定した POPUP 文で、VARPOP 文と CNSPOP 文を混在指定している。

(3) POPFLD 文の POPUP オペランドに指定した POPUP 文がすでに他のオブジェクトで使用されている (共用ポップアップ)。

(S) POPFLD 文を破棄します。

(P) 次のように対処してください。

- (1) の場合、LOGTBL 文の REPEAT は 2 以上になるようにレイアウトを見直し、ドローで再定義する。
- (2) の場合、どちらかに統一するようにレイアウトを見直し、ドローで再定義する。
- (3) の場合、共用しているメニューと同じものをドローで再定義する。

X3IX204-I

(位置) けい線を削除しました

PHSEG 文の CNTRL オペランドに FULL 以外を指定し、RLINE 文の DIRECT オペランドが T (横上) または D (横下) で、LNG オペランドに 1 を指定しています。

(S) RLINE 文を破棄します。

(P) 不正なパネル定義文のため RLINE 文の LNG オペランドは 2 以上に修正するか、RLINE 文を削除してください。

X3IX205-I

(位置) 下位項目を持つ項目(項目名)のデータ型を [変更前のデータ型] から文字(XX)に変更しました

下位項目を持つ、項目名で示す項目のデータ型に、数字 (99)、数字編集 (ZZ など)、または日本語 (NN) を指定しています。

(S) データ型を文字 (XX) に変更します。

(P) インポート後、ドローでマップ定義ファイルを調べ、変更された項目が正しいことを確認してください。

X3IX206-I

(位置) チェックボタンボックスの AP が渡す項目のラベルの長さを補正しました

VARCBT 文に指定した LOGTBL 文中の LOGLAB 文の LNG オペランドに、CBTBOX 文の BTLNG オペランドの数-3 より長い値を指定しています。

(S) CBTBOX 文の BTLNG オペランドの数-3 に AP が渡す項目を補正します。

(P) 論理マップの長さが変わるのでプログラムを変更してください。

X3IX206-I

(位置) チェックボタンボックスのボタン長を補正しました

VARCBT 文に指定した LOGTBL 文中の LOGLAB 文の LNG オペランドに CBTBOX 文の BTLNG オペランドの数-3 より小さい値を指定しています。

(S) BTLNG オペランドの数を LOGTBL 文中の LOGLAB 文の LNG オペランド+3 にします。

(P) レイアウトを見直してください。

X3IX206-I

(位置) ラジオボタンボックスの AP が渡す項目のラベルの長さを補正しました

VARRBT 文に指定した LOGTBL 文中の LOGLAB 文の LNG オペランドに、RBTBOX 文の BTLNG オペランドの数-3 より長い値を指定しています。

(S) CBTBOX 文の BTLNG オペランドの数-3 に AP が渡す項目を補正します。

(P) 論理マップの長さが変わるのでプログラムを変更してください。

X3IX206-I

(位置) ラジオボタンボックスのボタン長を補正しました

VARRBT 文に指定した LOGTBL 文中の LOGLAB 文の LNG オペランドに RBTBOX 文の BTLNG オペランドの数-3 より小さい値を指定しています。

(S) BTLNG オペランドの数を LOGTBL 文中の LOGLAB 文の LNG オペランド+3 にします。

(P) レイアウトを見直してください。

X3IX206-I

(位置) 単一選択リストボックスのボックスサイズを補正しました

SLSBOX 文の SIZE オペランドの行数に奇数の値を指定しているか、またはプレーンサイズを補正した結果、プレーンサイズがボックスサイズより小さくなりました。

(S) 単一選択リストボックスのボックスサイズを補正します。

(P) レイアウトを見直してください。

X3IX206-I

(位置) 単一選択リストボックスの AP が渡す項目のラベルの長さを補正しました

VARSLS 文に指定した LOGTBL 文中の LOGLAB 文の LNG オペランドに、SLSBOX 文の PLSIZE オペランドの列数より長い値を指定しています。

- (S) LOGLAB 文の LNG オペランドを、SLSBOX 文の PLSIZE オペランドの列数に合わせます。
- (P) 論理マップの長さが変わるのでプログラムを変更してください。

X3IX206-I

(位置) 単一選択リストボックスのプレーンサイズを補正しました

次の原因が考えられます。

- (1) VARSLS 文に指定した LOGTBL 文中の LOGLAB 文の LNG オペランドに、SLSBOX 文の PLSIZE オペランドの列数より短い値を指定している。
- (2) VARSLS 文に指定した LOGTBL 文の REPEAT オペランドに、SLSBOX 文の PLSIZE オペランドの行数 (リスト数) より小さい値を指定している。
- (S) 次のように対処します。

- (1) の場合、PLSIZE オペランドの列数を LOGLAB 文の LNG オペランドの数に合わせる。
- (2) の場合、PLSIZE オペランドの行数を LOGTBL 文の REPEAT オペランドの数が表示できる大きさに変更する。

(P) レイアウトを見直してください。

X3IX206-I

(位置) 出力フィールドの下位項目の長さを補正しました

出力専用の VARFLD 文の LOGFLD オペランドに指定した LOGFLD 文が混在 (CODE=N) で、2 以上の長さを指定した下位項目 (LEVEL=2 の LOGFLD 文) を指定しています。

- (S) 下位項目の長さを 1 にします。
- (P) インポート後、下位項目の長さを変更してください。

X3IX206-I

(位置) コンボボックスのボックスサイズを補正しました

混在項目で、OPMTXT 文の BOXLNG よりも、POPUP 文の SIZE オペランドでの列の長さの方が短くなっています。

- (S) OPMTXT 文の BOXLNG オペランドの値を、POPUP 文の SIZE オペランドでの列の長さを+2 に補正します。
- (P) レイアウトを見直してください。

X3IX206-I

(位置) ポップアップフィールドの AP が渡す項目の長さを補正しました

POPFLD 文の LOGFLD オペランドで指定した出力側の LOGFLD 文が混在 (CODE=K) で、LNG オペランドの値が、POPFLD 文の LNG オペランドの値と異なります。

- (S) LOGFLD 文の LNG オペランドの値を POPFLD 文の LNG オペランドの値に合わせます。
- (P) 論理マップの長さが変わるのでプログラムを変更してください。

X3IX206-I

(位置) ポップアップフィールドの AP が受け取る項目の長さを補正しました

POPFLD 文の LOGFLD オペランドで指定した入力側の LOGFLD 文が混在 (CODE=N) で、LNG オペランドの値が、POPFLD 文の LNG オペランドの値と異なります。

(S) LOGFLD 文の LNG オペランドの値を POPFLD 文の LNG オペランドの値に合わせます。

(P) 論理マップの長さが変わるのでプログラムを変更してください。

X3IX206-I

(位置) 出力テキストボックスの AP が渡す項目の長さを補正しました

OUTTXT 文の LOGFLD オペランドで指定した LOGFLD 文が混在 (CODE=N) で、LNG オペランドの値が、OUTTXT 文の BOXLNG オペランドの値と異なります。

(S) LOGFLD 文の LNG オペランドの値を OUTTXT 文の BOXLNG オペランドの値に合わせます。

(P) 論理マップの長さが変わるのでプログラムを変更してください。

X3IX206-I

(位置) 入出力フィールドの AP が渡す項目の長さを補正しました

入力、または入出力の VARFLD 文の LOGFLD オペランドで指定した出力側の LOGFLD 文が混在 (CODE=K) で、LNG オペランドの値が、VARFLD 文の LNG オペランドの値と異なります。

(S) LOGFLD 文の LNG オペランドの値を VARFLD 文の LNG オペランドの値に合わせます。

(P) 論理マップの長さが変わるのでプログラムを変更してください。

X3IX206-I

(位置) 入出力フィールドの AP が受け取る項目の長さを補正しました

入出力の VARFLD 文の LOGFLD オペランドで指定した入力側の LOGFLD 文が混在 (CODE=K) で、LNG オペランドの値が、VARFLD 文の LNG オペランドの値と異なります。

(S) LOGFLD 文の LNG オペランドの値を VARFLD 文の LNG オペランドの値に合わせます。

(P) 論理マップの長さが変わるのでプログラムを変更してください。

X3IX206-I

(位置) 入出力フィールドの下位項目の長さを補正しました

入出力の VARFLD 文の LOGFLD オペランドに指定した LOGFLD 文が混在 (CODE=N) で、2 以上の長さを指定した下位項目 (LEVEL=2 の LOGFLD 文) を指定しています。

(S) 下位項目の長さを 1 にします。

(P) インポート後、下位項目の長さを変更してください。

X3IX206-I

(位置) 出力フィールドの AP が渡す項目の長さを補正しました

出力専用の VARFLD 文の LOGFLD オペランドで指定した LOGFLD 文が混在 (CODE=N) で、LNG オペランドの値が、VARFLD 文の LNG オペランドの値と異なります。

(S) LOGFLD 文の LNG オペランドの値を VARFLD 文の LNG オペランドの値に合わせます。

(P) 論理マップの長さが変わるのでプログラムを変更してください。

X3IX206-I

(位置) フレームサイズを補正しました

フレーム領域がほかのオブジェクトと重なっていますが、フレームのサイズを補正することで回避しました。

(S) フレームの大きさを小さくします。

(P) ドローでフレームのサイズ、位置を調整して定義を変更してください。

X3IX207-I

(位置) [オブジェクト] の繰り返しを破棄しました

繰り返されたフレーム、出力フィールド、入出力フィールド、または可変バーコードが重なっています。次の原因が考えられます。

- (1) 繰り返されたフレームの二つ目以降の領域に、ほかのオブジェクトが重なっている。
 - (2) 繰り返された出力／入出力フィールドの二つ目以降が、フレーム領域と重なっている。
 - (3) 繰り返されたフレームの一つ目が、ほかのオブジェクトが重なっているが、中の出力／入出力フィールドの繰り返しを破棄し、フレームサイズを小さくすることで重なりが回避できた。
 - (4) 繰り返されたフレームの一つ目と二つ目が重なっている。
 - (5) 繰り返された出力フィールドの一つ目と二つ目が重なっている。
 - (6) 繰り返された可変バーコードの一つ目と二つ目が重なっている。
- (S) オブジェクトの繰り返しを破棄します。
- (P) 次の処理をしてください。

- 原因が (1), (2) および (3) の場合、ドロー上でフレームの位置、サイズを調整して定義を変更する。
- 原因が (4), (5) および (6) の場合、ドロー上で繰り返しを再定義する。

X3IX207-I

(位置) データ型が文字(XX)以外の項目(項目名)の下位項目を破棄しました

項目名で示す項目のデータ型に文字 (XX) 以外が指定されているため、下位項目を破棄します。

(S) 下位項目の記述文を無視し、処理を続行します。

(P) [オプション設定] ダイアログで [LNG オペランドのピクチャのパラメタが C 以外でかつ従論理項目を持つ項目を使用している(メインフレームのみ)] の指定を有効にしてから、インポートを再実行してください。

X3IX207-I

(位置) 論理項目(論理項目名)の動的変更を破棄しました

論理項目名で示す論理項目に動的変更が設定されていましたが、ドローセットアップの設定に従って、「動的変更なし」に変更します。

(S) 動的変更を破棄します。

(P) ドローセットアップの [表示属性の動的変更] ダイアログで、次に示す [適用オブジェクトグループ] の [設定する修飾名] ごとに、[修飾名の設定] ダイアログで動的変更の設定がすべて適用解除されていないかを確認してください。

- 数字系キーエントリ
- 日本語系キーエントリ
- カナ系キーエントリ
- 英数系キーエントリ

- ラベル

動的変更が破棄されて問題がある場合は、すべて適用解除されている「適用オブジェクトグループ」の「設定する修飾名」を一つ以上適用してから、インポートを再実行してください。

X3IX208-I

重複するデータ名があるため「論理マップを使用する」オプションを破棄しました

パネル定義文中、論理項目の指定で同じデータ名を使用しています。

(S) [オプション設定] ダイアログで指定した「論理セグメント文群の論理/制御項目順の論理マップを使用する (メインフレームのみ)」の指定を無効とします。

(P) 重複するデータ名を修正し、「データ名編集」で論理マップの展開順を並べ変えてください。

X3IX209-I

(位置) [オブジェクト] の空白入力禁止属性は引き継がれません

オブジェクトで示す項目は、次の条件を満たしています。XMAP3 の場合、この項目は、空白入力が禁止されません。

- 入出力の VARFLD 文で入力チェックに数字 (ATTR=NUM) を指定している。
- 上記に対応する LOGFLD 文の LNG オペランドで数字項目 (LNG=(x,9)) または数字編集項目 (LNG=(x,E)) を指定している

(S) 空白入力禁止属性を破棄して、処理を続行します。

(P) 空白入力を禁止したい場合は、次のどちらかの対処を実施してください。

- [オプション設定] ダイアログで [ATTR オペランドが NUM で LNG オペランドのピクチャのパラメータが 9 または E の項目を使用している (メインフレームのみ)] をチェックして、再度インポートしてください。
- ドローで空白入力を禁止に設定してください。

CUI 画面の場合は空白入力を禁止できないので、GUI 画面のマップ定義にコンバートしてから設定してください。

X3IX210-I

(位置) [オブジェクト] の空白入力禁止属性を引き継ぎましたが CUI 画面での空白入力は禁止されません

空白入力を禁止したい場合は GUI 画面のマップ定義にコンバートしてください

オブジェクトで示す項目は、次の条件を満たしています。XMAP3 の場合、この項目は、CUI 画面では空白入力が禁止されませんが、GUI 画面にコンバートすると空白入力が禁止されます。

- 入出力の VARFLD 文で入力チェックに数字 (ATTR=NUM) を指定している。
- 上記に対応する LOGFLD 文の LNG オペランドで数字項目 (LNG=(x,9)) または数字編集項目 (LNG=(x,E)) を指定している

(S) 空白入力禁止属性を引き継いで、処理を続行します。

(P) GUI 画面のマップ定義にコンバートしてください。

X3IX211-I

(位置) 論理項目(論理項目名)の出力項目名を入力項目名(入力項目名)に変更しました

論理項目名に示す論理項目の出力項目名と入力項目名が一致しません。

- (S) 出力項目の論理項目名を入力項目の論理項目名と同じ名称に変更します。
- (P) インポート後、ドローでマップ定義ファイルを調べ、変更された項目名によってプログラムに問題が起こらないことを確認してください。

X3IX212-I

(位置) 論理項目(論理項目名)の入力項目と出力項目で LNG オペランドのピクチャのパラメタが異なるためデータ型を合わせました

論理項目名で示す論理項目の入力項目と出力項目で、LNG オペランドのピクチャのパラメタが一致していません。

- (S) 入出力フィールドのデータ型を合わせました。
- (P) ドローの入出力フィールドで変更されたデータ型が妥当かどうかを確認し、入力できる文字や用途に応じてデータ型を変更してください。

X3IX213-I

論理項目(論理項目名)の NAME オペランドの名称をドローセットアップの値(データ名)に変更しました

パネル定義文中の論理項目名で示す論理項目の NAME オペランドの名称を、ドローセットアップで指定しているデータ名の値に変更します。

- (S) 論理項目名をドローセットアップのデータ名と同じ名称に変更します。
- (P) インポート後、ドローでマップ定義ファイルを調べ、変更された項目名によってプログラムに問題が起こらないことを確認してください。

(2) 書式記述文のインポートで出力されるメッセージ

書式記述文をインポートした場合に出力されるメッセージについて説明します。

X3IF201-I

[記述文名] : [オペランド名] のサブフィールド指定数に誤りがあります

記述文名で示す記述文の該当オペランド名で示すオペランドのサブフィールド指定数に誤りがあります。

- (S) この記述が SEGMENT 文の場合は、この記述文を含めて、以降に続く記述文中の SGEND 文までを無視し、処理を続行します。その他の記述文の場合は、この記述文を無視し、処理を続行します。
- (P) 該当オペランドのサブフィールド指定数を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF202-I

[記述文名] : [オペランド名] を指定していません

記述文名で示す記述文の、該当オペランド名で示すオペランドが指定されていません。

- (S) この記述が SEGMENT 文の場合は、この記述文を含めて、以降に続く記述文中の SGEND 文までを無視し、処理を続行します。その他の記述文の場合は、この記述文を無視し、処理を続行します。
- (P) 該当オペランドのサブフィールド指定数を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF203-I

[記述文名] : {ます目大 | X 長 | Y 長} に誤りがあります

記述文名で示す記述文で、ます目大、X 長、または Y 長の指定に誤りがあります。

- (S) この記述が FORMS 文の場合、標準値を仮定するため、結果は保証できません。
また、SEGMENT 文の場合、この記述文を含めて、以降に続く記述文中の SGEND 文までを無視し、処理を続行します。
- (P) この記述文のます目大、X 長、Y 長オペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF204-I

[記述文名]：名前フィールドに誤りがあります

記述文名で示す記述文の名前フィールドの指定に誤りがあります。

(S) この記述が FORMS 文の場合、書式オーバーレイファイル名として (E000) の 4 桁を仮定し、処理を続行します。SEGMENT 文の場合、この記述文を含めて、以降に続く記述文中の SGEND 文までを無視し、処理を続行します。その他の記述文の場合、この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文の名前フィールドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF205-I

[記述文名]：INCLUDE 文、SEGMENT 文、SGEND 文が対応していません

セグメントの指定が正しくありません。原因としては次のことが考えられます。

- INCLUDE 文、SEGMENT 文、SGEND 文の対応がとれていない
- INCLUDE 文の直後に、SEGMENT 文が指定されていない

(S) この記述が SGEND 文の場合、前の INCLUDE 文、およびこの記述文を無視し、処理を続行します。SEGMENT 文の場合、この記述文を含めて、以降に続く記述文中の SGEND 文までを無視し、処理を続行します。その他の記述文の場合、この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文と前後の記述文の関係を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF206-I

[記述文名]：標準 FORMS 文を仮定しました

記述文名で示す記述文の該当オペランド名で示すオペランドが指定されていません。

(S) この記述が SEGMENT 文の場合、この記述文を含めて、以降に続く記述文中の SGEND 文までを無視し、処理を続行します。その他の記述文の場合、この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) 該当オペランドのサブフィールド指定数を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF207-I

[記述文名]：{ます目大 | X 位置 | Y 位置 | X 長 | Y 長} が FORMS 文で指定した領域を超えています

記述文名に示す記述文で、ます目大、X 位置、Y 位置、X 長、または Y 長が定義書式長を超えています。

(S) SEGMENT 文を含めて、以降に続く記述文中の SGEND 文までを無視し、処理を続行します。その他の記述文の場合、この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) SEGMENT 文のます目大オペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF208-I

[記述文名]：{X 位置 | Y 位置 | 長さ | X 長 | Y 長 | 半径 | 線の太さ | 繰り返し指定} が FORMS/SEGMENT 文で指定した領域を超えています

記述文名に示す記述文の X 位置、Y 位置、長さ、X 長、Y 長、半径、線の太さ、または繰り返し指定に誤りがあります。また、インポート実行時に、XMAP3 の定義領域を超えました。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文の X 位置, Y 位置, 長さ, X 長, Y 長, 半径, 線の太さ, 繰り返し指定を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF209-I

[記述文名]: {線種別 | 長さ | X 長 | Y 長 | 線の太さ | 線の向き | 繰り返し向き | 繰り返し回数 | 半径 | 角度 | コーナ形式 | コーナ半径} に誤りがあります

記述文名に示す記述文のオペランドの指定に誤りがあります。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文のオペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF210-I

FRMEND: SEGMENT 文の入子に誤りがあります

SEGMENT 文と SGEND 文の指定数が一致しません。

(S) 指定数の誤りを無視し、処理を続行します。

(P) SEGMENT 記述文と, SGEND 記述文の各記述文指定数を調べ、不一致を直して再実行してください。

X3IF211-I

FORMS: LIST オペランドに誤りがあります

FORMS 文の LIST オペランドの指定に誤りがあります。

(S) この記述文の LIST オペランドを無視し、処理を続行します。

(P) この記述文の LIST オペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF213-I

FORMS: FORMS 文は既に指定してあります

書式記述文群の先頭に, FORMS 文が記述されていません。または, 一書式記述文群内に FORMS 文が 2 度以上現れました。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文の指定数, または指定位置を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF214-I

INCLUDE: SEGMENT 文の入子が 1 を超えています

セグメントのネストが, 許容値 (1) を超えています。

(S) この記述文で入力したセグメントの終了である SGEND 文までを無視し、処理を続行します。

(P) 記述文のネストを調べ、ネストを 1 以下にし、再実行してください。

X3IF215-I

INCLUDE: セグメント名に誤りがあります

INCLUDE 文のセグメント名に誤りがあります。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文のセグメント名で示すオペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF217-I

SEGMENT : セグメント名が INCLUDE 文と一致していません

SEGMENT 文の名前で指定しているセグメント名と、前の INCLUDE 文で指定しているセグメント名が一致しません。

(S) この記述文を含めて、以降に続く記述文中の SGEND 文まで無視し、処理を続行します。

(P) この記述文の名前を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF219-I

SGEND : セグメント名に誤りがあります

SGEND 文のセグメント名に誤りがあります。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文のセグメント名で示すオペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF220-I

SGEND : SGEND 文に対応する SEGMENT 文がありません

SGEND 文に指定したセグメント名に対応する SEGMENT 文が存在しません。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文のセグメント名で示すオペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF221-I

SGEND : [セグメント名] SGEND 文を仮定しました

SGEND 文で指定されているセグメント名のネストが、現在処理中であるセグメントのネストに一致しません。

(S) セグメント名で示す SGEND 文を仮定し、処理を続行します。

(P) 仮定された SGEND 文を調べ、セグメントの指定を直して再実行してください。

X3IF222-I

SGEND : エラーが発生したため {この |セグメント名} セグメントを無視しました

このメッセージの前に表示されているエラーのため、セグメント名、または、この (セグメント名が不明) で指定されたセグメントの一部または全部を無視しました。このセグメントの結果は保証できません。

(S) 次の記述文の処理を実行します。

(P) エラーの内容を解析し、誤りを直して再実行してください。

X3IF226-I

GRAPHIC : GRAPHIC 文が 384 を超えています

384 を超える相違なドットデータ名指定の GRAPHIC 文を指定しています。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) 無視された GRAPHIC 文を調べ、相違なドットデータ名指定の GRAPHIC 文を 384 以下にして、再実行してください。

X3IF227-I

GRAPHIC：ドットデータ名に誤りがあります

GRAPHIC 文のドットデータ名に誤りがあります。

- (S) この記述文を無視し処理を続行します。
- (P) この記述文のドットデータ名で示すオペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF229-I

GRAPHIC：必要なオペランドを指定していません

GRAPHIC 文に、必須オペランドが指定されていません。

- (S) この記述文を無視し、処理を続行します。
- (P) この記述文の必須オペランドを調べ、必須オペランドを記入して再実行してください。

X3IF230-I

DOT：DOT 文と GRAPHIC 文が対応していません

DOT 文のドットデータ名に誤りがあります。

- (S) この記述文を無視し、処理を続行します。
- (P) この記述文の名前オペランドまたは記述順序を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF231-I

DOT：{X 位置 | Y 位置 | ドット列} が GRAPHIC 文の領域を超えています

DOT 文の X 位置, Y 位置が GRAPHIC 文で定義したドットパターン領域を超えています。

- (S) この記述文を無視し、処理を続行します。
- (P) この記述文の X 位置, Y 位置またはドット列を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF232-I

[記述文名]：{X 長 | Y 長 | ドット列 | 図形変換種別 | 繰り返し回数 | 網掛け種別 | 繰り返し向き | コーナ形式 | コーナ半径} に誤りがあります

記述文名に示す記述文の次の指定に誤りがあります。

- X 長または Y 長
- ドット列
- 図形変換種別
- 繰り返し回数
- コーナ形式またはコーナ半径

- (S) この記述文を無視し、処理を続行します。
- (P) この記述文のオペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF233-I

DOT：ドット列をアポストロフィで囲んでいません

DOT 文で、ドット列がアポストロフィで囲まれていません。または、ドット列が 255 を超えて指定されています。

- (S) この記述文を無視し、処理を続行します。
- (P) この記述文のドット列オペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF234-I

[記述文名]：{X 位置 | Y 位置 | X 長 | Y 長 | 文字数 | 繰り返し指定} が FORMS/SEGMENT 文で指定した領域を超えています

記述文名に示す記述文の X 位置, Y 位置, X 長, Y 長, 文字数, 繰り返し指定に誤りがあります。また、インポート実行時に、XMAP3 の定義領域を超えました。

- (S) この記述文を無視し、処理を続行します。
- (P) この記述文の X 位置, Y 位置, X 長, Y 長, 文字数, 繰り返し指定を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF236-I

[記述文名]：文字データ名に誤りがあります

記述文名で示す記述文で、文字データ名で示すオペランドの指定に誤りがあります。

- (S) この記述文を無視し、処理を続行します。
- (P) この記述文の文字データ名で示すオペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF237-I

[記述文名]：文字符号の数が 50 を超えています

NXCODE 文で、文字符号の指定数が 51 以上です。

- (S) この記述文を無視し、処理を続行します。
- (P) この記述文の文字符号の指定数を 50 以下にして、再実行してください。

X3IF238-I

[記述文名]：CODE オペランドの [n] 番目のパラメタに誤りがあります

NXCODE 文の n 番目の文字符号に誤りがあります。または、文字符号の指定数が 51 以上です。

- (S) 文字符号が不当なものを含め、以降に続く全文字符号を無視し、処理を続行します。
- (P) この記述文の n 番目の文字符号を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF239-I

[記述文名]：線の太さが {X 長 | Y 長 | 半径} を超えています

記述文名で示す記述文で、線の太さ指定に誤りがあります。

- (S) この記述文を無視し、処理を続行します。
- (P) この記述文の文字データ名で示すオペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF240-I

[記述文名]：ます目大の指定値が {X 長 | Y 長} を超えています

記述文名で示す記述文で、ます目大オペランドで指定された 1 列ドット数または 1 行ドット数が X 長または Y 長オペランドで指定した長さを超えています。

- (S) この記述文の指定が正しいものとして、処理を続行します。

X3IF241-I

[記述文名]：CODE 文が 384 を超えています

異なる文字データ名数が 384 を超えています。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文を調べ、異なる文字データ名の各種 CODE 文の総数を 384 以下にして、再実行してください。

X3IF242-I

[記述文名]：GRAPHIC 文と CODE 文が 384 を超えています

異なるドットデータ名の GRAPHIC 文と、異なる文字データ名の各種 CODE 文の合計数が 384 を超えています。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文を調べ、記述文の合計数が 384 以下になるようにして、再実行してください。

X3IF248-I

[記述文名]：CODE 文の文字列が {ADJUST | LAY} 文で指定した領域を超えています

この記述文に指定した文字が、配置指定領域に収まりません。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文の X 長、Y 長、横ボディサイズ、縦ボディサイズ、文字数、文字並びオペランドの関係を調べ、配置指定領域に収まるように直して再実行してください。

X3IF249-I

GRAPHIC：{X 位置 | Y 位置 | X 長 | Y 長 | 繰り返し指定} が FORMS/SEGMENT 文で指定した領域を超えています

GRAPHIC 文の X 位置、Y 位置、X 長、Y 長または繰り返し指定に誤りがあります。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文の繰り返し回数または繰り返し間隔オペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF251-I

[記述文名]：{X 長 | Y 長 | 文字列 | 文字属性 | 文字属性 1 | 文字属性 2 | 文字サイズ | 文字並び | 繰り返し向き | ボディサイズ | 文字数 | 繰り返し回数 | 種別} に誤りがあります

記述文名で示す記述文で、X 長、Y 長、文字列、文字属性、文字属性 1/2、文字サイズ、文字並び、繰り返し向き、ボディサイズ、文字数、繰り返し回数または種別に誤りがあります。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文の文字列オペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF252-I

[記述文名]：文字列をアポストロフィで囲んでいません

記述文名で示す記述文で、文字列がアポストロフィで囲まれていません。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文の文字列オペランドを調べ、文字列をアポストロフィで囲んで再実行してください。

X3IF254-I

GRAPHIC：{網掛け種別 | X 長, Y 長}, 図形変換種別が対応していません

GRAPHIC 文で, X 長, Y 長, 図形変換種別との関係に誤りがあります。

(S) この記述文を無視し, 処理を続行します。

(P) 図形変換種別オペランド, ドットパターン領域の指定を調べ, 誤りを直して再実行してください。

X3IF257-I

BOX：コーナ半径が {X 長 | Y 長} を超えています

BOX 文のコーナ半径が X 長または Y 長を超えています。

コーナ半径は, 「コーナ半径 \times 2 < X 長または Y 長」の式で決まります。

(S) この記述文を無視し, 処理を続行します。

(P) この記述文の X 長, Y 長とコーナ半径を調べ, 誤りを直して再実行してください。

X3IF264-I

CHSIZE：CHSIZE 文が 32 を超えています

一書式内に, 32 枚を超える CHSIZE 文を指定しています。

(S) この記述文を無視し, 処理を続行します。

(P) 無視された CHSIZE 文を調べ, CHSIZE 文を 32 以下にして再実行してください。

X3IF266-I

[記述文名]：記述文の位置に誤りがあります

記述文名で示す記述文が, 記述文群中の不当な位置に置かれています。

(S) この記述文を無視し, 処理を続行します。

(P) この記述文の位置を調べ, 適切な位置に配置し直して再実行してください。

X3IF270-I

GRAPHIC：コーナ半径が {X 長 | Y 長} を超えています

GRAPHIC 文のコーナ半径が, X 長または Y 長を超えています。

コーナ半径は, 「コーナ半径 \times 2 < X 長または Y 長」の式で決まります。

(S) この記述文を無視し, 処理を続行します。

(P) この記述文の X 長, Y 長とコーナ半径を調べ, 誤りを直して再実行してください。

X3IF280-I

記述文の形式に誤りがあります

記述文に構文エラーがあります。

(S) この記述文を無視し, 処理を続行します。

(P) この記述文を調べ, 誤りを直して再実行してください。

X3IF281-I

[記述文名] は指定できません

記述文名で示す記述文は、書式オーバーレイの記述文ではありません。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF282-I

[セグメント名] セグメントが見つかりません

セグメント名で示す部品（セグメント）が部品ファイルに存在しません。

(S) このセグメントを無視し、処理を続行します。

(P) 部品ファイルを調べ、該当する部品が存在するかどうかを確認してください。

X3IF283-I

[記述文名] 継続欄に誤りがあります

継続カードの指定に誤りがあります。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) 継続カードを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF284-I

[記述文名] : [オペランド名] オペランドのパラメタに誤りがあります

記述文名で示す記述文のオペランド名で示すオペランドに不当なパラメタが指定されています。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) 該当オペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF285-I

[記述文名] : [オペランド名] オペランドの区切りに誤りがあります

記述文名で示す記述文のオペランド名で示すオペランドに不当なパラメタが指定されています。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) 該当オペランドを調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF286-I

[記述文名] : [オペランド名] オペランドの括弧のつり合いがとれていません

記述文名で示す記述文の該当オペランドで示すオペランドの左括弧と右括弧の数が一致しません。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF287-I

[記述文名] : [カラム番号] カラムに不当な文字があります

記述文名で示す記述文のカラム番号で示すカラムに不当な文字があります。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF288-I

[記述文名]: [キーワード] キーワードが重複しています

処理中の記述文で、キーワード名で示すキーワードが重複指定されました。

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF309-I

記述文がありません

記述文が何も指定されていません。

(S) インポート処理を中止します。

(P) この記述文を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF349-I

実行するための記憶領域が不足しました

書式記述文を実行するために必要な作業領域が不足しました。

(S) インポート処理を中止します。

(P) 使用できる記憶領域を拡大して再実行してください。

X3IF501-I

[記述文名]: 文字属性名が見つかりません。書体=書体, ポイント=ポイントを仮定します

記述文名に示す記述文に指定した文字属性が関連づけられていないため、プログラムで仮定します。書体、ポイント、拡大は、このプログラムで仮定した値を出力します。

(S) 記述文的にはエラーではありませんが、仮定した値で変換します。

X3IF502-I

FORMS 文で指定したます目の大きさまたは書式の大きさを {縦ます目サイズ:n | 横ます目サイズ:n | X長:n | Y長:n} に変更しました

FORMS 文で指定したます目の大きさ、または書式の大きさの値はそのまま変換できないため、n で示す値に変更しました。

(S) この記述文の指定が正しいものとして、処理を続行します。

X3IF503-I

[記述文名]: ECODE 文と NCODE 文に同じ文字データ名は指定できません

記述文名に示す文字データ名は、すでに他の記述文で指定しているため、指定できません。

- ECODE 文の文字データ名がすでに NCODE 文で指定されている
- NCODE 文の文字データ名がすでに ECODE 文で指定されている

(S) この記述文を無視し、処理を続行します。

(P) この記述文を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF504-I

FORMS：書式名 2 の先頭が数字または書式名に@, #または¥が含まれています

FORMS 文の書式名に、Windows で使用できない文字が指定されました。

- (S) インポート処理を中止します。
- (P) この記述文の書式名を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF505-I

文字列が定義領域を超えたため削除しました

文字列が定義領域に収まりません。

- (S) 指定した文字列がすべて収まらない場合は、文字列を無視して処理を続行します。
- (P) この記述文を調べ、誤りを直して再実行してください。

X3IF506-I

文字パターン情報の文字列定義として作成する文字データ名が n 個となり、384 個を超えてしまいます

この定義内容では、文字データ名が 384 個の制限を超えてしまうため、書式生成時にエラーになります。

- (S) この記述文の指定が正しいものとして、処理を続行します。
- (P) データ名の数を減らすように、ドローで修正してください。

5.3 コンバート実行時のエラーメッセージ

コンバート実行時に出力されるエラーメッセージの出力先、出力形式、およびメッセージの一覧について説明します。

5.3.1 メッセージの出力先（コンバート）

コンバート実行時のエラーメッセージ、および変換内容の出力先ファイル、ならびに内容の確認方法について説明します。

(1) 出力先ファイル

コンバート実行時のエラーメッセージ、および変換内容は、コンバートの処理結果ファイルに出力されます。コンバートの処理結果ファイルは、各種変換のダイアログで「変換ファイル、メッセージファイルの出力」に指定したフォルダの下に作成されます。コンバートの種別ごとに、次に示すファイル名で出力されます。

表 5-2 処理結果ファイルの出力ファイル名

項番	コンバートの種別	出力ファイル名
1	けい線帳票から網掛け帳票	x3ucsp01.txt*
2	けい線帳票からプレプリント帳票	x3ucir01.txt*
3	網掛け帳票からグラフィック帳票	x3ucpg01.txt*
4	グラフィック帳票から書式オーバーレイ	x3ucgo01.txt*
5	書式オーバーレイからグラフィック帳票	x3ucog01.txt*
6	CUI 画面から GUI 画面	x3uccg01.txt*
7	COBOL 言語から C 言語	x3ucco01.txt
8	C 言語から COBOL 言語	x3uccl01.txt

注※

[オプション設定] ダイアログで「変換内容をメッセージファイルに出力する」をチェックしている場合、これらのファイルには、変換元ファイルの変換の開始を示すメッセージと、コンバートの変換内容も出力されます。

(2) ファイル内容の確認方法

処理結果ファイルの内容は、テキストエディタで直接ファイルを開いて確認します。

5.3.2 メッセージの出力形式（コンバート）

コンバートで出力されるメッセージの出力形式とメッセージ一覧の記述形式について説明します。

(1) メッセージの出力形式

コンバートで出力されるエラーメッセージの出力形式を次に示します。

形式

- 処理結果の場合

変換前ファイル名：メッセージテキスト 1
 :メッセージテキスト 2

- 変換内容の場合

変換前ファイル名：メッセージテキスト 3
 または
 メッセージテキスト 3

形式の説明

- 変換前ファイル名：コンバートの対象になったファイル名です。
- メッセージテキスト 1：コンバートの処理結果です。
- メッセージテキスト 2：エラーが発生した場合のエラー原因です。
- メッセージテキスト 3：コンバートの変換内容です。

(2) メッセージの記述形式

メッセージの記述形式を次に示します。

メッセージテキスト

出力されるメッセージテキストに対する補足説明（必要に応じて記述）

- (S) メッセージを出力したあとの主な処理を示します。
- (P) メッセージを受け取ったプログラムが実施する処置を示します。

5.3.3 メッセージ一覧（コンバート）

コンバートで出力されるメッセージと対処方法を示します。

(1) 処理結果に関するメッセージ

コンバート実行時の処理結果に関するメッセージを次に示します。

[変換前ファイル名] を [変換後ファイル名] に変換しました。

- (S) 変換が正しく行われたため、次のファイルの変換処理を行います。

[変換前ファイル名]：エラーが発生したため当該ファイルの変換を終了します。

：変換先ファイルを作成できません。

- (S) 変換先へのファイル出力でエラーとなったため、変換処理を終了します。
- (P) 変換先フォルダのアクセス権は妥当かを確認し、再実行してください。

[変換前ファイル名]：エラーが発生したため当該ファイルの変換を終了します。

：ファイルの書き込みが失敗しました。

(S) ファイルの変換処理中にメモリ不足などのエラーが発生したため、変換処理を終了し、次のファイルの変換処理を行います。

(P) ほかのアプリケーションを終了させ、再実行してください。

[変換前ファイル名]：エラーが発生したため当該ファイルの変換を終了します。

：ファイルの読み出しが失敗しました。

(S) ファイルの解析処理中にメモリ不足などのエラーが発生したため、変換処理を終了し、次のファイルの変換処理を行います。

(P) ほかのアプリケーションを終了させ、再実行してください。

[変換前ファイル名]：エラーが発生したため当該ファイルの変換を終了します。

：変換する入力ファイルがオープンできません。

(S) 変換前ファイルの入力でエラーとなったため、変換処理を終了し、次のファイルの変換処理を行います。

(P) 変換前ファイルがマップ定義ファイルか、ファイルのアクセス権は妥当かを確認し、再実行してください。

[変換前ファイル名]：エラーが発生したため当該ファイルの変換を終了します。

：変換対象外のファイルが指定されました。

(S) 変換前ファイルが、コンバータの入力となる定義対象ではないため、変換処理を終了し、次のファイルの変換を行います。

(P) 正しいマップ定義ファイルを指定し、再実行してください。

[変換前ファイル名]：エラーが発生したため当該ファイルの変換を終了します。

：現在の「マップ名の長さ」設定と、作成時の設定値が異なるファイルが指定されました。

(S) 変換前ファイルが、現在のドロースettingsアップで指定している「マップ名の長さ」と異なるため、変換処理を終了し、次のファイルの変換を行います。

(P) ドロースettingsアップの「マップ名の長さ」を変更するか、正しいマップ定義ファイルを指定し、再実行してください。

(2) 変換内容に関するメッセージ

コンバートでの変換内容に関するメッセージを次に示します。ここで説明するメッセージは、[オプション設定] ダイアログで「変換内容をメッセージファイルに出力する」をチェックしている場合に出力されません。

[変換前ファイル名]：変換を開始します。

(S) ファイルの変換処理を開始します。

(P) 対処はありません。

上オフセットと左オフセットは各オブジェクトに反映されました。

グラフィック帳票から書式オーバーレイへの変換時に、グラフィック帳票で上オフセットおよび左オフセットに0より大きな値が設定されています。

(S) 書式オーバーレイのオブジェクト位置を、グラフィック帳票の上オフセットと左オフセットが反映された位置に変更します。

(P) グラフィック帳票の上オフセットと左オフセットを各オブジェクトに反映させたくない場合、変換元のグラフィック帳票の上オフセットと左オフセットを0に変更してから、再実行してください。

ます目設定を [変換前のます目設定] から [変換後のます目設定] へ変更しました。

けい線帳票からプレプリント帳票への変換時に、けい線帳票のます目設定に「15CPI/8LPI」または「自由な設定」が設定されています。

けい線帳票から網掛け帳票への変換時に、けい線帳票のます目設定に「15CPI/6LPI」または「15CPI/8LPI」が設定されています。

(S) ます目設定を変更します。変換後の設定値については、「3.3 定義内容の変換規則」を参照してください。

(P) ドローでます目設定を再定義してください。

給紙サイズを「フリー」にしました。

(S) けい線帳票から網掛け帳票への変換時に、網掛け帳票の給紙サイズに「フリー」を設定します。

(P) ドローで給紙サイズを再定義してください。

印刷部数を「1」にしました。

(S) けい線帳票から網掛け帳票への変換時に、網掛け帳票の印刷部数に「1」を設定します。

(P) ドローで印刷部数を再定義してください。

印刷部数を削除しました。

グラフィック帳票から書式オーバーレイへの変換時に、グラフィック帳票の印刷部数に「2」以上が設定されています。

(S) グラフィック帳票の印刷部数を削除します。

(P) 次に示すどちらかの対処をしてください。

- 印刷処理を複数回実行する
- 環境変数「XMAP3_COPIES」で印刷枚数を指定する

ウィンドウ背景色を「グレー」に変更しました。

- (S) CUI 画面から GUI 画面への変換時に、GUI 画面のウィンドウ背景色に「グレー」を設定します。
- (P) ドローでウィンドウ背景色を再定義してください。

けい線の色を「黒」に変更しました。

- (S) CUI 画面から GUI 画面への変換時に、GUI 画面のフィールドボックスのけい線の色に「黒」を設定します。
- (P) ドローでフィールドボックスのけい線の色を再定義してください。

けい線の配置方法を「ます目の中央」に変更しました。

- けい線帳票から網掛け帳票への変換時に、けい線帳票のけい線の配置方法に「ます目に沿って引く」が選択されています。
- (S) 網掛け帳票のけい線の配置方法に「ます目の中央」を設定します。
 - (P) ドローでけい線位置を再定義してください。

印刷動作を削除しました。

- (S) けい線帳票（連続紙）から網掛け帳票への変換時に、けい線帳票（連続紙）の印刷動作を削除します。
- (P) 対処はありません。

排出先を削除しました。

- (S) けい線帳票（カット紙）から網掛け帳票への変換時に、けい線帳票（カット紙）の排出先を削除します。
- (P) 対処はありません。

([行位置] , [列位置])の [オブジェクト] を削除しました。

次の場合に、変換後の帳票定義で配置できない種類のオブジェクトが存在します。

- けい線帳票からプレプリント帳票への変換時
- けい線帳票から網掛け帳票への変換時
- グラフィック帳票から書式オーバーレイへの変換時

(S) それぞれの変換時に次に示す処理をします。

けい線帳票からプレプリント帳票への変換時
次に示すオブジェクトを削除します。

- けい線
- 固定フィールド

- プレプリント帳票の横最大サイズを越える出力フィールド、出力 OCR、フレーム
けい線帳票から網掛け帳票への変換時

次の条件を満たすけい線を削除します。

- けい線帳票のけい線の配置方法に「ます目に沿って引く」を設定している
- 配置されたけい線の位置をます目の中央へ変換すると、他オブジェクトと重なる

グラフィック帳票から書式オーバーレイへの変換時

次に示すオブジェクトを削除します。

- 出力フィールド
- 出力日付フィールド
- 出力時刻フィールド
- 予約フィールド
- 出力 OCR
- 固定バーコード
- 出力バーコード
- 連結出力バーコード
- 出力グラフィック

(P) 次の対処をしてください。

けい線帳票からプレプリント帳票への変換時

けい線帳票の出力フィールド、出力 OCR、またはフレームを、プレプリント帳票の横最大サイズを越えない位置に配置してから、再実行してください。

けい線帳票から網掛け帳票への変換時

ドローでけい線を再定義してください。

グラフィック帳票から書式オーバーレイへの変換時

対処はありません。

([行位置] , [列位置])のオブジェクト位置を変更しました。

けい線帳票からプレプリント帳票への変換時に、プレプリント帳票で配置できない位置にオブジェクトが存在します。

(S) けい線帳票の行の間隔が「8LPI」の場合、帳票の1行目および最終行に配置された出力フィールドの位置を内側に補正します。

([行位置] , [列位置])のオブジェクト属性を [変更後のオブジェクト属性] に変更しました。

次の場合に、変換後の帳票定義で設定できないオブジェクト属性が設定されています。

- けい線帳票からプレプリント帳票への変換時
- グラフィック帳票から書式オーバーレイへの変換時

(S) それぞれの変換時に次に示す処理をします。

けい線帳票からプレプリント帳票への変換時

- 出力フィールドの文字の拡大属性を「標準」に変更します。

グラフィック帳票から書式オーバーレイへの変換時

- 固定フィールドの文字色をなしに変更します。
- けい線の動的変更をなしに変更します。
- けい線の線の種類で「見えない線」を「実線」に変更します。

(P) 対処はありません。

([行位置], [列位置])のオブジェクト種別を [変更後のオブジェクト種別] に変更しました。

けい線帳票から網掛け帳票への変換時に、網掛け帳票で指定できないオブジェクト種別が存在します。

(S) けい線帳票の出力 OCR を、使用目的が「英数」の出力フィールドに変更します。

(P) 対処はありません。

([行位置], [列位置])のオブジェクトをフレーム外に移動しました。

けい線帳票からプレプリント帳票への変換時に、プレプリント帳票で配置できないフレーム内の位置にオブジェクトが存在します。

(S) けい線帳票の行の間隔が「8LPI」の場合、次に示すオブジェクトがフレーム内の1行目および最終行に配置されているときは、フレーム外へ移動します。

- 出力フィールド
- 出力 OCR

(P) ドローでフレームのサイズを変更してから、フレーム外に移動されたオブジェクトをフレーム内に移動してください。

付録

付録 A XMAP3 の用語の違い

メインフレームや UNIX で作成するパネル定義文や書式記述文の用語は、Windows の XMAP3 と一部の意味が異なります。用語の違いのうち主なものを次の表に示します。なお、UNIX で作成するパネル定義文の用語は、インポートの変換範囲の SEWB3 で定義できる用語を記載しています。

表 A-1 XMAP3 の用語の違い

項番	メインフレームでの用語		UNIX での用語		Windows の XMAP3	
1	固定項目		定数フィールド		固定フィールド	
2	可変項目 (出力項目)		出力フィールド		出力フィールド	
3	可変項目 (入力項目)		入力フィールド		入出力フィールド	
4	可変項目 (入出力項目)		入出力フィールド		入出力フィールド	
5	予約項目		予約フィールド		予約フィールド	
6	囲みけい線		矩形		矩形	
7	角の丸め		コーナ形式		ラウンドコーナ	
8	字間値		字間値		文字の間隔	
9	インタラプトコード		INC 定数		イベント通知コード	
10	トランザクションコード		トランザクションコード		隠しフィールド	
11	パネル制御情報		パネル制御情報		論理マップ制御	
12	ヌルデータ変換文字		ヌルデータ変換文字		データ消去通知文字	
13	コードエラー通知文字		コードエラー通知文字		エラー通知文字	
14	表示動作	ERASE	表示動作	画面消去	表示形態	全面書換
15		WRITE		画面重ね書き		一部上書
16		ERWRT		システムにまかせる		自動
17	入力フィールド	RESTF	転送リセット	リセットする	入力フィールドの扱い	入力データを AP に返す
18		ERUNP		データ消去		入力データを消去する
19		IGNRTF		リセットしない		入力データを変更しない
20	DFC		DFC		表示属性	
21	論理チェック	SKIP (自動スキップ)	入力論理チェック	自動スキップ	遷移条件	自動スキップ
22		OVF (桁あふれチェック)		けたあふれチェック		手動スキップ
23		MFILL (全桁入力)		全けた入力		手動・全桁必須

項番	メインフレームでの用語		UNIX での用語		Windows の XMAP3	
24		RJUST (右寄せ)		右寄せ		手動・右寄せ
25	転送		転送		入力済み	
26	自動入力		自動入力		自動送信	
27	ベル (プリンタ)		ベル		アラーム	
28	非表示		非表示		文字だけ非表示	
29	リバース		反転表示		反転表示	
30	入力チェック	PROT (保護)	入力チェック	保護フィールド	表示方法と 使用目的	入力不可
31		NUM (数字または数値)		数字フィールド		数字
32		CHAR (文字記号)		英数フィールド		日本語
33		KANA (かたかな)		片仮名フィールド		カナ
34		ALPH (英数 (チェック有))		英数仮名専用フィールド		英数
35		KEIS (漢字 (チェック有))		漢字専用フィールド		日本語
36	従論理項目		従論理項目		下位項目	
37	省略時仮定値		-		初期値	
38	初期値		-		-	
39	論理項目	混在項目	タイプが「混在」		使用目的が「日本語」でデータ型が「文字」	
40		共用項目	タイプが「漢字」		使用目的が「日本語」でデータ型が「漢字」	
41		多目的コード	タイプが「多目的」		-	
42	論理項目名		データ名		データ名	
43	デリミタ線		-		-*	
44	次表示マップ		次画面		次画面	

(凡例)

- : Windows の XMAP3 では、該当する機能または概念が存在しない。

注※

Windows の XMAP3 でのデリミタ線はけい線の並びです。CNSFLD 文や VARFLD 文の DLM オペランドではありません。

付録 B インポートで変換できる機能範囲

XMAP3 開発支援ユーティリティのインポートを実行すると、パネル定義文および書式記述文を Windows で利用できる形式に変換できます。ただし、変換できる範囲には制限があります。ここでは、インポートで変換できる機能範囲について説明します。

付録 B.1 パネル定義文のインポートで変換できる機能範囲

インポートでパネル定義文を Windows 上に取り込むときに、変換できる機能範囲を画面・帳票の種類別に説明します。

(1) GUI 画面のパネル定義文

UNIX から転送した GUI 画面のパネル定義文の変換できる範囲は、SEWB3 で定義できる範囲です。インポートでは、「XDSP,M1」のデバイスを GUI 画面に変換します。

インポートで GUI 画面を取り込むときに変換できる範囲を次の表に示します。なお、メインフレームには GUI 画面のパネル定義文がないため、該当しません。

表 B-1 GUI 画面のパネル定義文の変換できる範囲

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
1	パネル定義	PANEL	LANG	○	COBOL または C
			NEXT	○	—
			USAGE	○	MAIN または SUB
			PART	×	—
		PNLEND	○	—	
2	記号パラメタ定義	CNTRL	PARM	○	—
		MODCTL	PARM	×	ドロースettingsアップで指定
		ATTR	PARM	○	個々の項目属性になる
		MODATTR	PARM	×	ドロースettingsアップで指定
3	論理マップ定義	LOGSEG	REDEF	○	—
			CLEAR	×	ドロースettingsアップで指定
			CODERR	×	
			LITRL	×	
			GENRT	×	
			AREA	×	
		LOGSEND	○	—	
4	トランザクションフィールド (隠しフィールド)	LOGFLD	TYPE	×	入力だけ
			LNG	×	データ長は「9」固定

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
			NAME	○	INTXT 文に「POS=DUMMY」がある場合、最初の INTXT 文の指定だけ変換
			VAL	○	
5	パネル制御	CTLFLD	TYPE=CNTRL	○	パネル制御動的变化情報 (MODCTL 文) がある場合に「動的変更あり」で変換する
			LNG	×	ドローセットアップで指定
			NAME	×	
6	カーソル制御	CTLFLD	TYPE	×	ドローセットアップで指定
			LNG	×	
			NAME	×	
7	フォーカス制御	CTLFLD	TYPE	×	ドローセットアップで指定
			LNG	×	
			NAME	×	
8	ウィンドウの位置制御	CTLFLD	TYPE=WINPOS	○	ウィンドウの位置制御情報 (MODPOS 文) がある場合に「動的変更あり」で変換する
			LNG	×	ドローセットアップで指定
			NAME	×	
9	INC 制御	CTLFLD	TYPE	×	ドローセットアップで指定
			LNG	×	
			NAME	×	
			FILL	×	
			JUST	×	
10	メニューバーの部品化制御	CTLFLD	TYPE	×	-
			LNG	×	
			NAME	×	
11	動的变化 (フィールド/テキスト/ 可変ラジオボタン/チェック ボタン/リスト項目)	CTLFLD	TYPE	○	項目属性变化情報 (MOATTR 文) がある場合に「動的変更あり」で変換する
			LNG	×	ドローセットアップで指定
			NAME	×	LOGFLD 文の NAME オペランドに指定した名称、または LOGFLD 文の名称に置き換えられる (入力、および出力の場合は入力の LOGFLD

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
					文, 出力専用の場合は出力の LOGFLD 文)
			REPEAT	○	—
12	動的変更 (プッシュボタン / 固定ラジオボタン / メニュー)	CTLFLD	TYPE	○	項目属性変更情報 (MOATTR 文) がある場合に「動的変更あり」で変換する
			LNG	×	ドロースettingsアップで指定
			NAME	○	—
13	論理フレーム	LOGFRM	NAME	○	—
			REPEAT	○	—
		LOGFEND		○	—
14	主論理フィールド / テキスト	LOGFLD	LNG	○	—
			NAME	○	—
			PIC	○	—
			TYPE	○	—
			CODE	○	多目的コード「CODE=X」の場合, 対応するフィールド / テキストは変換しない
			JUST	○	—
			FILL	○	—
			VAL	○	—
			REPEAT	○	—
			LEVEL=1	○	—
15	従論理フィールド / テキスト	LOGFLD	LNG	○	繰り返し回数「REPEAT」がある場合, 項目長「LNG」×繰り返し回数「REPEAT」で変換する ただし, 主論理フィールドが CODE=N の場合, 長さは「1」となる
			LEVEL = 2	○	—
			NAME	○	—
			PIC	×	—
			REPEAT	×	—
16	論理項目	LOGFLD	LNG	○	—
			NAME	○	—

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
	(ラジオボタン/チェック ボタン/リスト項目)		PIC	○	—
			TYPE	○	—
			CODE	○	—
			JUST	○	—
			FILL	○	—
			VAL	×	—
			REPEAT	○	—
			LEVEL=1	○	—
17	論理テーブル (ラジオボタン/チェック ボタン/リスト項目/ポッ プアップ)	LOGTBL	REPEAT	○	—
			NAME	○	—
		LOGTEND		○	—
18	論理コード項目 (ラジオボタン/チェック ボタン/リスト項目/ポッ プアップ)	LOGCOD	LNG	○	—
			NAME	○	—
			PIC	○	—
			CODE	○	—
			JUST	○	—
			FILL	○	—
19	論理ラベル項目 (ラジオボタン/チェック ボタン/リスト項目/ポッ プアップ)	LOGLAB	LNG	○	—
			NAME	○	—
			PIC	○	—
			CODE	○	—
			JUST	○	—
			FILL	○	—
20	物理マップ定義	PHSEG	DEV	○	UNIX の場合, 「XDSP,M1」 固定
			PHPNL	×	—
			CURS	○	—
			INC	×	ドローセットアップで指定
			CNTRL	○	印字「PRINT」, およびプリン タ制御文字「PRCTL」は変換 しない
			MODCTL	×	ドローセットアップで指定
			NULL	×	ドローセットアップで指定

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
			POS	○	—
			SIZE	○	—
			FORM	○	—
			FOCUS	○	—
		PHSEND		○	—
21	ウィンドウ	WINDOW	POS	○	—
			CTLFLD	○	—
			MODPOS	×	ドローセットアップで指定
			SIZE	○	—
22	ボード	BOARD	SIZE	○	—
			CSCF	○	—
			TITLE	○	—
			BRDATTR	○	—
23	メニューグループ	MNUGRP		○	—
			PART	×	—
			CTLFLD	×	—
		MNUGEND		○	—
24	メニューバー	MNUBAR	BOXATTR	○	—
		MNUBEND		○	—
25	メニューテキスト	MNUTXT	LAB	○	—
			INC	○	—
			MNULST	○	—
			LABATTR	○	—
			MNE	○	—
			ACL	○	—
			POS	○	—
			LSATTR	○	—
			CTLFLD	○	—
			MODLS	×	ドローセットアップで指定
26	メニューリスト	MNULST	BOXATTR	○	—
		MNULEND		○	—

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
27	メニューセパレータ	MNUSEP		○	—
28	ポップアップ	POPUP	POS	○	—
			SIZE	○	—
			LABATTR	○	—
			TITLE	○	—
			TLATTR	○	—
			BOXATTR	○	—
		POPEND		○	—
29	固定ポップアップ	CNSPOP	COD	○	—
			LAB	○	—
30	可変ポップアップ	VARPOP	LOGTBL	○	—
31	セパレータ	SLINE	POS	○	—
			LNG	○	—
			DIR	○	—
32	トランザクション (隠しフィールド)	INTXT	POS=DUMMY	○	—
			LOGFLD	○	—
33	固定テキストボックス	CNSTXT	POS	○	—
			UINF	×	—
			ATTR	○	—
			BOXLNG	○	—
			VAL	○	—
			BOXATTR	○	—
34	出力テキストボックス	OUTTXT	POS	○	—
			ATTR	○	—
			LOGFLD	○	—
			CTLFLD	○	—
			MODATTR	×	ドロースettingsアップで指定
			LAY	○	—
			BOXLNG	○	—
			VAL	×	—
			BOXATTR	○	—

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
35	入出力テキストボックス	INTXT	POS	○	—
			ATTR	○	—
			LOGFLD	○	—
			MCR	○	—
			POPUP	○	—
			CTLFLD	○	—
			MODATTR	×	ドローセットアップで指定
			UINF	×	—
			LAY	○	—
			BOXLNG	○	—
			VAL	×	—
		BOXATTR	○	—	
36	オプションメニュー	OPMTXT	POS	○	—
			ATTR	○	—
			LOGFLD	×	—
			POPUP	○	—
			CTLFLD	○	—
			MODATTR	×	ドローセットアップで指定
			UINF	×	—
			LAY	○	—
			BOXLNG	○	—
			MODE	○	—
			VAL	×	—
		BOXATTR	○	—	
37	予約テキストボックス	RSVTXT	POS	○	—
			ATTR	○	—
			UINF	×	—
			BOXLNG	○	—
			BOXATTR	○	—
38	プッシュボタンボックス	PBTBOX	POS	○	—
			BOXSIZE	○	—

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
			BTLNG	○	－
			BTSTYLE	○	－
			BTPOS	○	－
			LABATTR	○	－
			BOXATTR	○	－
			ORIENT	○	－
			INTERVAL	○	－
		PBTEND		○	－
39	固定プッシュボタン	CNSPBT	INC	○	－
			LAB	○	－
			LABATTR	○	－
			BTATTR	○	－
			CTLFLD	○	－
			MODBT	×	ドローセットアップで指定
40	ラジオボタンボックス	RBBOX	POS	○	－
			BOXSIZE	○	－
			LOGFLD	○	－
			BTPOS	○	－
			LABATTR	○	－
			BOXATTR	○	－
			ORIENT	○	－
			INTERVAL	○	－
		RBTEXT		○	－
41	固定ラジオボタン	CNSRBT	COD	○	－
			LAB	○	－
			LABATTR	○	－
			BTATTR	○	－
			CTLFLD	○	－
			MODBT	×	ドローセットアップで指定
42	可変ラジオボタン	VARRBT	LOGTBL	○	－
			LABATTR	○	－

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
			BTATTR	○	—
			CTLFLD	○	—
			MODBT	×	ドロースettingsアップで指定
43	チェックボタンボックス	CBTBOX	POS	○	—
			BOXSIZE	○	—
			BTLNG	○	—
			BTPOS	○	—
			LABATTR	○	—
			BOXATTR	○	—
			ORIENT	○	—
		INTERVAL	○	—	
		CBTEND		○	—
44	固定チェックボタン	CNSCBT	COD	○	—
			LOGFLD	○	—
			LAB	○	—
			LABATTR	○	—
			BTATTR	○	—
			CTLFLD	○	—
			MODBT	×	ドロースettingsアップで指定
45	可変チェックボタン	VARCBT	LOGTBL	○	—
			LOGFLD	○	—
			LABATTR	○	—
			BTATTR	○	—
			CTLFLD	○	—
			MODBT	×	ドロースettingsアップで指定
46	単一選択リストボックス	SLSBOX	POS	○	—
			BOXSIZE	○	—
			PLSIZE	○	—
			BOXATTR	○	—
			LOGFLD	○	—
			SCROLL	○	—

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
		SLSEND		○	—
47	可変単一選択リスト	VARSLs	LOGTBL	○	—
			LABATTR	○	—
			LSATTR	○	—
			CTLFLD	○	—
			MODLS	×	ドローセットアップで指定
48	複数選択リストボックス	MLSBOX	POS	○	—
			BOXSIZE	○	—
			PLSIZE	○	—
			BOXATTR	○	—
			LABATTR	○	—
			SCROLL	○	—
		MLSEND	○	—	
49	可変複数選択リスト	VARMLS	LOGTBL	○	—
			LOGFLD	○	—
			LABATTR	○	—
			LSATTR	○	—
			CTLFLD	○	—
			MODLS	×	ドローセットアップで指定
50	フィールドボックス	FLDBOX	POS	○	—
			BOXSIZE	○	—
			BOXATTR	○	—
			SCATTR	○	—
			SCROLL	○	—
			FIX	○	—
			FIXATTR	○	—
			LINATTR	○	—
			CURS	×	—
		PLSIZE	○	—	
FLDEND	○	—			
51	グループボックス	GRPBOX	POS	○	—

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
			NEXT	○	—
			BOXATTR	○	—
			BOXSIZE	○	—
			GRPEND	○	—
52	サブウィンドウ	SUBWIN	POS	○	—
			SIZE	○	—
			WINID	○	—
53	けい線	RLINE	POS	○	—
			DIRECT	○	—
			LNG	○	—
54	固定フィールド	CNSFLD	POS	○	—
			UINF	×	—
			VAL	○	—
			LAY	○	—
			LNG	×	VALの指定した文字列長となる
			ATTR	○	—
55	予約フィールド	RSVFLD	POS	○	—
			UINF	×	—
			LNG	○	—
			ATTR	○	—
56	物理フレーム	PHFRM	POS	○	—
			SIZE	○	—
			LOGFRM	○	—
			LAY	○	—
			PHFEND	○	—
57	可変フィールド	VARFLD	POS	○	—
			LOGFLD	○	—
			MCR	○	—
			CTLFLD	○	—
			LNG	○	—
			LAY	○	—

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
			UINF	×	—
			ATTR	○	—
			MODATTR	×	ドロースettingsアップで指定
			VAL	×	LOGFLD 文の VAL オペランドを有効とする
58	ポップアップフィールド	POPFLD	POS	○	—
			LOGFLD	○	—
			POPUP	○	—
			CTLFLD	○	—
			MODATTR	×	ドロースettingsアップで指定
			ATTR	○	—
			LAY	○	—
			MODE	○	—

(凡例)

○：インポートで変換できる。

×

—：なし。

空欄：オペランドがない，またはオペランドの指定がない文。

(2) CUI 画面のパネル定義文

UNIX から転送した CUI 画面のパネル定義文の変換できる範囲は，SEWB3 で定義できる範囲です。メインフレームから転送したパネル定義文の変換できる範囲は，「XMAP2 E2」で定義できる範囲ですが，一部変換できないものもありますので，ご注意ください。

CUI 画面のパネル定義文にインポートできるデバイスは次のとおりです。

UNIX で作成したパネル定義文

- XDSP,S1

メインフレームで作成したパネル定義文

- 5425,B1
- 5425,B2
- 4411,C2
- 5425,C1
- 4411,D2
- 5425,C2
- 4451,C2
- 5425,D1
- 5454,D1

- 4451,D2
- 5425,D2

インポートで CUI 画面を取り込むときに変換できる範囲を次の表に示します。

表 B-2 CUI 画面のパネル定義文の変換できる範囲

項番	機能	文	オペランド	変換		備考
				UNIX	メインフレーム	
1	パネル定義	PANEL	LANG	○		UNIX の場合 COBOL または C メインフレームの場合 COBOL 固定
			NEXT	○		—
			USAGE	×		—
		PNLEND		○		—
2	記号パラメタ定義	CNTRL	PARM	○		—
		MODCTL	PARM	×		ドロースettingsアップで指定
		ATTR	PARM	○		個々の属性になる
		MODATTR	PARM	×		ドロースettingsアップで指定
3	論理マップ定義	LOGSEG	REDEF	○		—
			CLEAR	×		ドロースettingsアップで指定
			CODERR	×		
			LITRL	×		
			GENRT	×		
			AREA	×		
		LOGSEND		○		—
4	トランザクションコード	LOGFLD	LNG	×		—
			TYPE	×		—
			VAL	×		—
			NAME	×		—
5	パネル制御	CTLFLD	TYPE=CNTRL	○		パネル制御動の変更情報 (MODCTL 文) がある場合に「動の変更あり」で変換する TYPE=(CNTRL,X)は変換しない
			LNG	×		ドロースettingsアップで指定

項番	機能	文	オペランド	変換		備考
				UNIX	メインフレーム	
			NAME	×		
6	カーソル制御	CTLFLD	TYPE	×	ドローセットアップで指定*	
			LNG	×		
			NAME	×		
7	INC 制御	CTLFLD	TYPE	×	ドローセットアップで指定	
			LNG	×		
			NAME	×		
			FILL	×		
			JUST	×		
8	フィールド制御	CTLFLD	TYPE	○	項目属性変更情報 (MOATTR 文) がある場合に「動的変更あり」で変換する TYPE=(ATTR,X)は変換しない	
			LNG	×	ドローセットアップで指定	
			NAME	×	LOGFLD 文の NAME オペランドに指定した名称, または LOGFLD 文の名称に置き換えられる (入力, および入出力の場合は入力の LOGFLD 文, 出力専用の場合は出力の LOGFLD 文)	
			REPEAT	○	—	
9	論理フレーム	LOGFRM	REPEAT	○	物理フレームがないものは変換できない	
			NAME	○		
		LOGFEND		○		
10	主論理フィールド	LOGFLD	LNG	○	[オプション設定] ダイアログで「LNG オペランドのピクチャのパラメタが C 以外でかつ従論理項目を持つ項目を使用している (メインフレームのみ)」のチェックがオンになっている場合, ピクチャが C 以外のときは「C」に変換する	
			NAME	○	「TYPE=IN」と「TYPE=OUT」で指定値が異なる場合, 「TYPE=OUT」の	

項番	機能	文	オペランド	変換		備考
				UNIX	メインフレーム	
						値を「TYPE=IN」の値に変換する
			PIC	○		—
			TYPE	○		—
			CODE	○		多目的コード「CODE=X」の場合、対応するフィールドは変換しない
			JUST	○		—
			FILL	○		直接 16 進指定、または CODE=K で「NX, 'KEIS コード」, 「C, '埋字」または「X, '16 進数字」の場合、「埋めない」に変換する（ただし、[オプション設定] ダイアログで「16 進で指定された KEIS 項目の埋字を破棄しない (X,'40', X,'00', X,'FF'のみ)」のチェックがオンになっている場合、(X,'40'), (X,'00'), および (X,'FF') は、それぞれ「スペース」、「LOW (X'00)」, 「HIGH (X'FF)」に変換する
			VAL	○		—
			REPEAT	○		—
			LEVEL	○		—
11	従論理フィールド	LOGFLD	LNG	○		繰り返し回数「REPEAT」がある場合、項目長「LNG」×繰り返し回数「REPEAT」で変換する ただし、主論理フィールドが CODE=N の場合、長さは「1」となる
			LEVEL = 2	○		—
			NAME	○		「TYPE=IN」と「TYPE=OUT」で指定値が異なる場合、「TYPE=OUT」の値を「TYPE=IN」の値に変換する
			PIC	×		—
			REPEAT	×		—

項番	機能	文	オペランド	変換		備考
				UNIX	メインフレーム	
12	物理マップ定義	PHSEG	DEV	○		UNIX の場合 「XDSP,S1」 固定 メインフレームの場合 「5425,D2」 以外のデバイスは「5425,D2」として変換する
			PHPNL	—	×	—
			CURS	○		行、列カーソル指定、および *NOCURS は変換しない
			INC	×		ドロースettingsアップで指定 INC 種別の指定がない場合は 「使用しない」 イベントコードで変換する
			CNTRL	○		DFC「OCCUPY」は「占有しない」で変換し、フィールドの位置を調整する 印字「PRINT」、プリンタ制御文字「PRCTL」は変換しない
			MODCTL	×		ドロースettingsアップで指定
			NULL	×		ドロースettingsアップで指定
			POS	○		—
			SIZE	○		—
			FORM	○		「SCRN」 固定
			DMYFLD	—	×	—
		PHSEND	○		—	
13	けい線	RLINE	POS	○		—
			DIRECT	○		—
			LNG	○		—
			ASG	—	×	—
14	固定フィールド	CNSFLD	POS	○		—
			VAL	○		—
			LNG	×		VAL の指定した文字列長となる
			ATTR	○		メインフレームの場合、 「NORM」は「緑」、 「HIGH」

項番	機能	文	オペランド	変換		備考
				UNIX	メインフレーム	
						は「赤」, 「DARK」は「文字だけ非表示」に変換する 「BLINK」および、項目属性の直接16進指定は変換しない
			ASG	—	×	—
15	予約フィールド	RSVFLD	POS		○	—
			LNG		○	—
			ATTR		○	メインフレームの場合, 「NORM」は「緑」, 「HIGH」は「赤」, 「DARK」は「文字だけ非表示」に変換する 「BLINK」および、項目属性の直接16進指定は変換しない
			ASG	—	×	—
16	物理フレーム	PHFRM	POS		○	—
			SIZE		○	—
			LOGFRM		○	—
			LAY		○	—
		PHFEND		○	—	
17	可変フィールド	VARFLD	POS		○	隠しフィールド 「POS=DUMMY」は変換しない
			LOGFLD		○	—
			MCR		○	—
			CTLFLD		○	—
			LNG		○	—
			ATTR		○	メインフレームの場合, 「NORM」は「緑」, 「HIGH」は「赤」, 「DARK」は「文字だけ非表示」に変換する 「BLINK」および、項目属性の直接16進指定は変換しない
			MODATTR		×	ドロースettingsアップで指定
PEN		—	—			

項番	機能	文	オペランド	変換		備考
				UNIX	メインフレーム	
			VAL	×		LOGFLD 文の VAL オペランドを有効とする
			LAY	○		—
			ASG	—	×	—

(凡例)

- ：インポートで変換できる。
- ×：インポートで変換できない。ドロースettingsアップでの指定はシステム共通となる。
- ：なし。
- 空欄：オペランドがない文。

注※

ドロースettingsアップでは TYPE=INCURS/OUTCURS に当たる 10 進指定はできません。

(3) シリアルプリンタ帳票のパネル定義文

UNIX から転送したシリアルプリンタ帳票のパネル定義文の変換できる範囲は、SEWB3 で定義できる範囲です。メインフレームから転送したパネル定義文の変換できる範囲は、「XMAP2 E2」で定義できる範囲ですが、一部変換できないものもありますので、ご注意ください。

シリアルプリンタ帳票のパネル定義文にインポートできるデバイスは次のとおりです。

UNIX で作成したパネル定義文

- XPRT,L1

メインフレームで作成したパネル定義文

- 5382
- 5387
- 5344
- 5346
- 5323
- 5329
- 5325
- 5318
- 5317
- 5367
- 5341
- 5349
- 5345
- 5353
- 5682

インポートでシリアルプリンタ帳票を取り込むときに変換できる範囲を次の表に示します。

表 B-3 シリアルプリンタ帳票のパネル定義文の変換できる範囲

項番	機能	文	オペランド	変換		備考	
				UNIX	メインフレーム		
1	パネル定義	PANEL	LANG	○		UNIX の場合 COBOL または C メインフレームの場合 COBOL 固定	
			NEXT	—	×		—
			USAGE	—	×		—
		PNLEND		○		—	
2	記号パラメタ定義	CNTRL	PARM	○		—	
		ATTR	PARM	○		個々の属性になる	
3	論理マップ定義	LOGSEG	REDEF	○		—	
			LITRL	×		ドローセットアップで指定	
			GENRT	×			
			AREA	×		—	
		LOGSEND		○		—	
4	論理フレーム	LOGFRM	REPEAT	○		物理フレームがないものは変換できない	
			NAME	○			
		LOGFEND		○			
5	主論理フィールド	LOGFLD	LNG	○		[オプション設定] ダイアログで「LNG オペランドのピクチャのパラメタが C 以外でかつ従論理項目を持つ項目を使用している(メインフレームのみ)」のチェックがオンになっている場合、ピクチャが C 以外のときは「C」に変換する	
			NAME	○			—
			PIC	○			—
			TYPE	○			—
			CODE	○			多目的コード「CODE=X」の場合、対応するフィールドは変換しない
		JUST		○		—	

項番	機能	文	オペランド	変換		備考
				UNIX	メインフレーム	
			FILL	○		直接 16 進指定, または CODE=K で「NX, 'KEIS コード」, 「C, '埋字」または「X, '16 進数字」の場合, 「埋めない」に変換する (ただし, [オプション設定] ダイアログで「16 進で指定された KEIS 項目の埋字を破棄しない (X,'40', X,'00', X,'FF'のみ)」のチェックがオンになっている場合, (X,'40'), (X,'00'), および (X,'FF') は, それぞれ「スペース」, 「LOW (X'00)」, 「HIGH (X'FF)」に変換する)
			VAL	○		—
			REPEAT	○		—
			LEVEL	○		—
6	従論理フィールド	LOGFLD	LNG	○		繰り返し回数「REPEAT」がある場合, 項目長「LNG」×繰り返し回数「REPEAT」で変換する ただし, 主論理フィールドが CODE=N の場合, 長さは「1」となる
			LEVEL = 2	○		—
			NAME	○		—
			PIC	×		—
			REPEAT	×		—
7	物理マップ定義	PHSEG	DEV	○		UNIX の場合 「XPRT,L1」固定 メインフレームの場合 「5344」以外のデバイスは「5344」として変換する
			PHPNL	×		—
			CNTRL	○		印刷前改ページ「CNTRL=FF」が指定されている場合, 「EJECT = NO」は有効とならない 連続改行「VT」は「NO」として変換する

項番	機能	文	オペランド	変換		備考
				UNIX	メインフレーム	
						「BELL」は変換しない
			EJECT	○		排出方法「PICKUP」「STACKER」および「RETAIN」指定時はカット紙に変換する 排出方法の指定がない場合は連続紙で変換する 印刷前後ページ「EJECT=FF」が指定されている場合、「CNTRL = NO/VT」の指定は有効とならない
			POS	○		—
			SIZE	○		—
			LP	×		—
			CSCF	○		指定がない場合は、文字の間隔「0ポイント」に変換する
		PHSEND		○		—
8	けい線	RLINE	POS	○		—
			DIRECT	○		—
			LNG	○		—
			STYLE	—		—
9	固定フィールド	CNSFLD	POS	○		—
			VAL	○		—
			LNG	×		VALの指定した文字列長となる
			ATTR	○		メインフレームの場合、項目属性の直接16進指定は変換しない
10	予約フィールド	RSVFLD	POS	○		—
			LNG	○		—
			ATTR	○		メインフレームの場合、項目属性の直接16進指定は変換しない
11	物理フレーム	PHFRM	POS	○		—
			SIZE	○		—

項番	機能	文	オペランド	変換		備考
				UNIX	メインフレーム	
			LOGFRM	○		—
			LAY	○		—
		PHFEND		○		—
12	可変フィールド	VARFLD	POS	○		—
			LOGFLD	○		—
			LNG	○		—
			ATTR	○		メインフレームの場合、16進の指定は変換できない
			VAL	×		LOGFLD 文の VAL オペランドを有効とする
			LAY	○		—
13	文書領域	PHDCM	POS	—	×	—
			SIZE	—	×	—
		PHDEND	—	×	—	

(凡例)

○：インポートで変換できる。

×：インポートで変換できない。ドロースेटアップでの指定はシステム共通となる。

—：なし。

空欄：オペランドがない文。

(4) ページプリンタ帳票のパネル定義文

UNIX から転送したページプリンタ帳票のパネル定義文の変換できる範囲は、SEWB3 で定義できる範囲です。メインフレームから転送したパネル定義文の変換できる範囲は、「XMAP2 E2」で定義できる範囲ですが、一部変換できないものもありますので、ご注意ください。

ページプリンタ帳票のパネル定義文にインポートできるデバイスは次のとおりです。

UNIX で作成したパネル定義文

- XPRT,P1

メインフレームで作成したパネル定義文

- 2311
- 2312

インポートでページプリンタ帳票を取り込むときに変換できる範囲を次の表に示します。

表 B-4 ページプリンタ帳票のパネル定義文の変換できる範囲

項番	機能	文	オペランド	変換		備考
				UNIX	メインフレーム	
1	パネル定義	PANEL	LANG	○		UNIX の場合 COBOL または C メインフレームの場合 COBOL 固定
			NEXT	-	×	-
			USAGE	-	×	-
		PNLEND		○		-
2	記号パラメタ定義	CNTRL	PARM	○		-
		ATTR	PARM	○		個々の属性となる
3	論理マップ定義	LOGSEG	REDEF	○		-
			LITRL	×		ドローセットアップで指定
			GENRT	×		
			AREA	×		-
		LOGSEND		○		-
4	印刷部数制御	CTLFLD	TYPE= (COPIES,X)	○		-
			LNG	×		[2] 固定
			NAME	×		ドローセットアップで指定
5	論理フレーム	LOGFRM	REPEAT	○		物理フレームがないものは変換できない
			NAME	○		
		LOGFEND		○		
6	主論理フィールド	LOGFLD	LNG	○		[オプション設定] ダイアログで「LNG オペランドのピクチャのパラメタが C 以外でかつ従論理項目を持つ項目を使用している (メインフレームのみ)」のチェックがオンになっている場合、ピクチャが C 以外のときは「C」に変換する
			NAME	○		-
			PIC	○		-

項番	機能	文	オペランド	変換		備考
				UNIX	メインフレーム	
			TYPE	○		—
			CODE	○		多目的コード「CODE=X」の場合、対応するフィールドは変換しない
			JUST	○		—
			FILL	○		直接16進指定、またはCODE=Kで「NX, 'KEISコード」, 「C, '埋字」または「X, '16進数字」の場合、「埋めない」に変換する（ただし、[オプション設定]ダイアログで「16進で指定されたKEIS項目の埋字を破棄しない(X,'40', X,'00', X,'FF'のみ)」のチェックがオンになっている場合、(X,'40'), (X,'00'), および (X,'FF') は、それぞれ「スペース」, 「LOW (X'00)」, 「HIGH (X'FF)」に変換する
			VAL	○		—
			REPEAT	○		—
			LEVEL	○		「1」固定
7	従論理フィールド	LOGFLD	LNG	○		繰り返し回数「REPEAT」がある場合、項目長「LNG」×繰り返し回数「REPEAT」で変換する ただし、主論理フィールドがCODE=Nの場合、長さは「1」となる
			LEVEL = 2	○		—
			NAME	○		—
			PIC	×		—
			REPEAT	×		—
8	物理マップ定義	PHSEG	DEV	○		UNIXの場合 「XPRT,P1」固定 メインフレームの場合 「2312」は「2311」として変換する

項番	機能	文	オペランド	変換		備考
				UNIX	メインフレーム	
			PHPNL	×		—
			CNTRL	○		非占有「FILL」は占有「OCCUPY」として変換する
			POS	○		—
			SIZE	○		—
			LP	○		—
			COPIES	○		—
			MARGIN	○		—
			FORM	○		—
			CSCF	○		指定がない場合は、文字の間隔「0ポイント」、文字のサイズ「9ポイント」に変換する
		PHSEND		○		—
9	けい線	RLINE	POS	○		—
			DIRECT	○		—
			LNG	○		—
			STYLE	○		—
10	ボックスけい線	BOX	POS	○		—
			SIZE	○		—
			CORNER	○		—
			STYLE	○		—
11	網掛け	TONE	POS	○		—
			SIZE	○		—
			ATTR	○		—
			CORNER	○		—
12	固定フィールド	CNSFLD	POS	○		—
			VAL	○		—
			LNG	×		VALの指定した文字列長となる

項番	機能	文	オペランド	変換		備考
				UNIX	メインフレーム	
			ATTR	○		メインフレームの場合、網掛けおよび項目属性の直接16進指定は変換しない
13	予約フィールド	RSVFLD	POS	○		—
			LNG	○		—
			ATTR	○		メインフレームの場合、網掛けおよび項目属性の直接16進指定は変換しない
14	物理フレーム	PHFRM	POS	○		—
			SIZE	○		—
			LOGFRM	○		—
			LAY	○		—
		PHFEND		○		—
15	可変フィールド	VARFLD	POS	○		—
			LOGFLD	○		—
			LNG	○		—
			ATTR	○		メインフレームの場合、網掛けおよび項目属性の直接16進指定は変換しない
			VAL	×		LOGFLD 文の VAL オペランドを有効とする
			LAY	○		—
16	文書領域	PHDCM	POS	—	×	—
			SIZE	—	×	—
		PHDEND		—	×	—
17	書式	OVERLAY	NAME	—	×	—
18	グラフィック	GRAPHIC		—	×	—
		GRPHEND		—	×	—
		AREA	POS	—	×	—
			SIZE	—	×	—
			REM	—	×	—

(凡例)

- ：インポートで変換できる。
- ×：インポートで変換できない。
- －：なし。
- 空欄：オペランドがない文。

(5) グラフィック帳票のパネル定義文

UNIX から転送したグラフィック帳票のパネル定義文の変換できる範囲は、SEWB3 で定義できる範囲です。インポートでは、「XPRT,P3」のデバイスをグラフィック帳票に変換します。

インポートでグラフィック帳票を取り込むときに変換できる範囲を次の表に示します。なお、メインフレームにはグラフィック帳票のパネル定義文がないため、該当しません。

表 B-5 グラフィック帳票のパネル定義文の変換できる範囲

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
1	パネル定義	PANEL	LANG	○	COBOL または C
			NEXT	×	－
		PNLEND		○	－
2	記号パラメタ定義	CNTRL	PARM	○	－
		ATTR	PARM	○	個々の項目属性になる
3	論理マップ定義	LOGSEG	REDEF	○	－
			LITRL	×	ドローセットアップで指定
			GENRT	×	
			AREA	×	－
		LOGSEND		○	－
4	印刷部数制御	CTLFLD	TYPE= (COPIES,X)	○	－
			LNG	×	[2] 固定
			NAME	×	ドローセットアップで指定
5	論理フレーム	LOGFRM	NAME	○	物理フレームがないものは変換できない
			REPEAT	○	
		LOGFEND		○	
6	主論理フィールド	LOGFLD	LNG	○	－
			NAME	○	－
			PIC	○	－
			TYPE	○	－

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
			CODE	○	多目的コード「CODE=X」の場合、対応するフィールドは変換しない
			JUST	○	—
			FILL	○	直接 16 進指定, または CODE=K で「NX, 'KEIS コード」, 「C, '埋字」または「X, '16 進数字」の場合, 「埋めない」に変換する (ただし, [オプション設定] ダイアログで「16 進で指定された KEIS 項目の埋字を破棄しない (X,'40', X,'00', X,'FF'のみ)」のチェックがオンになっている場合, (X,'40'), (X,'00'), および (X,'FF') は, それぞれ「スペース」, 「LOW (X'00)」, 「HIGH (X'FF)」に変換する)
			VAL	○	—
			REPEAT	○	—
			LEVEL	○	「1」固定
7	主論理項目 (可変バーコード)	LOGFLD	LNG	○	—
			NAME	○	—
			TYPE	○	—
			CODE	○	EBCDIK コード「E」固定
			REPEAT	○	—
			LEVEL	○	「1」固定
8	従論理フィールド	LOGFLD	LNG	○	繰り返し回数「REPEAT」がある場合、項目長「LNG」×繰り返し回数「REPEAT」で変換する ただし、主論理フィールドが CODE=N の場合、長さは「1」となる
			LEVEL = 2	○	—
			NAME	○	—
			PIC	×	—
			REPEAT	×	—
9	物理マップ定義	PHSEG	DEV	○	UNIX の場合, 「XPRT,P3」固定

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
			PHPNL	×	—
			POS	○	—
			SIZE	○	—
			LP	○	—
			COPIES	○	—
			MARGIN	○	—
			FORM	○	—
			CSCF	○	文字サイズ「14P」は変換しない
			CP	○	—
			UNIT	○	—
		PHSEND		○	—
10	単位再定義ボックス	RDFBOX	CNTRL	×	中の項目も同時に削除
			POS	×	—
			SIZE	×	—
			LP	×	—
			CP	×	—
			UNIT	×	—
		RDFEND		×	—
11	けい線	RLINE	POS	○	—
			DIRECT	○	—
			LNG	○	—
			STYLE	○	—
12	斜めけい線	ELINE	POS	○	—
			DIRECT	○	—
			SIZE	○	—
			STYLE	○	—
13	ボックスけい線	BOX	POS	○	—
			SIZE	○	—
			CORNER	○	—
			STYLE	○	—

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
14	円	CIRCLE	POS	○	—
			SIZE	○	—
			STYLE	○	—
15	円弧	ARC	STPOS	○	—
			ENPOS	○	—
			STYLE	○	—
			CURVE	○	—
16	網掛け	TONE	POS	○	—
			SIZE	○	—
			ATTR	○	—
			CORNER	○	—
17	固定フィールド	CNSFLD	POS	○	—
			VAL	○	—
			LNG	○	VALの指定した文字列長となる
			ATTR	○	—
18	予約フィールド	RSVFLD	POS	○	—
			LNG	○	—
			ATTR	○	—
19	物理フレーム	PHFRM	POS	○	—
			SIZE	○	—
			LOGFRM	○	—
			LAY	○	—
		PHFEND	○	—	
20	可変フィールド	VARFLD	POS	○	—
			LOGFLD	○	—
			LNG	○	—
			ATTR	○	—
			VAL	×	LOGFLD文のVALオペランドを有効とする
			LAY	○	—
21	可変バーコード	VARBCD	POS	○	—

項番	機能	文	オペランド	変換	備考
			SIZE	○	—
			LOGFLD	○	—
			TYPE	○	「ITOF」および「MTOF」指定時は変換しない
			BCDATTR	○	「POSTAL」指定時は変換しない
			VAL	×	—
22	固定バーコード	CNSBCD	POS	○	—
			SIZE	○	—
			TYPE	○	「ITOF」および「MTOF」指定時は変換しない
			BCDATTR	○	—
			VAL	○	—
23	任意ドットパターン	RASTER	POS	×	—
			SIZE	×	—
			DEN	×	—
		RSTEND		×	—
24	ドットパターン	DOT	PTN	×	—

(凡例)

- ：インポートで変換できる。
- ×
- ：なし。
- 空欄：オペランドがない文。

付録 B.2 書式記述文のインポートで変換できる機能範囲

インポートで書式記述文を Windows 上に取り込むときに変換できる機能範囲について説明します。

インポートで Windows 用に変換できる書式記述文の範囲を次の表に示します。

表 B-6 変換できる書式記述文

項番	オペレーション	オペランド	変換		備考
			UNIX	メインフレーム	
1	FORMS	書式名 1	○		—
		ます目大	○		—

項番	オペレーション	オペランド	変換		備考
			UNIX	メインフレーム	
		X 長	○		—
		Y 長	○		—
		LIST	—	●	
		書式名 2	—	○	書式名 2 を優先する
2	FRMEND		○		—
3	SECTOR	名前	—	●	セクタ分割は変換しない
		X 長	—	●	
		X 長	—	●	
		X 長	—	●	
		X 長	—	●	
		Y 長	—	●	
4	OPTION	名前	—	●	有効印字領域, CG 文字の文字属性は変換しない
		DEPTH	—	●	
		RG	—	●	
5	SEGMENT	名前	○		セグメント数は 1 個
		ます目大	○		
		X 長	○		
		Y 長	○		
6	SGEND	セグメント名	○		—
7	INCLUDE	名前	●		対応するセグメント数は 1 個
		X 位置	○		
		Y 位置	○		
		セグメント名	○		
8	RLINE	名前	●		—
		開始 X 位置	○		—
		開始 Y 位置	○		—
		長さ	○		—
		線の向き	○		—

項番	オペレーション	オペランド	変換		備考
			UNIX	メインフレーム	
		線種	○		「実線」「点線」「破線」「一点鎖線」「二点鎖線」に変換する
		線の太さ	○		「細」「中」「太」「極太」に変換する
		繰り返し間隔	○		線を繰り返し回数分、作成して変換する
		繰り返し回数	○		
		繰り返し向き	○		
9	ELINE	名前	●		—
		開始 X 位置	○		—
		開始 Y 位置	○		—
		終了 X 位置	○		—
		終了 Y 位置	○		—
		線種	○		「実線」「点線」「破線」「一点鎖線」「二点鎖線」に変換する
		線の太さ	○		「細」「中」「太」「極太」に変換する
		繰り返し間隔	○		線を繰り返し回数分、作成して変換する
		繰り返し回数	○		
		繰り返し向き	○		
10	CIRCLE	名前	●		—
		X 位置	○		—
		Y 位置	○		—
		半径	○		—
		線種	○		「実線」「点線」「破線」「一点鎖線」「二点鎖線」に変換する
		線の太さ	○		「細」「中」「太」「極太」に変換する
		繰り返し間隔	○		円を繰り返し回数分、作成して変換する
		繰り返し回数	○		
		繰り返し向き	○		

項番	オペレーション	オペランド	変換		備考
			UNIX	メインフレーム	
11	ARC	名前	●		—
		X 位置	○		—
		Y 位置	○		—
		半径	○		—
		角度	○		90 度以下の角度の場合, 「30 度」「60 度」「90 度」に変換する 90 度を超える場合, 円弧を複数個に分けて変換する
		線種	○		「実線」「点線」「破線」「一点鎖線」「二点鎖線」に変換する
		線の太さ	○		「細」「中」「太」「極太」に変換する
		繰り返し間隔	○		円弧を繰り返し回数分, 作成して変換する
		繰り返し回数	○		
		繰り返し向き	○		
12	BOX	名前	●		—
		X 位置	○		—
		Y 位置	○		—
		X 長	○		—
		Y 長	○		—
		線種	○		「実線」「点線」「破線」「一点鎖線」「二点鎖線」に変換する
		線の太さ	○		「細」「中」「太」「極太」に変換する
		繰り返し間隔	○		矩形を繰り返し回数分, 作成して変換する
		繰り返し回数	○		
		繰り返し向き	○		
		コーナ形式	○		—
		コーナ半径	○		「小」「標準」に変換する

項番	オペレーション	オペランド	変換		備考
			UNIX	メインフレーム	
13	CHAR	名前	●		—
		X 位置	○		—
		Y 位置	○		—
		文字属性	○		—
		文字間隔	○		—
		文字数	○		—
		文字の並び	○		「縦」の場合、文字列を分割して変換する
		文字データ名	○		—
		繰り返し間隔	○		固定フィールドを繰り返し回数分、作成して変換する
		繰り返し回数	○		
		繰り返し向き	○		
14	LAY	名前	●		文字の間隔が「0～7ポイント」に当てはまらない場合、文字列を1文字ずつ分割して変換する 「文字の並び」が「縦」の場合、文字列を分割して変換する
		X 位置	○		
		Y 位置	○		
		X 長	○		
		Y 長	○		
		文字属性	○		
		横ボディサイズ	○		
		縦ボディサイズ	○		
		文字数	○		
		文字の並び	○		
		文字データ名	○		—
		繰り返し間隔	○		固定フィールドを繰り返し回数分、作成して変換する
		繰り返し回数	○		
		繰り返し向き	○		
15	ADJUST	名前	●		「文字の間隔」が「0～7ポイント」に当てはまらない場合、文字列を1文字ずつ分割して変換する
		X 位置	○		
		Y 位置	○		
		X 長	○		

項番	オペレーション	オペランド	変換		備考
			UNIX	メインフレーム	
		Y 長		○	「文字の並び」が「縦」の場合、文字列を分割して変換する
		文字属性		○	
		横ボディサイズ		○	
		縦ボディサイズ		○	
		文字数		○	
		文字の並び		○	
		文字データ名		○	
		繰り返し間隔		○	固定フィールドを繰り返し回数分、作成して変換する
		繰り返し回数		○	
		繰り返し向き		○	
16	NXCODE	名前	—	○	—
		文字符号, ...	—	○	—
17	NCODE	名前		○	—
		漢字文字列		○	—
18	NNCODE	名前	—	×	—
		文字列	—	×	—
		順序番号	—	×	—
19	NACODE	名前	—	×	—
		文字列	—	×	—
20	NKCODE	名前	—	×	—
		文字列	—	×	—
21	NHCODE	名前	—	×	—
		文字列	—	×	—
22	CONST	名前	—	×	—
		変換種別	—	×	—
		文字列	—	×	—
		順序番号	—	×	—
23	ECODE	名前		○	—
		半角文字列		○	—

項番	オペレーション	オペランド	変換		備考
			UNIX	メインフレーム	
24	CHARC	名前	×		—
		X 位置	×		—
		Y 位置	×		—
		文字属性	×		—
		文字間隔	×		—
		文字数	×		—
		文字の並び	×		—
		変換種別	×		—
		文字列	×		—
		順序番号	×		—
		繰り返し間隔	×		—
		繰り返し回数	×		—
		繰り返し向き	×		—
25	CHSIZE	名前	○		—
		文字属性 1	○		インポートの【書式記述文から書式定義ファイル】－【設定】を選択して表示される【オプション設定】ダイアログの【文字属性名設定】タブで文字属性名が設定されていない場合、「文字サイズ」を「14ポイント」で変換する
		文字属性 2	○		
		文字サイズ	●		「文字サイズ」は変換しない 「文字の拡大」は「標準」に変換する
		種別	●		—
26	GRAPHIC	名前	●		—
		X 位置	○		—
		Y 位置	○		—
		X 長	○		—

項番	オペレーション	オペランド	変換		備考
			UNIX	メインフレーム	
		Y 長	○		—
		網掛け種別	○		「薄い網掛け」「標準網掛け」「濃い網掛け」に変換する
		ドットデータ名	○		—
		繰り返し間隔	○		固定グラフィックまたは網掛けを繰り返し回数分, 作成して変換する
		繰り返し回数	○		
		繰り返し向き	○		
		図形変換種別	○		—
		コーナ形式	○		—
		コーナ半径	○		「小」「標準」に変換する
27	DOT	名前	○		—
		X 位置	○		—
		Y 位置	○		—
		ドット列	○		—
28	LINE (移行用記述文)	名前	—	●	—
		開始 X 位置	—	○	—
		開始 Y 位置	—	○	—
		長さ	—	○	—
		線の向き	○	—	
		線種	—	○	「実線」「点線」「破線」「一点鎖線」「二点鎖線」に変換する
		線の太さ	—	○	「細」「中」「太」「極太」に変換する
		繰り返し間隔	—	○	線を繰り返し回数分, 作成して変換する
		繰り返し回数	—	○	
		繰り返し向き	—	○	
29	CODE (移行用記述文)	名前	—	○	—
		文字符号	—	○	—
30	コメント		●		—

項番	オペレーション	オペランド	変換		備考
			UNIX	メインフレーム	
31	END		●		—
32	部品ファイル		○		部品を取り込んで変換する
33	ユーザ定義拡張記述文		—	×	—
34	マクロ拡張記述文		—	×	—
35	MAINT 用制御文 (CATALS 文)		—	×	—
36	セグメント定義開始文 (MACRO 文)		—	×	—
37	セグメント定義終了文 (MEND 文/BKEND 文)		—	×	—

(凡例)

- ：有効。
- ：内容を破棄。
- ×
- ：なし。

付録 B.3 インポートした書式記述文の内容とドローとの関係

インポートで書式記述文ファイルを変換したときに、それぞれの書式記述文の内容が、ドローにどのように反映されるかについて説明します。

(1) 位置・長さの単位

FOG2/W では、位置や長さをドット単位で扱っています。インポート時には、1 ドット = 240dpi になるように変換します。

(2) 書式定義ファイル名

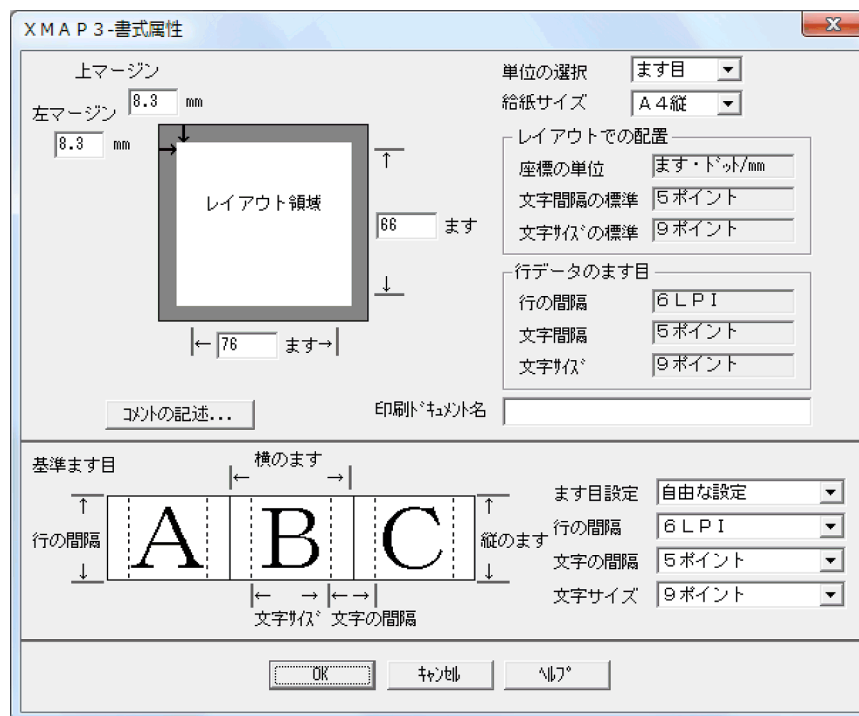
インポート時に生成する書式定義ファイル名は、FORMS 文の書式名 1 を使用します。

(3) 部品

部品を使用している場合、部品はインポート時に書式に取り込まれて、一つの書式定義ファイルに統合されます。

(4) 書式属性ダイアログ

FORMS 文の設定内容が反映されます。



項番	書式記述文での設定値	ドローでの格納場所	ドローでの設定値	備考
1	—	上マージン	【5mm】	なし
2	—	左マージン	【5mm】	なし
3	Y長	ます (行)	指定内容による	「付録 B.3(4)(a) 定義領域の違い」を参照
4	X長	ます (列)	指定内容による	「付録 B.3(4)(a) 定義領域の違い」を参照
5	—	単位の選択	【ドット】	なし
6	X・Y長	給紙サイズ	指定内容による	「付録 B.3(4)(b) 用紙の種別」を参照
7	—	コメントの記述	—	なし
8	—	ます目設定	【自由な設定】	なし
9	ます目 (縦サイズ)	行の間隔	指定内容による	「付録 B.3(4)(c) 行の間隔」を参照
10	ます目 (横サイズ)	文字の間隔	指定内容による	「付録 B.3(4)(d) 文字サイズ・文字間隔」を参照
11	ます目 (横サイズ)	文字サイズ	指定内容による	「付録 B.3(4)(d) 文字サイズ・文字間隔」を参照
12	—	印刷ドキュメント名	—	なし

(凡例)

—：該当する設定値がない。

「 」: ドローのダイアログで表示される設定内容を表す。

(a) 定義領域の違い

開始位置または終了位置が XMAP3 の定義領域を超えている項目は、インポート時にすべて削除されます。定義領域の範囲を次の表に示します。

表 B-7 定義領域の範囲

項番	方向	ます目指定	ドット指定
1	行	127 行まで	5,461 ドットまで
2	列	255 列まで	5,461 ドットまで

(b) 用紙の種別

用紙の種別は、次に示す領域をカバーできる、最小の用紙を仮定します。

縦方向：

定義領域の縦の大きさ+上下各 5mm のハードマージン (計 10mm, 94 ドット)

横方向：

定義領域の横の大きさ+左右各 5mm のハードマージン (計 10mm, 94 ドット)

定義領域の大きさと用紙サイズの関係を表に示します。

表 B-8 定義領域の大きさと用紙サイズ

項番	縦の大きさ※	横の大きさ※	インポート後の 用紙種別
1	1,890 ドット	1,304 ドット	A5 縦
2	1,304 ドット	1,890 ドット	A5 横
3	2,334 ドット	1,625 ドット	B5 縦
4	1,625 ドット	2,334 ドット	B5 横
5	2,712 ドット	1,890 ドット	A4 縦
6	1,890 ドット	2,712 ドット	A4 横
7	3,345 ドット	2,334 ドット	B4 縦
8	2,334 ドット	3,345 ドット	B4 横
9	3,874 ドット	2,712 ドット	A3 縦
10	2,712 ドット	3,874 ドット	A3 横

注※

縦の大きさおよび横の大きさにそれぞれ 94 ドットを加えた値が、用紙の大きさになります。

(c) 行の間隔

行間隔は、FORMS 文の基本ます目の縦サイズを基に決定します。

LPI 指定時の基本ます目と行間隔の関係を次の表に示します。

表 B-9 基本ます目と行間隔の関係 (LPI 指定時)

項番	基本ます目の縦サイズ	インポート後の行間隔
1	3/4LPI (320 ドット)	3LPI
2	3/2LPI (160 ドット)	3LPI
3	3LPI (80 ドット)	3LPI
4	4LPI (60 ドット)	4LPI
5	6LPI (40 ドット)	6LPI
6	6.7LPI (36 ドット)	6LPI
7	8LPI (30 ドット)	8LPI
8	10LPI (24 ドット)	10LPI
9	12LPI (20 ドット)	12LPI
10	24LPI (10 ドット)	12LPI*

注※

「書式の縦サイズ>行間隔×127」の場合、40 ドット (6LPI) に変換します。

任意ドット指定時の基本ます目と行間隔の関係を次の表に示します。

表 B-10 基本ます目と行間隔の関係 (任意ドット指定時)

項番	基本ます目の縦サイズ	インポート後の行間隔
1	61 ドット以上	3LPI
2	41~60 ドット	4LPI
3	31~40 ドット	6LPI
4	25~30 ドット	8LPI
5	21~24 ドット	10LPI
6	1~20 ドット	12LPI*

注※

「書式の縦サイズ>行間隔×127」の場合、40 ドット (6LPI) に変換します。

(d) 文字サイズ・文字間隔

ます目の横サイズは、帳票設計時のスケール表示の単位となるので、できるだけ書式記述文での指定値の約数または倍数になるように変換します。

文字サイズと文字間隔の変換規則について、使用頻度の高い範囲と、それ以外とに分けて説明します。

- 使用頻度の高い範囲の場合

使用頻度の高い範囲での変換規則を次の表に示します。

表 B-11 文字サイズと文字間隔 (使用頻度の高い範囲の場合)

項番	基本ます目の 横サイズ (インポート前)	インポート後の行間隔と 文字サイズ・文字間隔		
		12LPI	10LPI, 8LPI	6LPI, 4/3LPI
1	12 ドット (7 ポイント半角)	(5 ポイント, 3 ポイント) 13 ドット*	(7 ポイント, 0 ポイント) 12 ドット*	(7 ポイント, 0 ポイント) 12 ドット*
2	16 ドット (9 ポイント半角, 15CPI)	(5 ポイント, 5 ポイント) 16 ドット	(5 ポイント, 5 ポイント) 16 ドット	(9 ポイント, 0 ポイント) 16 ドット
3	18 ドット (13.3CPI)	(5 ポイント, 7 ポイント) 19 ドット	(7 ポイント, 4 ポイント) 18 ドット	(9 ポイント, 1 ポイント) 18 ドット
4	20 ドット (12 ポイント半角, 12CPI)	(5 ポイント, 1 ポイント) 10 ドット*	(7 ポイント, 5 ポイント) 20 ドット	(12 ポイント, 0 ポイント) 20 ドット
5	24 ドット (14 ポイント半角, 10CPI)	(5 ポイント, 0 ポイント) 8 ドット*	(7 ポイント, 0 ポイント) 12 ドット*	(9 ポイント, 5 ポイント) 24 ドット
6	32 ドット (9 ポイント全角)	(5 ポイント, 5 ポイント) 16 ドット	(5 ポイント, 5 ポイント) 16 ドット	(9 ポイント, 0 ポイント) 16 ドット
7	40 ドット (12 ポイント全角)	(5 ポイント, 0 ポイント) 8 ドット*	(7 ポイント, 5 ポイント) 20 ドット	(12 ポイント, 0 ポイント) 20 ドット
8	48 ドット (14 ポイント全角)	(5 ポイント, 5 ポイント) 16 ドット	(7 ポイント, 0 ポイント) 12 ドット*	(9 ポイント, 5 ポイント) 24 ドット

注※

文字サイズが小さいので、インポート時に項目が欠落することがあります。

したがって、書式サイズ>文字サイズ×255 の場合、この表の値ではなく次に示す値に変換します。

・12LPI の場合：5 ポイント, 5 ポイント (16 ドット)

・12LPI 以外の場合：7 ポイント, 7 ポイント (23 ドット)

• その他の場合

使用頻度の高い範囲以外の、一般的な変換規則を次の表に示します。

表 B-12 文字サイズと文字間隔 (使用頻度の高い範囲以外の場合)

項番	基本ます目の 横サイズ (インポート前)	インポート後の行間隔と 文字サイズ・文字間隔		
		12LPI	10LPI, 8LPI	6LPI, 4/3LPI
1	8 ドット以下	(5 ポイント, 0I)	(5 ポイント, 0I) 8 ドット*	(5 ポイント, 0I) 8 ドット*

項番	基本ます目の 横サイズ (インポート前)	インポート後の行間隔と 文字サイズ・文字間隔		
		12LPI	10LPI, 8LPI	6LPI, 4/3LPI
		8 ドット*		
2	9~11 ドット	(5 ポイント, 3I) 13 ドット*	(7 ポイント, 0I) 12 ドット*	(7 ポイント, 0I) 12 ドット*
3	13~15 ドット	(5 ポイント, 5I) 16 ドット	(5 ポイント, 5I) 16 ドット	(9 ポイント, 0I) 16 ドット
4	17 ドット	(5 ポイント, 7I) 19 ドット	(7 ポイント, 4I) 18 ドット	(9 ポイント, 1I) 18 ドット
5	19 ドット	(5 ポイント, 1I) 10 ドット*	(7 ポイント, 5I) 20 ドット	(12 ポイント, 0I) 20 ドット
6	21~23 ドット	(5 ポイント, 0I) 8 ドット*	(7 ポイント, 0I) 12 ドット*	(9 ポイント, 5I) 24 ドット
7	25~31 ドット	(5 ポイント, 5I) 16 ドット	(5 ポイント, 5I) 16 ドット	(9 ポイント, 0I) 16 ドット
8	33~39 ドット	(5 ポイント, 1I) 10 ドット*	(7 ポイント, 5I) 20 ドット	(12 ポイント, 0I) 20 ドット
9	41~47 ドット	(5 ポイント, 5I) 16 ドット	(7 ポイント, 0I) 12 ドット*	(9 ポイント, 5I) 24 ドット
10	49 ドット以上	(5 ポイント, 5I) 16 ドット	(7 ポイント, 0I) 12 ドット*	(9 ポイント, 5I) 24 ドット

注※

文字サイズが小さいので、インポート時に項目が欠落することがあります。

したがって、書式サイズ>文字サイズ×255 の場合、この表の値ではなく次に示す値に変換します。

- ・12LPI の場合：5 ポイント, 5 ポイント (16 ドット)
- ・12LPI 以外の場合：7 ポイント, 7 ポイント (23 ドット)

(5) 固定フィールドダイアログ

CHAR 文, LAY 文, および ADJUST 文の設定内容が反映されます。



項番	書式記述文での設定値	ドローでの格納場所	ドローでの設定値	備考
1	文字属性	文字の拡大	『標準』	なし
2	文字属性	文字の書体	指定内容による	「付録 B.3(5)(a) 文字属性名の関連づけ」を参照
3	文字属性	文字サイズ	指定内容による	「付録 B.3(5)(a) 文字属性名の関連づけ」を参照
4	—	文字の強調	『標準』	なし
5	文字間隔／ボディサイズ	文字の間隔	指定内容による	「付録 B.3(5)(b) 文字列の字間値」を参照
6	—	網掛け	『なし』	なし
7	—	テキスト	指定内容による	なし
8	—	テキスト揃え	『左』	なし

(凡例)

—：該当する設定値がない。

『 』：ドローのダイアログで表示される設定内容を表す。

(a) 文字属性名の関連づけ

- 文字の関連づけ

ユーザが登録した文字属性名の関連づけが優先されます。ユーザが登録した文字属性名と関連づけられない場合は、標準提供の文字属性名と関連づけるようにします。

CHAR 文での文字属性が関連づけられていない場合、書体は明朝、大きさは 9 ポイントとして変換されます。

- 均等文字配置，両端ぞろえ文字配置 (ADJUST 文，LAY 文) での文字属性が関連づけられていない場合

縦のボディサイズの値によって、次の表に示すように文字属性を決定します。

表 B-13 ボディサイズによる文字属性の決定

項番	書式記述文での指定値	ドローで展開される値	
	縦ボディサイズ	文字の書体	文字サイズ
1	1～23	明朝	5 ポイント
2	24～31	明朝	7 ポイント
3	32～39	明朝	9 ポイント
4	40～47	明朝	12 ポイント
5	48 以上	明朝	14 ポイント

(b) 文字列の字間値

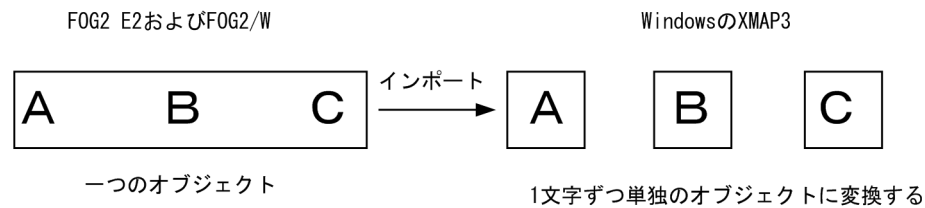
文字列の字間値は、次の表に示す規則に従って変換します。

表 B-14 文字項目の字間値

項番	書式記述文での指定値	ドローで展開される値	
	文字種類	字間値	文字の間隔
1	半角文字	0 ドット	0 ポイント
		2 ドット	1 ポイント
		3 ドット	2 ポイント
		5 ドット	3 ポイント
		6 ドット	4 ポイント
		8 ドット	5 ポイント
		9 ドット	6 ポイント
		11 ドット	7 ポイント
2	全角文字	0 ドット	0 ポイント
		4 ドット	1 ポイント
		6 ドット	2 ポイント
		10 ドット	3 ポイント
		12 ドット	4 ポイント
		16 ドット	5 ポイント
		18 ドット	6 ポイント
		22 ドット	7 ポイント

インポートする書式記述文の字間値がこの範囲に当てはまらない場合は、次の図に示すように、1文字ずつ単独のオブジェクトに変換し、元の字間値に応じてそれぞれの位置を設定します。

図 B-1 1文字ずつ単独の項目に変換する場合



(6) 縦けい線ダイアログ

RLINE (LINE) 文、および縦線の場合の ELINE 文の設定内容が反映されます。



項番	書式記述文での設定値	ドローでの格納場所	ドローでの設定値	備考
1	線種別	線の種類	指定内容による	「付録 B.3(6)(a) 線種別」を参照
2	線の太さ	線の太さ	指定内容による	「付録 B.3(6)(b) 線の太さ」を参照
3	線の向き (V)	—	—	なし
4	—	線の位置	『中央』	なし

(凡例)

— : 該当する設定値がない。

『 』 : ドローのダイアログで表示される設定内容を表す。

(a) 線種別

線種別は、次に示す規則に従って決定します。

書式記述文での指定値	ドローで展開される値
1	実線
3, 5	破線
6, 7	一点鎖線
8	二点鎖線
2, 4, 9	点線

注

ドローでの見え方と実際の印刷結果は異なります。

(b) 線の太さ

線の太さは、次に示す規則に従って決定します。

書式記述文での指定値	ドローで展開される値
1, 2	細
3, 4	中

書式記述文での指定値	ドローで展開される値
5, 6	太
7以上	極太

(7) 横けい線ダイアログ

RLINE 文 (LINE), および横線の場合の ELINE 文の設定内容が反映されます。



項番	書式記述文での設定値	ドローでの格納場所	ドローでの設定値	備考
1	線種別	線の種類	指定内容による	「付録 B.3(6)(a) 線種別」を参照
2	線の太さ	線の太さ	指定内容による	「付録 B.3(6)(b) 線の太さ」を参照
3	線の向き (H)	—	—	なし
4	—	線の位置	「中央」	なし

(凡例)

— : 該当する設定値がない。

「 」 : ドローのダイアログで表示される設定内容を表す。

(8) 斜めけい線ダイアログ

ELINE 文の設定内容が反映されます。

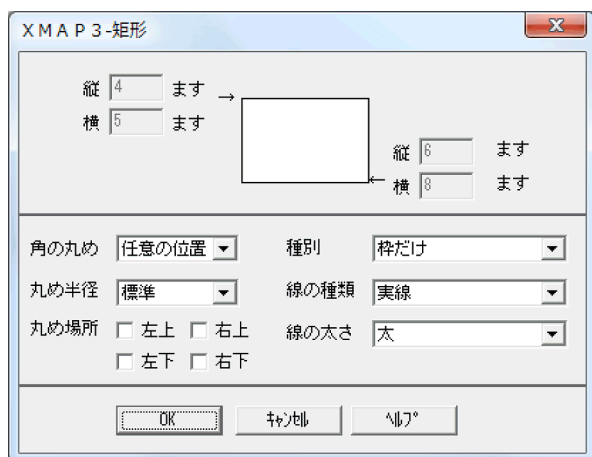


項番	書式記述文での設定値	ドローでの格納場所	ドローでの設定値	備考
1	指定位置	向き	指定内容による	なし

項番	書式記述文での設定値	ドローでの格納場所	ドローでの設定値	備考
2	線種別	線の種類	指定内容による	「付録 B.3(6)(a) 線種別」を参照
3	線の太さ	線の太さ	指定内容による	「付録 B.3(6)(b) 線の太さ」を参照

(9) 矩形ダイアログ

BOX 文の設定内容が反映されます。



項番	書式記述文での設定値	ドローでの格納場所	ドローでの設定値	備考
1	コーナ形式	角の丸め	指定内容による	「付録 B.3(9)(a) 角の丸め／丸め場所」を参照
2	—	種別	『枠だけ』	なし
3	コーナ半径	丸め半径	指定内容による	「付録 B.3(9)(b) 丸め半径」を参照
4	線種別	線の種類	指定内容による	「付録 B.3(6)(a) 線種別」を参照
5	コーナ形式	丸め場所	指定内容による	「付録 B.3(9)(a) 角の丸め／丸め場所」を参照
6	線の太さ	線の太さ	指定内容による	「付録 B.3(6)(b) 線の太さ」を参照

(凡例)

—：該当する設定値がない。

『 』：ドローのダイアログで表示される設定内容を表す。

(a) 角の丸め／丸め場所

角の丸め／丸め場所は、次に示す規則に従い決定します。

項番	書式記述文での指定	ドローで展開される値
1	ARC	全て丸める／不活性
2	LT	任意の位置／左上
3	RT	任意の位置／右上
4	LD	任意の位置／左下
5	RD	任意の位置／右下
6	指定なし	丸めなし／不活性

注

ドロー上の見え方と実際の印刷結果は異なります。

(b) 丸め半径

丸め半径は、次に示す規則に従い決定します。

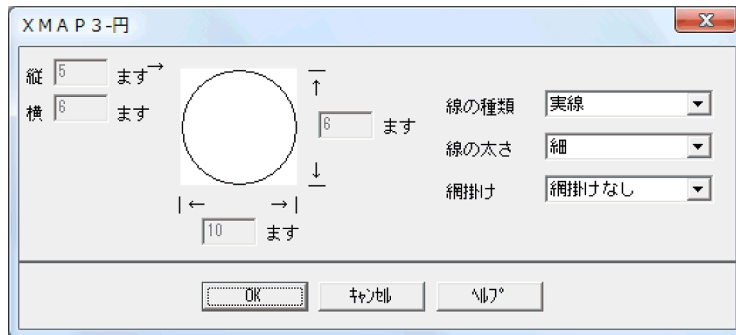
書式記述文での指定	ドローで展開される値
1・2	小
3・4	標準

注

ドロー上の見え方と実際の印刷結果が異なります。

(10) 円ダイアログ

CIRCLE 文の設定内容が反映されます。



項番	書式記述文での設定値	ドローでの格納場所	ドローでの設定値	備考
1	線種別	線の種類	指定内容による	「付録 B.3(6)(a) 線種別」を参照
2	線の太さ	線の太さ	指定内容による	「付録 B.3(6)(b) 線の太さ」を参照
3	—	網掛け	「網掛けなし」	なし

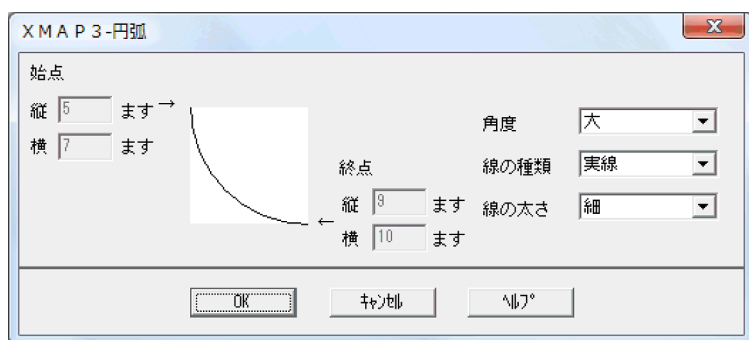
(凡例)

—：該当する設定値がない。

「」：ドローのダイアログで表示される設定内容を表す。

(11) 円弧ダイアログ

ARC 文の設定内容が反映されます。



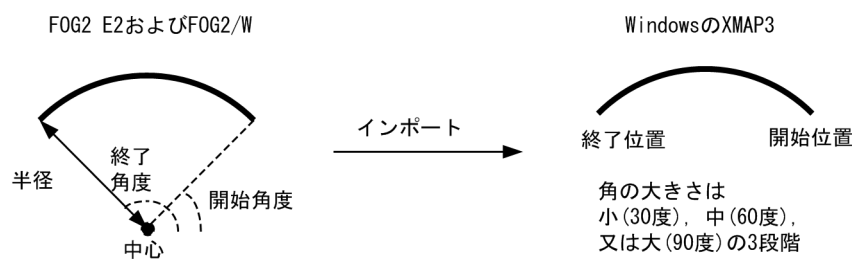
項番	書式記述文での設定値	ドローでの格納場所	ドローでの設定値	備考
1	角度	角度	指定内容による	「付録 B.3(11)(a) 円弧の位置・角度・サイズ」を参照
2	線種別	線の種類	指定内容による	「付録 B.3(6)(a) 線種別」を参照
3	線の太さ	線の太さ	指定内容による	「付録 B.3(6)(b) 線の太さ」を参照

(a) 円弧の位置・角度・サイズ

円弧の位置とサイズの指定方法は、FOG2/W と、Windows の XMAP3 とでは異なります。

指定方法を次の図に示します。

図 B-2 円弧の位置とサイズの指定方法の違い



このため、インポート時に、書式記述文に指定した中心位置、半径、開始角度、および終了角度から、開始位置と終了位置を算出して変換します。

また、UNIX では円弧の角度を自由に指定できますが、Windows で指定できるのは、小 (30 度)、中 (60 度)、または大 (90 度) だけです。したがって、それ以外の大きさの角度を持つ円弧を Windows にインポートした場合は、近い大きさの角度に変更されるか、または複数の円弧の組み合わせに変更されます。

円弧の変更規則を次に示します。

- 角度が 90 度以下の場合
 - 1~30 度の場合、小 (30 度) として作成
 - 31~60 度の場合、中 (60 度) として作成

- 61～90 度の場合，大（90 度）として作成
- 角度が 90 度より大きい場合
 - 90 度の円弧の組み合わせで作成できる部分を作成
 - 残った部分が 1～30 度の場合，残りを小（30 度）として作成
 - 残った部分が 31～60 度の場合，残りを小（60 度）として作成
 - 残った部分が 61～89 度の場合，残りを大（90 度）として作成

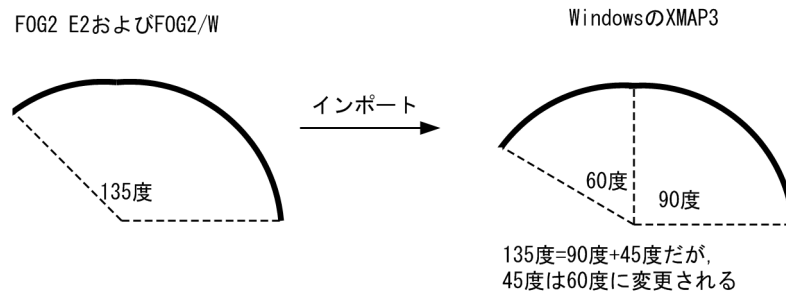
円弧の内角の大きさとインポート後の曲率との関係を次の表に示します。

表 B-15 円弧の内角の大きさと曲率との関係

項番	作成する内角の大きさ	インポート後の円弧の角度
1	1～29 度	小
2	30 度	小
3	31～59 度	中
4	60 度	中
5	61～89 度	大
6	90 度	大

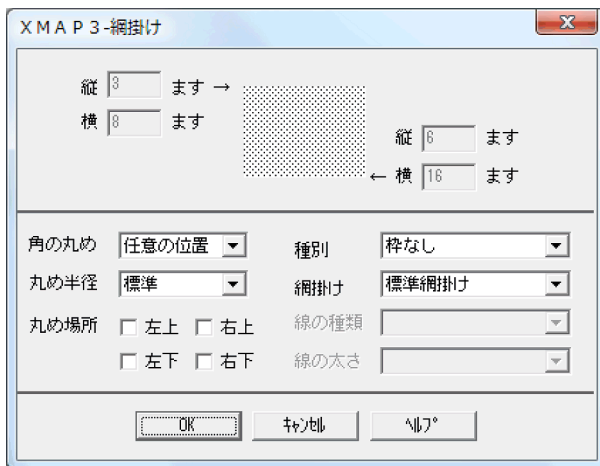
したがって，円弧はインポート時に複数に分割される場合があります。分割される例を次の図に示します。

図 B-3 インポート時の円弧の変換



(12) 網掛けダイアログ

GRAPHIC 文の設定内容が反映されます。



項番	書式記述文での設定値	ドローでの格納場所	ドローでの設定値	備考
1	コーナ形式	角の丸め	指定内容による	「付録 B.3(9)(a) 角の丸め／丸め場所」を参照
2	—	種別	「枠なし」	「付録 B.3(12)(a) 網掛け種別」を参照
3	コーナ半径	丸め半径	指定内容による	「付録 B.3(9)(b) 丸め半径」を参照
4	ドットパターン	網掛け	指定内容による	「付録 B.3(12)(a) 網掛け種別」を参照
5	コーナ形式	丸め場所	指定内容による	「付録 B.3(9)(a) 角の丸め／丸め場所」を参照
6	—	線の種類	—	なし
7	—	線の太さ	—	なし

(凡例)

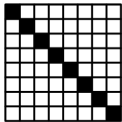
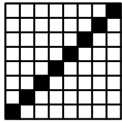
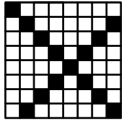
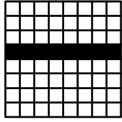
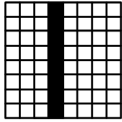
—：該当する設定値がない。

「 」：ドローのダイアログで表示される設定内容を表す。

(a) 網掛け種別

網掛け種別は次に示す規則に従い決定します。

項番	書式記述文での指定	ドローで展開される値	備考
1	8	薄い網掛け	8×8に2ドット
2	6	標準網掛け	6×6に2ドット
3	4	濃い網掛け	4×4に2ドット

項番	書式記述文での指定	ドローで展開される値	備考
4	1, RDWN RDWN DOT (,0),(,0), '*' RDWN DOT (,1),(,1), '*' RDWN DOT (,2),(,2), '*' RDWN DOT (,3),(,3), '*' RDWN DOT (,4),(,4), '*' RDWN DOT (,5),(,5), '*' RDWN DOT (,6),(,6), '*' RDWN DOT (,7),(,7), '*'	標準右下	
5	1, RUP RUP DOT (,7),(,0), '*' RUP DOT (,6),(,1), '*' RUP DOT (,5),(,2), '*' RUP DOT (,4),(,3), '*' RUP DOT (,3),(,4), '*' RUP DOT (,2),(,5), '*' RUP DOT (,1),(,6), '*' RUP DOT (,0),(,7), '*'	標準左下	
6	1, MESH MESH DOT (,0),(,0), '*' MESH DOT (,1),(,1), '* *' MESH DOT (,2),(,2), '* * *' MESH DOT (,3),(,3), '* * * *' MESH DOT (,4),(,4), '* * * * *' MESH DOT (,3),(,5), '* * * * *' MESH DOT (,2),(,6), '* * * * *' MESH DOT (,1),(,7), '* * * * *'	標準格子	
7	1, HRZN HRZN DOT (,0),(,3), '*****'	標準横線	
8	1, VERT VERT DOT (,3),(,0), '*' VERT DOT (,3),(,1), '*' VERT DOT (,3),(,2), '*' VERT DOT (,3),(,3), '*' VERT DOT (,3),(,4), '*' VERT DOT (,3),(,5), '*' VERT DOT (,3),(,6), '*' VERT DOT (,3),(,7), '*'	標準縦線	
9	8×8の範囲に 21 個以下の点	薄い網掛け	UNIX の場合だけ
10	8×8の範囲に 42 個以下の点	標準網掛け	UNIX の場合だけ
11	8×8の範囲に 43 個以上の点	濃い網掛け	UNIX の場合だけ

注

ドロー上の見え方と実際の印刷結果が異なります。

(13) 固定グラフィックダイアログ

網掛け以外の DOT 文の設定内容が反映されます。



項番	書式記述文での設定値	ドローでの格納場所	ドローでの設定値	備考
1	ドット列	領域に合わせて表示する	指定なし	指定された大きさで展開
2	—	枠付き	指定なし	なし

(凡例)

— : 該当する設定値がない。

付録 B.4 行制御ファイルの移行

HI-UX/WE2 環境で使用していた行制御ファイルは、次の 3 種類に分けられます。

- FOG2/W 標準提供の行制御ファイル
- XMAP3/PRINTER UTILITY, または KAPS/W/PS 標準提供の行制御ファイル
- PAGEC モジュール (XMAP3/PRINTER UTILITY, または KAPS/W/PS の定義文)

それぞれについて、ドローでの設定項目と設定値を示します。

(1) FOG2/W 標準提供の行制御ファイル

FOG2/W が標準提供している行制御ファイルを移行する場合に、ドローの [書式属性] ダイアログをどのように設定するかを次に示します。

項番	行制御ファイル名	書式属性ダイアログでの設定値							
		給紙サイズ	行の間隔	文字の間隔	文字サイズ	レイアウト領域 (ます)		マージン (mm)	
						縦	横	上	左
1	A3P1	A3 縦	6LPI	0 ポイント	7 ポイント	96	225	5.3	5.3
2	A3P2	A3 縦	6LPI	5 ポイント	7 ポイント	96	135	5.3	5.3
3	A3P3	A3 縦	8LPI	0 ポイント	7 ポイント	127	225	5.3	5.3
4	A3P4	A3 縦	4LPI	5 ポイント	9 ポイント	64	112	5.3	5.3
5	A3P5	A3 縦	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	96	169	5.3	5.3

項番	行制御ファイル名	書式属性ダイアログでの設定値							
		給紙サイズ	行の間隔	文字の間隔	文字サイズ	レイアウト領域 (ます)		マージン (mm)	
						縦	横	上	左
6	A3L1	A3 横	6LPI	0 ポイント	7 ポイント	67	255	5.3	5.3
7	A3L2	A3 横	6LPI	5 ポイント	7 ポイント	67	193	5.3	5.3
8	A3L3	A3 横	8LPI	0 ポイント	7 ポイント	90	255	5.3	5.3
9	A3L4	A3 横	4LPI	5 ポイント	9 ポイント	45	161	5.3	5.3
10	A3L5	A3 横	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	67	241	5.3	5.3
11	A4P1	A4 縦	6LPI	0 ポイント	7 ポイント	67	157	5.3	5.3
12	A4P2	A4 縦	6LPI	5 ポイント	7 ポイント	67	94	5.3	5.3
13	A4P3	A4 縦	8LPI	0 ポイント	7 ポイント	90	157	5.3	5.3
14	A4P4	A4 縦	4LPI	5 ポイント	9 ポイント	45	78	5.3	5.3
15	A4P5	A4 縦	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	67	117	5.3	5.3
16	A4L1	A4 横	6LPI	0 ポイント	7 ポイント	47	225	5.3	5.3
17	A4L2	A4 横	6LPI	5 ポイント	7 ポイント	47	135	5.3	5.3
18	A4L3	A4 横	8LPI	0 ポイント	7 ポイント	62	225	5.3	5.3
19	A4L4	A4 横	4LPI	5 ポイント	9 ポイント	31	112	5.3	5.3
20	A4L5	A4 横	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	47	169	5.3	5.3
21	A5P1	A5 縦	6LPI	0 ポイント	7 ポイント	47	108	5.3	5.3
22	A5P2	A5 縦	6LPI	5 ポイント	7 ポイント	47	64	5.3	5.3
23	A5P3	A5 縦	8LPI	0 ポイント	7 ポイント	62	108	5.3	5.3
24	A5P4	A5 縦	4LPI	5 ポイント	9 ポイント	31	54	5.3	5.3
25	A5P5	A5 縦	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	47	81	5.3	5.3
26	A5L1	A5 横	6LPI	0 ポイント	7 ポイント	32	157	5.3	5.3
27	A5L2	A5 横	6LPI	5 ポイント	7 ポイント	32	94	5.3	5.3
28	A5L3	A5 横	8LPI	0 ポイント	7 ポイント	43	157	5.3	5.3
29	A5L4	A5 横	4LPI	5 ポイント	9 ポイント	21	78	5.3	5.3
30	A5L5	A5 横	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	32	117	5.3	5.3
31	B4P1	B4 縦	6LPI	0 ポイント	7 ポイント	83	194	5.3	5.3
32	B4P2	B4 縦	6LPI	5 ポイント	7 ポイント	83	116	5.3	5.3
33	B4P3	B4 縦	8LPI	0 ポイント	7 ポイント	111	194	5.3	5.3

項番	行制御ファイル名	書式属性ダイアログでの設定値							
		給紙サイズ	行の間隔	文字の間隔	文字サイズ	レイアウト領域 (ます)		マージン (mm)	
						縦	横	上	左
34	B4P4	B4 縦	4LPI	5 ポイント	9 ポイント	55	96	5.3	5.3
35	B4P5	B4 縦	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	83	145	5.3	5.3
36	B4L1	B4 横	6LPI	0 ポイント	7 ポイント	58	255	5.3	5.3
37	B4L2	B4 横	6LPI	5 ポイント	7 ポイント	58	166	5.3	5.3
38	B4L3	B4 横	8LPI	0 ポイント	7 ポイント	77	255	5.3	5.3
39	B4L4	B4 横	4LPI	5 ポイント	9 ポイント	38	139	5.3	5.3
40	B4L5	B4 横	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	58	209	5.3	5.3
41	B5P1	B5 縦	6LPI	0 ポイント	7 ポイント	58	135	5.3	5.3
42	B5P2	B5 縦	6LPI	5 ポイント	7 ポイント	58	80	5.3	5.3
43	B5P3	B5 縦	8LPI	0 ポイント	7 ポイント	77	135	5.3	5.3
44	B5P4	B5 縦	4LPI	5 ポイント	9 ポイント	38	67	5.3	5.3
45	B5P5	B5 縦	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	58	101	5.3	5.3
46	B5L1	B5 横	6LPI	0 ポイント	7 ポイント	40	194	5.3	5.3
47	B5L2	B5 横	6LPI	5 ポイント	7 ポイント	40	116	5.3	5.3
48	B5L3	B5 横	8LPI	0 ポイント	7 ポイント	53	194	5.3	5.3
49	B5L4	B5 横	4LPI	5 ポイント	9 ポイント	26	96	5.3	5.3
50	B5L5	B5 横	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	40	145	5.3	5.3

(2) XMAP3/PRINTER UTILITY, または KAPS/W/PS 標準提供の行制御ファイル

XMAP3/PRINTER UTILITY, または KAPS/W/PS が標準提供している行制御ファイルを移行する場合に、ドローの [書式属性] ダイアログをどのように設定するかを次に示します。

項番	行制御ファイル名	書式属性ダイアログでの設定値							
		給紙サイズ	行の間隔	文字の間隔	文字サイズ	レイアウト領域 (ます)		マージン (mm)	
						縦	横	上	左
1	A4L4	A4 横	4LPI	0 ポイント	9 ポイント	30	84	14.0	5.3
2	A4L6	A4 横	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	45	84	14.0	5.3
3	SB41	A4 横	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	40	84	20.0	5.3

項番	行制御ファイル名	書式属性ダイアログでの設定値							
		給紙サイズ	行の間隔	文字の間隔	文字サイズ	レイアウト領域 (ます)		マージン (mm)	
						縦	横	上	左
4	NB41	A4 横	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	40	84	20.0	5.3
5	SB61	A4 横	8LPI	0 ポイント	7 ポイント	60	112	14.0	5.3
6	NB61	A4 横	8LPI	0 ポイント	7 ポイント	60	112	14.0	5.3
7	LP61	A4 横	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	66	102	15.6	32.5
8	WB61	A4 横	6LPI	0 ポイント	9 ポイント	66	102	15.6	32.5

注 1

各行制御ファイルには、チャンネル番号の指定がありますが、Windows 版 XMAP3 では、無条件に 1 行目へチャンネル番号「1」が設定されるため、チャンネル番号を意識している場合は、行スキップのための修正が必要となります。

注 2

各行ファイルには、ホップおよびスタッカの設定がありますが、Windows 版 XMAP3 では、無条件に「MAIN」が設定されるため、ほかの種類は使用できません。

注 3

「LP61」「WB61」は、6LPI×66 行を 67%縮小で印刷するための行制御ファイルですが、Windows 版 XMAP3 には縮小印刷機能がないため、使用できません。

(3) PAGEC モジュール (XMAP3/PRINTER UTILITY, または KAPS/W/PS の定義文)

PAGEC モジュール作成用定義文を移行する場合に、ドローの [書式属性] ダイアログをどのように設定するかを次に示します。

なお、前提とする PAGEC モジュール作成用定義文のデバイス種別は「P3」です。

項番	定義文			書式ダイアログの指定場所	備考
	オペレーション	オペランド	パラメタ		
1	LAYOUT	PAGEC 名	—	—	書式定義ファイル名 + ID となる。
2	LAYEND	名前	—	—	—
3	PRINTER	名前	—	—	—
		MODEL	—	—	P3 相当となる。
		UNIT	—	—	1440U 相当となる。
4	PRTEND	名前	—	—	—
5	PAPER	名前	—	—	—
		MODE	両面指定	—	SINGLE 相当だけ。
			とじ位置	—	TOP 相当だけ。

項番	定義文			書式ダイアログの 指定場所	備考
	オペレーション	オペランド	パラメタ		
		HOPPER	用紙サイズ	給紙サイズ	給紙サイズを変更してもレイアウト領域の大きさは変更されないため、レイアウト領域の大きさは設定が必要。
			ホッパ種別	—	MAIN 相当だけ。
		STACKER	スタッカ種別	—	MAIN 相当だけ。
		REDUCT	縮小指定	—	縮小指定はできない。
6	PAGE	名前	—	—	—
		POSITION	縦位置	上マージン	指定値×25.4÷PRINTER 文の UNIT オペランド指定値で求められる値 (mm) を指定する。 (例) 1440U で 510 を指定している場合、 $510 \times 25.4 \div 1440 = 8.99 \div 9.0$ [*DEFAULT] は 475 なので、8.4mm となる。 ただし、上マージンは 50mm までしか指定できない。
			横位置	左マージン	上マージンと同じ。
		SIZE	論理ページ長	レイアウトの縦	LINE 文の REPEAT からレイアウトの縦を求めた場合は、設定の必要はない。 [単位の選択] を「mm」とし、上マージンと同じ計算式で指定する。 [*FORM] は、[単位の選択] を「ます」とし、実際に印刷している行数を指定する。
			論理ページ幅	レイアウトの横	論理ページ長と同じ。 [*FORM] は、[単位の選択] を「ます」とし、実際に印刷している列数を指定する。
		7	PAGEND	名前	—
8	LIST	名前	—	—	—
		CSCF	文字サイズ	文字サイズ	[ます目設定] を「自由な設定」にする。
			字間値	文字の間隔	[ます目設定] を「自由な設定」にする。
			CPI 指定	ます目設定	次のどれかを選択するため、行間隔が固定となる。

項番	定義文			書式ダイアログの 指定場所	備考
	オペレーション	オペランド	パラメタ		
					10CPI/6LPI 12CPI/6LPI 15CPI/6LPI 15CPI/8LPI
		TYPEFASE	書体番号	行データの書体	配置するレイアウト上の固定文字には影響しない。
9	LISTEND	名前	—	—	—
10	LINE	名前	—	—	—
		LP	行間値	行の間隔	「まず目設定」を「自由な設定」にする。 LIST 文の CSCF オペランドに CPI 指定を行っている場合、固定値となる。 行間隔は 1 種類であるため、すべての LINE 文を移行することはできない。
		REPEAT	繰り返し回数	レイアウトの縦	PAGE 文の SIZE オペランドから求めたレイアウトの縦を使用する場合は、設定の必要はない。
			FULL	—	PAGE 文の SIZE オペランドから求めたレイアウトの縦を使用する場合は、設定の必要はない。 PAGE 文の SIZE オペランドが「*FORM」の場合は、「単位の選択」を「まず」とし、実際に印刷している行数を指定する。
CHANNEL	チャンネル番号	—	自動的に 1 行目に 1 が設定される。		
11	SPACE	名前	—	—	—
12	EJECT	名前	—	—	—
		改行値	—	—	—
13	注釈文	—	—	—	—

(凡例)

—：なし。

付録 C 各バージョンの変更内容

各バージョンの変更内容を次に示します。

変更内容 (3020-7-515-30) XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティ Version 5 05-05

追加・変更内容

記述を改善した。

変更内容 (3020-7-515-20) XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティ Version 5 05-05

追加・変更内容

適用 OS から Windows XP, Windows Vista, Windows Server 2003, Windows Server 2003 R2 を削除した。
これらの OS のサポート中止に伴い, OS に関する製品の記述を削除した。

適用 OS に Windows 8, Windows 8.1, Windows 10, Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2, Windows Server 2016 を追加した。

KEIS コードの論理項目で, (X,'00'), (X,'40'), または (X,'FF') で埋字を設定している場合に, 埋字を破棄するかどうかを設定できるオプションを [オプション設定] ダイアログに追加した。

メインフレームのパネル定義文のインポート時に, 文字項目 (C) 以外の主論理項目で従論理項目を展開できるオプションを [オプション設定] ダイアログに追加した。

メインフレームのパネル定義文のインポート時に, 数字項目 (9), 数字編集項目 (E) の項目に対する空白入力禁止の設定を引き継ぐオプションを [オプション設定] ダイアログに追加した。

インポート後, ドローまたはアプリケーションプログラムで編集が必要な変換内容を, メッセージで出力するようにした。

コンバートの変換内容をメッセージファイルに出力できる機能 ([オプション設定] ダイアログ) を追加した。

変更内容 (3020-7-515-10) XMAP3 Developer 開発支援ユーティリティ Version 5 05-02

追加・変更内容

コマンドラインからインポートをする場合の説明を追加した。

論理ハードコピーの説明を追加した。

書式記述文をインポートした場合, 次のエラーが発生したときの調査方法と対処方法を追加した。

- 記述文解析中に重大なエラーが発生した場合
- 書式定義ファイルの作成中に重大なエラーが発生した場合

コマンドラインからインポートした場合に表示されるメッセージを追加した。

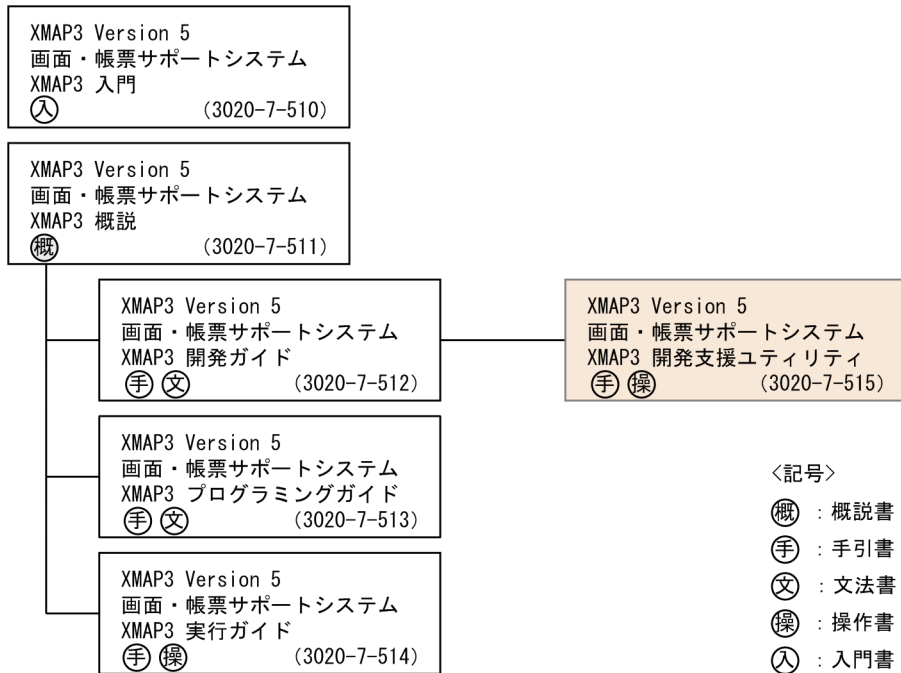
付録 D このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 D.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

XMAP3 Version 5



UNIX 関連製品

HI-UX/WE2 書式オーバレイゼネレータ FOG2/W 解説・使用の手引 (3000-7-423)

VOS3 関連製品

VOS3 ファイル伝送プログラム IFIT-TSS E2 (6180-3-375)

VOS3 書式オーバレイゼネレータ FOG2 E2 (6190-3-479)

このマニュアルでのマニュアル名の表記

このマニュアルでは、関連マニュアルを次のように表記しています。

表記	マニュアル名
XMAP3 入門	XMAP3 Version 5 画面・帳票サポートシステム XMAP3 入門
XMAP3 概説	XMAP3 Version 5 画面・帳票サポートシステム XMAP3 概説
XMAP3 開発ガイド	XMAP3 Version 5 画面・帳票サポートシステム XMAP3 開発ガイド
XMAP3 プログラミングガイド	XMAP3 Version 5 画面・帳票サポートシステム XMAP3 プログラミングガイド

表記	マニュアル名
XMAP3 実行ガイド	XMAP3 Version 5 画面・帳票サポートシステム XMAP3 実行ガイド
書式オーバレイゼネレータ FOG2/W 解説・使用の手引	HI-UX/WE2 書式オーバレイゼネレータ FOG2/W 解説・使用の手引
ファイル伝送プログラム IFIT-TSS E2	VOS3 ファイル伝送プログラム IFIT-TSS E2
書式オーバレイゼネレータ FOG2 E2	VOS3 書式オーバレイゼネレータ FOG2 E2

付録 D.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記		製品名
Adobe Acrobat		Acrobat Reader
		Adobe Reader
COBOL		COBOL2002 Developer Professional
		COBOL2002 Developer Professional(64)
		COBOL2002 Net Client Suite
		COBOL2002 Net Client Runtime
		COBOL2002 Net Developer
		COBOL2002 Net Developer(64)
		COBOL2002 Net Server Suite
		COBOL2002 Net Server Suite(64)
		COBOL2002 Net Server Runtime
		COBOL2002 Net Server Runtime(64)
IPF		Itanium Processor Family
OpenTP1	TP1/Client/J	uCosminexus TP1/Client/J
		TP1/Client/J
	TP1/Client/P	uCosminexus TP1/Client/P
		TP1/Client/P
	TP1 Connector	uCosminexus TP1 Connector
		Cosminexus TP1 Connector
	TP1/LiNK	uCosminexus TP1/LiNK
		TP1/LiNK

表記			製品名	
	TP1/MCF		uCosminexus TP1/Message Control	
			TP1/Message Control	
			uCosminexus TP1/NET/Library	
			TP1/NET/Library	
			uCosminexus TP1/NET/XMAP3	
			TP1/NET/XMAP3	
	TP1/Server Base		uCosminexus TP1/Server Base	
			TP1/Server Base	
	TP1/Web		uCosminexus TP1/Web	
			TP1/Web	
	PDF			Adobe PDF
	UNIX	AIX		AIX V6.1
AIX V7.1				
HP-UX			HP-UX 11i V2(IPF)	
			HP-UX 11i V3(IPF)	
VOS1			VOS1/ES2	
			VOS1/FS	
			VOS1/LS	
VOS3			VOS3/AS	
			VOS3/FS	
			VOS3/LS	
			VOS3/US	
VOSK			VOSK	
			VOSK/FS	
			VOSK/LS	
Windows	Windows 7	Windows 7 x86	Microsoft Windows 7 Professional 日本語版(32 ビット版)	
			Microsoft Windows 7 Enterprise 日本語版(32 ビット版)	
			Microsoft Windows 7 Ultimate 日本語版(32 ビット版)	
		Windows 7 x64	Microsoft Windows 7 Professional 日本語版(64 ビット版)	

表記		製品名
		Microsoft Windows 7 Enterprise 日本語版(64 ビット版)
		Microsoft Windows 7 Ultimate 日本語版(64 ビット版)
Windows 8	Windows 8 x86	Windows 8 Pro 日本語版(32 ビット版)
		Windows 8 Enterprise 日本語版(32 ビット版)
	Windows 8 x64	Windows 8 Pro 日本語版(64 ビット版)
		Windows 8 Enterprise 日本語版(64 ビット版)
Windows 8.1	Windows 8.1 x86	Windows 8.1 Pro 日本語版(32 ビット版)
		Windows 8.1 Enterprise 日本語版(32 ビット版)
	Windows 8.1 x64	Windows 8.1 Pro 日本語版(64 ビット版)
		Windows 8.1 Enterprise 日本語版(64 ビット版)
Windows 10	Windows 10 x86	Windows 10 Pro 日本語版(32 ビット版)
		Windows 10 Enterprise 日本語版(32 ビット版)
	Windows 10 x64	Windows 10 Pro 日本語版(64 ビット版)
		Windows 10 Enterprise 日本語版(64 ビット版)
Windows Server 2008	Windows Server 2008 x86	Microsoft Windows Server 2008 Standard 32-bit 日本語版
		Microsoft Windows Server 2008 Enterprise 32-bit 日本語版
	Windows Server 2008 x64	Microsoft Windows Server 2008 Standard 日本語版
		Microsoft Windows Server 2008 Enterprise 日本語版
Windows Server 2008 R2		Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard 日本語版
		Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise 日本語版

表記			製品名	
			Microsoft Windows Server 2008 R2 Datacenter 日本語版	
	Windows Server 2012		Microsoft Windows Server 2012 Standard 日本語版	
			Microsoft Windows Server 2012 Datacenter 日本語版	
	Windows Server 2012 R2		Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard 日本語版	
			Microsoft Windows Server 2012 R2 Datacenter 日本語版	
	Windows Server 2016		Microsoft Windows Server 2016 Standard 日本語版	
			Microsoft Windows Server 2016 Datacenter 日本語版	
XMAP3 Version 5, ま たは XMAP3	XMAP3 Developer または XMAP3 開発環境		XMAP3 Developer Version 5	
	XMAP3 開発支援ユーティリティ		XMAP3 Developer 開発支援ユーティ リティ Version 5	
	XMAP3 実行環 境	XMAP3 Server Runtime また は XMAP3 サーバ実行環境	Windows x86 版 XMAP3 Server Runtime* ¹ または Windows 版 XMAP3 サーバ実行 環境 (32 ビット) * ²	XMAP3 Server Runtime Version 5
			UNIX 版 XMAP3 Server Runtime また は UNIX 版 XMAP3 サーバ実行環境	
		Windows x64 版 XMAP3 Server Runtime* ¹ または Windows 版 XMAP3 サーバ実行 環境 (64 ビット) * ²	XMAP3 Server Runtime Version 5 with 64bit Adapter	
	XMAP3 Client Runtime また は XMAP3 ク ライアント実行 環境	Windows x86 版 XMAP3 Client Runtime または Windows 版 XMAP3 クライアン ト実行環境 (32 ビッ ト)	XMAP3 Client Runtime Version 5	
Windows x64 版 XMAP3 Client Runtime または		XMAP3 Client Runtime Version 5 with 64bit Adapter		

表記			製品名
		Windows 版 XMAP3 クライアント 実行環境 (64 ビット)	
		XMAP3 Web 実行環境	XMAP3/Web for Cosminexus
		XMAP3 Cosminexus 連携	XMAP3/Web for Cosminexus の Cosminexus 連携
		XMAP3 TP1/Web 連携	XMAP3/Web for Cosminexus の TP1/Web 連携
XMAP3 Version 4	XMAP3/Enterprise Edition		XMAP3/Enterprise Edition Version 4
			XMAP3/Enterprise Edition Run Time System Version 4
	XMAP3/NET		XMAP3/NET Version 4
			XMAP3/NET Run Time System Version 4
	XMAP3/REPORT3		XMAP3/REPORT3 Version 4
			XMAP3/REPORT3 Run Time System Version 4
	XMAP3/Web		XMAP3/Web Version 4
			XMAP3/Web for Cosminexus (Version 4)

注 1

XMAP3 サーバ実行環境と XMAP3 クライアント実行環境を併記する場合は、XMAP3 サーバ/クライアント実行環境と表記します。

注 2

印刷拡張機能および印刷拡張セットアップは、スタンドアロン向けの XMAP3 実行環境 (XMAP3 Client Runtime のオプション製品, XMAP3 Server Runtime) で提供される機能です。

注 3

物理マップ、書式イメージファイルおよび行制御データファイルを定義体と表記します。

注※1

Windows x86 版 XMAP3 Server Runtime と、Windows x64 版 XMAP3 Server Runtime を総称して、Windows 版 XMAP3 Server Runtime と表記します。

注※2

Windows 版 XMAP3 サーバ実行環境 (32 ビット) と、Windows 版 XMAP3 サーバ実行環境 (64 ビット) を総称して、Windows 版 XMAP3 サーバ実行環境と表記します。

付録 D.3 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ $1,024$ バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

付録 E 用語解説

(英字)

AP (Application Program)

業務プログラムのことです。XMAP3 の AP は、画面・帳票の入出力処理を実行します。

API (Application Programming Interface)

関数、ライブラリなど、AP から製品の機能呼び出すときのインタフェースのことです。XMAP3 の AP では、画面の入出力、および帳票の出力を実行するときに、API で XMAP3 の機能呼び出します。

AP が受け取る項目

入力論理マップのデータ項目で、AP が受け取るデータを格納します。

AP が受け取るデータとその優先順位は次のとおりです。

1. キー入力データ／選択に応じた通知コード
2. [入力済み] 属性のオブジェクトの表示データ／ [選択済み] 属性の候補の通知コード
3. エラー通知文字
4. 初期値
5. 初期クリア文字

AP が渡す項目

出力論理マップのデータ項目で、AP が渡すデータ (AP 実行時に毎回変更する内容) を格納します。

AP 環境ファイル (X3MWDREV/XMAPdrv)

マッピングライブラリ実行時の各種情報を取得するための環境設定ファイルです。デバッグやチューニングのときに必要に応じて、ログの取得の有無と種類、物理マップのロードパス、物理マップの常駐サイズを設定します。

AP 環境ファイルの内容は、Windows 版 XMAP3 の場合は表示・印刷セットアップまたはロギング支援のプロパティで設定します。UNIX 版 XMAP3 の場合はテキストエディタで編集します。

AP 環境ファイルは、XMAP3 Server Runtime または XMAP3 Client Runtime で提供します。

格納場所とファイル名：

[Windows 版] *XMAP3* インストールフォルダ\ETC\X3MWDREV

[UNIX 版] /etc/opt/HIXMAP/XMAPdrv

AP パターン・AP 部品

AP の定型的な型として XMAP3 が提供している COBOL 用と C 言語用のパターンです。AP パターンは、プログラムの標準的な骨組みです。AP 部品は、処理の手続きです。これらを組み合わせると、AP を効率良く開発でき、定型的なコーディングの統一も図れます。

格納場所：

[Windows 版] *XMAP3* インストールフォルダ\PATTERNS\COBOL (または C)

[UNIX 版] /opt/HIXMAP/patterns

CPI (Character Per Inch)

文字間隔の単位で、25.4mm (1 インチ) 当たり何文字印字できるかを表します。例えば、10CPI は 25.4mm (1 インチ) 当たりに 10 文字になります。

C/S システム (Client / Server System)

サーバとクライアントで処理を分散する業務形態です。また、一つの処理をネットワーク上のサーバとクライアントで分担する機器構成モデル、または処理方式です。

C/S セットアップ

Windows サーバと Windows クライアントに設定された TCP/IP のホスト名、AP で指定する仮想端末名、および表示・印刷サービス名など、XMAP3 の C/S 構成での C/S システム環境を設定するファイルです。C/S セットアップは、Windows 版 XMAP3 Server Runtime で提供します。

CSV ファイル (Comma Separated Values)

データの区切りをコンマ (,) と改行で表すテキストデータを格納するファイルです。表計算ソフトで入力して、ユーザ独自の形式に編集できます。

CUI 画面 (Character User Interface)

キーボードからの文字入力を中心の画面です。従来のメインフレーム型オンライン業務か、キャラクタベースの業務で使用していた画面です。

XMAP3 では、画面の入出力を物理マップと論理マップを使って実現しています。

dpi (dots per inch)

プリンタの印刷精度を示す数値で、25.4mm (1 インチ) 当たりのドット数を指します。この数値が大きいプリンタほど、精密な印刷ができます。

ESC/P スルー印刷, ESC/P スルーモード (EPSON Standard Code for / Page printer)

シリアルプリンタ固有の印刷モードです。エプソン社のインパクト型ドットプリンタが該当します。

EUC (Extended UNIX Code)

ターゲットが「AIX」の場合に使用する文字コードです。

FAX 宛先ファイル

FAX 通信プログラムである FAX コネクションと連携して帳票を FAX 送信する場合に使用するファイルで、送信先の FAX 番号を指定します。XMAP3 実行環境のプリンタ構成ファイル (X3PPINF) に、次に示す設定をしたときに有効になります。

- 印刷モード : PrintType=6 (日立 FAXC/SPOOL 出力)
- FAX 送信情報の副走査線密度 : PrintDPI=01 (ファイル) または PrintDPI=00 (ノーマル)

GDI モード (Graphical Device Interface)

Windows モードのプリンタドライバを使用して印刷することをいいます。Windows 用のプリンタドライバが提供されていれば、このモードで印刷できます。GDI 対応のプリンタを Windows 対応プリンタといいます。

GUI 画面 (Graphical User Interface)

キーボードからの入力のほかに、マウスによる操作ができる画面です。Windows の「ボタン」「スクロール」「プルダウン・カスケード」「ポップアップ」などが使用できます。XMAP3 では、画面の入出力を物理マップと論理マップを使って実現しています。

Java 言語用ツール

ドローおよびドローセットアップで生成された C 言語用のファイルから、Web アプリケーションに必要なファイル (入力/出力データ用 XML 文書、定数用 XML 文書および動的変更改用 XML 文書) を生成する機能です。Java 言語用ツールは、XMAP3 Developer で開発した画面・帳票を Cosminexus アプリケーションサーバ上で実行させる Web システム構成の AP を開発する場合に使用します。

Java 言語用ツールは、XMAP3 Developer で提供します。

JPEG

JPEG (Joint Photographic Experts Group) が定めた画像フォーマットで、拡張子は.JPG または.JPEG です。

XMAP3 では、JFIF 準拠ベースライン形式 (基本 DCT 方式の JFIF 01-01 および JFIF01-02) を使用できます。

LIPS スルーモード (LBP Image Processing System)

ページプリンタ固有の印刷モードです。キヤノン社のページプリンタが該当します。

LIPS には、LIPSII+, LIPSIII, LIPSIV などがあります。

LPI (Line Per Inch)

行の間隔の単位で、25.4mm (1 インチ) 当たり何行印字できるかを表します。XMAP3 で「ます目の設定」を「自由な設定」にした場合、3, 4, 6, 8, 10, 12LPI の中から選べます。例えば、8LPI は 25.4mm (1 インチ) 当たりが 8 行になります。

MAPPING MODE 句 (マッピングモード)

COBOL の通信記述項にマッピングオプションを指定する領域です。次に示すマッピングオプションに対応しています。

マージ：空白または 0

論理マップだけ：2

物理マップだけ：3

OCR (Optical Character Recognition)

出力 OCR 用の文字でデータを印字するオブジェクトです。データは AP から指定し、論理マップを介して帳票に印字します。字間値は 10CPI 相当が標準です。

OLTP (Online Transaction Processing)

銀行の電子商取引など、ミッションクリティカルな業務向けの処理方式のことです。OLTP を実現する製品として、OpenTP1 があります。OpenTP1 を利用すると、クライアントアプリケーション構成や、サーバアプリケーションを利用した大規模なシステム構成型の OLTP を構築できます。

PDF (Portable Document Format)

Adobe Acrobat が扱う文書のファイル形式で、特定のプラットフォームに依存しないで文書を表示できます。XMAP3 では、ページプリンタ用帳票を PDF ファイルに出力できます。

PDL スルーモード (Page Descriptive Language)

プリンタが持つ固有の印刷データ形式のページ記述言語で、プリンタドライバを使用しない (スルーレス) で印刷することをいいます。プリンタ制御言語の一つで、LIPS や ESC/P 対応の印刷モードです。LIPS は主にページプリンタ専用の印刷モードです。ESC/P は主にシリアルプリンタ専用の印刷モードになります。

RECEIVE

画面からデータを入力するときに、COBOL プログラムにコーディングする命令文です。

RGB 値

表示色を赤 (Red), 緑 (Green), 青 (Blue) の 3 原色に分解し、それぞれの色合いを (00)₁₆ ~ (FF)₁₆ の 16 進数 (0 ~ 255) で表したものです。

SEND

画面または帳票を出力するときに、COBOL プログラムにコーディングする命令文です。

TRANSCEIVE

画面を出力してデータを AP に入力するときに、COBOL プログラムの中にコーディングする命令文です。

Web クライアント環境ファイル (X3WEBCEX)

XMAP3/Web for Cosminexus の起動時に、クライアント側の動作をカスタマイズするファイルです。

Web クライアント環境ファイルは、XMAP3/Web for Cosminexus で提供します。

Windows 対応プリンタ

Windows 用にプリンタドライバが提供されているプリンタです。XMAP3 では、GDI モードで印刷できるプリンタを Windows 対応プリンタと呼びます。

XMAP3 インストールフォルダ

インストール時に任意のフォルダを指定できます。指定を省略すると、次のフォルダにインストールされます。

Windows フォルダのドライブ¥Program Files¥Hitachi¥Xmap3

64 ビット版の Windows の場合、指定を省略すると、次のフォルダにインストールされます。

Windows フォルダのドライブ¥Program Files(x86)¥Hitachi¥Xmap3

XMAP3 クライアント

C/S 構成で運用する場合に、クライアント側で起動するプログラムです。

XMAP3 サーバ

C/S 構成で運用する場合に、サーバ側で起動するプログラムです。サーバの OS が Windows の場合には、サービスとして起動することもできます。

XMAP3 入出力制御

AP からのデータを受けて、ディスプレイに表示したり、プリンタへ印字したり、ディスプレイからデータを入力したりする機能です。

(ア行)

アクセスキー

メニューバー、ポップアップメニュー（ポップアップメニューファイルを使用する場合も含める）、およびプッシュボタンボックスで、候補の選択操作をするためのキーです。

これらのオブジェクトにフォーカスが位置しているときにアクセスキーを押すと、該当するメニュー項目やボタンを選択できます。また、[Alt] + アクセスキーを押すと、メニューバーのメニュー項目を選択（プルダウンメニューを表示）できます。

網掛け帳票

240dpi/300dpi のページプリンタ用の帳票です。各種の文字サイズ、けい線、網掛けなどが使えます。

一次ウィンドウ

メインとなる画面です。業務を選択するメニューや、各業務の主画面として使用します。

一つの AP から同時に複数表示されることはなく、すでに表示している一次ウィンドウの消去後に次の一次ウィンドウが表示されます。

イベント通知コード

コマンドコントロールオブジェクト（プッシュボタン、メニューバー）や確定キー（PF キーなど）に割り当てるコードです。オブジェクトやキーを操作するとイベントが発生し、通知コードに対応づけた動作（AP 通知など）が実行されます。これを「INC 定数」といいます。また、入力単位がイベントのとき通知される「イベント定数」もあります。

イベント通知コードの値はドローセットアップで変更できます。動作はドローで変更できます。

印刷拡張セットアップ

印刷実行時に有効となるプリンタ給紙トレイの設定や、帳票中に指定された標準/明朝/ゴシックの書体に対する出力時のフォントを、それぞれ任意のフォントに変更できる機能です。

設定内容は、プリンタ構成ファイル（X3PPINF）のオプションとして保存されます。

印刷拡張セットアップは、Windows 版 XMAP3 Server Runtime で提供します。XMAP3 Client Runtime で利用する場合は、オプション製品をインストールする必要があります。

印刷ドキュメント名

帳票印刷時、Windows のプリンタプールに登録される XMAP3 の印刷データのドキュメント名です。印刷ドキュメント名は帳票属性または書式属性として指定できます。また、帳票を印刷するときの出力論理マップ中にマップ帳票の印刷ドキュメント名を指定すると、AP から動的に変更できます。この機能を利用すると、印刷した帳票の種別や内容を判別しやすくなり、帳票印刷業務でのリカバリ処理などを効率良く実行できます。

なお、帳票を PDF ファイルに出力する場合、印刷ドキュメント名が PDF ファイルのファイル名になります。

印字領域

定義したオブジェクトを、実際に先頭印字位置から印刷できる領域です。プリンタの機種やプリンタにセットする用紙の位置などによって異なります。レイアウト定義では、印字領域内にレイアウトが収まるようにする必要があります。

インポート

UNIX またはメインフレームのシステムで作成したパネル定義文または書式記述文を入力し、Windows 版 XMAP3 で入力できる形式のマップ定義ファイルまたは書式定義ファイルに変換します。

インポートは、XMAP3 開発支援ユーティリティで提供します。

ウィンドウ

ユーザ作成画面です。タイトルバー、メニューバー、レイアウト領域、およびオペレータインジケータで構成されます。

埋字

入力（または出力）されたデータが、AP が受け取る項目（または AP が渡す項目）の長さより短いとき、残りの領域を埋める文字です。右側と左側のどちらに埋字を格納するかは、桁寄せの指定に従います。ドロワーで作成したオブジェクトには、ドロワーセットアップで指定した埋字が仮定されます。必要に応じて、ドロワーのダイアログで変更できます。なお、埋字に指定できるのは半角文字だけです。埋字を「スペース」で指定した場合、漢字専用で使うオブジェクトでも 1 文字につき半角スペース二つが埋字されます。

上書きモード

キーボードから文字を入力する際に、すでにある文字を上書きしていく入力方式です。

XMAP3 では、「上書きモード」がデフォルトになっています。文字をカーソル位置に挿入する「挿入モード」をデフォルトにしたい場合は、表示・印刷セットアップで設定できます。

エラー通知文字

XMAP3 が入力データにエラーを検出した場合に、AP が受け取るデータです。

使用目的が「カナ」で詳細目的が「カナ・半角」（詳細目的は GUI 画面だけ）のエントリ系オブジェクトに対して、全角文字を入力したときに、入力データのエラーとなります。

また、属性の「空白入力」が「一部&全桁（半角）」または「一部（半角）」のエントリ系オブジェクトに対して、全角の空白を入力した場合も入力データのエラーとなります。ただし、XMAP3 実行環境の環境設定で、表示・印刷環境ファイル（X3PCONF/XPWconfig）の、全角スペースコードの扱い（*.COSPCD=）オプションに 4040（半角スペース 2 個に変換して返す）を指定している場合は該当しません。

オフセット

シリアルプリンタで、用紙に穴を開けることなどを想定して設定しておく余白のことです。ハードマージンを基点としてレイアウト開始位置をずらせます。XMAP3 では、1 ます目から、レイアウト領域の範囲内でオフセット値を指定できます。

オペレータインジケータ

XMAP3 がキーボード状態や送信状態などのメッセージを画面に表示するための領域です。AP からの操作はできません。

オペレータインジケータの有無はドロワーで定義します。表示位置などは表示・印刷セットアップで設定できます。

(カ行)

カーソル制御

カーソル制御は、ドローセットアップのカーソル・フォーカス制御で設定します。カーソル制御には、論理カーソル、行列（2進）カーソル、行列（10進）カーソルの3種類があります。

論理カーソルは、カーソル位置をカーソル定数で制御します。カーソル定数は XMAP3 が生成するため、画面のオブジェクト（フィールド）の位置を変更しても AP を変更する必要はありません。

カーソル定数

入力可能なフィールドにカーソルを位置づけるための定数です。カーソル定数は、例えばドローで AP が受け取る項目のデータ名を MAP001-FIELD0001- に設定した場合は、MAP001-FIELD0001-T の名称で論理マップ中に生成されます。カーソル定数と入力カーソル項目の値が一致するオブジェクトの位置が、画面上に位置づいたカーソルの位置として AP で認識されます。

下位項目

オブジェクトの入出力となる一つのデータ項目を階層化して、複数の項目に細分化できます。この場合、AP は細分化された下位項目を使ってデータを参照・格納できます。

下位項目は、データ型が「文字 (XX)」の場合に指定できます。

隠しフィールド

実際の画面には表示されないフィールドで、入力固定項目として使います。

入力固定項目とは、入力論理マップに必ず固定の値を返すデータ項目で、論理マップ可変部の最初のデータ項目として展開されます。

OLTP サーバ構成の環境で、使用するアプリケーション名を XMAP3 上で定義するには、隠しフィールドとして定義します。

仮想画面

画面ごとのデータを AP とやり取りするために、XMAP3 が持っている仮想的な画面です。

AP から返されたデータは、仮想画面に展開されてから、実際のウィンドウに表示されます。ユーザの入力データも、仮想画面を介して AP に返ります。

仮想端末名ファイル (X3MWHOST/XMAPhosts)

AP がプログラム中で使用する仮想端末名、デバイス名、サービス名などを設定するファイルです。仮想端末名ファイルの内容は、Windows 版 XMAP3 の場合は表示・印刷セットアップの「プリンタ」、C/S セットアップの「C/S 構成」で設定します。UNIX 版 XMAP3 の場合は、テキストエディタで編集します。なお、スタンドアロン環境でプリンタを 1 台だけ使用している場合は、設定する必要はありません。

仮想端末名ファイルは、XMAP3 Server Runtime, XMAP3 Client Runtime, XMAP3/Web for Cosminexus で提供します。

格納場所とファイル名：

[Windows 版]

- XMAP3 Server Runtime または XMAP3 Client Runtime の場合
XMAP3 インストールフォルダ\ETC\X3MWHOST
- XMAP3/Web for Cosminexus (XMAP3 Cosminexus 連携機能) の場合
XMAP3 インストールフォルダ\Web for Cosminexus\ETC\X3MWHOST
- XMAP3/Web for Cosminexus (XMAP3 TP1/Web 連携機能) の場合
XMAP3 インストールフォルダ\Web for TP1\ETC\X3MWHOST

[UNIX 版]

/etc/opt/HIXMAP/XMAPhosts

カット紙

カット紙は、A4 サイズや B5 サイズなどの規格に合った大きさの用紙です。ページプリンタ帳票とシリアルインパクト帳票の両方で利用できます。

画面属性

入力項目の扱いや表示形態などの画面全体に関する属性です。GUI 画面では [画面属性] ダイアログで属性を指定します。また、画面属性は AP 実行時に動的に変更することもできます。AP から動的に変更するには、ドローセットアップの [表示属性の動的変更] で変更したい表示属性を定義します。ここで指定した修飾名を制御項目に代入することで、指定した表示属性に変更できます。

環境管理ファイル (xmap3.properties)

Web アプリケーションの実行に必要なファイルです。Web アプリケーションシステムを実行する場合に必要なファイルの格納先や、ログの出力先などを設定します。開発する Web アプリケーションのシステムに合わせて、環境管理ファイルを更新します。

環境管理ファイルは、XMAP3/Web for Cosminexus で提供します。

環境ファイル操作

バックアップファイル (.sbk) を使って、セットアップ内容などの各種の情報を保存・復元します。XMAP3 の環境をほかの Windows マシンに移行する場合などに使います。開発環境のバックアップファイルは開発環境に、実行環境のバックアップファイルは実行環境にリストアできます。

開発環境用の環境ファイル操作は、XMAP3 Developer で提供します。

実行環境用の環境ファイル操作は、XMAP3 Server Runtime または XMAP3 Client Runtime で提供します。

キーエントリ

キーボードから文字列を入力するための各種オブジェクトの総称です。入出力テキスト・フィールド、入出力日付/時刻テキスト・フィールドが該当します。

基準ます目

帳票のレイアウト領域でオブジェクトを配置するときの単位となるます目です。ます目は、LPI と CPI の矩形を 1 ますとします。そのため、ドローでは、このます目を (LPI-CPI) の組み合わせで指定します。

LPI は、ます目の高さ (行間隔) です。XMAP3 で「ます目設定」を「自由な設定」にした場合、3, 4, 6, 8LPI の中から選べます。例えば、8LPI は 25.4mm (1 インチ) 当たりが 8 行になります。

CPI は、ます目の幅です。CPI を指定すると、自動的に文字サイズと文字間隔が決まります。例えば、10CPI と指定すると、25.4mm (1 インチ) に 10 文字格納できるように文字サイズと文字間隔が決まります。

上記、基準ます目によって、印字できる行列数が変わってきます。

帳票属性の定義では、「ます目設定」によって、配置できる領域が変わってきます。このます目設定は、レイアウト画面上に表示されているグリッドの間隔と対応します。

基準文字サイズ

GUI 画面の作業領域全体の基準となる文字サイズです。CUI 画面では変更できません。この値は、画面属性ダイアログの「基準文字サイズ」で設定します。

画面のレイアウト領域でオブジェクトを配置するときの単位となるグリッド (ます目) は、このサイズが基準になります。文字の縦幅の 1/2 がます目の縦幅、半角文字の幅がます目の横幅になります。

各オブジェクトでは、この基準文字サイズを基に「標準」「大」「小」の文字サイズ指定ができます。

起動クライアントの通知

C/S 構成で、クライアントの起動時にサーバ側の AP を自動起動させる場合に、起動したクライアントのコンピュータ名をサーバ側に通知する機能です。起動したクライアントのコンピュータ名がサーバ側の環境変数に設定されるので、それを参照することでサーバ側から起動クライアントを特定できます。

行制御データファイル

書式オーバーレイの使用時に、行データを印字する行の間隔、標準の文字サイズ、文字間隔などの情報を格納するファイルで、拡張子は.pciです。APでは、印刷するデータを1行(1レコード)ずつ出力し、1ページ分となった時点で書式がオーバーレイされて印刷されます。

行データ

AP中で設定する帳票の可変情報です。

グラフィック

グラフィックデータを出力するオブジェクトです。データには、ビットマップファイル(.bmp)、メタファイル(.wmf)、拡張メタファイル(.emf)が使えます。出力するデータをドローで定義する「固定グラフィック」と、APから指定する「出力グラフィック」があります。

固定グラフィックは、配置する前にあらかじめグラフィックファイルを用意しておきます。

出力グラフィックは、領域だけを配置します。グラフィックデータは、APからファイル名またはクリップボード経由で渡します。

グラフィックコントロール

画面内のオブジェクトを整理・強調するための各種オブジェクトの総称です。

グラフィック、セパレータ、けい線、矩形、メッセージアイコン、および塗りつぶしフィールドが該当します。

グラフィック帳票

240dpi/300dpiのページプリンタ用の帳票です。網掛け帳票の機能に加え、オブジェクトやけい線などのバリエーションなどをより豊富に備えていて、文字のカラー印刷にも対応しています。また、複数のデータ項目を扱えるバーコード(GS1-128)を使用できます。

グリッド

ドローのレイアウト領域上の座標を示す格子状の線や点で、オブジェクト配置位置となります。格子一つ分の単位を「ます」といいます。

画面定義でのますのサイズは、画面属性で指定する基準文字サイズに従います。行方向は文字サイズの半分、列方向は半角文字の幅がそれぞれますの縦幅/横幅となります。

帳票定義でのますのサイズは、帳票属性で指定する基準ます目サイズに従う行/列単位と、ドット単位、mm単位、ます目単位とで切り替えられます。ただし、シリアルインパクト帳票の場合は、行/列単位だけとなります。

グループコントロール

オブジェクト内に、ほかのオブジェクトを配置できる各種オブジェクトの総称です。グループボックス、フィールドボックス、フレームが該当します。

グループボックス

画面上のオブジェクト(セパレータを除く)を囲んでグループ化するオブジェクトです。必要に応じて、グループボックス単位のフォーカス遷移の順序を設定できます。

けい線帳票

180dpiのドットインパクトプリンタ用の帳票です。カット紙に対応するものと、連続紙に対応するものがあります。OCR文字も使えます。

桁

使用する文字数を半角換算で数えた単位です。例えば、出力テキストの属性設定用ダイアログで幅に「10桁」とある場合は、そのオブジェクトに10文字(半角の場合)まで出力できることを示します。

なお、文字サイズを指定できるオブジェクトでは、現在の設定されている文字サイズでの文字数となります。

桁寄せ

テキストやフィールドに表示されるデータを右または左のどちらかに寄せるための項目です。次の場合に、右や左に寄せてデータを入出力します。

- 入力データ長が、AP が受け取る項目の長さより短い
- 出力データ長が、AP が渡す項目の長さより短い

後退キー ([Back Space])

XMAP3 実行環境の環境設定で、表示・印刷環境ファイル (X3PCONF/XPWconfig) の、後退キーの動作 (表示サービス名.DCBKSP=) オプションの指定に対応して動作が次のように異なります。

- 直前の項目 (BTAB) : テキスト・フィールドの先頭にカーソルを位置づけます。テキスト・フィールドの先頭では、前の位置にあるテキスト・フィールドにフォーカスが移動します。
- 1 文字削除 (BSDEL) : 直前の文字を削除し、間を詰めます。
- ヌル置換 (BSNULL) : 直前の文字をヌル ((00)₁₆) で置き換えます。

候補選択コントロール

画面に表示された各候補から対象を選ぶための各種オブジェクトの総称です。リストボックス、ラジオボタン、チェックボタン、およびトグルフィールドが該当します。

項目

AP と XMAP3 でやり取りする論理マップ中の各要素を項目といいます。画面や帳票に表示するユーザデータを扱う項目をデータ項目といい、表示属性を変更する目的で使用する項目を制御項目といいます。データ項目は、データ型によって次のように呼びます (COBOL の場合)。

- 文字項目 : データ型が文字 (XX) のときのデータ項目
- 数字項目 : データ型が数字 (99) のときのデータ項目
- 数字編集項目 : データ型が数字編集 (Z, 9, ¥などの組み合わせ) のときのデータ項目
- 漢字項目 : データ型が日本語 (NN) のときのデータ項目

固定テキスト・フィールド

固定の文字列を出力するオブジェクトです。文字列はドローで定義します。全角文字を使える「日本語」と、半角文字だけを使える「英数」があります。

固定バーコード

バーコードを印字するオブジェクトです。一つのバーコードで一つのデータ項目を表します。データはドロー上で指定して帳票に印字します。文字や長さに応じた各種があります。バーコードに付けるデータ文字の有無などを指定できます。

固定フィールド

表題など、帳票上で変化しない文字列のフィールドです。表示する文字列はドローで定義します。固定フィールドの入力できる文字には、標準で全角文字を使用できる「日本語」と、標準で半角文字だけを使用できる「英数」があります。

コマンドコントロール

選択操作で、イベントを発行して処理を実行するための各種オブジェクトの総称です。プッシュボタンとメニューバーが該当します。

コメント

画面/帳票や各オブジェクトに付ける概要や使用目的などの情報です。実際の画面表示/帳票印刷の対象にはなりません。

コントロールメニュー

GUI 画面で、タイトルバー左端のアイコン (またはボタン) から表示される Windows のシステムメニューです。

XMAP3 実行環境の環境設定で、表示・印刷環境ファイル (X3PCONF/XPWconfig) の [閉じる] ボタン (表示サービス名.DCMPCS=) オプションの指定で、[閉じる] メニューを使用するかどうかを設定できます。

コンバート

すでに作成したマップ定義ファイルや書式定義ファイルについて、画面・帳票の種別や適用言語 (COBOL, C 言語) を変換します。

コンバートは、XMAP3 開発支援ユーティリティで提供します。

コンボボックス

候補 (メニュー項目) を選択したり、データを直接、キー入力したりして、入力するデータを指定するオブジェクトです。必要な場合だけ入力するオプションを選択するときなどに使います。メニューは、付属しているボタンを選ぶと表示されます。メニュー項目をドローで定義する「固定コンボボックス」と、AP から指定する「可変コンボボックス」があります。また、GUI 画面では、メニュー選択とキーボードからの入力を併用する使い方ができる「キー入力固定コンボボックス」と「キー入力可変コンボボックス」もあります。

なお、ドローでは [コンボボックス] を使用するとメニュー選択するコンボボックスを定義でき、[キー入力コンボボックス] を使用するとキー入力するコンボボックスが定義できます。これらを区別するため、メニュー選択するコンボボックスを「メニュー選択コンボボックス」、キー入力するコンボボックスを「キー入力コンボボックス」と表記し、これらの総称として「コンボボックス」と表記します。

(サ行)

サーバ AP 名ファイル (X3PAPL)

C/S 構成の場合に、クライアントの起動時に実行する AP の名前とサーバでの実際のファイル名との対応を設定するファイルです。サーバ AP 名ファイルの内容は、C/S セットアップの [アプリケーション] で設定します。

サーバ AP 名ファイルは、XMAP3 Server Runtime で提供します。

格納場所とファイル名: *XMAP3* インストールフォルダ¥ETC¥X3PAPL

サーバ環境定義ファイル (X3WEBSRV)

Web 実行環境の場合に、各種の環境設定ファイルの格納先、実行時に Web クライアント側に必要なデータファイルの格納先などを定義するファイルです。

サーバ環境定義ファイルは、XMAP3/Web for Cosminexus の XMAP3 TP1/Web 連携機能で使用します。XMAP3 Cosminexus 連携機能の場合は不要です。

格納場所とファイル名: *XMAP3* インストールフォルダ¥Web for TP1¥ETC¥X3WEBSRV

サーバ起動ファイル (X3PSERV)

Windows サービス上で動作する XMAP3 サーバの SERVICES ファイルのサービス名と、サービス名ファイル、および表示・印刷環境ファイルとの対応を設定するファイルです。サーバ起動ファイルの内容は、ファイルを開いてテキストエディタで直接設定します。

サーバ起動ファイルは、XMAP3 Server Runtime で提供します。

格納場所とファイル名: *XMAP3* インストールフォルダ¥ETC¥X3PSERV

サービス名ファイル (X3PHOST/XPWhosts)

表示・印刷サービスに関連するサービス名やサービス種別などを設定するファイルです。この情報はサーバ側だけに設定します。サービス名ファイルには、Windows 版 XMAP3 の場合は C/S セットアップで設定した情報が反映されます。UNIX 版 XMAP3 の場合はテキストエディタで編集します。スタンドアロン環境の場合は、サービス名ファイルの設定は必要ありません。

サービス名ファイルは、XMAP3 Server Runtime または XMAP3 Client Runtime で提供します。

格納場所とファイル名:

[Windows 版] *XMAP3* インストールフォルダ¥ETC¥X3PHOST

[UNIX 版] /etc/opt/HIXMAP/XPWhosts

再定義名

定義済みの論理マップを別定義として使用する際の名称です。半角で 30 字以内で定義します。
画面定義の場合、入力論理マップ用と出力論理マップ用とで別の名称にすることもできます。

削除キー（[Delete]）

入力できるテキスト・フィールドのデータを 1 文字ずつ削除するためのキーです。

次画面

OpenTP1 の機能を利用して、次に表示する画面をドロー上で定義できます。

下敷き

ドローでのプレプリント帳票、グラフィック帳票および書式オーバーレイの定義で、用紙のフォーマットイメージをレイアウト領域の背後に表示しながら定義する機能です。用紙上のけい線などに合わせてオブジェクトの位置を調整する場合に使います。下敷きは、レイアウト時の目安となるだけで、実際の帳票印刷の対象にはなりません。

下敷きとして表示するデータは、あらかじめスキャナで読み込んで、256 色以下のビットマップファイル (.bmp) として用意しておきます。

修飾名

各画面およびグラフィック帳票で、表示属性の変更を AP から指示するための定数です。次の手順で利用します。

1. ドローセットアップで、修飾名と表示属性との対応を定義する。
2. ドローで、オブジェクトや画面の属性に「動的変更」を指定する。
制御項目（修飾名を格納する領域）が論理マップに展開されます。
3. AP で、制御項目に修飾名を格納する。

修飾名に設定された表示属性に従って、画面に表示（または帳票に印刷）されます。

出力 OCR

JIS 規格 OCR サブセット 2 の範囲の文字でデータを印字するオブジェクトです。データは AP から指定し、論理マップを介して帳票に印字します。字間値は 10CPI 相当が標準です。

出力テキスト・フィールド

出力データを AP から変更し、論理マップを介して帳票に出力するフィールドです。出力フィールドに出力できる文字には、数字だけを使用できる「数字」、全角文字を使用できる「日本語」、および半角文字だけを使用できる「英数」があります。

出力バーコード

バーコードを印字するオブジェクトです。一つのバーコードで一つのデータ項目を表します。データは AP から指定し、論理マップを介して帳票に印字します。文字や長さに応じた各種があります。バーコードに付けるコメント文字の有無などを指定できます。

バーコードの種類には、JAN8、JAN13、CODE39、ITF、NW-7、およびカスタマがあります。特別なハードウェアは必要ありません。

出力日付／時刻テキスト・フィールド

日付や時刻を表す文字列を出力するオブジェクトです。AP から指定する可変のデータを出力します。

GUI オブジェクトの「出力日付テキスト」と「出力時刻テキスト」、フィールドオブジェクトの「出力日付フィールド」と「出力時刻フィールド」があります。

ショートカットキー

メニューバーのメニュー項目の選択操作をするためのキーです。

フォーカス・カーソルの位置に関係なく、[Ctrl] + 半角英字 1 字を押すと該当するメニュー項目を選択できます。

なお、メニューバーのメニュー項目、またはカスケードメニューを持つプルダウンメニューにはショートカットキーを定義できません。

初期クリア文字

AP 実行時に、画面からの入力データを AP が受け取る前に、XMAP3 が入力論理マップの各項目をあらかじめクリアしておく文字です。標準値は埋字と同じ文字で、ドローストップで変更することもできます。

初期クリア文字に指定できるのは半角文字だけです。初期クリア文字に「スペース」を指定した場合は、漢字専用オブジェクトでも 1 文字につき半角スペース二つでクリアされます。

AP が受け取るデータの優先順位は次のとおりです。

1. キー入力データ/選択した通知コード（正常操作）
2. 入力済み/選択済みのとき、表示されているデータ/通知コード
3. エラー通知
4. データ消去通知文字
5. 初期値
6. 初期クリア文字

初期値

論理マップにあらかじめ設定しておく値です。

出力データの初期値は、出力論理マップの項目に設定します。AP 実行時に出力データの代わりにデータ有無コードを設定した場合はこの初期値が有効になります。

入力データの初期値は入力論理マップの項目に設定します。AP 実行時に画面からの入力データを AP が受け取る以前にはこの初期値が有効になります。

書式イメージファイル

書式オーバーレイの文字列やけい線などの情報を格納するファイルで、拡張子は.fmp です。書式オーバーレイの定義終了時に、行制御データファイルとともに生成されます。

書式オーバーレイ

240dpi/300dpi のページプリンタ用の書式オーバーレイです。定型帳票から書式（文字列やけい線などの固定項目）を分離し、アプリケーション（行データ）を印刷時に重ね合わせるソフトオーバーレイ方式を採用しています。書式をプリンタ（ハードウェア側）に登録するメインフレーム環境の出力方式とは異なります。

書式記述文ファイル

メインフレーム版の XMAP で書式を生成する定義文のファイルのことです。XMAP3 開発支援ユーティリティでインポートすると、書式記述文から Windows 用の書式オーバーレイに変換できます。

書式定義ファイル

ドロで定義した書式の定義情報を格納したファイルで、拡張子は.ifm です。書式の定義終了時に生成され、書式イメージファイルと行制御データファイルはこの書式定義ファイルを基に生成されます。

数字編集項目

指定した PICTURE 句に従って、数字を編集して入出力します。PICTURE 句は、次の文字で指定します。

入力：SV9

出力：*+ - ¥9.,Z/

スクリプト環境ファイル (X3XSCONF)

スクリプト環境の設定ファイルです。スクリプト環境ファイルの定義には、テキストエディタを使用して直接編集します。スクリプトファイル環境ファイルは、起動 HTML の PARM タグの環境ファイルパスで指定したフォルダに格納します。この環境設定ファイルは、XMAP3/Web for Cosminexus で提供します。

スクロール領域

ウィンドウやボックス内で、表示範囲を移動できる領域です。表示範囲の移動はスクロールバーで操作します。

これに対し、表示範囲の移動対象外の領域を「スクロール禁止領域」といい、ウィンドウやボックス内に常に表示されます。

スピンドボックス

入出力テキストの右端に、テキストに表示されている数値の増減をコントロールするステップが付いているボックスです。増分値を指定すると、指定した間隔で表示されている数値が増減します。

セットアップ情報反映

すでに作成したマップ定義ファイルや書式定義ファイルに対して、ドローセットアップの情報を反映します。ドローで画面・帳票を定義したあとに、ドローセットアップで動的変更などの設定を変更した場合に使います。

セパレータ

画面上の各オブジェクトの間を区切るときに使う、GUI 画面用の線オブジェクトです。縦線と横線が使えます。

選択エントリ

選択操作で文字列を入力するための各種オブジェクトの総称です。
コンボボックス、ポップアップ、およびスピンドボックスが該当します。

挿入キー ([Insert])

テキスト・フィールド上の文字列の間に、文字を挿入するための半角 1 文字分を空けます。挿入した空きに文字を書き込まないときは、AP が受け取るデータ上で空きが詰められます。

XMAP3 実行環境の環境設定時に、表示・印刷環境ファイル (X3PCONF/XPWconfig) の次に示すオプションで、挿入キーの動作を変更できます。

- 挿入キーの動作 (表示サービス名.DCINMD=) オプション
- 挿入/上書きモードのデフォルト設定 (表示サービス名.DCINST=) オプション
- 文字挿入の範囲 (表示サービス名.DCINKY=) オプション

挿入モード

キーボードから文字を入力する際に、カーソルの位置に文字を挿入し、すでにある文字を入力文字数分だけ移動させる入力方式です。

XMAP3 では、すでにある文字に上書きする「上書きモード」がデフォルトになっています。「挿入モード」をデフォルトにしたい場合は、表示・印刷セットアップで設定できます。

(タ行)

ターゲット環境

XMAP3 で画面・帳票を定義するときを選択する環境です。定義した画面・帳票を運用する環境に応じて、次のターゲット環境があります。

- メインフレーム-PC 分散用の画面・帳票開発
- Windows 用の画面・帳票開発

チェックボタン

入力するデータを候補 (ボタン) の選択によって指定するオブジェクトです。グループ内の複数のボタンから複数の選択ができます。ラベル長や選択肢の数が少ないときに使います。

ボタンラベルをドローで定義する「固定チェックボタン」と、AP から指定する「可変チェックボタン」があります。

チェックボタンのグループを表すボックスを「チェックボタンボックス」といいます。

通信記述項 (CD 項)

XMAP3 で画面の入出力、および帳票の出力をするために COBOL プログラム中にコーディングする論理端末定義ブロックです。物理マップ名や端末名などを指定します。

通知コード（イベント通知コード）

コマンドコントロールオブジェクト（プッシュボタン、メニューバー）や確定キー（PF キーなど）に割り当てるコードです。オブジェクトやキーを操作するとイベントが発生し、通知コードに対応づけた動作（AP 通知など）が実行されます。イベント通知コードの値はドローセットアップで変更できます。動作はドローで変更できます。

通知コード（データ入力用）

選択エントリ（スピンボックスを除く）、候補選択コントロールオブジェクトの各候補（メニュー項目など）に割り当てるコードです。

メニュー項目の選択操作などで指定した候補に応じて、対応する通知コードが AP が受け取る項目に格納されます。

定義体

画面や帳票のレイアウトに関する情報を格納した、物理マップ、書式イメージファイルおよび行制御データファイルの総称です。

データ有無コード

AP（論理マップのテキスト・フィールドのデータ名の領域）にデータが設定されていないことを示す 1 バイトの文字コードです。(00)₁₆～(FF)₁₆ の任意の値で、通常は (1F)₁₆ が標準値です。

コードを変更する場合は、使用する言語に応じて次のとおりになります。

COBOL の場合

1. SEND/RECEIVE のとき、通信記述項の DATA ABSENCE CODE 句
2. CALL のとき、オープン要求のインタフェース

C 言語の場合

1. jsvwadrv 関数のオープン要求インタフェース

データ型

COBOL の PICTURE 句で指定するデータの型です。文字型や数字型があります。C の場合は、char だけです。ドローで作成したオブジェクトには、ドローセットアップで指定したデータ型が仮定されます。必要に応じて、ドローで変更できます。データ型は、文字用、数字用、数字編集用に分かれます。使用できるデータ型は次のとおりです。

入力用のデータ型

- 文字用：文字 (XX)，漢字 (NN)，漢字 (XX)
- 数字用：99999
- 数字編集用：S99999, 999V9 など

出力用のデータ型

- 文字用：文字 (XX)，漢字 (NN)，漢字 (XX)
- 数字用：99999
- 数字編集用：Z, 9, ¥などを組み合わせた各種数字編集文字列

また、登録されていないデータ型を指定したい場合、「自由な設定」ボタンで表示されるダイアログで任意に設定できます。

データキー（[Ctrl] + [End]）

画面上のすべての入力テキスト（または入力フィールド）の文字を消去するためのキーです。データクリアキーともいいます。XMAP3 実行環境の環境設定で、表示・印刷環境ファイル (X3PCONF/XPWconfig) の、データキーの動作（表示サービス名.DCDTTF=）オプションの指定で、データキーの動作を変更できます。

データ消去通知文字

AP 実行時に、画面からフィールドキーで入出力テキスト・フィールドのデータを消去したり、(00)₁₆ のデータを受信したりしたときに AP が受け取るデータです。したがって、AP が受け取ったデータがデータ消去通知文字であれば、画面操作でデータ消去されたと判断できます。

初期クリア文字や初期値とデータ消去通知文字とを分けておくことで、入力操作がなかったのか、データ消去されたのかを区別できます。

ただし、「入力済み」属性のオブジェクトで、画面確定時に入力データや表示データがない場合は、データ消去されていなくてもデータ消去通知文字が返ります。

また、データ消去通知文字に指定できるのは半角文字だけです。データ消去通知文字に「スペース」を指定した場合は、漢字専用オブジェクトでも1文字につき半角スペース二つが通知されます。

データ消去通知文字の標準は LOW(X'00') で、ドローセットアップで変更することもできます。

データ長

論理マップの長さ（バイト数）です。通常は、桁を基に各ターゲットに応じた値が自動的に計算されます。ユーザ任意の値を設定できるターゲットもあります。

データ名, 制御項目データ名

データ項目名（またはデータ名）は、データの入出力に関する各項目の領域の名称です。

データ名のうち、修飾名（表示属性の変更を AP から指示するための名前）を格納する領域の名称を制御項目データ名といいます。

デバイス ID

マップ名に付けられる ID で、次の対応で画面・帳票の種別を表します。

6.は6桁のマップ名の場合、7.は7桁のマップ名の場合です。

画面・帳票の種別	6桁のマップ名	7桁のマップ名
GUI 画面	6.ND	7.O
CUI 画面	6.NC	7.S
けい線帳票	6.6A	7.P
プレプリント帳票	6.6H	7.L
網掛け帳票	6.6B	7.R
グラフィック帳票	6.6G	7.G
書式オーバーレイ	6.6G	7.F

デリミタ線

複数の短い縦けい線をます目ごとに横に並べて配置するオブジェクトです。1桁ごとに区切る目盛りを描画するときに使います。

登録集原文

COBOL のプログラム中でよく利用される標準化した手続き、ファイル記述、レコード記述、または完全な一つのプログラムなどをコンパイルするプログラムと別のファイルに登録したものです。

トグルフィールド

「YES/NO」などの印を付けるためのオブジェクトです。表の中に配置して、「オン/オフ」、「済/未」などを表す場合に使います。

ドロー

XMAP3 の画面や帳票を定義するエディタです。画面や帳票のレイアウトや、各オブジェクトの属性を定義します。ドローで定義した内容を基に、マップ定義ファイル（書式オーバーレイでは書式定義ファイル）、物理マップと論理マップ（書式オーバーレイでは行制御データファイルと書式イメージファイル）が作成されます。

ドローセットアップ

XMAP3 の画面や帳票の定義に関する標準の値をカスタマイズする機能です。XMAP3 にはセットアップ項目の標準値があり、この標準値を変更する場合や、動的変更で修飾名を追加したい場合にドローセットアップを実行します。セットアップ項目はマップの形式に関係しているため、画面や帳票を作成する前にドローセットアップを済ませておく必要があります。ドローセットアップは、XMAP3 Developer で提供します。

(ナ行)

二次ウィンドウ

データ入力補助、メッセージ、ヘルプなどのために、一次ウィンドウのデータを表示したまま新しく表示する画面です。一次ウィンドウに重ねて表示され、このとき操作できるのは二次ウィンドウだけとなります。

入出力テキスト・フィールド

キーボードなどから文字データを入力するオブジェクトです。また、AP から指定する文字データを表示できます。初期表示値（出力データ）を示し、書き換えが必要な場合だけ入力する使い方ができます。入出力するデータの意味に応じて、種類（使用目的）を選べます。

入出力日付／時刻テキスト・フィールド

日付や時刻を表す文字列を入出力するキーエントリオブジェクトです。キーボードなどから文字を入力します。また、AP から指定する可変のデータを表示できます。

表示されている出力データを必要に応じて書き換えて入力する使い方ができます。

GUI オブジェクトの「入出力日付テキスト」と「入出力時刻テキスト」、フィールドオブジェクトの「入出力日付フィールド」と「入出力時刻フィールド」があります。

入力データ長格納領域

入力テキストなどの画面上で入力可能な長さに対して、実際にどのくらいのデータが入力されたかの長さをオブジェクト単位に入力論理マップとして返す領域です。

塗りつぶしフィールド

フィールドボックス内の領域に色を付けるオブジェクトです。ほかのオブジェクトを重ねて配置できます。1 行おきに色のパターンを付けて行を見やすくする場合などに使います。

(ハ行)

ハードマージン

プリンタが紙を送るために必要な領域で、ハードウェア（プリンタ）に依存します。したがって、ユーザが任意に設定できません。また、GDI モードと LIPS スルーで次の違いがあります。

- GDI モードの場合、プリンタドライバが持つマージン
- LIPS スルーの場合、物理的に印字できない領域

ただし、プリンタドライバが持つマージンが、印刷するプリンタのハードマージンと同じかどうかは機種によって異なります。一般には、プリンタのハードマージンより大きく取られます。なお、ユーザがドローで指定できるマージンをソフトマージンまたは単にマージンといいます。

背景色

入出力テキストのボックス内の色やボタンボックス内の色です。背景色は、16 色から選べます。色の設定は、ドローで選択した各オブジェクトの属性ダイアログのほかに、ドローのツールバーの [文字色/背景色] ボタンをクリックして表示される文字色/背景色のツールボックスで変更できます。このツールボックスを使うと画面全体の配色を見ながら設定できます。

パネル定義文ファイル

UNIX 版の XMAP3, またはメインフレーム版の XMAP でマップを生成する定義文のファイルのことで、拡張子は.xmp です。XMAP3 開発支援ユーティリティでインポートすると、パネル定義文から Windows 用のマップ定義ファイルに変換できます。

反転表示

この属性を指定すると文字色と背景色を反転させて表示します。したがって、何も入力されていない状態では、通常指定した文字色と背景色になり、入力が確定した時点で反転して表示されます。動的変更を利用して、反転表示を AP から指定することもできます。

反復定義

一つのオブジェクトを縦または横方向に繰り返す定義で、表形式で同じ属性のオブジェクトを並べる場合などに使います。反復定義を使うと、同じ属性のオブジェクトを一つずつ配置するよりも効率良く定義できます。また、論理マップは配列 (COBOL では OCCURS 句) で展開されるので、AP のロジックも反復指定で実現できます。

ビッグエンディアン

バイナリ形式のデータを扱う際、メモリ上に左から右側へ 1 バイトずつ格納する形式です。

(例)

(000A)₁₆ を 2 バイトのメモリに格納した場合は、(000A)₁₆ になります。

表示・印刷環境ファイル (X3PCONF/XPWconfig)

XMAP3 での画面表示、および帳票印刷環境の設定ファイルです。表示・印刷環境ファイルの内容は、Windows 版 XMAP3 の場合は表示・印刷セットアップで設定します。UNIX 版 XMAP3 の場合は、テキストエディタで編集して設定します。

表示・印刷環境ファイルには、Windows 版 XMAP3 の表示・印刷セットアップで設定できない項目があります。これらの項目は、直接ファイルをエディタで開いて編集します。なお、エディタでパラメタを設定した場合でも、表示・印刷セットアップで設定できる項目については、セットアップでの設定が優先されます。

表示・印刷環境ファイルは、XMAP3 Server Runtime, XMAP3 Client Runtime, XMAP3/Web for Cosminexus で提供します。

格納場所とファイル名：

[Windows 版]

- XMAP3 Server Runtime または XMAP3 Client Runtime の場合
XMAP3 インストールフォルダ¥ETC¥X3PCONF
- XMAP3/Web for Cosminexus (XMAP3 Cosminexus 連携機能) の場合
XMAP3 インストールフォルダ¥Web for Cosminexus¥ETC¥X3PCONF
- XMAP3/Web for Cosminexus (XMAP3 TP1/Web 連携機能) の場合
XMAP3 インストールフォルダ¥Web for TP1¥ETC¥X3PCONF

[UNIX 版]

/etc/opt/HIXMAP/XPWconfig

表示・印刷セットアップ

XMAP3 が表示・印刷する画面・帳票の環境を必要に応じて設定するための機能です。ユーザ画面の外観や操作キーの割り当て、プリンタの印刷モードなどの各種設定があります。

表示・印刷セットアップは、Windows 版 XMAP3 Server Runtime, XMAP3 Client Runtime, Windows 版 XMAP3/Web for Cosminexus で提供します。

表示形態

画面を表示するとき、直前に表示した画面に対して一部だけを書き換える (部分描画) か、全部を書き換える (全画面描画) かを指定する属性です。この値は、ドローのダイアログで値を設定します。また、ドローセットアップの「表示属性の動的変更」の「ウィンドウ属性」で変更したい「表示形態」の属性を指定した修飾名を用意しておくこと、AP から動的に表示形態を変更できます。表示形態には、次の 3 種類があります。

- 一部上書
直前に表示した画面の一部の項目だけを変更して表示します。書き換えに比べて表示時間を短縮できます。この場合、マッピングモードとデータ有無コードを合わせて使う必要があります。
- 全面書換
表示中の画面を消去して、次の画面を全画面描画して表示します。
- 自動
上書きと書き換えを XMAP3 に任せ、AP では特に意識しません。直前の画面と同じマップ名のときは部分描画になります。

表示属性

画面での、テキストやフィールドに出力する文字色やボタンの活性/不活性などを指定する属性、および帳票での、フィールドの文字の書体やけい線の種類などを指定する属性のことです。ドローでは、必要に応じて各ダイアログで変更できます。また、表示属性は定義上の指定のほかに、AP から動的に変更できる属性もあります。AP から動的に表示属性を変更するためには、ドローセットアップの動的変更を指定する修飾名で指定します。

フィールドキー ([End])

テキスト・フィールドで、カーソル以降の文字を削除します（標準の場合）。

XMAP3 実行環境の環境設定で、表示・印刷環境ファイル (X3PCONF/XPWconfig) のフィールドキーの動作 (表示サービス名.DCFCLR=) オプションの指定で、割り当てるキーの動作を変更できます。

フィールドボックス

多量のデータをまとめて入出力するためのボックスオブジェクトです。次のような場合に適しています。

- けい線を使って、表形式でオブジェクトを並べる
- CUI 画面を基本にして一部だけを GUI 化する (ファンクションキーによる選択部分だけのボタン化など)
- 文章データなど、複数行にわたる文字データを表示する

フォーカス

GUI 画面を表示した際、操作対象となるオブジェクトに表示される枠です。AP から操作対象となるオブジェクトを選択することを、AP からフォーカスを位置づける、といいます。

フォーカス制御

フォーカス位置の情報を制御するための制御項目です。AP では、フォーカスを設定したいオブジェクトに対応するフォーカス定数を、制御項目に格納して渡します。また、画面上でフォーカスが位置づいているオブジェクトに対応したフォーカス定数を、制御項目で受け取ります。なお、フォーカス定数は、XMAP3 が生成します。このため、画面のオブジェクトの位置を変更しても、AP を変更する必要はありません。

フォーカス定数

入力や選択ができるボックスにフォーカスを位置づけるための定数です。フォーカス定数は、例えばドローで AP が受け取る項目のデータ名を MAP001-FIELD0001- に設定した場合は、MAP001-FIELD0001-T の名称で論理マップ中に生成されます。フォーカス定数と入力フォーカス項目の値が一致するオブジェクトの位置が、画面上に位置づいたフォーカスの位置として AP で認識されます。

フォント構成ファイル (X3PFONT)

XMAP3 で作成した画面上に表示する文字のフォントやサイズの環境設定ファイルです。フォント構成ファイルの内容は、表示・印刷セットアップの「表示文字」で設定します。フォント構成ファイルは、Windows 版 XMAP3 Server Runtime, XMAP3 Client Runtime, XMAP3/Web for Cosminexus で提供します。

格納場所とファイル名：

- XMAP3 Server Runtime または XMAP3 Client Runtime の場合
XMAP3 インストールフォルダ\ETC\X3PFONT
- XMAP3/Web for Cosminexus (XMAP3 Cosminexus 連携機能) の場合

XMAP3 インストールフォルダ¥Web for Cosminexus¥ETC¥X3PFONT

- XMAP3/Web for Cosminexus (XMAP3 TP1/Web 連携機能) の場合
XMAP3 インストールフォルダ¥Web for TP1¥ETC¥X3PFONT

複数行のフィールド

複数行にわたるサイズのフィールドです。フィールドの長さが 1 行に収まらない (レイアウト領域の右端からはみ出す) 場合に、次の行に折り返されます。

GUI 画面では、フィールドボックス中のフィールド (固定/出力/入出力) とポップアップで使えます。

CUI 画面では、フィールド (固定/出力/入出力) で使えます。なお、反復定義や文字の拡大との併用はできません。

プッシュボタン

イベント (実行する処理) を候補 (ボタン) の選択によって指定するオブジェクトです。イベントに対応する処理として「AP 通知」や「ポップアップ表示」などを指定できます。確定キーの代わりとしても使えます。

ボタンラベルはドローで定義し、AP 実行時に変更できます。ボタンラベルには、文字列のほかにグラフィックを表示することもできます。

プッシュボタンのグループを表すボックスを「プッシュボタンボックス」といいます。

物理画面

実際のディスプレイ画面です。各ウィンドウは、最終的にこの物理画面に表示されます。

物理マップ

画面のオブジェクトの位置などを格納した情報ファイルです。ファイル名はマップ名にデバイス ID (マップの定義対象を示す 1 文字または 2 文字の英数字) を付けた名前で、拡張子は.pmp です。画面の定義終了時に、論理マップとともに生成されます。ディスプレイやプリンタの入出力データを論理マップデータに変換したり、論理マップデータを入出力データに変換したりするときに XMAP3 が参照します。

物理マップの常駐化

物理マップを XMAP3 のマッピングライブラリに常駐しておくことです。マッピングライブラリは、AP からマップ名を受け取ります。このマッピングライブラリとマップを読み込む (ロードする) 時間を減らすことで応答時間を短縮しようとするものです。

プリンタ構成ファイル (X3PPINF)

プリンタ構成を設定する環境設定ファイルです。このファイルの内容は、次の方法で設定します。

- Windows 版 XMAP3 Server Runtime または XMAP3 Client Runtime の表示・印刷セットアップの「プリンタ」タブ
- Windows 版 XMAP3 Server Runtime で提供する印刷拡張セットアップまたは XMAP3 Client Runtime のオプション製品

プリンタ構成ファイルは、Windows 版 XMAP3 Server Runtime, XMAP3 Client Runtime, XMAP3/Web for Cosminexus で提供します。

格納場所とファイル名:

- XMAP3 Server Runtime または XMAP3 Client Runtime の場合
XMAP3 インストールフォルダ¥ETC¥X3PPINF
- XMAP3/Web for Cosminexus (XMAP3 Cosminexus 連携機能) の場合
XMAP3 インストールフォルダ¥Web for Cosminexus¥ETC¥X3PPINF
- XMAP3/Web for Cosminexus (XMAP3 TP1/Web 連携機能) の場合
XMAP3 インストールフォルダ¥Web for TP1¥ETC¥X3PPINF

プリントサーバ起動ファイル (X3PPRSV)

XMAP3 実行環境をプリントサーバとして使用するときに必要な環境設定ファイルです。XMAP3 プリントサーバが接続する XMAP3 サーバのホスト名、サービス名および印刷サービス名を設定します。プリントサーバ起動ファイルを編集するときは、テキストエディタを使用します。

プリントサーバ起動ファイルは、XMAP3 Server Runtime で提供します。
格納場所とファイル名：XMAP3 インストールフォルダ\ETC\X3PPRSV

フレーム

複数のオブジェクトの組み合わせを縦方向または横方向に反復して並べるためのオブジェクトです。テキスト・フィールドなどを組み合わせて表形式で並べる場合に使います。論理マップには配列として展開されます。

プレーン

フィールドボックス、リストボックス、ボタンボックスが持つ領域で、ボックス内に表示するフィールドやボタンなどを配置するための平面です。

プレーンの属性の文字サイズは、プレーン内で共通の配置単位や文字サイズとなり、中のすべてのオブジェクトに適用されます。

フィールドボックスとリストボックスでは、ボックスよりも大きいプレーンを指定できます。画面上では、ボックスサイズの範囲だけが表示され、範囲外の部分はスクロールをして表示します。

プレプリント帳票

180dpi のドットインパクトプリンタ用の帳票です。カット紙に対応するものと、連続紙に対応するものがあります。プレプリント用紙（あらかじめ、けい線や標題などが印刷されている用紙）に対して可変データを印字するときに使います。バーコードや OCR 文字も使えます。

ポップアップ

入力するデータを候補（メニュー項目）の選択によって指定するオブジェクトです。また、キーボードからの入力を併用する使い方もできます。

メニュー項目をドローで定義する「固定ポップアップ」と、AP から指定する「可変ポップアップ」があります。

(マ行)

マージン

ページプリンタで、用紙に穴を開けることを想定して設定しておく余白のことです。用紙の左上を基点にしてマージンを設定し、レイアウト開始位置をずらせます。このようにユーザが指定するマージンをソフトマージンといいます。これに対し、プリンタドライバおよびプリンタ装置ごとに、ハードマージンと呼ばれるハード機構上、印刷できない領域があります。このハードマージンの値よりも小さいマージンを設定すると、ハードマージンが有効になるので、注意してください。

なお、ハードマージンは、GDI モード使用時にはプリンタドライバが持つ値となり、PDL スルーモード使用時にはプリンタ装置が持つ値となります。また、PDF ファイル出力の場合は、ハードマージンがないため、常にソフトマージンが有効なレイアウトとなります。

ます (GUI/CUI 画面の単位)

レイアウト定義に使う単位で、オブジェクトのサイズなどを表します。

ますのサイズは、画面属性で指定する基準文字サイズに従います。縦幅は文字サイズの半分、横幅は半角文字 1 字分となります。

レイアウト領域のグリッドは、1 ます刻みで表示されます。

ます (帳票の単位)

レイアウト定義に使う単位で、オブジェクトのサイズなどを表します。

ますのサイズは、帳票属性で指定する基準ます目に対応しています。

レイアウト領域のグリッドは、1 ます刻みで表示されます。ただし、けい線帳票以外の各帳票では、ドット単位や mm 単位のグリッドを表示することもできます。

マッピングインタフェース領域

COBOL の CALL 文および C 言語を使用したときにマッピングオプションを指定する領域です。

次に示すマッピングオプションに対応しています。ただし、C 言語の名称は- (ハイフン) が、_ (アンダースコア) になります。

マージ: XMAP-MDO-MAPFLD

論理マップだけ: XMAP-MDO-LOGFLD

物理マップだけ: XMAP-MDO-PHFLD

マッピングオプション

「マージ」, 「論理マップだけ」, 「物理マップだけ」の 3 種類があります。マッピングオプションの指定先には、COBOL の SEND, RECEIVE, TRANSCEIVE 文を使用したときに指定する MAPPING MODE 句と、COBOL の CALL 文および C 言語のときに指定するマッピングインタフェース領域があります。

マージは、論理マップと物理マップをマージして、同一画面をすべて書き換えるときに指定します。ただし、同じ画面に対し、2 回目以降の表示では固定部分 (タイトルやけい線) は再描画しません。

論理マップだけは、一般的に 2 回目以降の表示で、入力した状態をそのままにして一部分を書き換えるときに指定します。

物理マップだけは、メニュー表示など、物理マップだけで初期表示するときに指定します。

マッピング構成ファイル (X3MWCONF/XMAPconfig)

マッピング構成の環境設定ファイルです。

Windows 版 XMAP3 の場合、マッピング構成ファイルは編集できません。XMAP3 実行環境が提供しているファイルをそのまま使用します。UNIX 版 XMAP3 の場合は、テキストエディタで編集します。

マッピング構成ファイルは、XMAP3 Server Runtime, XMAP3 Client Runtime, XMAP3/Web for Cosminexus で提供します。

格納場所とファイル名:

[Windows 版]

- XMAP3 Server Runtime または XMAP3 Client Runtime の場合
XMAP3 インストールフォルダ¥ETC¥X3MWCONF
- XMAP3/Web for Cosminexus (XMAP3 Cosminexus 連携機能) の場合
XMAP3 インストールフォルダ¥Web for Cosminexus¥ETC¥X3MWCONF
- XMAP3/Web for Cosminexus (XMAP3 TP1/Web 連携機能) の場合
XMAP3 インストールフォルダ¥Web for TP1¥ETC¥X3MWCONF

[UNIX 版]

/etc/opt/HIXMAP/XMAPconfig

マッピング方式

画面・帳票の固定データや AP の入出力データの配置を物理マップとして定義しておき、AP から入出力データを論理マップとして指定することで画面・帳票の入出力ができる方式です。画面・帳票のレイアウトとプログラムの処理を独立して設計できるので、業務開発の効率が向上します。

マッピングライブラリ

XMAP3 実行環境のコンポーネントの一つです。マップを参照して画面表示や帳票印刷に必要なデータを生成します。

マップ

XMAP3 では、画面や帳票の様式に関する情報を AP から切り離して、マップと呼ばれる入れ物に保管します。マップにはマップ定義ファイル、物理マップ、および論理マップがあります。

マップコンペア

物理マップファイル、書式イメージファイル、行制御データファイルをファイル単位またはフォルダ単位で比較します。ファイルの生成・更新日付、サイズ、内容について、違いを確認できます。

マップコンペアは、XMAP3 開発支援ユティリティで提供します。

マップ生成

マップ定義ファイルから、論理マップファイルと物理マップファイルを生成します。
また、書式定義ファイルから書式イメージファイルと行制御データファイルを生成します。
マップ生成は、XMAP3 Developer で提供します。

マップ帳票

けい線帳票、プレプリント帳票、網掛け帳票、およびグラフィック帳票の総称です。

マップ定義ファイル

ドローで定義した画面や帳票の定義情報であるソースマップを格納したファイルで、拡張子は.imp です。画面・帳票の定義終了時に、論理マップとともに生成されます。物理マップと論理マップは、このマップ定義ファイルを基に生成されます。

メッセージアイコン

操作者に対して何らかの注意を促すときに表示します。メッセージアイコンは、メッセージと一緒に出力することをお勧めします。

アイコンには、インフォメーション、ワーニング、クエスチョン、エラーの4種類があります。

メニューバー

イベント（実行する処理）を候補（メニュー項目）の選択によって指定するオブジェクトです。イベントに対応する処理として「AP 通知」や「ポップアップ表示」などを指定できます。確定キーの代わりとしても使えます。メニューの内容はドローで定義し、AP からの指定はできません。

プルダウンメニューやカスケードメニューを使って階層化でき、処理内容に応じたグループ分けができます。

文字色

画面の場合、入出力テキスト・フィールドの文字やボタンのラベルなどの色になります。画面の文字色は、12色から選べます。また、帳票の場合は、グラフィック帳票のフィールドやOCRの文字の色になります。帳票の文字色は8色から選べます。

色の設定は、ドローで選択した各オブジェクトの属性ダイアログのほかに、ドローのツールバーの「文字色/背景色」ボタンをクリックして表示される文字色/背景色のツールボックスで変更できます。このツールボックスを使うと、画面または帳票全体の配色を見ながら設定できます。

モジュラスチェック

「使用目的」が「数字」の場合に、モジュラスチェックをするかどうかを指定できます。指定した場合、画面の属性ダイアログで指定するモジュラスアルゴリズム（チェック 10 または 11）に従って、入力文字列（数字）がチェックされます。チェック条件に合った場合は AP イベントは返しません。合わない場合はエラーになり、テキスト・フィールドからカーソル・フォーカスが移動できなくなります。

チェック 10

次のチェックをし、一致する（合格）かを判定します。

1. 入力したデータの最後の 1 バイト（チェックデジット）・入力したデータのバイト数（入力したデータの最後の 1 バイトを除く）を取り出す。
2. 入力したデータのバイト数の右側より 2, 1, 2, 1, ... を乗数とし桁ごとに掛け算をする。
3. 掛け算の結果が 2 桁となったものについては 10 で割り算し、商とあまりに分解する。
4. 「2」「3」での掛け算と商およびあまりの結果をすべて加え合わせる。
5. 加算の結果を 10 で割り算し、あまりを求める。
6. 10 からあまりを減算し、差を求め、この差を入力したデータの最後の 1 バイトと比較する。

チェック 11

次のチェックをし、一致する（合格）かを判定します。

1. 入力したデータのバイト数（入力したデータの最後の 1 バイトを除く）を取り出す。

2. 入力したデータのバイト数の右側から 2, 3, 4, 5, 6, 7, 2, 3, 4, 5, 6, 7, ...の順に乗数を割り当て桁ごとに掛け算をする。
3. 結果をすべて加え合わせる。
4. 和を 11 で割り算し、余りを求める。
5. 11 から余りを減算し、差を求める。この差を入力したデータの最後の 1 バイトと比較する。

(ヤ行)

予約テキスト

オンラインシステム (XDM/DCCM3) が日付や時刻などを表示するためのオブジェクトです。

予約テキスト・フィールド

OLTP サーバ構成で OpenTP1 が提供する予約項目を出力するオブジェクトです。

予約項目に日付や時刻などを指定すると、AP 実行時に日付・時刻などの情報が OpenTP1 から動的に出力されます。

(ラ行)

ラジオボタン

入力するデータを候補 (ボタン) の選択によって指定するオブジェクトです。グループ内の複数のボタンから一つだけ選択できます。ラベル長や選択肢の数が少ないとき、また、「YES/NO」などの単純な選択をするときに使います。

ボタンラベルをドローで定義する「固定ラジオボタン」と、AP から指定する「可変ラジオボタン」があります。

ラジオボタンのグループを表すボックスを「ラジオボタンボックス」といいます。

ラベル

画面に文字列を表示するための各種オブジェクトの総称です。定義時に指定した固定の文字列を表示する「固定テキスト・フィールド」と、AP から指定する可変の文字列を表示する「出力テキスト・フィールド」、「出力日付/時刻テキスト・フィールド」が該当します。

リストボックス

入力するデータを候補 (リスト項目) の選択によって指定するオブジェクトです。リストの内容は AP から指定します。ラベル長や選択肢が多いときに使います。必要に応じて、スクロールバーを付けられます。

リストから一つだけ項目を選べる「単一選択リストボックス」と、複数の項目を選べる「複数選択リストボックス」があります。

リトルエンディアン

バイナリ形式のデータを扱う際、メモリ上に右から左側へ 1 バイトずつ格納する形式です。

(例)

(000A)₁₆ を 2 バイトのメモリに格納した場合は、(0A00)₁₆ になります。

レイアウトパターン

ドローで画面/帳票を新規作成するときに、用途に応じて指定するパターンです。標準的なレイアウト領域のサイズやパターンなどがあらかじめ設定されていて、ドローでのレイアウト定義の基本フォーマットとなります。

XMAP3 が標準提供しているレイアウトパターンのほかに、ユーザが独自に作成・登録することもできます。

レイアウト領域

ドローのレイアウト領域です。XMAP3 のレイアウト定義の範囲は、この領域になります。画面では、タイトルバー、メニューバー、オペレータインジケータを除く領域のことです。帳票では、オフセットとユーザが設定したマージン値 (ソフトマージン) を除いた領域になります。

連結出力バーコード

バーコードを印字するオブジェクトです。連結出力バーコードは、従来の JAN コードなどのような単一データ（商品コードなど）をバーコードとして印字するオブジェクトに対して、複数データ（メーカーコード、支払い期限、支払い金額など）を一つのバーコードとして印字するオブジェクトです。データは AP から指定し、論理マップを介して帳票に印字します。このとき、一つのバーコードに対して複数の論理項目（分類項目）を使用します。

バーコードの種類には、GS1-128 があります。GS1-128 バーコードを印刷する場合は、300dpi（推奨は 600dpi）以上のプリンタを使用してください。

連続紙

連続紙は、各ページの境がミシン目になってつながっている用紙です。シリアルインパクト帳票でだけ利用できます。

ロギング支援

XMAP3 の AP 実行時に、ログ情報を採取してログファイルに出力したり、ログ情報を表示したりする機能です。ログ情報は、実行時に発生した問題の解決に利用します。

ロギング支援は、XMAP3 Server Runtime および XMAP3 Client Runtime で提供します。

論理ハードコピー

スタンドアロン構成、C/S 構成、および OLTP サーバ構成で、画面に表示されている CUI 画面および GUI 画面のフィールドボックスを対象に、画面そのものの印刷ではなく、画面に配置した文字、けい線などの画面オブジェクトを印刷する機能です。

論理ハードコピー機能は、XMAP3 実行環境で提供します。

論理マップ

論理マップは、プログラムの可変データを格納する領域です。画面データの入出力や帳票データの出力時に、AP が XMAP3 に対するパラメタとして利用します。COBOL で AP を開発する場合は、論理マップは登録集原文として生成され、COPY 文で AP に取り込みます。AP の実行時には、AP に取り込まれた論理マップのデータ領域を介して、データがやり取りされます。ファイルの拡張子は、COBOL の場合は .cbl、C 言語の場合は .h になります。

書式オーバーレイ印刷の場合は、論理マップを使用しません。画面、帳票の物理マップに相当する書式イメージファイルと行制御データファイルを使用します。

(ワ行)

割込キー（[Break]、[Ctrl] + [Pause]）

送信要求の発生と割込のイベントを AP に通知するキーです。

[Break] キー、または [Ctrl] + [Pause] キーです。

XMAP3 実行環境の環境設定で、表示・印刷環境ファイル（X3PCONF/XPWconfig）の、強制確定キーの動作（表示サービス名.DCSRED=）オプションの指定で、強制確定キーの設定ができます。

索引

数字

16 進数による指定 22

A

ADJUST 178
AP [用語解説] 211
API [用語解説] 211
AP が受け取る項目 [用語解説] 211
AP が渡す項目 [用語解説] 211
AP 環境ファイル (X3MWDREV/XMAPdrv) [用語解説] 211
AP パターン・AP 部品 [用語解説] 211
ARC 177

B

BOX 177

C

C/S システム [用語解説] 211
C/S セットアップ [用語解説] 212
CHAR 178
CHARC 180
CHSIZE 180
CIRCLE 176
CNSCBT 文 [GUI] 29
CNSPBT 文 [GUI] 29
CNSRBT 文 [GUI] 29
COBOL/C 以外の言語で使用するパネル定義文 22
CODE (移行用記述文) 181
CONST 179
CPI [用語解説] 211
CSV ファイル [用語解説] 212
CTLFLD 文によるカーソル指定 (CUI 画面の場合) 46
CTLFLD 文によるカーソル指定 (GUI 画面の場合) 36
CTLFLD 文によるコピー枚数の動的変更のデータ名 50
CTLFLD 文による出力フィールド, およびけい線 (グラフィック帳票の場合) 51
CUI 画面 [用語解説] 212

D

DOT 181
dpi [用語解説] 212

DUMMY 71

E

ECODE 179
ELINE 176
END 182
ESC/P スルー印刷, ESC/P スルーモード [用語解説] 212
EUC [用語解説] 212

F

FAX 宛先ファイル [用語解説] 212
FORMS 174
FRMEND 175

G

GDI モード [用語解説] 212
GRAPHIC 180
GUI 画面 [用語解説] 212

I

INCLUDE 175
INTXT 文 [GUI] 29

J

Java 言語用ツール [用語解説] 212
JPEG [用語解説] 212

L

LAY 178
LINE (移行用記述文) 181
LIPS スルーモード [用語解説] 213
LPI [用語解説] 213

M

MAINT 用制御文 (CATALS 文) 182
MAPPING MODE 句 (マッピングモード) [用語解説] 213
MNUTXT 文 [GUI] 29

N

NACODE 179

NAME オペランドの接頭語がマップ名と同じ 15

NCODE 179
 NHCODE 179
 NKCODE 179
 NNCODE 179
 NXCODE 179

O

OCR [用語解説] 213
 OLTP [用語解説] 213
 OPMTXT 文 [GUI] 30
 OPTION 175
 OUTTXT 文 [GUI] 29

P

PDF [用語解説] 213
 PDL スルーモード [用語解説] 213
 POPFLD 文 [GUI] 30

R

RECEIVE [用語解説] 213
 RGB 値 [用語解説] 213
 RLINE 175

S

SECTOR 175
 SEGMENT 175
 SEND [用語解説] 213
 SGEND 175

T

TRANSCIVE [用語解説] 213

V

VARCBT 文 [GUI] 29
 VARFLD 文 71
 VARFLD 文 [CUI] 42
 VARFLD 文 [GUI] 30
 VARMLS 文 [GUI] 29
 VARRBT 文 [GUI] 29
 VARSL 文 [GUI] 29

W

Web クライアント環境ファイル (X3WEBCEX) [用語解説] 213
 Windows 対応プリンタ [用語解説] 214

X

XMAP3 インストールフォルダ [用語解説] 214
 XMAP3 クライアント [用語解説] 214
 XMAP3 サーバ [用語解説] 214
 XMAP3 入出力制御 [用語解説] 214

あ

アクセスキー [用語解説] 214
 網掛け種別 76
 網掛けダイアログ 195
 網掛け帳票 [用語解説] 214

い

一次ウィンドウ [用語解説] 214
 位置・長さの単位 182
 イベント通知コード (PHSEG 文の INC オペランド) (CUI 画面の場合) 39
 イベント通知コード (PHSEG 文の INC オペランド) (GUI 画面の場合) 25
 イベント通知コード [CUI 画面] 39
 イベント通知コード [GUI 画面] 25
 イベント通知コード [用語解説] 214
 印刷拡張セットアップ [用語解説] 214
 印刷ドキュメント名 [用語解説] 215
 印字領域 [用語解説] 215
 インポート [用語解説] 215
 インポートで変換できる範囲 (メインフレーム) 12

う

ウィンドウ [用語解説] 215
 埋字 [用語解説] 215
 上書きモード [用語解説] 215

え

エラー通知文字 [用語解説] 215
 円弧ダイアログ 194
 円弧の位置とサイズ 194
 円弧の角度 194
 円ダイアログ 193

お

オフセット [用語解説] 215
 オペレータインジケータ [用語解説] 215

か

カーソル制御 [用語解説] 216

カーソル定数 [用語解説] 216
 下位項目 [用語解説] 216
 外字を直接定数で指定している場合 20
 隠しフィールド [用語解説] 216
 仮想画面 [用語解説] 216
 仮想端末名ファイル (X3MWHOST/XMAPhosts)
 [用語解説] 216
 カット紙 [用語解説] 217
 角の丸め/丸め場所 192
 画面属性 [用語解説] 217
 環境管理ファイル (xmap3.properties) [用語解説]
 217
 環境ファイル操作 [用語解説] 217
 漢字を含む行が継続する 15
 漢字を含むパネル定義文に行番号が付いている場合
 15

き

キーエントリ [用語解説] 217
 基準ます目 [用語解説] 217
 基準文字サイズ [用語解説] 217
 起動クライアントの通知 [用語解説] 217
 基本ます目と行間隔の関係 [LPI 指定時] 184
 基本ます目と行間隔の関係 [任意ドット指定時] 185
 キャラクタコントロール [CUI] 42
 キャラクタコントロール [GUI] 29
 行間隔 184
 行制御データファイル [用語解説] 218
 行データ [用語解説] 218

く

矩形ダイアログ 192
 グラフィック [用語解説] 218
 グラフィックコントロール [用語解説] 218
 グラフィック帳票 [用語解説] 218
 繰り返し定義 76
 グリッド [用語解説] 218
 グループコントロール [用語解説] 218
 グループボックス [用語解説] 218

け

けい線帳票 [用語解説] 218
 けい線に対する肉付け 74
 けい線の DFC 23
 桁 [用語解説] 218
 桁寄せ [用語解説] 219

こ

後退キー ([Back Space]) [用語解説] 219
 候補選択コントロール [CUI] 42
 候補選択コントロール [GUI] 29
 候補選択コントロール [用語解説] 219
 項目 [用語解説] 219
 項目の表示属性の動的変更 (MODATTR オペランド)
 (CUI 画面の場合) 42
 項目の表示属性の動的変更 (MODATTR オペランド)
 (GUI 画面の場合) 29
 固定グラフィックダイアログ 197
 固定テキスト・フィールド [用語解説] 219
 固定バーコード [用語解説] 219
 固定フィールド [用語解説] 219
 固定フィールドダイアログ 187
 コマンドコントロール [CUI] 42
 コマンドコントロール [GUI] 29
 コマンドコントロール [用語解説] 219
 コメント 181
 コメント [用語解説] 219
 コントロールメニュー [用語解説] 219
 コンバート 78
 コンバート [用語解説] 220
 コンボボックス [用語解説] 220

さ

サーバ AP 名ファイル (X3PAPL) [用語解説] 220
 サーバ環境定義ファイル (X3WEBSRV) [用語解説]
 220
 サーバ起動ファイル (X3PSERV) [用語解説] 220
 サービス名ファイル (X3PHOST/XPWhosts) [用
 語解説] 220
 再定義名 [用語解説] 221
 削除キー ([Delete]) [用語解説] 221

し

次画面 [用語解説] 221
 下敷き [用語解説] 221
 修飾名 [用語解説] 221
 出力 OCR [用語解説] 221
 出力テキスト・フィールド [用語解説] 221
 出力バーコード [用語解説] 221
 出力日付/時刻テキスト・フィールド [用語解説] 221
 省略時仮定値の漢字定数 71
 ショートカットキー [用語解説] 221
 初期クリア文字 [用語解説] 222
 初期値 [用語解説] 222
 書式イメージファイル [用語解説] 222

書式オーバーレイ [用語解説] 222
 書式記述文ファイル [用語解説] 222
 書式属性ダイアログ 182
 書式定義ファイル [用語解説] 222
 書式定義ファイル名 182
 書式名 1 72, 182
 書式名 2 72

す

数字編集項目 [用語解説] 222
 スクリプト環境ファイル (X3XSCONF) [用語解説]
 222
 スクロール領域 [用語解説] 222
 スピンボックス [用語解説] 223

せ

セグメント定義開始文 (MACRO 文) 182
 セグメント定義終了文 (MEND 文/BKEND 文) 182
 セットアップ情報反映 [用語解説] 223
 セパレータ [用語解説] 223
 全角開始・全角終了コード 15
 線種別 190
 選択エントリ [用語解説] 223
 線の太さ 190

そ

挿入キー ([Insert]) [用語解説] 223
 挿入モード [用語解説] 223

た

ターゲット環境 [用語解説] 223
 縦けい線ダイアログ 189
 縦けい線に対する肉付け 74

ち

チェックボタン [用語解説] 223

つ

通信記述項 (CD 項) [用語解説] 223
 通知コード (イベント通知コード) [用語解説] 224
 通知コード (データ入力用) [用語解説] 224

て

定義体 [用語解説] 224
 データ有無コード [用語解説] 224
 データ型 [用語解説] 224

データキー ([Ctrl] + [End]) [用語解説] 224
 データ消去通知文字 [用語解説] 224
 データ長 [用語解説] 225
 データ名, 制御項目データ名 [用語解説] 225
 デバイス ID [用語解説] 225
 デリミタ線 [用語解説] 225

と

登録集原文 [用語解説] 225
 トグルフィールド [用語解説] 225
 ドットパターン 76
 ドロー [用語解説] 225
 ドローセットアップ [用語解説] 226

な

斜めけい線ダイアログ 191

に

二次ウィンドウ [用語解説] 226
 入出力テキスト・フィールド [用語解説] 226
 入出力日付/時刻テキスト・フィールド [用語解説]
 226
 入力データ長格納領域 [用語解説] 226
 入力元ターゲット 61

ぬ

塗りつぶしフィールド [用語解説] 226

は

ハードマージン [用語解説] 226
 背景色 [用語解説] 226
 パネル定義文中に漢字が含まれる場合 15
 パネル定義文ファイル [用語解説] 227
 反転表示 [用語解説] 227
 反復定義 [用語解説] 227

ひ

ビッグエンディアン [用語解説] 227
 表示形態 [用語解説] 227
 表示属性 [用語解説] 228
 表示属性の動的変更 (MODCTL オペランド) (CUI
 画面の場合) 40
 表示属性の動的変更 (MODCTL オペランド) (GUI
 画面の場合) 26
 表示属性の動的変更 [CUI 画面] 40
 表示属性の動的変更 [GUI 画面] 26

表示・印刷環境ファイル (X3PCONF/XPWconfig)
 [用語解説] 227
 表示・印刷セットアップ [用語解説] 227

ふ

フィールドキー ([End]) [用語解説] 228
 フィールドボックス [用語解説] 228
 フォーカス制御 [用語解説] 228
 フォーカス定数 [用語解説] 228
 フォーカス [用語解説] 228
 フォント構成ファイル (X3PFONT) [用語解説] 228
 複数行のフィールド [用語解説] 229
 プッシュボタン [用語解説] 229
 物理画面 [用語解説] 229
 物理マップ [用語解説] 229
 物理マップの常駐化 [用語解説] 229
 部品 182
 部品ファイル 182
 プリント構成ファイル (X3PPINF) [用語解説] 229
 プリントサーバ起動ファイル (X3PPRSV) [用語解説]
 229
 フレーム [用語解説] 230
 プレーン [用語解説] 230
 プレプリント帳票 [用語解説] 230

へ

ページング (複数の LOGSEG 文, PHSEG 文) 23

ほ

ポップアップ [用語解説] 230

ま

マージン [用語解説] 230
 マクロ拡張記述文 182
 ます (GUI/CUI 画面の単位) [用語解説] 230
 ます (帳票の単位) [用語解説] 230
 ます目設定 73
 マッピングインタフェース領域 [用語解説] 230
 マッピングオプション [用語解説] 231
 マッピング構成ファイル (X3MWCONF/
 XMAPconfig) [用語解説] 231
 マッピング方式 [用語解説] 231
 マッピングライブラリ [用語解説] 231
 マップコンペア 90
 マップコンペア [用語解説] 231
 マップ生成 [用語解説] 232
 マップ帳票 [用語解説] 232
 マップ定義ファイル [用語解説] 232

マップ [用語解説] 231
 丸め半径 193

め

メッセージアイコン [用語解説] 232
 メニューバー [用語解説] 232

も

文字間隔 185
 文字サイズ 185
 文字色 [用語解説] 232
 文字属性名の関連づけ 75, 188
 モジュラスチェック [用語解説] 232
 文字列の字間値 188

ゆ

ユーザ定義拡張記述文 182

よ

用語の違い 142
 横けい線ダイアログ 191
 予約テキスト [用語解説] 233
 予約テキスト・フィールド [用語解説] 233

ら

ラジオボタン [用語解説] 233
 ラベル [用語解説] 233

り

リストボックス [用語解説] 233
 リトルエンディアン [用語解説] 233

れ

レイアウトパターン [用語解説] 233
 レイアウト領域 [用語解説] 233
 連結出力バーコード [用語解説] 234
 連続紙 [用語解説] 234

ろ

ロギング支援 [用語解説] 234
 論理ハードコピー [用語解説] 234
 論理マップ [用語解説] 234
 論理マップ属性 (LOGSEG 文の REDEF 以外のオペ
 ランド, PHSEG 文の NULL オペランド, および
 CTLFLD 文) (CUI 画面の場合) 47

論理マップ属性 (LOGSEG 文の REDEF 以外のオペランド, PHSEG 文の NULL オペランド, および CTLFLD 文) (GUI 画面の場合) 37

論理マップ属性 (LOGSEG 文の REDEF 以外のオペランド, PHSEG 文の NULL オペランド, および CTLFLD 文) (網掛け/グラフィック帳票の場合) 50

論理マップ属性 (LOGSEG 文の REDEF 以外のオペランド, PHSEG 文の NULL オペランド, および CTLFLD 文) (けい線帳票の場合) 49

わ

割込キー ([Break], [Ctrl]+[Pause]) [用語解説] 234